

奈良県結婚・子育て実態調査  
報告書

令和6年3月

奈良県



## 【 目 次 】

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査項目	1
(3) 調査方法	3
(4) 抽出方法	3
(5) 調査期間	3
(6) 回収結果	3
(7) 標本の代表性と全国比較	3
(8) 調査結果の表示方法	5
第2章 夫婦調査の結果	7
1 回答者の属性	7
(1) お住いの市町村	7
(2) 夫婦の年齢等	7
(3) 家族構成・子ども	11
2 就労状況	14
(1) 現在までの各時期の夫婦の就労状況	14
(2) 妻の妊娠・出産後の就労状況	23
(3) 現在の夫婦の就労状況	28
(4) 未就労の妻の今後の就労意向	33
(5) 就労経験のある妻の退職時期と退職理由	39
3 出会い・結婚	42
(1) 出会いのきっかけ	42
(2) 理想的な初婚年齢	43
4 子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手	46
(1) 子育てに対する不安感・負担感	46
(2) 各時期の子育てに対する不安感・負担感	50
(3) 不安だった時期に助けてくれた人、助けてほしかった人	51
(4) 子育てに関する相談相手	52
(5) 子育て支援情報・制度の認知経路	54
(6) 子育てに関する不安や悩み	55
5 男性の育児や家事への関わり	56
(1) 育児・家事を積極的にする男性だと思うか	56
(2) 夫の子育ての関わり方	57
6 子どもを持つことへの考え	59
(1) 子育てについての考え	59
(2) 理想の子どもの人数	61
(3) 理想的な子どもの人数の理由	62
(4) 今後の子どもの予定	64
(5) 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由	66
(6) 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因	69
(7) 子どもはいらないと考える要因	70
7 子育て支援策	71
(1) 結婚・子育ての場所としての奈良県の評価	71
(2) 父親の育児休暇・休業取得	74
(3) 子育て支援に関する重要度	77
(4) 子育て支援に関する満足度	78

(5) 希望する人数を生み育てられるようにするために必要な取組み.....	87
(6) 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況.....	88
(7) 実際に利用してみたい(したかった)制度や施設.....	94
8 自由記述意見 .....	95
第3章 独身者調査の結果 .....	97
1 回答者の属性 .....	97
(1) 年齢 .....	97
(2) 性別 .....	98
(3) 親との同居/別居 .....	98
(4) お住まいの市町村 .....	99
(5) 結婚経験の有無 .....	99
(6) 子どもの有無・人数 .....	100
2 就労状況 .....	102
(1) 就労形態・職種・勤め先の従業員数.....	102
(2) 就労状況 .....	106
3 結婚観 .....	111
(1) 結婚することの利点の有無.....	111
(2) 独身生活の利点の有無.....	114
(3) 希望するライフコース.....	117
(4) 結婚意欲 .....	127
(5) 結婚時期についての考え.....	129
(6) 希望結婚年齢 .....	130
(7) 現在独身でいる理由 .....	131
(8) 婚活状況 .....	134
(9) 行政支援 .....	136
(10) 結婚相手を決める際に重視すること.....	138
(11) 結婚するつもりがない理由.....	141
(12) 結婚することの障害 .....	142
4 子どもに関すること .....	145
(1) 子育てに対する考え .....	145
(2) 希望する子どもの数 .....	146
(3) 最初の子どもを持ちたい年齢.....	148
(4) 子どもはいらないと考える要因.....	149
(5) 希望する子どもの数が1人以上の理由.....	150
(6) 身近な状況について .....	151
5 結婚・子育てに対する考え方.....	155
(1) 結婚、家庭、子育てに関する意識.....	155
6 結婚・子育て支援策 .....	168
(1) 重要と考える子育て支援策.....	168
(2) 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思うか.....	170
7 自由記述意見 .....	173

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

県民の結婚や子どもを持つこと、子育てに関する意識や現状を把握し、奈良県において子どもを生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

### 2 調査の実施概要

#### (1) 調査対象

- ・夫婦調査：令和5年9月1日現在で結婚している50歳未満の男女（届出の有無を問わない）
- ・独身者調査：令和5年9月1日現在で18歳以上50歳未満の独身の男女

#### (2) 調査項目

夫婦調査、独身者調査のいずれも、平成30年に実施した「奈良県結婚・子育て実態調査」の項目をベースに、社会情勢の変化等を鑑み、一部の項目を削除し、新たな項目を追加して作成。

#### ①夫婦調査

調査項目	質問項目
①回答者の属性	・夫婦の出生年月・結婚生活を始めた年月・初再婚の別 ・家族構成・居住地域
②妊娠・出産	・子どもの数 ・誕生の時期・里帰り出産・里帰り期間
③就労状況	・現在までの各時期の夫婦の就労形態・職種・勤務先の従業員数・通勤時間（片道） ・妊娠・出産後の妻の就労形態・職種・勤務先の従業員数・通勤時間（片道） ・現在の夫婦の就労状況 1週間の労働時間（平均）・年収・帰宅時刻（平均）・通勤時間（片道） ・妻の就労希望の有無 ・妻の希望する就労形態・勤務地 ・妻が就労を希望しない理由 ・妻が就労しようと思う条件 ・妻が仕事を辞めた時期 ・妻が仕事を辞めた理由
④出会い・結婚	・知り合ったきっかけ ・理想的な初婚年齢 ・理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由
⑤子育ての不安感・負担感 や手助け・相談相手	・子育ての不安感・負担感 ・時期別の不安感・負担感 ・不安だった時期に助けてくれた人・助けてほしかった人
⑥子育てに関する相談等	・子育てについて相談できる人の有無及び人数 ・相談できる人

調査項目	質問項目
⑦男性の育児や家事への関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夫は育児を積極的にする男性か</li> <li>・妻からみた夫の育児・家事の関わり方</li> <li>・夫からみた夫の子育ての関わり方</li> <li>・夫が子育てに関わらない理由</li> </ul>
⑧子ども数等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てについての悩み</li> <li>・子育てについての考え方</li> <li>・理想の子ども数・1人以上の理由</li> <li>・出産予定の子ども数・出産を希望する時期</li> <li>・「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない理由</li> <li>・子育てや教育にお金がかかりすぎる要因</li> <li>・子どもはいらないと考える要因</li> </ul>
⑨子育て支援策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援・制度情報の入手先</li> <li>・奈良県での子育てのしやすさ</li> <li>・父親の育児休暇・休業取得の必要性・取得期間</li> <li>・父親の育児休暇・休業取得が不必要と考える理由</li> <li>・勤務先で男性が結婚、出産、子育てと仕事の両立が可能か</li> <li>・男性が育児休業を取得しやすくするために必要なこと</li> <li>・子育て支援策に関する重要度・満足度</li> <li>・希望する人数を生み育てるようにするために、どのような取組が必要か</li> <li>・過去に利用した制度や施設</li> <li>・実際に利用してみたい制度や施設</li> </ul>
⑩自由記述意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本調査や結婚・出産・子育て・少子化などに関する自由意見</li> </ul>

## ②独身者調査

調査項目	質問項目
①回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生年月・性別・親との同（別）居・居住地域</li> <li>・結婚歴・子どもの有無</li> <li>・現在までの就労形態・職種・勤務先の従業員数</li> <li>・現在の就労状況</li> <li>1週間の労働時間（平均）・年収・勤続年数・帰宅時刻（平均）・通勤時間（片道）</li> </ul>
②結婚観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚の利点の有無・具体的な利点</li> <li>・独身生活の利点の有無・具体的な利点</li> </ul>
③希望するライフコース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想とする人生・実際になりそうな人生・パートナーとなる異性に望む人生</li> </ul>
④結婚意欲等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚に対する考え</li> <li>・結婚するタイミング・希望する結婚年齢</li> <li>・現在独身でいる理由</li> <li>・適当な相手にまだめぐり会わない理由</li> <li>・結婚相手を決めるとき重視すること</li> <li>・一生結婚するつもりがない理由</li> <li>・結婚の障害の有無・内容</li> </ul>

調査項目	質問項目
⑤希望する子ども数等	・希望する子どもの数・最初の子どもを持ちたい年齢 ・子どもはいらないと考える要因 ・希望の子ども数が1人以上の理由
⑥子育てに対する考え	・子育てについての考え ・身近な状況に各項目の人がいたか
⑦結婚・子育て等に関する意識	・結婚・家庭・子どもを持つことについてどのように考えているか
⑧結婚・子育て支援策	・子育て支援策に関する重要度 ・「婚活」として行っていること ・「婚活」を行っていない理由 ・行政に結婚支援事業に取り組んで欲しいか ・出会い・結婚支援として行政に期待すること ・奈良県での子育てしやすさ
⑨自由記述意見	・本調査や結婚・出産・子育て・少子化などに関する自由意見

### (3) 調査方法

郵送法

夫婦調査用・独身者調査用の2種類の調査票を送付し、調査対象者に調査票を選択の上、回答及び返送を依頼した。

### (4) 抽出方法

県内市町村から378地点を系統抽出し、当該地点内から選挙人名簿に基づく無作為抽出により上記の調査対象に該当する方を選定

### (5) 調査期間

令和5年9月15日～令和6年1月26日

※回収目標数に達しなかったため、調査期間を延長して実施した。

### (6) 回収結果

	配布数	送達不能数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
夫婦調査	7,500	108	1,124	16	1,108	14.8%
独身者調査			933	21	912	12.2%

※発送時には調査対象者の婚姻状況が不明であるため、各調査の有効回答率は配布全数から算出した。

### (7) 標本の代表性と全国比較

夫婦調査並びに独身者調査の回答者がどの程度母集団を反映しているかを検証するため、令和2年国勢調査の奈良県結果（以下、「国勢調査」という。）及び令和3年に国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（以下、「全国調査」という。）の調査結果との比較を行った。

なお、全国調査との比較については、全国での結果と、奈良県での結果とを比較しているため、必ずしも傾向が一致するとは限らない。

### ①夫婦調査

夫婦調査の対象となった世帯の妻の年齢の分布をみると、35～39歳の割合が全国調査及び国勢調査の割合に比べてやや高く、45～49歳の割合が国勢調査の割合に比べてやや低くなっているが、その他の年代については全国調査及び国勢調査の分布状況とほぼ一致している。おおむね母集団の年齢構成に沿った回答が得られた。

妻の年齢	令和5年調査		令和3年全国調査		令和2年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
19歳以下	0	0.0	3	0.1	100	0.1
20～24歳	6	0.8	96	2.0	1,555	1.3
25～29歳	51	6.7	427	9.0	8,187	7.1
30～34歳	128	16.8	746	15.7	17,026	14.7
35～39歳	184	24.2	991	20.9	23,553	20.3
40～44歳	186	24.4	1,177	24.8	29,100	25.1
45～49歳	206	27.1	1,303	27.5	36,236	31.3

※1 国勢調査は奈良県の値

※2 年齢不詳を除く

### ②独身者調査

身者調査については、男性は国勢調査の結果に比べ、19歳以下の割合が低く、30歳代以上の年代層の割合がやや高くなっている。女性は国勢調査の結果に比べ19歳以下の割合が低く、20歳代以上の各年代の割合がやや高くなっている。全国調査と比べると、男性は25～29歳、女性は19歳以下の年代層の割合が低く、男性は40～44歳、女性は45～49歳の年代の割合が高くなっている。今回調査と国勢調査及び全国調査について、全年齢を対象とした集計結果をみる際には、回答された年代層のウエイトに違いがあることを考慮する必要がある。

独身男性						
	令和5年調査		令和3年全国調査		令和2年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
19歳以下	28	7.0	302	9.7	30,908	25.6
20～24歳	100	25.1	700	22.5	27,417	22.7
25～29歳	61	15.3	579	18.6	17,875	14.8
30～34歳	55	13.8	452	14.5	12,961	10.7
35～39歳	52	13.0	379	12.2	10,767	8.9
40～44歳	55	13.8	320	10.3	10,118	8.4
45～49歳	48	12.0	386	12.4	10,881	9.0

独身女性						
	令和5年調査		令和3年全国調査		令和2年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
19歳以下	26	5.4	322	11.2	30,077	26.7
20～24歳	125	25.9	799	27.8	28,394	25.2
25～29歳	91	18.8	549	19.1	17,677	15.7
30～34歳	62	12.8	383	13.3	11,066	9.8
35～39歳	53	11.0	298	10.4	8,597	7.6
40～44歳	57	11.8	259	9.0	8,164	7.3
45～49歳	69	14.3	263	9.2	8,609	7.6

※1 国勢調査は奈良県の値

※2 年齢不詳を除く

## (8) 調査結果の表示方法

- ①設問ごとの集計母数は、グラフ中に「N=\*\*\*」と表記し、クロス集計のグラフ・図表では、集計区分ごとの集計母数を「N=\*\*\*」と表記している。
- ②集計結果の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した値を表記している。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- ③複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- ④本文中の「今回調査」及び図表中の表記における「R5 県調査」は、本調査の結果を表している。また、本調査は、質問項目により次の調査結果と比較を行っている。

調査名称	本文・図表の表記	調査の実施概要
奈良県結婚・子育て実態調査	前回調査、H30 県調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 30 年度実施 (奈良県)</li> <li>○調査対象 (数) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：奈良県内に居住する 50 歳未満の夫婦 3,978 人</li> <li>②独身者調査：奈良県内に居住する 18 歳以上 50 歳未満の独身男女 3,978 人</li> </ul> </li> <li>○調査方法 訪問留置調査</li> <li>○回収結果 (回収率) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：1,313 人 (32.9%)</li> <li>②独身者調査：777 人 (19.5%)</li> </ul> </li> </ul>
奈良県子育て実態調査	前々回調査、H25 県調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 25 年度実施 (奈良県)</li> <li>○調査対象 (数) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：奈良県内に居住する妻の年齢 50 歳未満の夫婦 (回答者は妻) 2,115 人</li> <li>②独身者調査：奈良県内に居住する 18 歳以上 50 歳未満の独身男女 1,822 人</li> </ul> </li> <li>○調査方法 訪問留置調査</li> <li>○回収結果 (回収率) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：1,884 人 (89.1%)</li> <li>②独身者調査：1,591 人 (87.3%)</li> </ul> </li> </ul>
第 16 回出生動向基本調査	全国調査、R3 全国調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 3 年度実施 (国立社会保障・人口問題研究所)</li> <li>○調査対象 (数) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：年齢 50 歳未満の有配偶女性 9,401 人</li> <li>②独身者調査：18 歳以上 50 歳未満の独身男女 14,011 人</li> </ul> </li> <li>○調査方法 配票自計、密封回収方式</li> <li>○回収結果 (回収率) <ul style="list-style-type: none"> <li>①夫婦調査：6,834 人 (72.7%)</li> <li>②独身者調査：7,826 人 (55.9%)</li> </ul> </li> </ul>

なお、調査の年度等の記載の無い図表は今回の調査結果である。

- ⑤全国調査や前回調査結果との比較をする図表については、対象を同一にして比較する必要があるため、原則、今回調査の対象を絞って集計している。
- ⑥今回調査と平成30年の調査方法は郵送法であり、訪問留置調査を実施した平成25年の県調査及び令和3年の全国調査結果とは方法が異なるため、結果の単純比較はできないが、本調査目的を達成するための参考データとして、比較結果を有効活用する。
- ⑦平成25年の夫婦調査は妻のみを回答の対象としているが、前回調査から夫も回答の対象としている。
- ⑧独身者調査では、結婚経験のない者を「未婚者」として表記している。

## 第2章 夫婦調査の結果

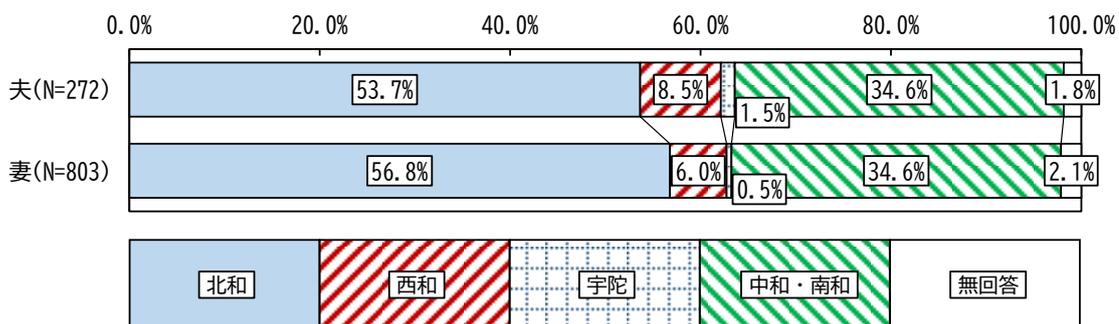
### 1 回答者の属性

#### (1) お住いの市町村

問25 あなたのお住いの地域を記入してください。(市町村名)

お住いの市町村をみると、夫、妻ともに「北和」が最も多く、夫で53.7%、妻で56.8%である。次いで、「中和・南和」が夫、妻ともに34.6%となっている。

図表 お住いの市町村



※新規質問項目

#### (2) 夫婦の年齢等

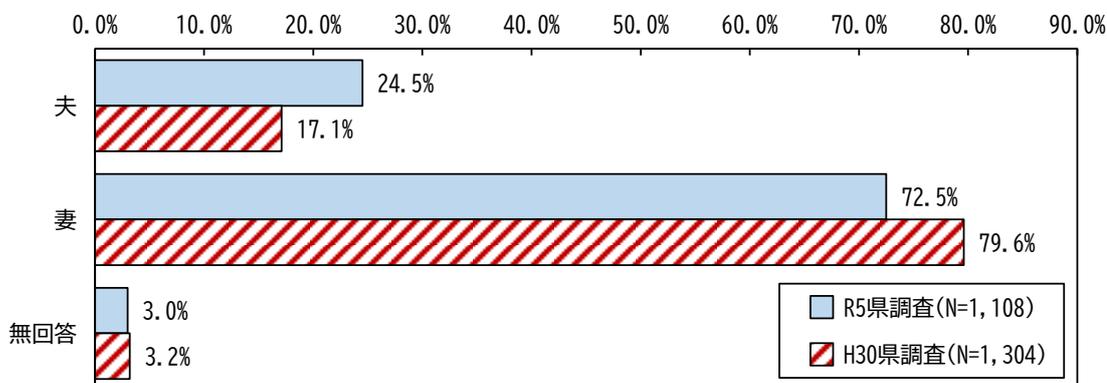
問26 あなた方ご夫婦のうち、①回答される方に○をつけていただき、ご夫婦双方の②出生年月、③結婚生活を始めた年月および④初再婚の別について、下線に数字を記入、またはあてはまる番号に○をつけてください。

##### ①回答者

回答者の性別みると、「夫」が24.5%、「妻」が72.5%となっている。

前回調査に比べて、夫が7.4ポイント上昇し、妻が7.1ポイント低下している。

図表 回答者

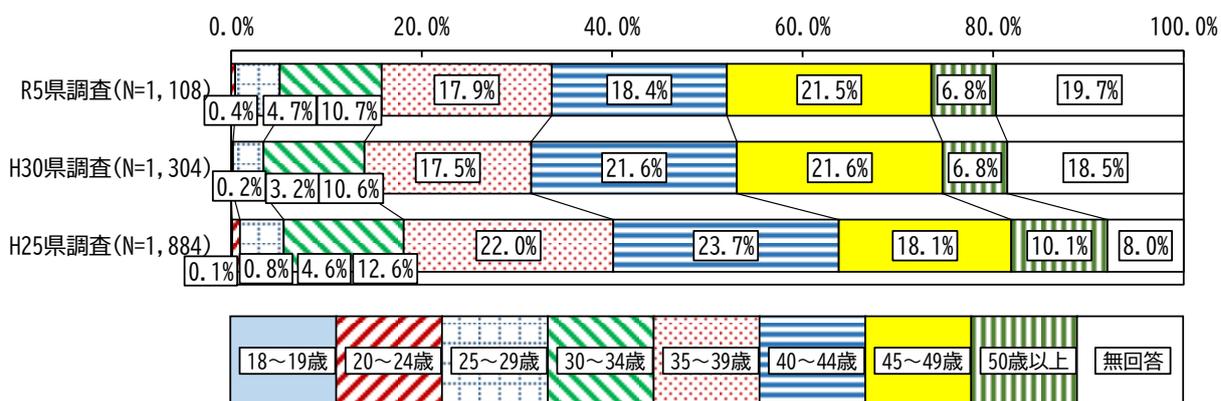


## ②夫婦の年齢

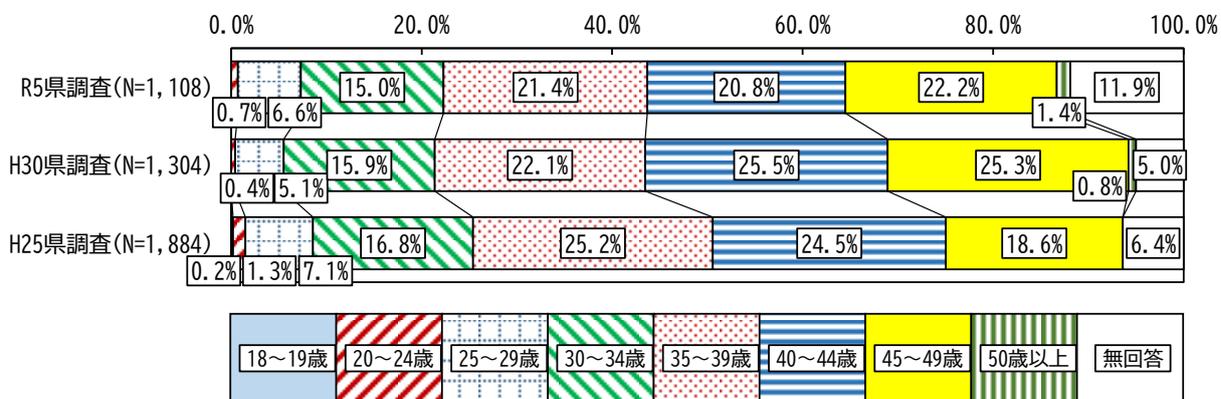
夫婦の年齢をみると、夫の年齢は、「45～49歳」が21.5%で最も多く、次いで、「40～44歳」が18.4%、「35～39歳」が17.9%となっている。前回調査に比べて、「40～44歳」が3.2ポイント低下している。

妻の年齢は、「45～49歳」が22.2%で最も多く、次いで、「35～39歳」が21.4%、「40～44歳」が20.8%となっている。前回調査に比べて、「40～44歳」が4.7ポイント、「45～49歳」が3.1ポイント低下しているが、「無回答」が6.9ポイント上昇している点に留意が必要である。

図表 夫の年齢



図表 妻の年齢

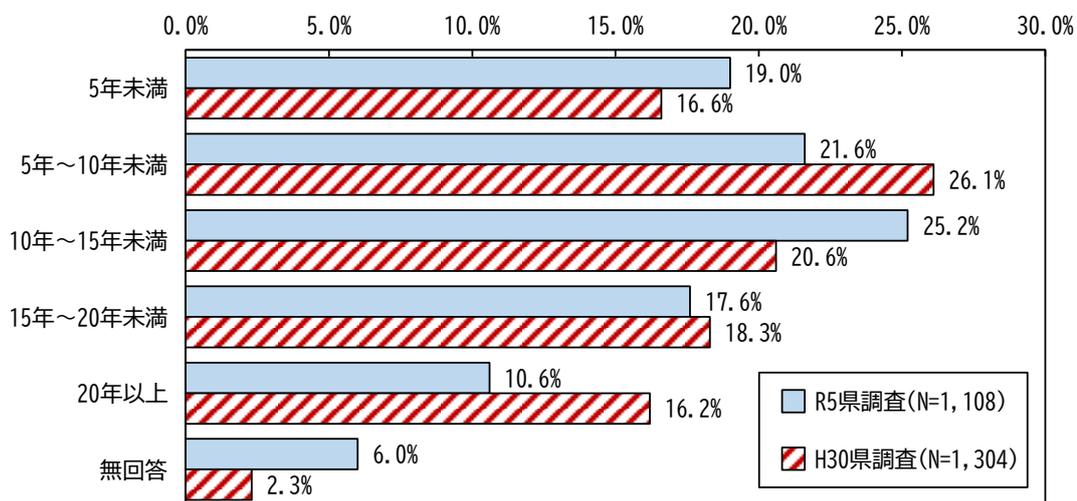


### ③婚姻期間

婚姻期間をみると、「10年～15年未満」が25.2%で最も多く、次いで、「5年～10年未満」が21.6%で続いており、15年未満が全体の65.8%を占める。

前回調査に比べて、「10年～15年未満」が4.6ポイント上昇し、「20年以上」が5.6ポイント、「5年～10年未満」が4.5ポイント低下している。15年未満の割合は、2.5ポイント上昇している。

図表 婚姻期間



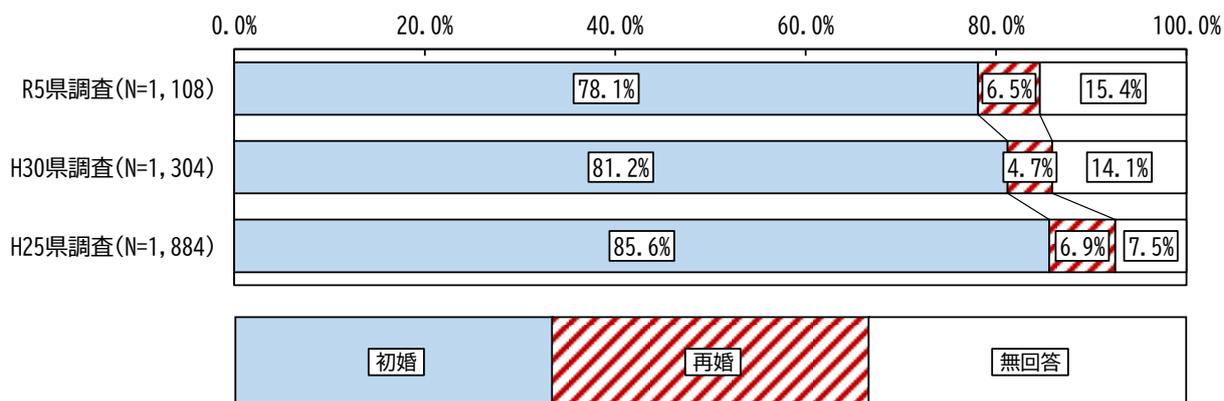
#### ④婚姻歴

婚姻歴をみると、「初婚」が夫で78.1%、妻で87.2%、「再婚」が夫で6.5%、妻で3.7%である。

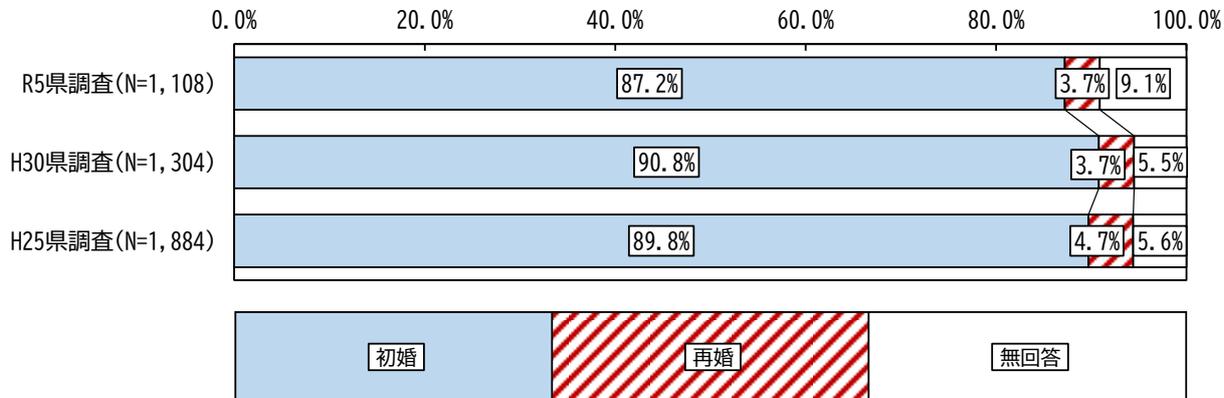
過去の調査と比べると、夫の「初婚」率は前々回から低下傾向であるが、「無回答」が上昇している点に留意が必要である。「再婚」は前回調査から1.8ポイントとわずかに上昇している。

妻に関しても、「初婚」が前回調査から3.6ポイント低下しているが、「無回答」が3.6ポイント上昇している点に留意が必要である。「再婚」は前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 婚姻歴（夫）



図表 婚姻歴（妻）



### (3) 家族構成・子ども

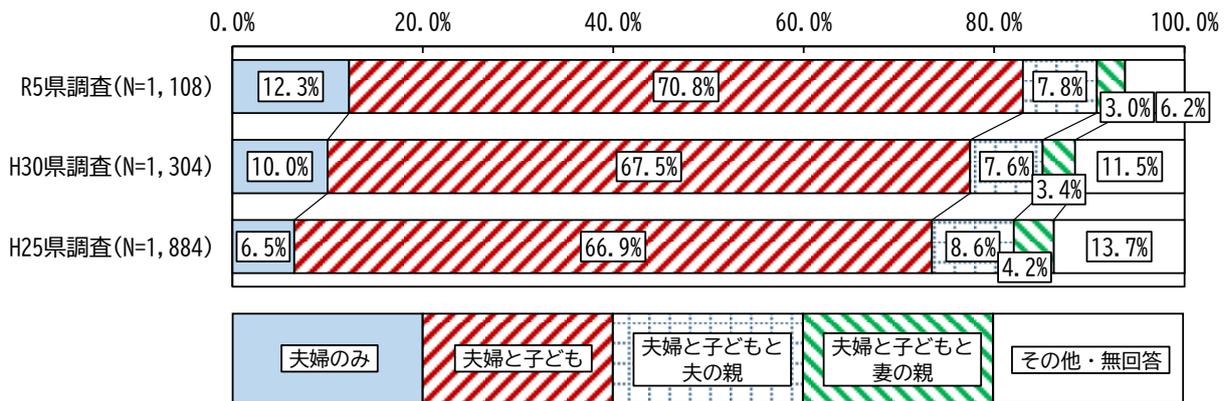
#### ①家族構成

問 27 あなたが現在一緒に住んでいる人すべてについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、( )内に人数を記入してください。

家族構成をみると、「夫婦と子ども」が70.8%で最も多く、次いで、「夫婦のみ」が12.3%となっている。

前回調査に比べて、「その他・無回答」が5.3ポイント低下していることもあるが、「夫婦のみ」が2.3ポイント、「夫婦と子ども」が3.3ポイント上昇している。

図表 家族構成



#### ②子どもの人数

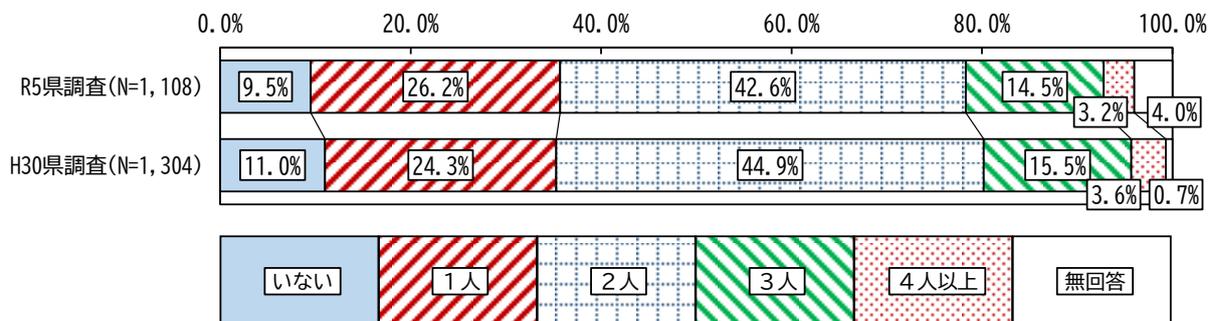
問 28 あなた方ご夫婦のお子さん（成人を含む）は現在何人ですか。下記に人数をご記入ください。

子どもの人数をみると、「2人」が42.6%で最も多く、次いで、「1人」が26.2%、「3人」が14.5%となっている。子どもがいる割合は、86.5%である。

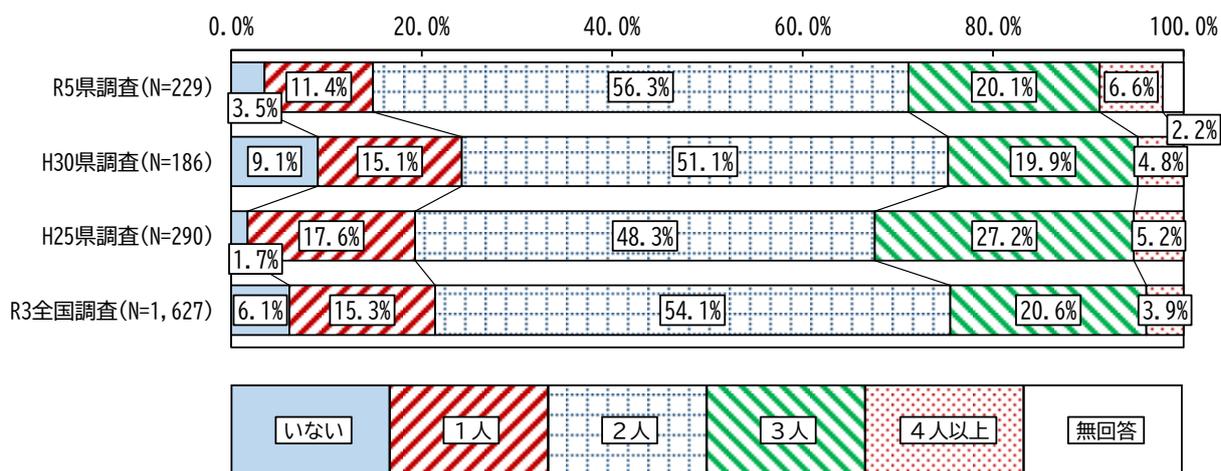
結婚15年以上の子どもの人数をみると、「2人」が56.3%で最も多く、次いで、「3人」が20.1%、「1人」が11.4%となっている。子どもがいる割合は、94.4%である。

前回調査に比べて、「いない」の割合が5.6ポイント低下し、「2人」が5.2ポイント上昇している。

図表 子どもの人数



図表 子どもの人数（結婚15年以上、初婚同士）



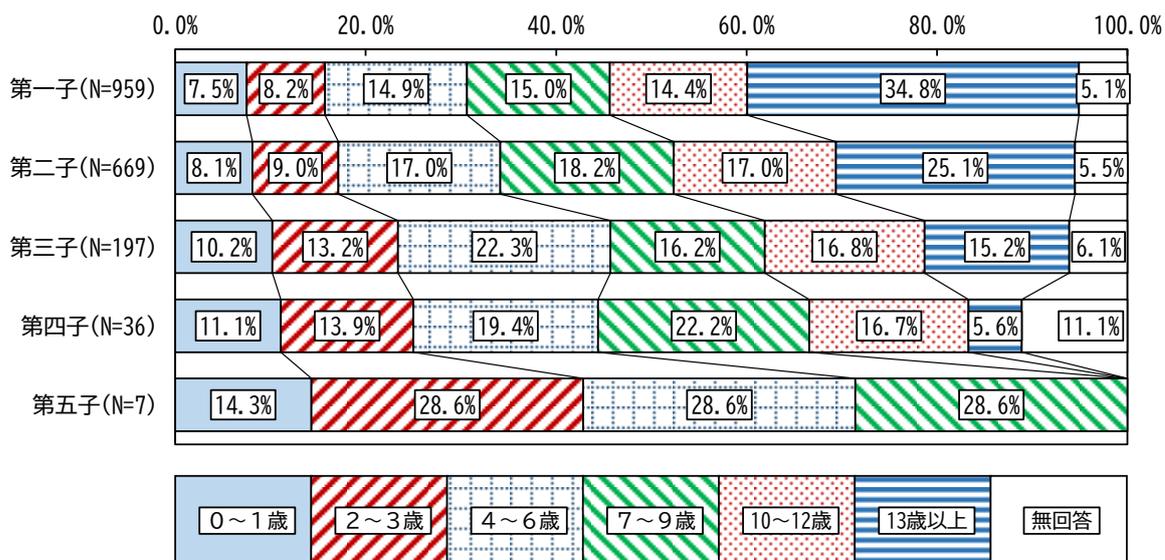
問 28-1 あなた方ご夫婦のお子さんの誕生の時期を記入してください。里帰り出産をした場合は（県内外は問いません）中央欄に○をつけ、里帰り期間（産後）についてあてはまるものに○をつけてください。（第5子までの記入で結構です）

③子どもの年齢

子どもの年齢をみると、第一子、第二子では「13歳以上」、第三子では「4～6歳」が最も多い。第四子では「7～9歳」が22.2%、第五子では「2～3歳」「4～6歳」「7～9歳」がいずれも28.6%で最も多くなっている（第五子はサンプル数が少ない点に留意が必要である）。

第一子が12歳以下の夫婦の割合は60.0%、6歳以下の夫婦の割合は30.6%となっている。

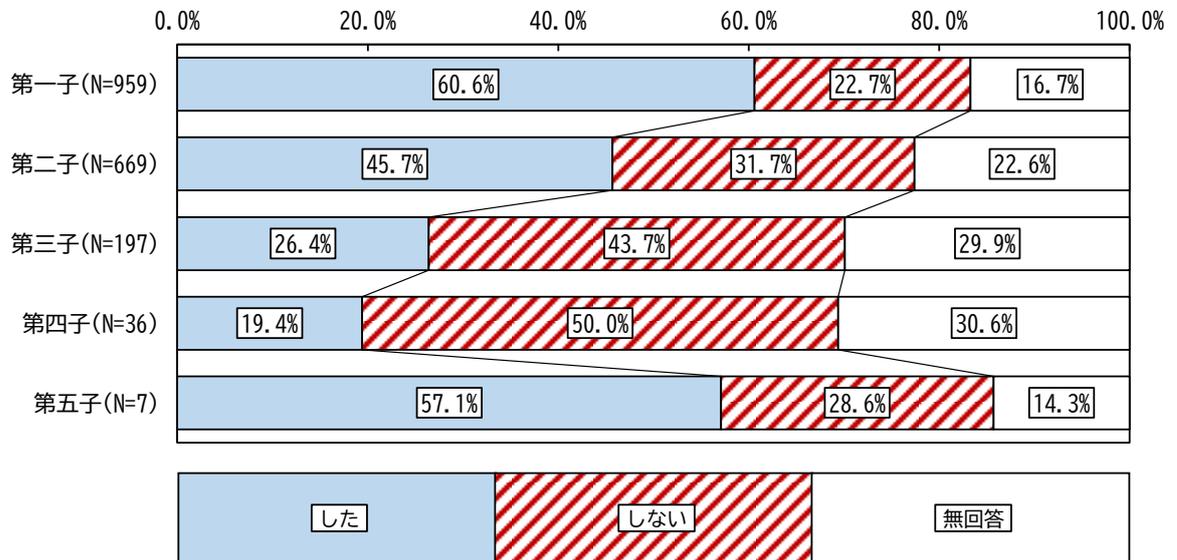
図表 子どもの年齢



#### ④里帰り出産の有無

里帰り出産の有無をみると、第一子では 60.6%、第二子では 45.7%となっている。第四子までは子どもの数が増えるにつれて里帰り出産の割合は低下している（第五子はサンプル数が少ない点に留意が必要である）。

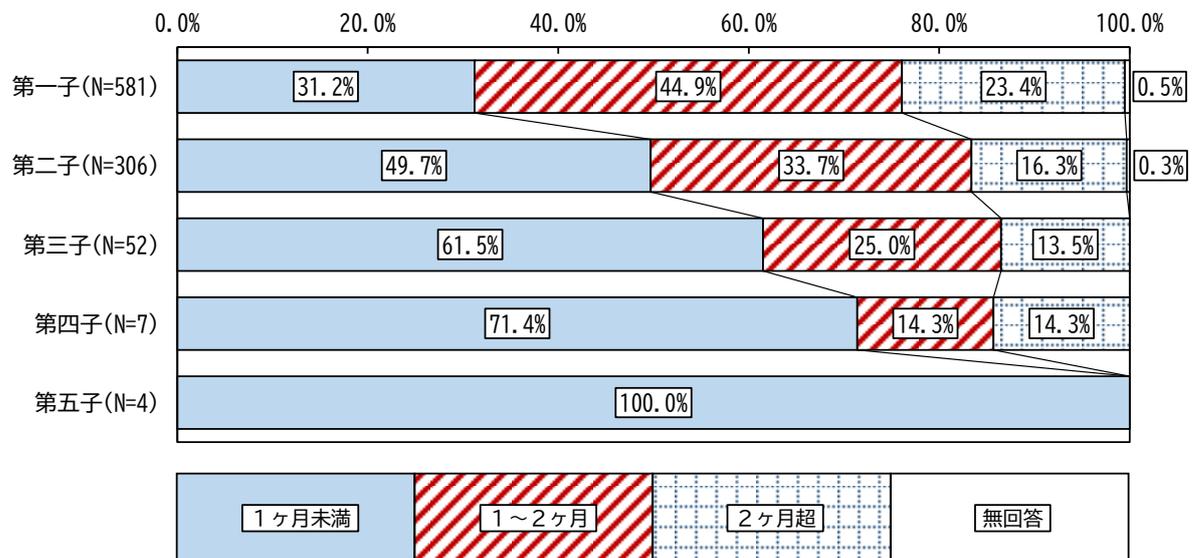
図表 里帰り出産の有無



#### ⑤里帰り期間

産後の里帰り期間をみると、第一子では「1～2ヶ月」が最も多く、第二子以降は「1ヶ月未満」が最も多くなっている。子どもの数が増えるにつれて、里帰り期間は短くなる傾向にある。

図表 里帰り期間



## 2 就労状況

### (1) 現在までの各時期の夫婦の就労状況

問 29 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のお仕事についておたずねします。下のa～hの各時期におけるご夫婦双方の①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

#### ①就労状況

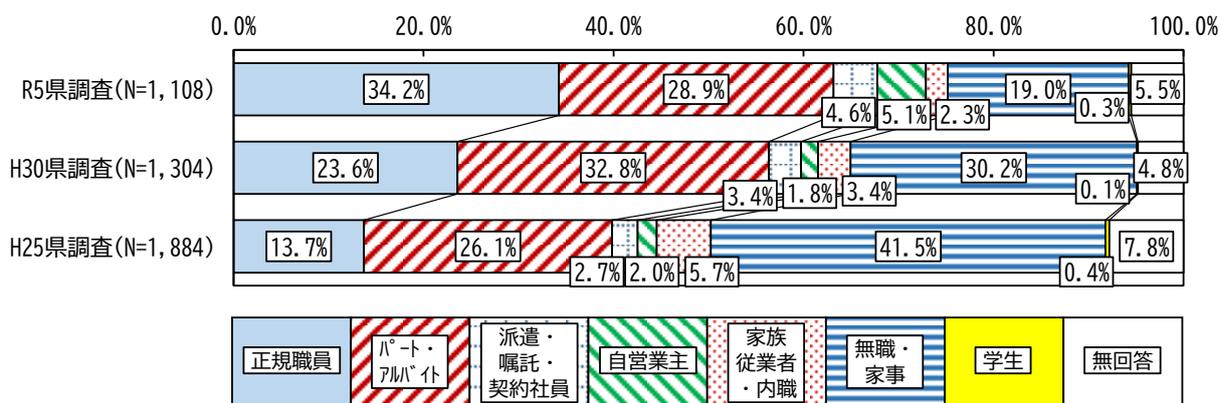
就労状況を見ると、現在就労している妻の割合は75.1%、無職（学生含む）の妻の割合は19.3%となっている。就労している妻のうち、「正規職員」の割合が34.2%で最も多く、次いで、「パート・アルバイト」が28.9%となっている。「パート・アルバイト」と「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用の割合は33.5%である。

前回調査に比べて、無職（学生含む）の割合が11ポイント低下し、「正規職員」が10.6ポイント上昇している。

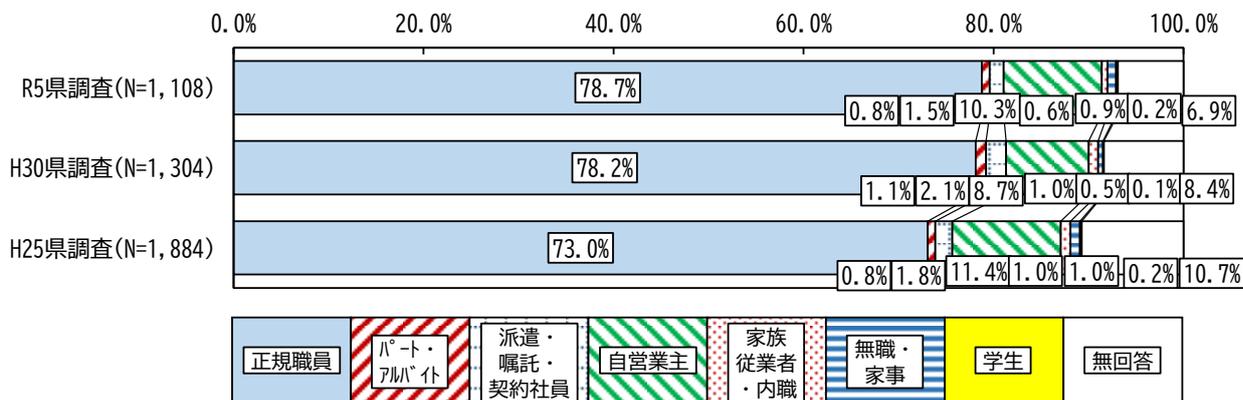
現在就労している夫の割合は91.9%で、「正規職員」が78.7%で最も多く、次いで、「自営業主」が10.3%となっている。「パート・アルバイト」と「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用の割合は2.3%である。

前回調査と比べて大きな変化はみられない。

図表 現在の就労状況（妻）



図表 現在の就労状況（夫）

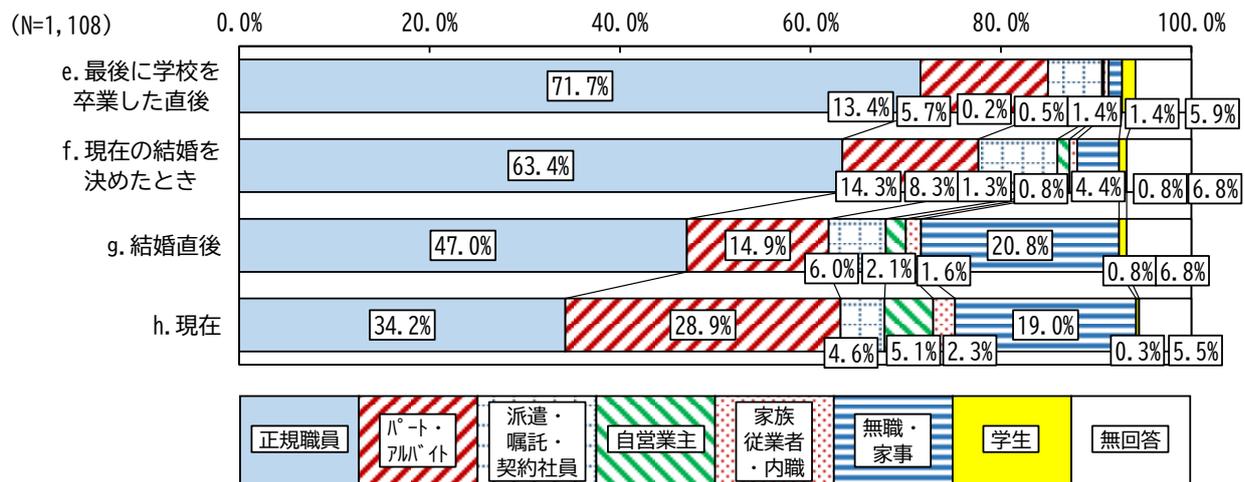


【時期別】

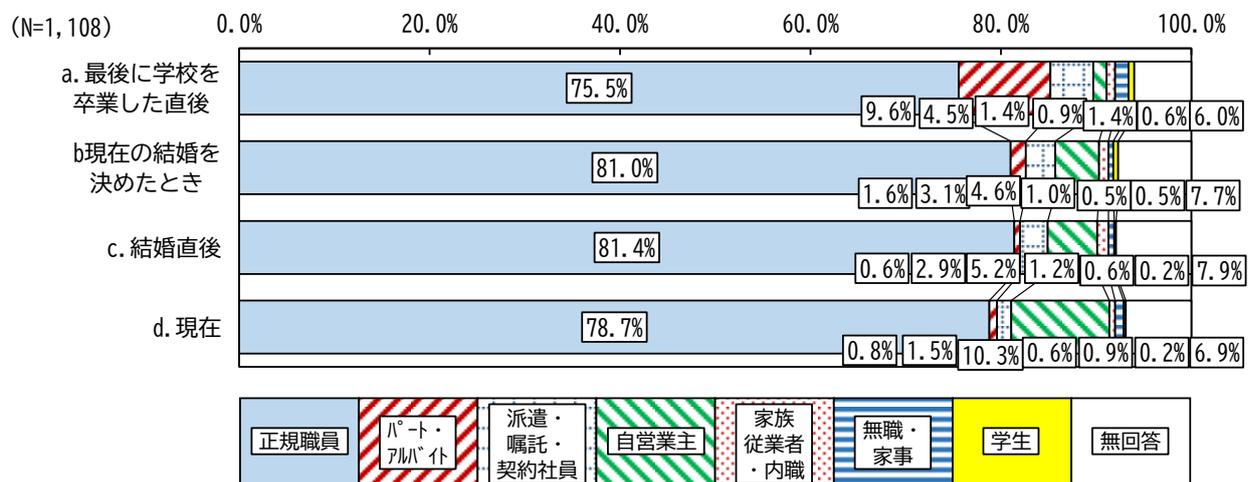
時期別の就労状況をみると、妻の場合、「正規職員」は最後に学校を卒業した直後が71.7%で最も高く、現在に近づくにつれて割合が低くなっている。結婚直後で「無職・家事」、現在で「パート・アルバイト」の割合が大きく上昇している。

夫の場合、「正規職員」は、最後に学校を卒業した直後では75.5%だが、その後はいずれも8割程となっている。

図表 時期別・就労状況（妻）



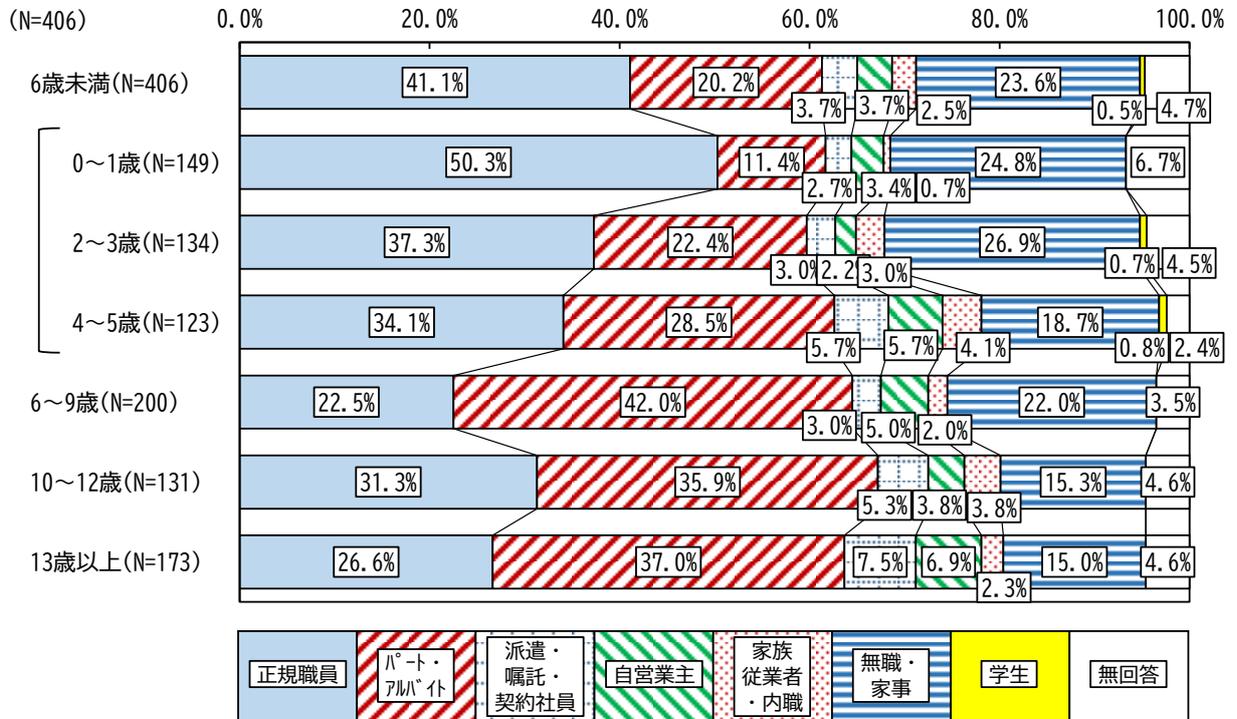
図表 時期別・就労状況（夫）



【末子年齢別】

末子の年齢別に子どものいる妻の就労状況を見ると、「無職・家事」の割合は末子の年齢が上がるにつれて低くなっていき、就労している割合が高くなるが、就労形態は「パート・アルバイト」の割合が最も多い。就労している妻のうち、「正規職員」の割合は末子の年齢が0～1歳の母親で50.3%と最も多い。

図表 末子年齢別・就労状況（妻）

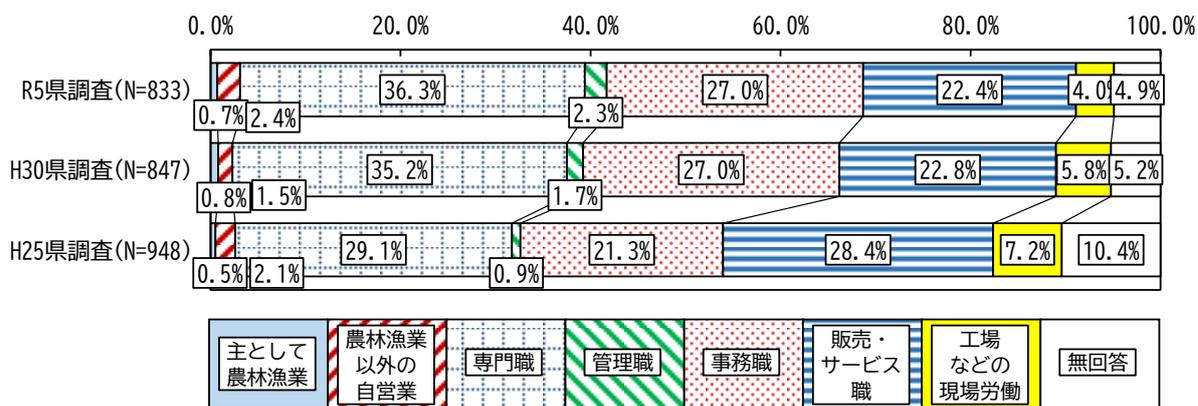


## ②職種

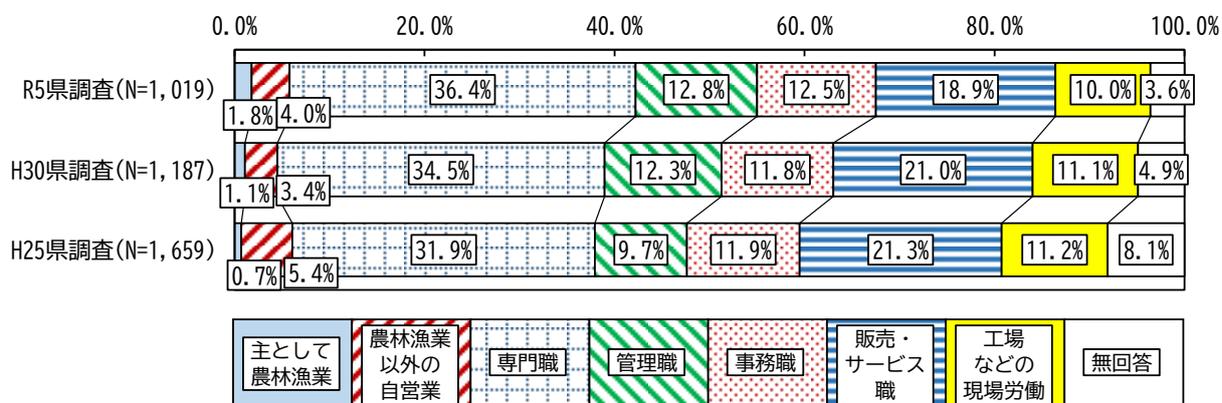
現在の職種をみると、妻では「専門職」が36.3%で最も多く、次いで、「事務職」が27.0%、「販売・サービス職」が22.4%となっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

夫では「専門職」が36.4%で最も多く、次いで、「販売・サービス職」が18.9%、「管理職」が12.8%となっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

図表 現在の職種（妻）



図表 現在の職種（夫）

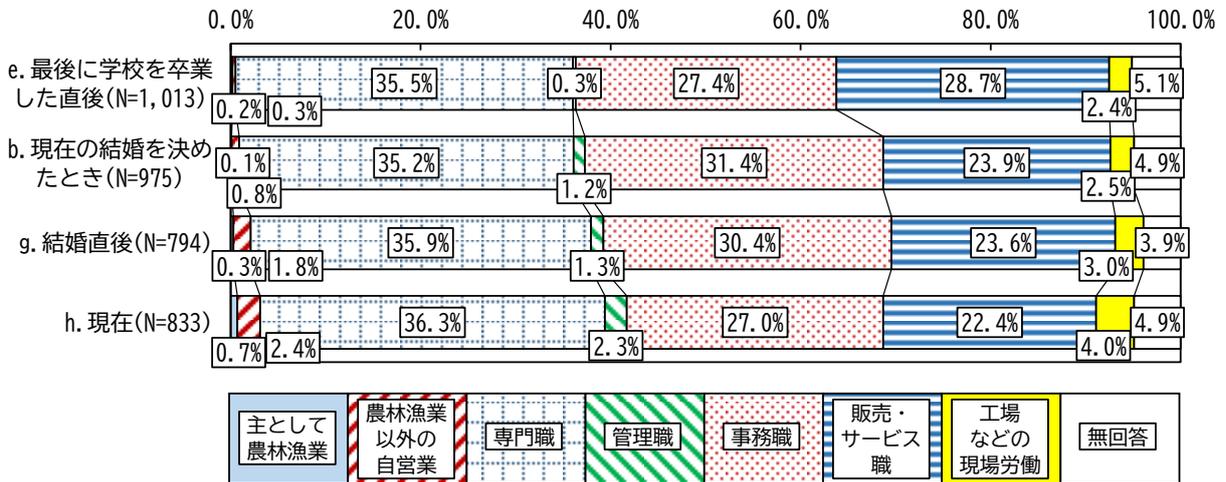


【時期別】

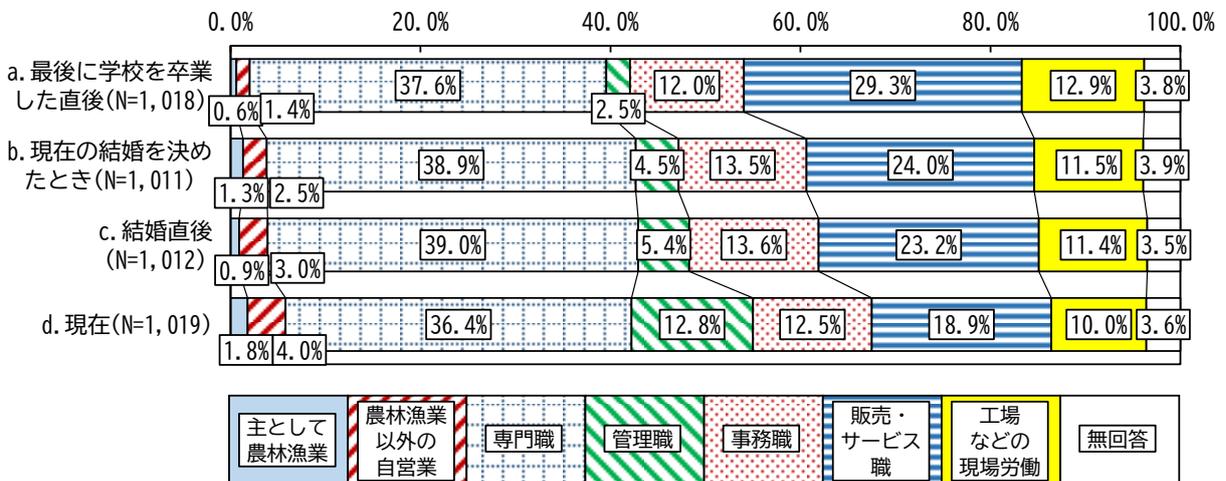
時期別に職種をみると、妻では、最後に学校を卒業した直後から現在までの間にかけて、大きな変化はみられない。

夫では、「販売・サービス職」の割合が、最後に学校を卒業した直後から現在までの間に 10.4 ポイント低下しており、「管理職」の割合が 10.3 ポイント上昇している。

図表 時期別・職種（妻）



図表 時期別・職種（夫）

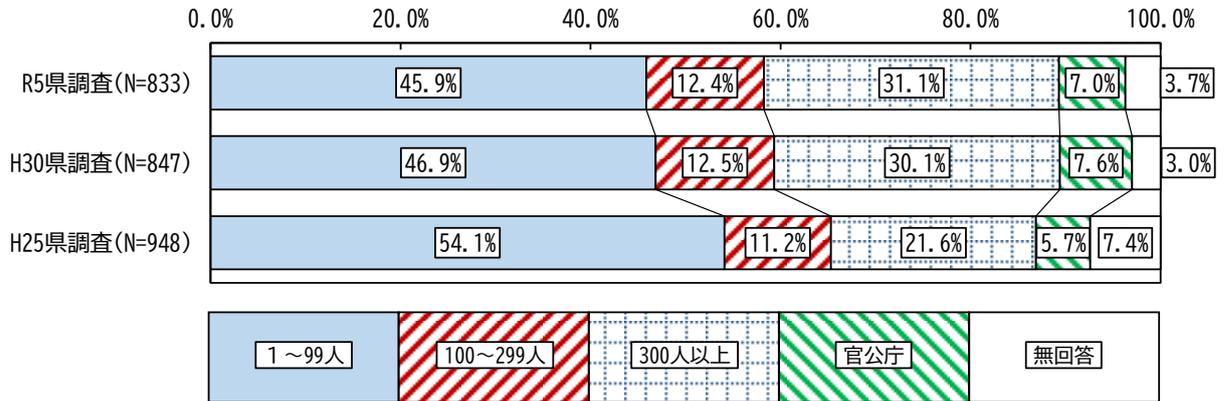


### ③勤め先の従業員数

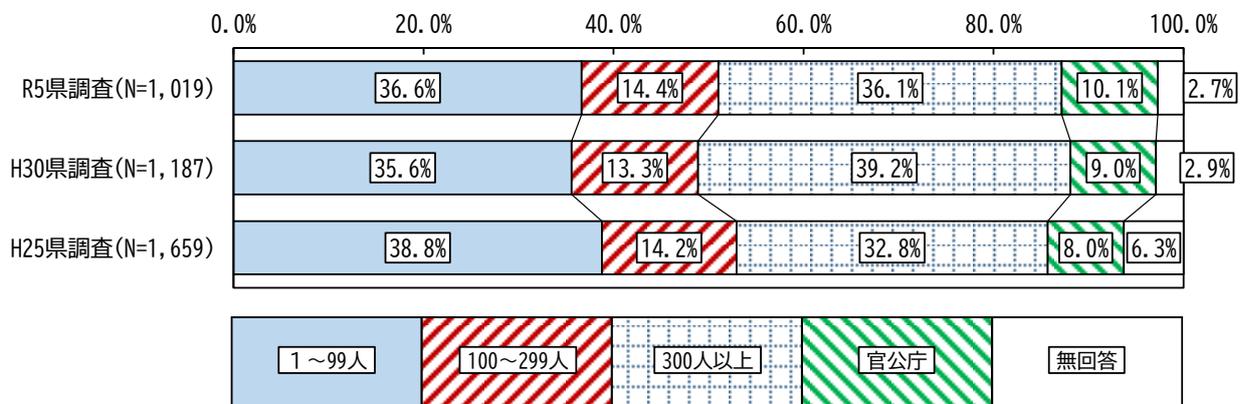
勤め先の従業員数をみると、妻では「1～99人」が45.9%で最も多く、次いで、「300人以上」が31.1%となっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

夫では、「1～99人」が36.6%で最も多く、次いで、「300人以上」が36.1%となっている。夫についても、前回調査と比べて大きな変化はみられない。

図表 現在の勤め先の従業員数（妻）



図表 現在の勤め先の従業員数（夫）

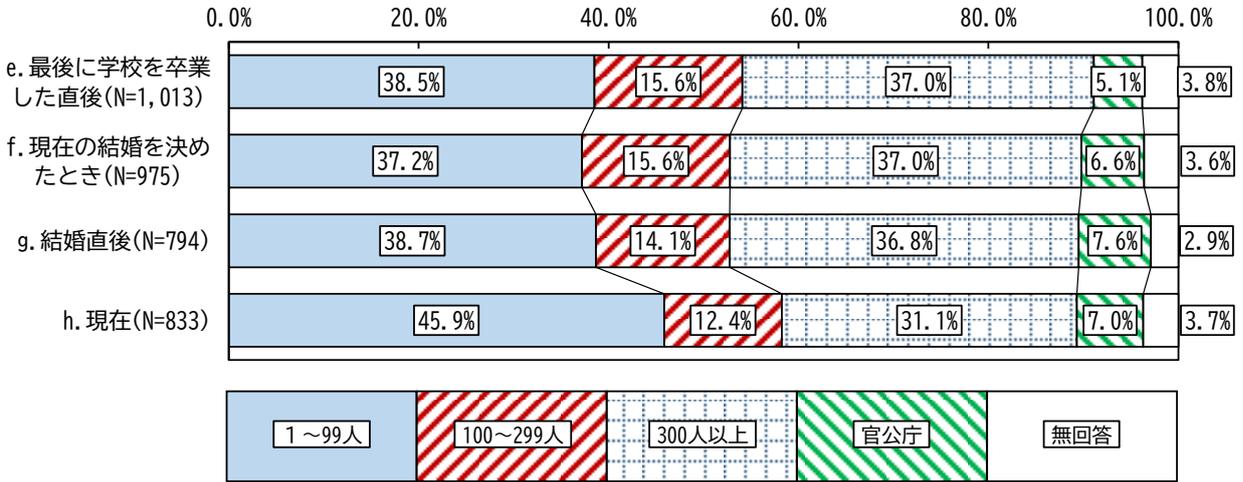


【時期別】

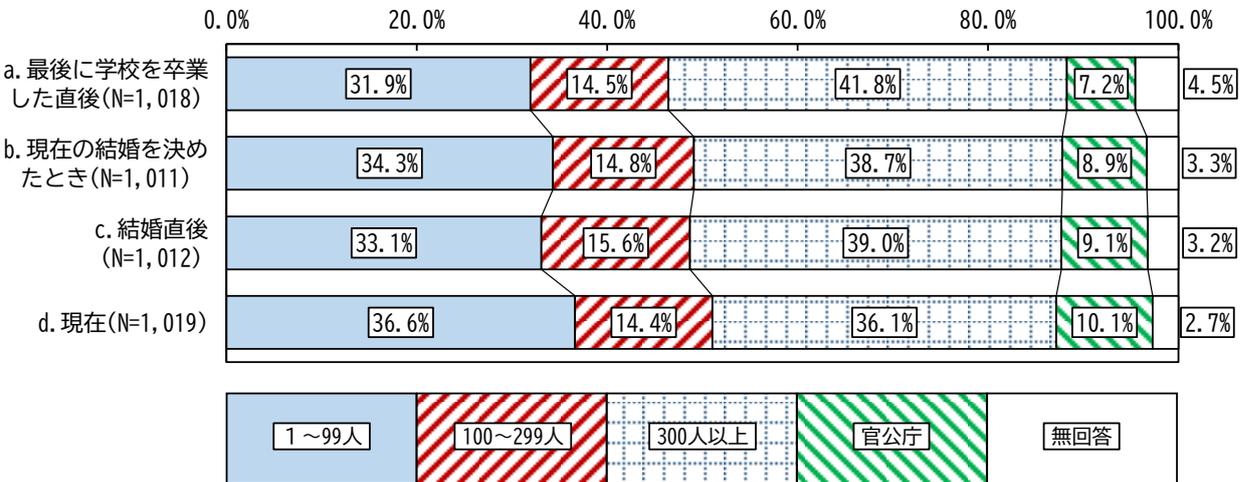
時期別に勤め先の従業員数をみると、妻では、最後に学校を卒業した直後から結婚直後までは「1～99人」の割合は4割弱で推移しているが、現在では45.9%と5ポイント以上上昇している。

夫では、最後に学校を卒業した直後から現在にかけて、「1～99人」の割合が4.7ポイント上昇し、「300人以上」の割合が5.7ポイント低下している。

図表 時期別・勤め先の従業員数（妻）



図表 時期別・勤め先の従業員数（夫）

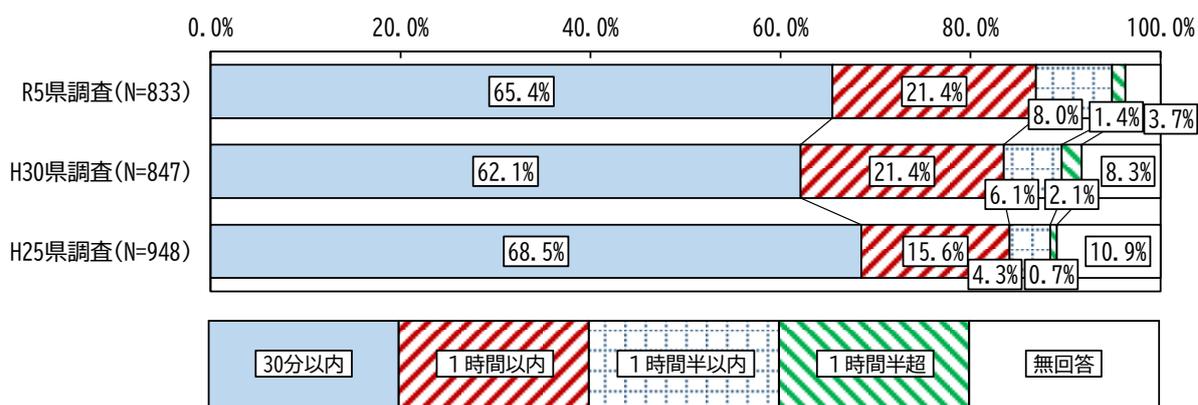


#### ④通勤時間

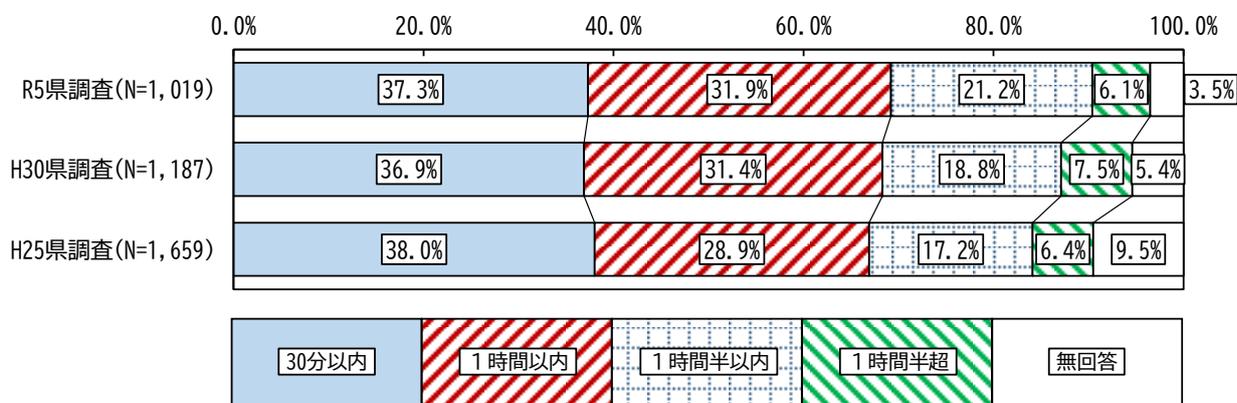
通勤時間（片道）をみると、妻では「30分以内」が65.4%で最も多く、次いで、「1時間以内」が21.4%となっている。前回調査に比べて、「30分以内」の割合が3.3ポイント上昇している。

夫でも「30分以内」が37.3%で最も多いが、妻に比べると割合は非常に低く、次いで、「1時間以内」が31.9%、「1時間半以内」が21.2%みられ、通勤時間は妻より長い。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

図表 現在の通勤時間（妻）



図表 現在の通勤時間（夫）

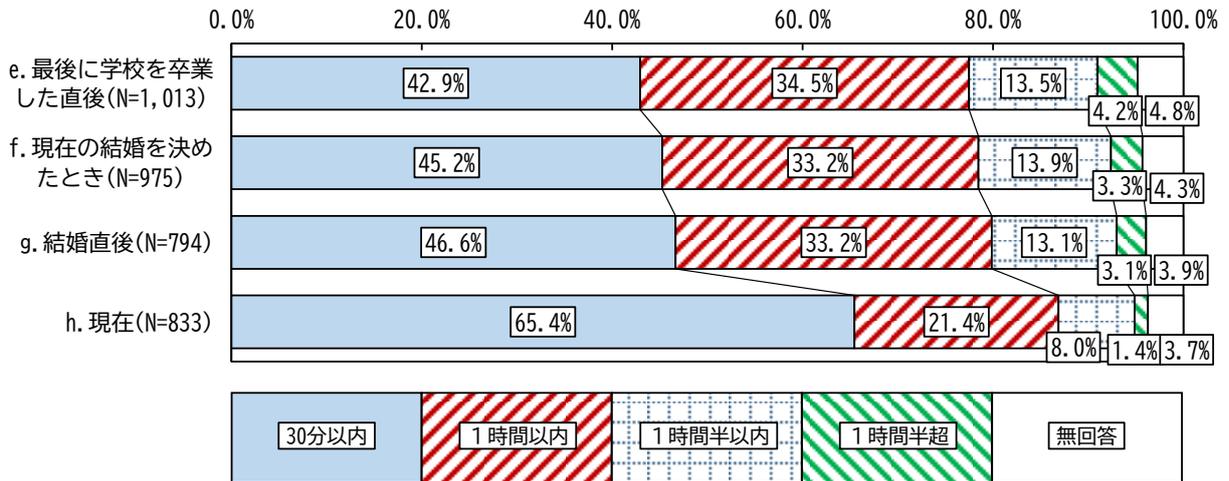


【時期別】

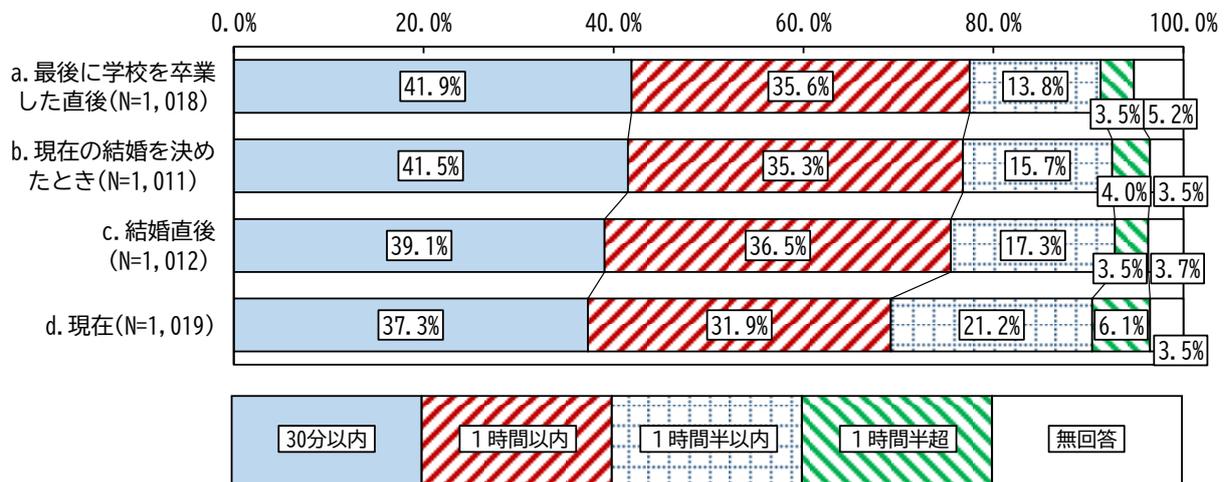
時期別に通勤時間（片道）をみると、妻では、最後に学校を卒業した直後から結婚直後までは「30分以内」の割合は4割台で推移しているが、現在では65.4%と大きく上昇しており、通勤時間は短くなっている。

夫では、最後に学校を卒業した直後から結婚直後までは「1時間半以内」の割合は1割台半ばで推移しているが、現在は21.2%と上昇しており、妻とは逆に通勤時間は長くなっている。

図表 時期別・通勤時間（妻）



図表 時期別・通勤時間（夫）



## (2) 妻の妊娠・出産後の就労状況

お子さんをお持ちの方に向かっていきます。

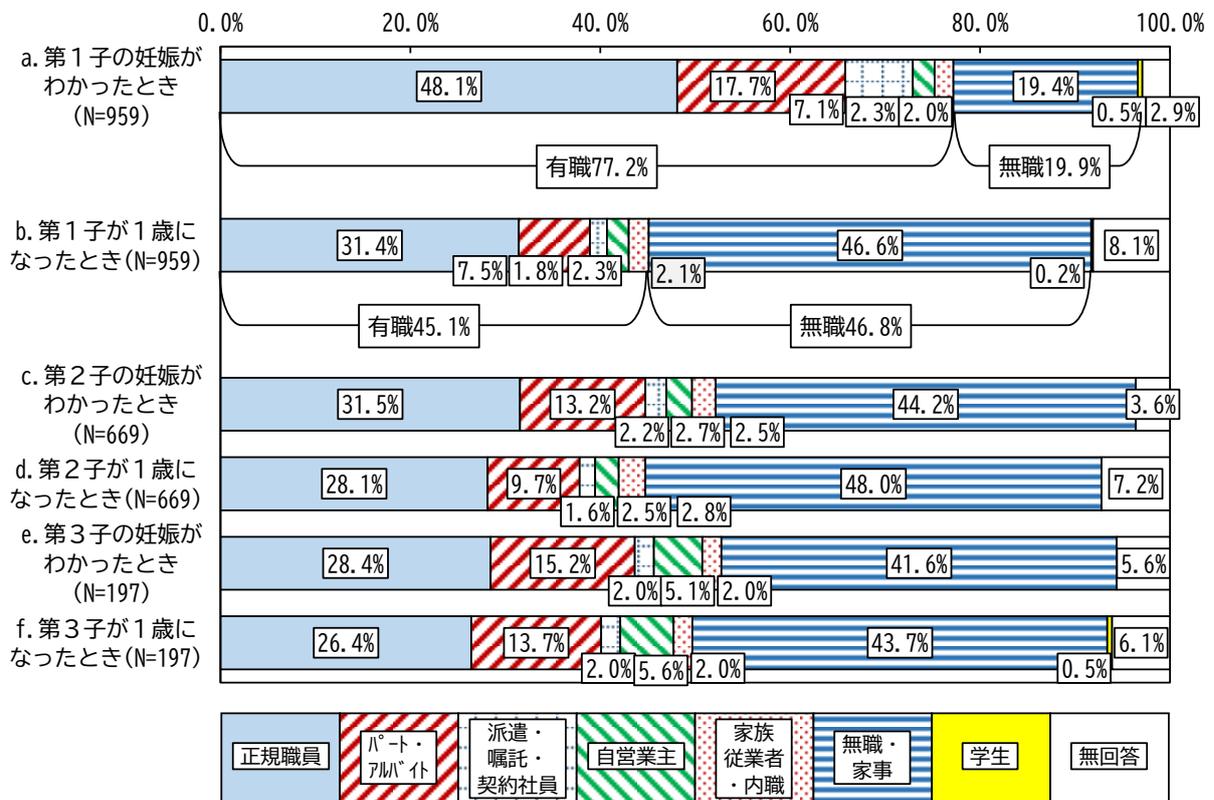
問 29-1 あなた方ご夫婦がお子さんをお持ちになったときの妻（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）のお仕事についておたずねします。下の a~f の各時期における①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

### ①妻の妊娠・出産後の就労状況

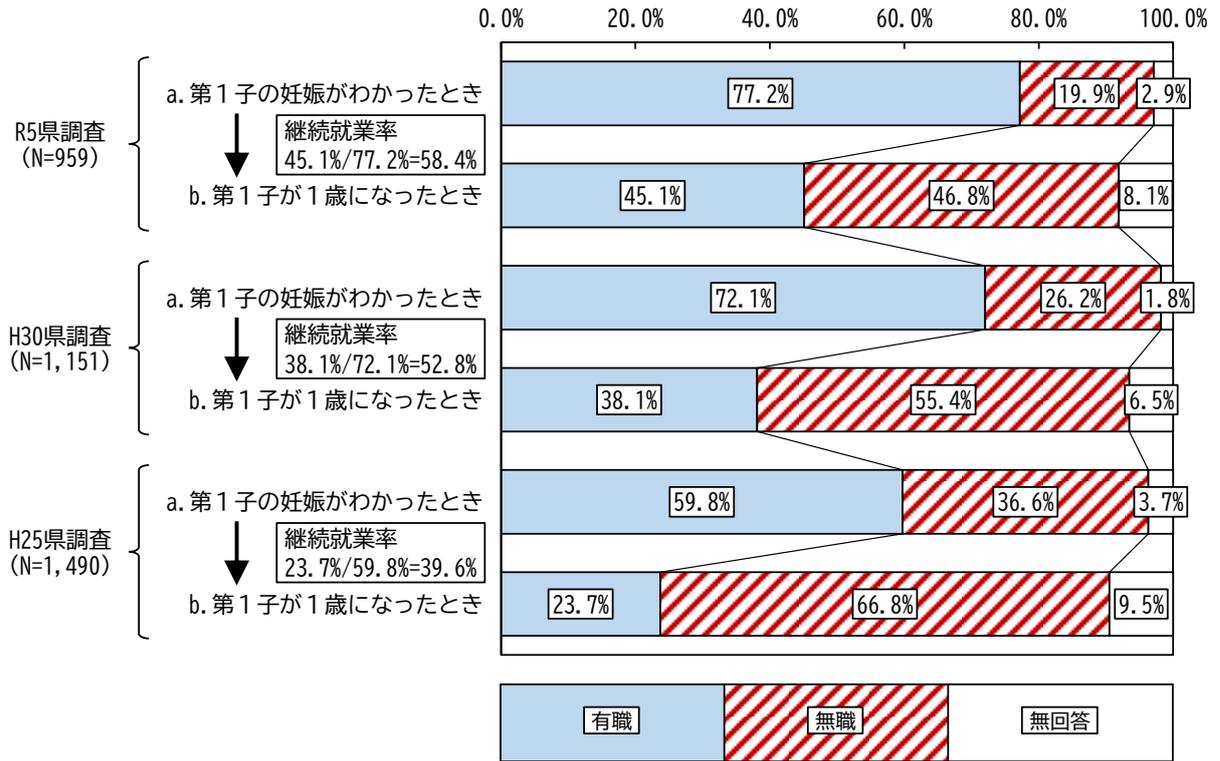
妻の妊娠・出産後の就労状況をみると、第1子妊娠時に就労している妻の割合は 77.2%で、そのうち「正規職員」の割合が 48.1%、「パート・アルバイト」等の非正規職員の割合が 24.8%となっている。第1子が1歳になった時には、就労している妻の割合は 45.1%まで低下し、「無職・家事」が 19.4%から 46.6%に上昇している。

第1子出産前後の継続就業率は前回調査に比べて、52.8%から 58.4%に上昇している。

図表 妻の妊娠・出産後の就労状況



図表 第一子出産前後の妻の就労状況



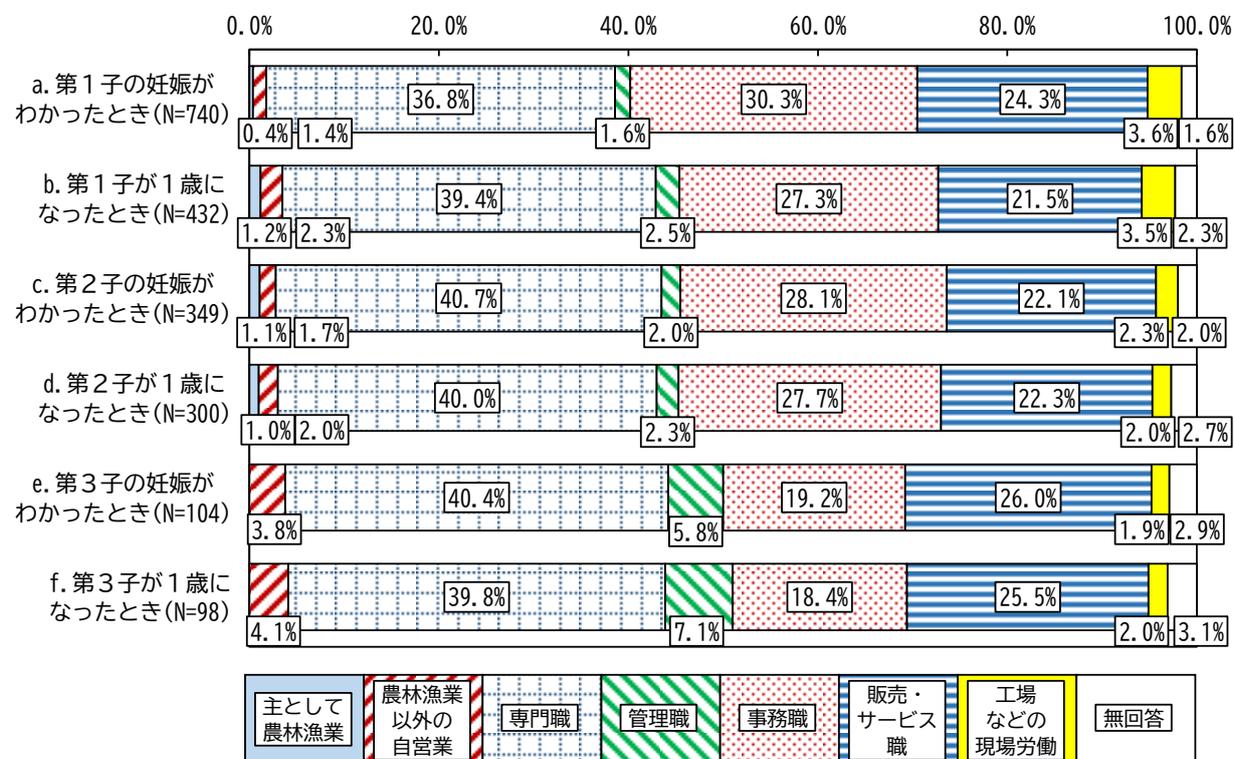
図表 妻の妊娠・出産後の就労状況 (H30 県調査)

時期	母数	正規職員	パート・バイト	契約・派遣社員	自営業主	内職・家族従業者	無職・家事	学生	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	1,151	43.8%	19.4%	6.1%	0.9%	1.9%	25.4%	0.8%	1.8%
b. 第1子が1歳になったとき	1,151	25.7%	7.3%	1.8%	0.6%	2.7%	55.2%	0.2%	6.5%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	834	24.1%	11.9%	1.9%	0.8%	3.2%	54.9%	0.1%	3.0%
d. 第2子が1歳になったとき	834	21.0%	9.5%	1.7%	0.8%	3.8%	56.6%	0.1%	6.5%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	249	21.7%	15.7%	1.6%	0.4%	4.8%	50.2%	0.0%	5.6%
f. 第3子が1歳になったとき	249	19.7%	12.9%	1.6%	0.8%	5.6%	52.2%	0.0%	7.2%

②妻の妊娠・出産後の職種

妻の妊娠・出産後の職種をみると、第1子において、「専門職」の割合が、妊娠がわかったときより1歳になったときの方が上昇しており、「事務職」「販売・サービス職」が低下している。第2子、第3子においては、妊娠がわかったときと1歳になったときで、大きな変化はみられない。

図表 妻の妊娠・出産後の職種



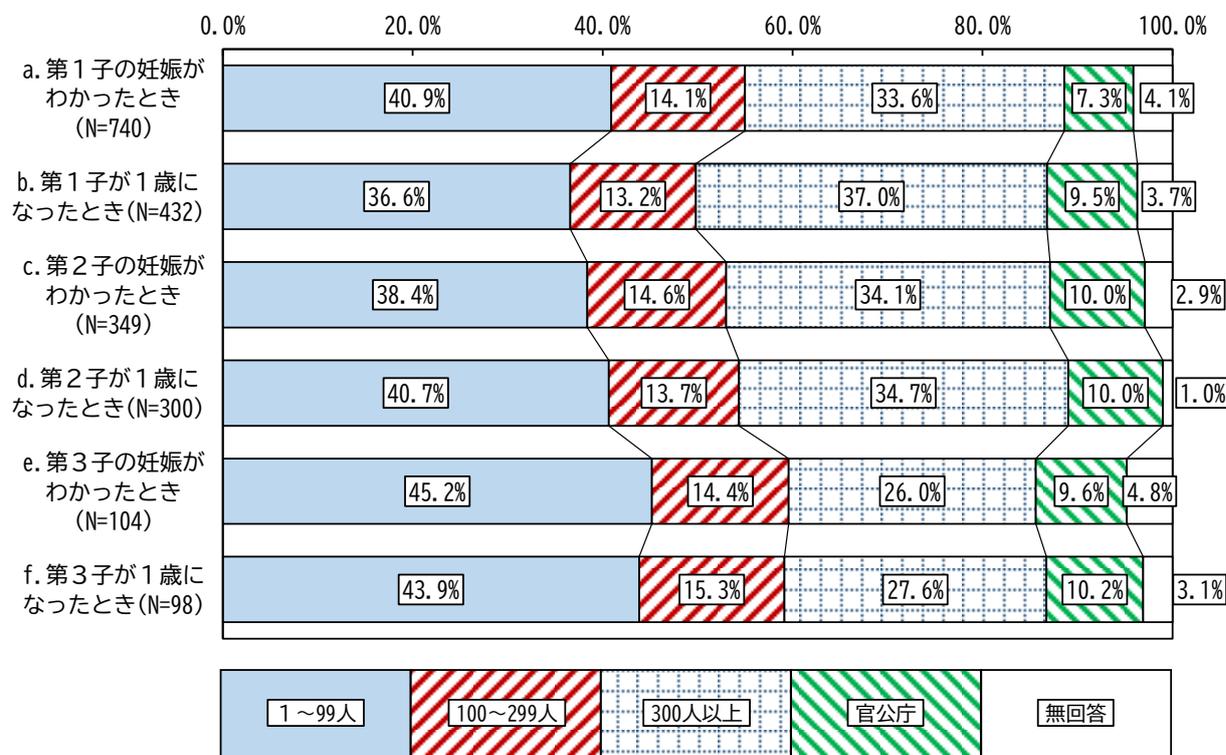
図表 妻の妊娠・出産後の職種 (H30 県調査)

時期	母数	農主林と漁し業て	の農自林業業以外	専門職	管理職	事務職	サ販売・サービス職	現工場労働などの	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	829	0.6%	1.1%	35.3%	1.7%	30.5%	25.3%	2.1%	3.4%
b. 第1子が1歳になったとき	439	0.5%	1.6%	42.6%	3.0%	30.8%	14.8%	2.1%	4.8%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	350	0.9%	1.4%	44.0%	2.3%	26.3%	16.0%	2.9%	6.3%
d. 第2子が1歳になったとき	307	1.0%	1.3%	44.0%	2.6%	25.1%	15.0%	3.6%	7.5%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	110	0.0%	0.9%	43.6%	2.7%	21.8%	19.1%	3.6%	8.2%
f. 第3子が1歳になったとき	101	0.0%	1.0%	46.5%	2.0%	22.8%	14.9%	5.9%	6.9%

### ③妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数

妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数をみると、第1子において、「1～99人」の割合が、妊娠がわかったときより1歳になったときの方が4.3ポイント低下しており、「300人以上」の割合が3.4ポイント上昇している。第2子、第3子においては、妊娠がわかったときと1歳になったときで、大きな変化はみられない。

図表 妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数



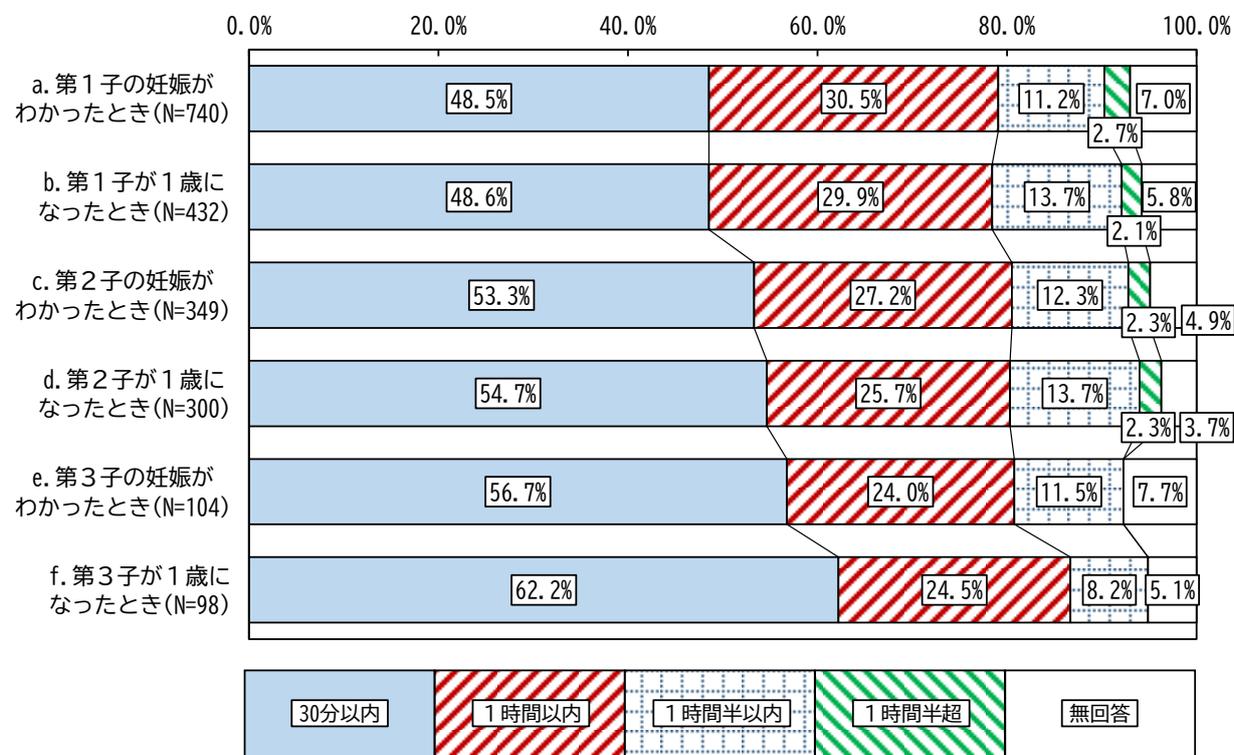
図表 妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数 (H30 県調査)

時期	母数	1 ～ 9 9 人	2 1 9 0 人	3 0 0 人	官 公 庁	無 回 答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	829	39.2%	14.2%	35.8%	7.0%	3.7%
b. 第1子が1歳になったとき	439	35.1%	13.4%	36.4%	9.6%	5.5%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	350	40.0%	14.0%	32.0%	9.7%	4.3%
d. 第2子が1歳になったとき	307	40.4%	14.0%	29.0%	9.4%	7.2%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	110	41.8%	14.5%	28.2%	10.0%	5.5%
f. 第3子が1歳になったとき	101	45.5%	11.9%	28.7%	8.9%	5.0%

#### ④妻の妊娠・出産後の通勤時間

妻の妊娠・出産後の通勤時間をみると、第3子において、「30分以内」の割合が、妊娠がわかったときより1歳になったときの方が5.5ポイント上昇している。第1子、第2子においては、妊娠がわかったときと1歳になったときで、大きな変化はみられない。

図表 妻の妊娠・出産後の通勤時間



図表 妻の妊娠・出産後の通勤時間 (H30 県調査)

時期	母数	30分以内	1時間以内	1時間半以内	1時間半超	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	829	47.5%	30.6%	11.2%	4.1%	6.5%
b. 第1子が1歳になったとき	439	45.6%	29.8%	11.6%	4.1%	8.9%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	350	54.6%	24.0%	11.1%	2.9%	7.4%
d. 第2子が1歳になったとき	307	54.1%	23.1%	8.8%	3.3%	10.7%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	110	69.1%	12.7%	6.4%	2.7%	9.1%
f. 第3子が1歳になったとき	101	73.3%	10.9%	6.9%	1.0%	7.9%

### (3) 現在の夫婦の就労状況

現在夫婦どちらか、または両方がお仕事をお持ちの方にかかっています(夫婦双方のことを回答ください)。それ以外の方は問 31 へお進みください。

問 30 あなた方ご夫婦の現在のお仕事について、次の①～④までの項目に、該当する数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

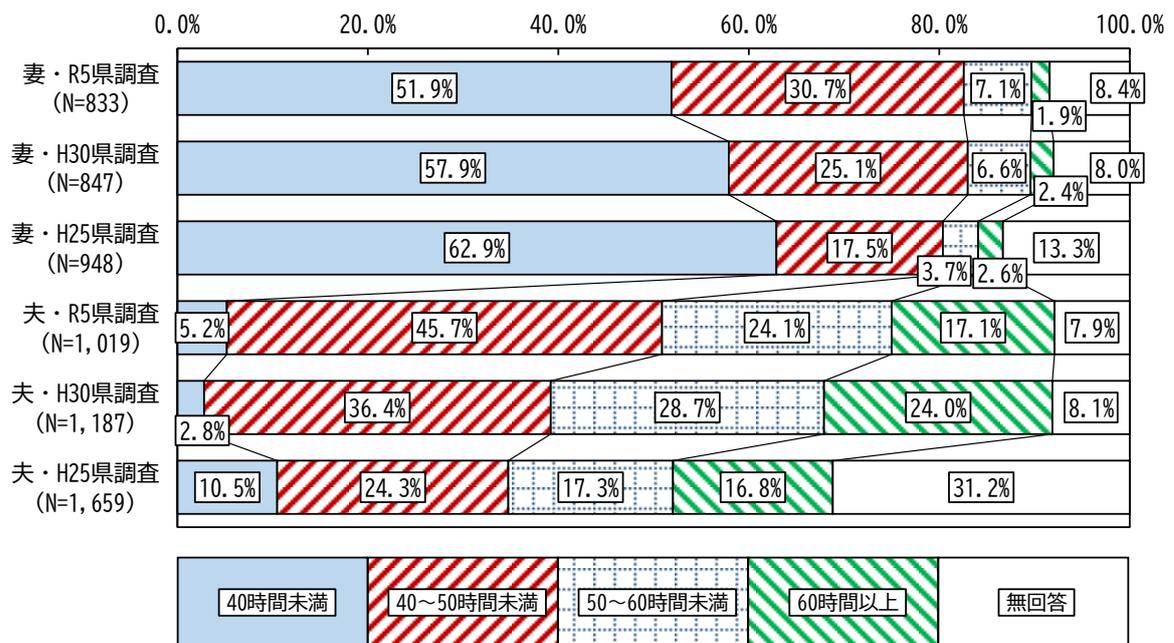
#### ① 1 週間の平均的な労働時間

1 週間の平均的な労働時間をみると、妻では「40 時間未満」が 51.9%で最も多く、次いで、「40～50 時間未満」が 30.7%となっている。過去の調査と比べると、「40 時間未満」の割合は減少傾向がみられ、前回調査からは 6.0 ポイント低下している。一方、「40～50 時間未満」の割合は増加傾向で、前回調査からは 5.6 ポイント上昇しており、労働時間は長くなっている。

夫では、「40～50 時間未満」が 45.7%で最も多く、次いで、「50～60 時間未満」が 24.1%、「60 時間以上」が 17.1%となっている。過去の調査と比べると、「40～50 時間未満」の割合は増加傾向で、前回調査からは 9.3 ポイント上昇している。一方、前回調査に比べて、「50～60 時間未満」と「60 時間以上」の割合は低下しており、労働時間は短くなっているといえる。

(※ただし、H25 県調査は無回答が多い点に留意する必要がある。)

図表 1 週間の平均的な労働時間

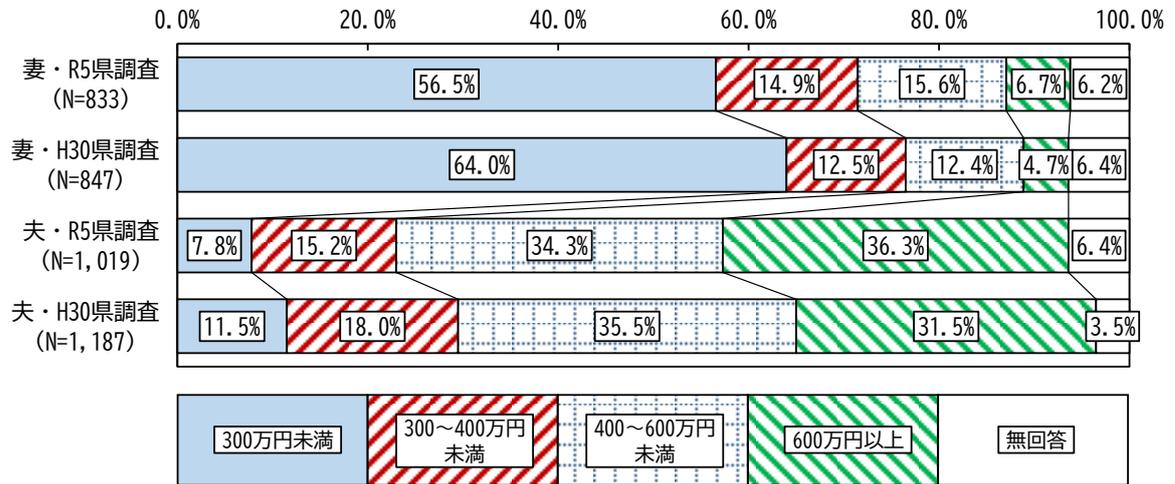


## ②年間の収入

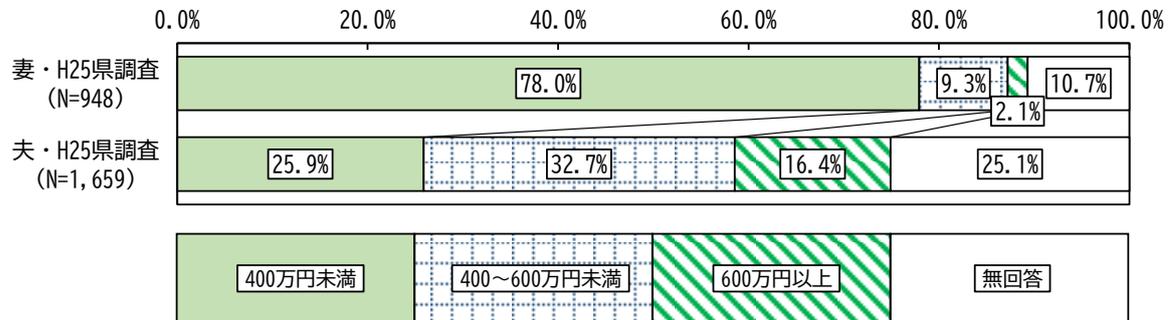
年間の収入をみると、妻では「300万円未満」が56.5%で最も多く、次いで、「400～600万円未満」が15.6%となっている。前回調査に比べて、「300万円未満」の割合が7.5ポイント低下している。

夫では、「600万円以上」が36.3%で最も多く、次いで、「400～600万円未満」が34.3%となっている。前回調査に比べて、「300万円未満」が3.7ポイント低下している。

図表 年間の収入



図表 年間の収入 (H25 県調査)



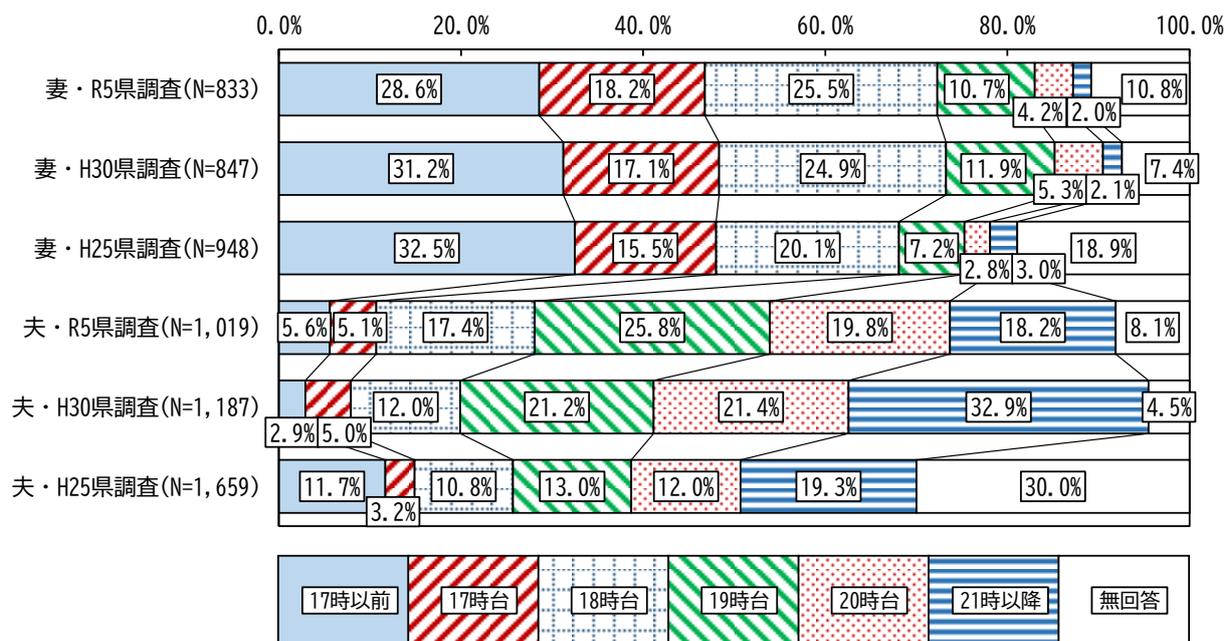
### ③平均的な帰宅時刻

平均的な帰宅時刻をみると、妻では「17時以前」が28.6%で最も多く、次いで、「18時台」が25.5%、「17時台」が18.2%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

夫では、「19時台」が25.8%で最も多く、次いで、「20時台」が19.8%、「21時以降」が18.2%となっている。前回調査に比べて、「21時以降」が14.7ポイントと大きく低下しており、帰宅時刻は全体的に早まっている。

(※H25 県調査は無回答が多い点に留意する必要がある。)

図表 平均的な帰宅時刻

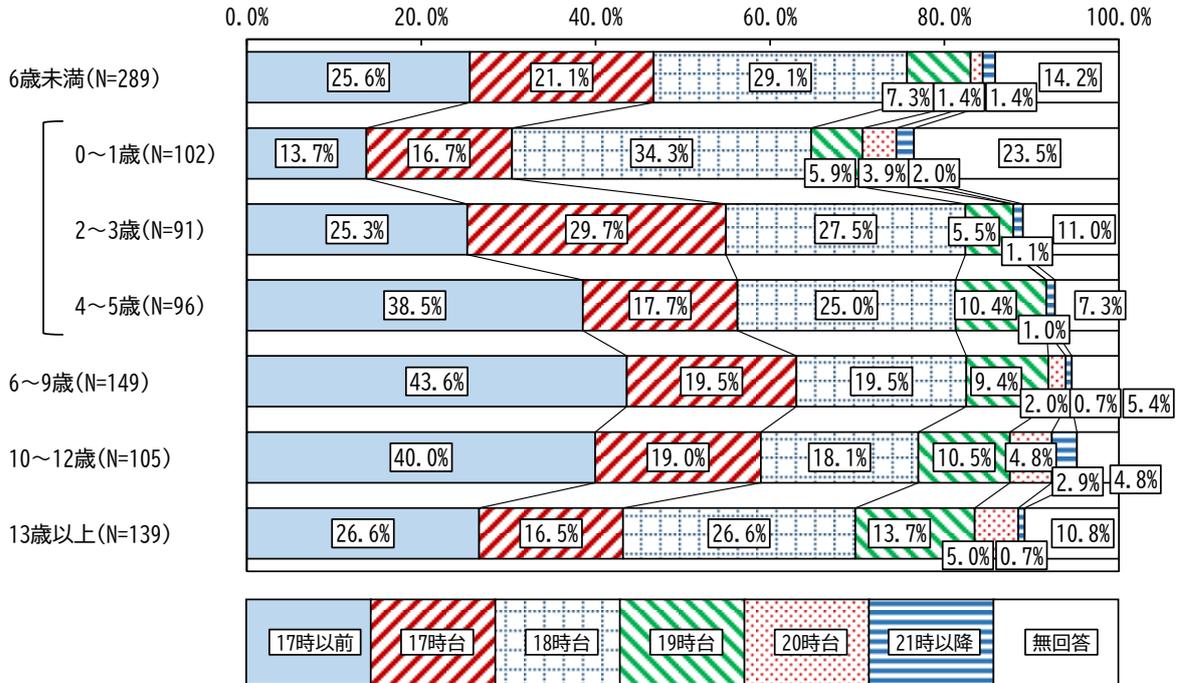


【末子年齢別】

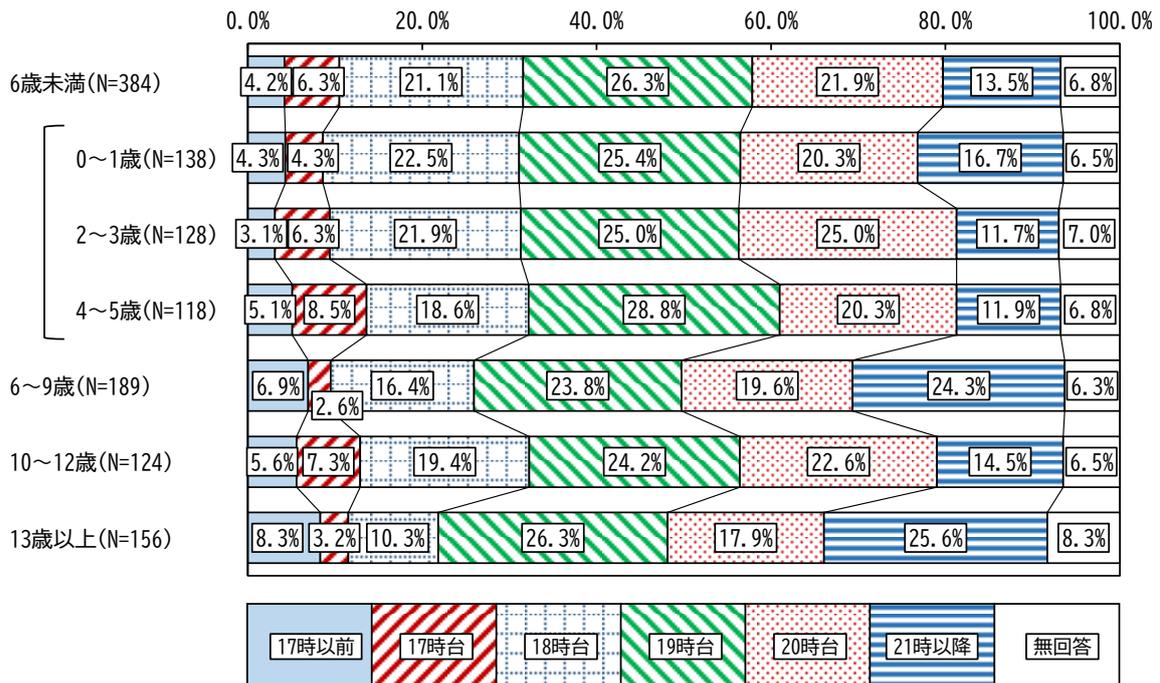
末子年齢別に平均的な帰宅時刻をみると、妻では、最も帰宅時刻が早いのは6～9歳の子どもを持つ母親で、「17時以前」の割合が43.6%と最も高い。0～1歳の子どもを持つ母親では「18時台」、2～3歳の子どもを持つ母親では「17時台」が最も多いが、その他の年齢の子どもを持つ母親では、いずれも「17時以前」が最も多くなっている。13歳以上の子どもを持つ母親では「18時台」も26.6%となっている。

夫では、6～9歳、13歳以上の子どもを持つ父親で、「21時以降」の割合が2割半ばと高くなっている。

図表 末子年齢別・平均的な帰宅時刻（妻）



図表 末子年齢別・平均的な帰宅時刻（夫）

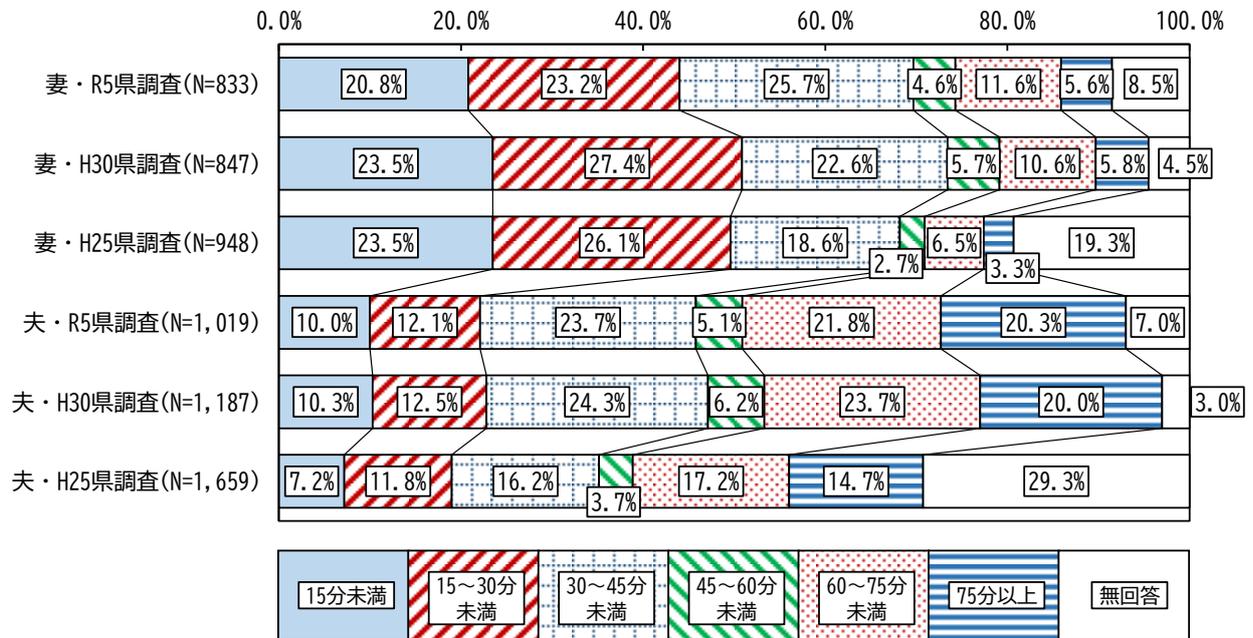


#### ④通勤時間

通勤時間（片道）をみると、妻では、「30～45分未満」が25.7%で最も多く、次いで、「15～30分未満」が23.2%、「15分未満」が20.8%となっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

夫では、「30～45分未満」（23.7%）、「60～75分未満」（21.8%）、「75分以上」（20.3%）が2割強で多くなっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

図表 通勤時間



#### (4) 未就労の妻の今後の就労意向

##### ①未就労の妻の就労意向

妻が現在お仕事をお持ちでないご夫婦についてうかがいます(妻は自分の状況、夫は妻の状況をわかる範囲で回答)。

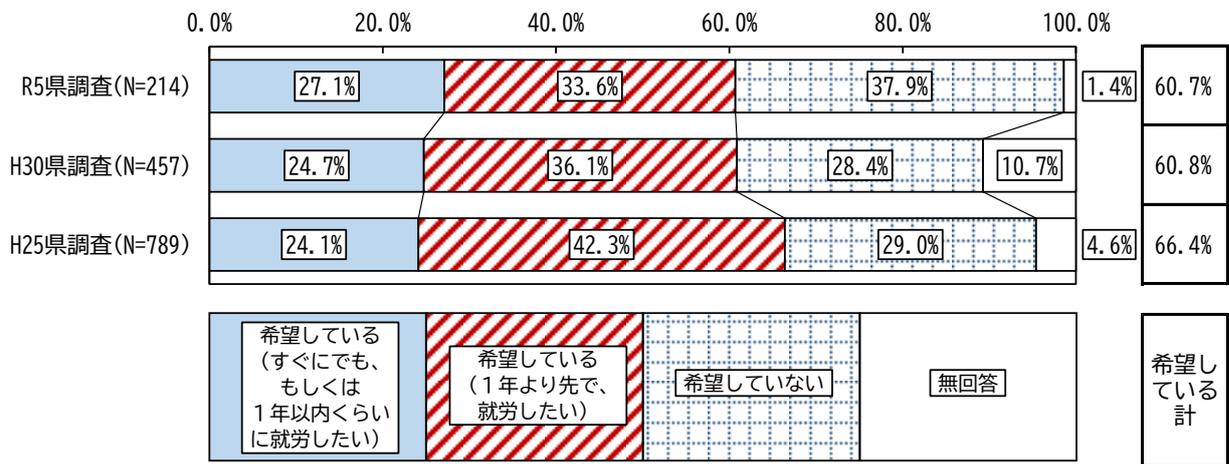
問31 あなた(あなたの妻)は、今後就労を希望されていますか。

未就労の妻の今後の就労意向をみると、「希望している(1年より先で、就労したい)」と「希望している(すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい)」の合計(=希望している計)は60.7%、「希望していない」が37.9%である。

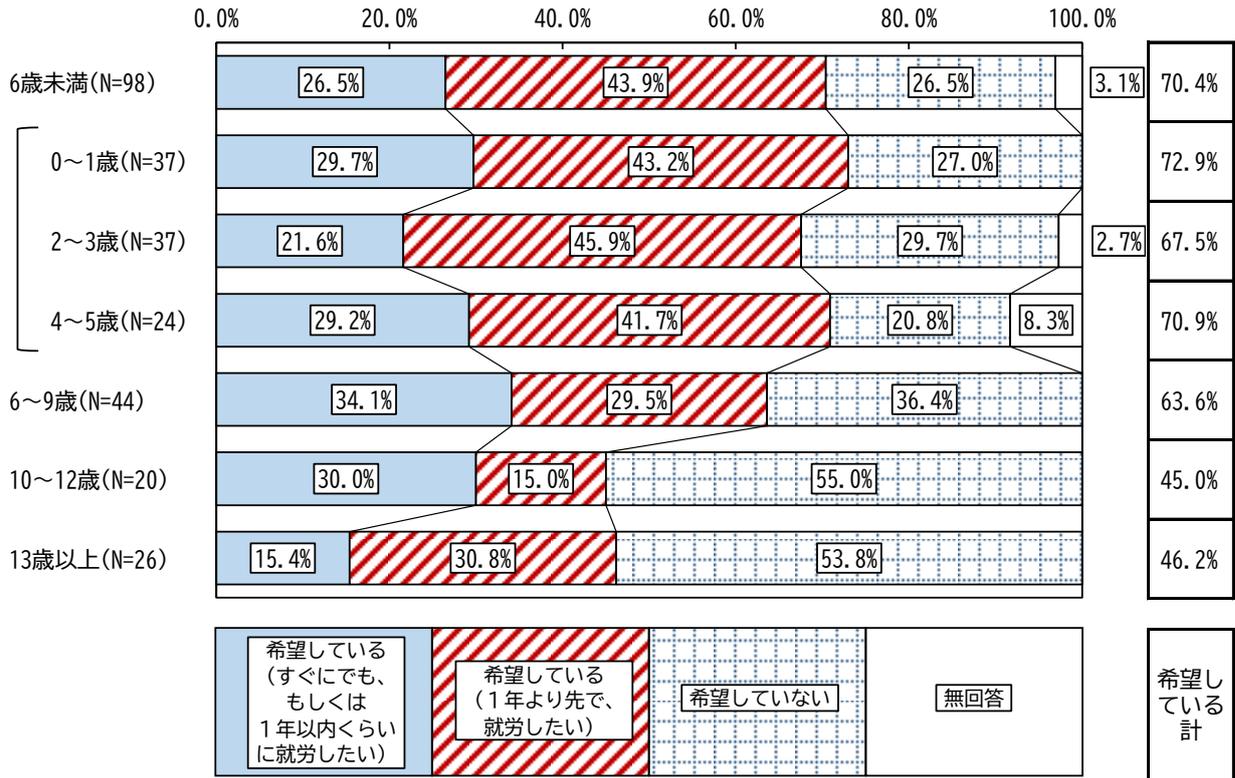
前回調査に比べて、「希望していない」が9.5ポイント上昇しており、希望している計は前々回調査から低下傾向となっている。

末子年齢別にみると、末子の年齢が0～1歳の母親では希望している計は72.9%と高いが、末子の年齢が10～12歳の母親では45.0%、13歳以上の母親では46.2%となっており、末子年齢が高くなるほど希望している計は概ね低くなる傾向である(ただし、サンプル数が少ない点に留意が必要である)。

図表 未就労の妻の就労意向



図表 未子年齢別・未就労の妻の就労意向



## ②希望就労形態

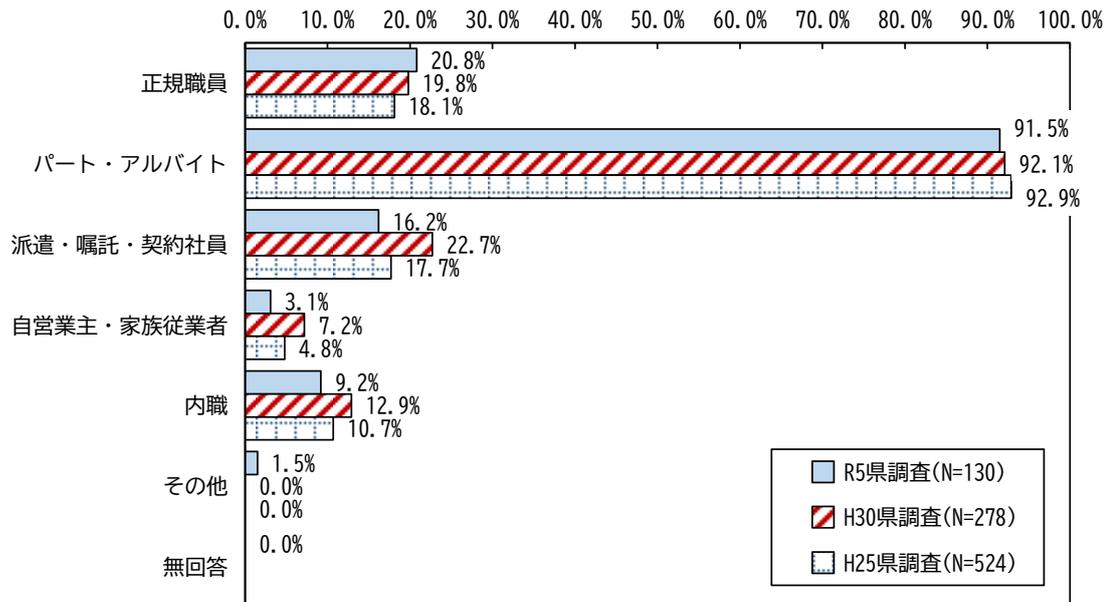
問 31-1～問 31-2 は問 31 で「1」または「2」と回答した方にうかがいます。「3」を回答された方は問 31-3 へお進みください。妻は自分の考えを、夫は妻がどのように考えているかわかる範囲でお答えください。

問 31-1 どのような雇用形態なら就労したいと思いますか。

就労希望のある未就労の妻の希望就労形態をみると、「パート・アルバイト」が91.5%で最も多く、次いで、「正規職員」が20.8%、「派遣・嘱託・契約社員」が16.2%となっている。

前回調査と比較すると、「派遣・嘱託・契約社員」が6.5ポイント低下している。

図表 希望就労形態



※H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

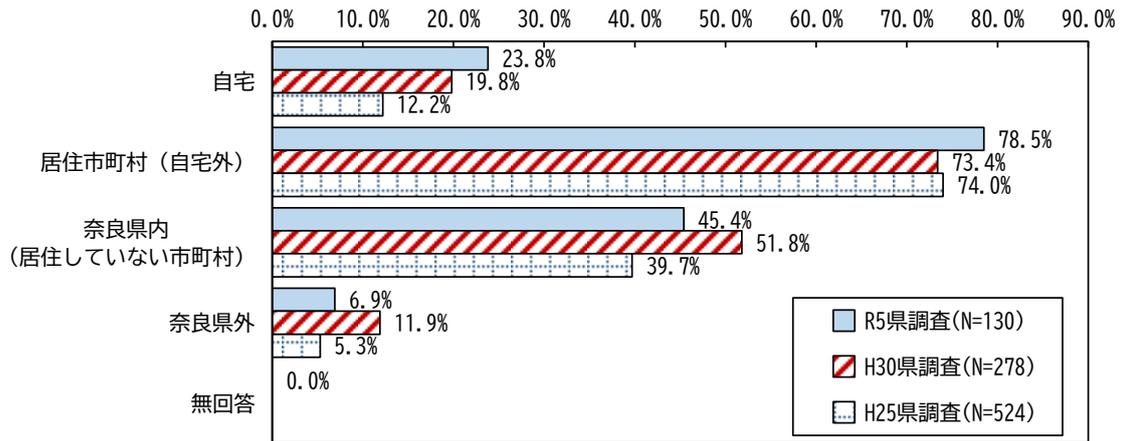
### ③希望勤務地

問 31-2 希望される勤務地はどちらですか。

就労希望のある未就労の妻の希望勤務地をみると、「居住市町村（自宅外）」が78.5%で最も多く、次いで、「奈良県内（居住していない市町村）」が45.4%、「自宅」が23.8%となっている。

前回調査に比べて、「居住市町村（自宅外）」が5.1ポイント、「自宅」が4.0ポイント上昇し、「奈良県外」が5.0ポイント低下している。

図表 希望勤務地



※H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

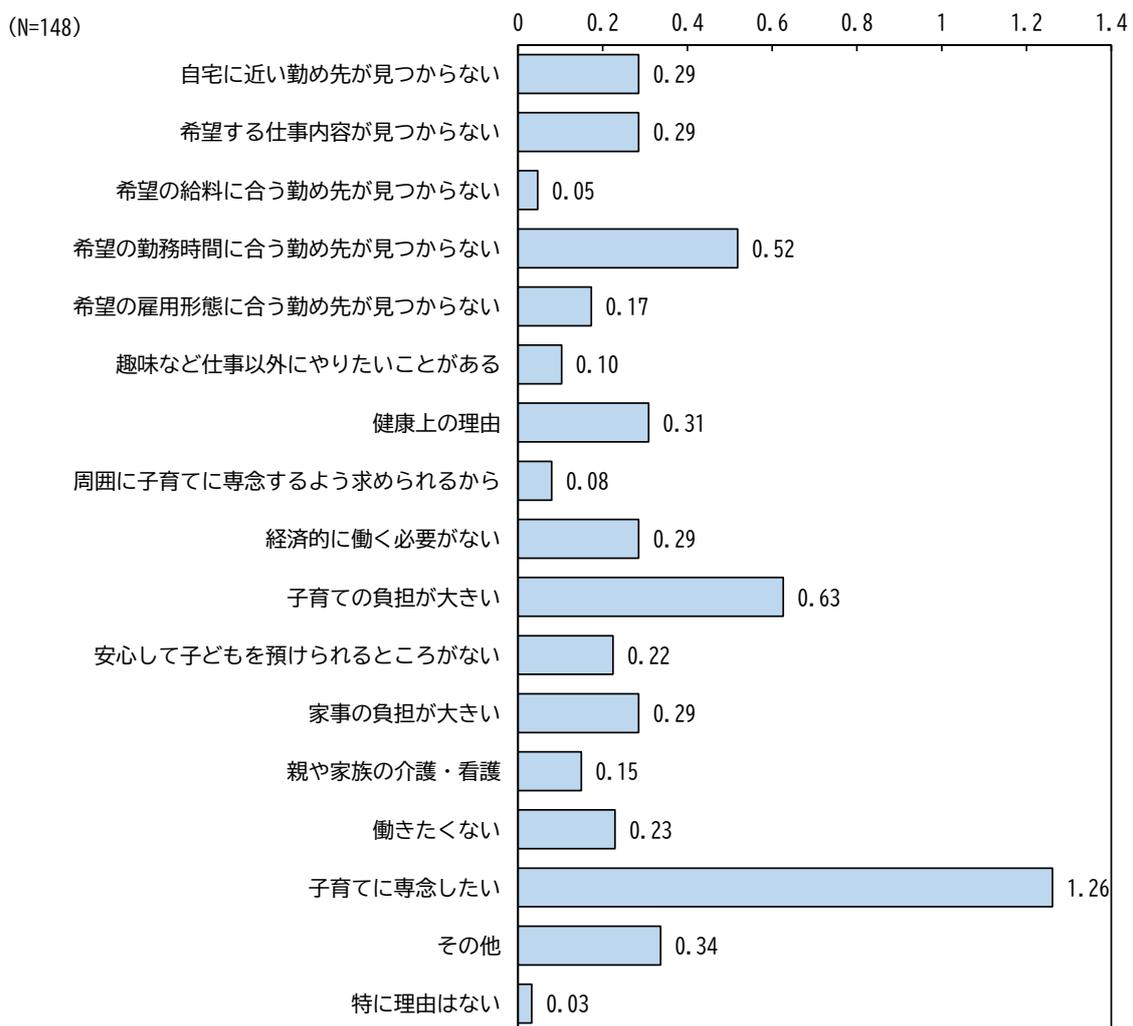
④妻が就労していない理由 または 今後就労を希望しない理由

問 31-3～問 31-4 は問 31 で回答したすべての方にかがいます。

問 31-3 あなた（あなたの妻）について、現在就労していない理由または今後就労を希望しない理由は何ですか。次の中から最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

未就労の妻の就労していない・就労を希望しない理由をみると、「子育てに専念したい」が1.26点で最も多く、次いで、「子育ての負担が大きい」が0.63点、「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」が0.52点となっている。

図表 妻が就労を希望しない理由 または 今後就労を希望しない理由



※最大の理由＝3点、第二の理由＝2点、第三の理由＝1点として点数換算

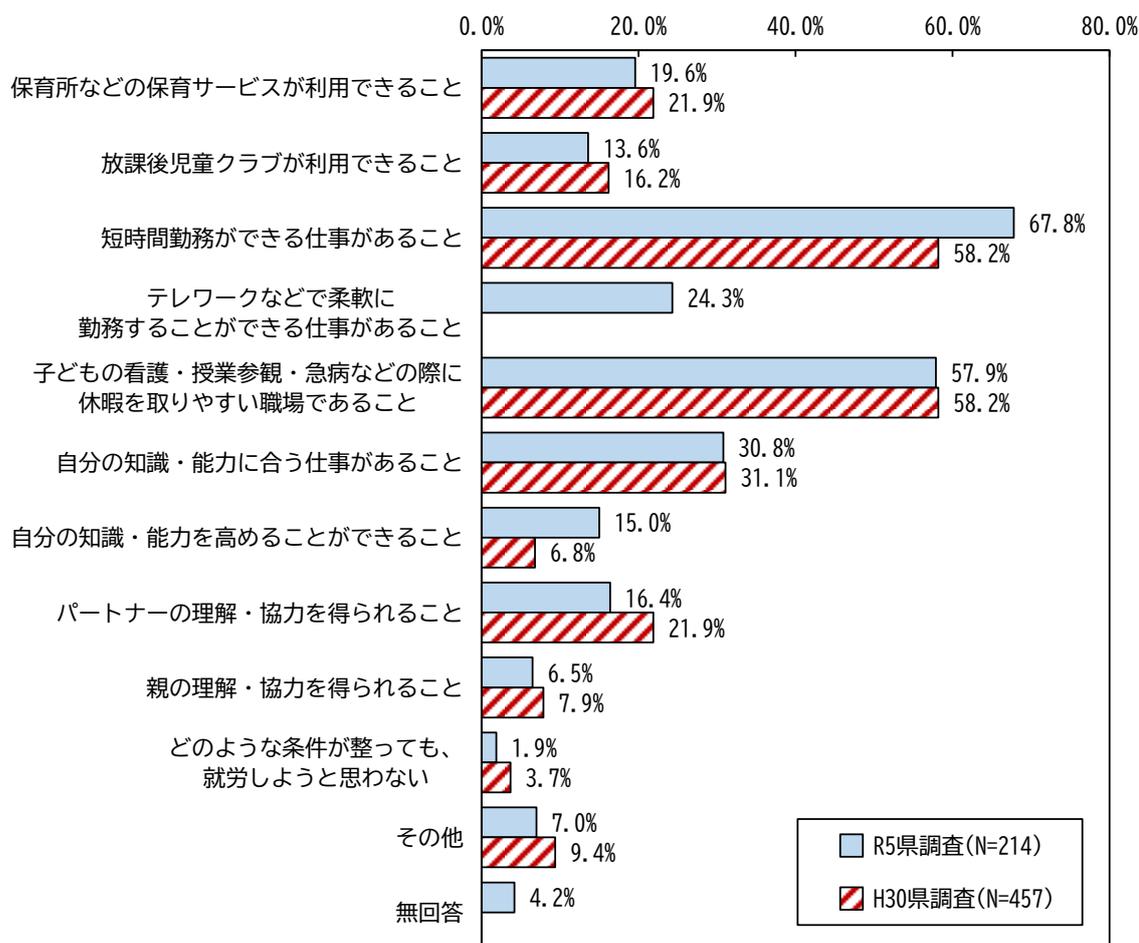
⑤就労条件

問 31-4 今後どのような条件が整えば就労しようと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

未就労の妻の就労条件をみると、「短時間勤務ができる仕事があること」が67.8%で最も多く、次いで、「子どもの看護・授業参観・急病などの際に休暇を取りやすい職場であること」が57.9%、「自分の知識・能力に合う仕事があること」が30.8%となっている。

前回調査に比べて、「短時間勤務ができる仕事があること」が9.6ポイント、「自分の知識・能力を高めることができること」が8.2ポイント上昇し、「パートナーの理解・協力を得られること」が5.5ポイント低下している。

図表 就労条件



※ 「テレワークなどで柔軟に勤務することができる仕事があること」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査は無回答の掲載なし

(5) 就労経験のある妻の退職時期と退職理由

①妻が仕事を辞めた時期

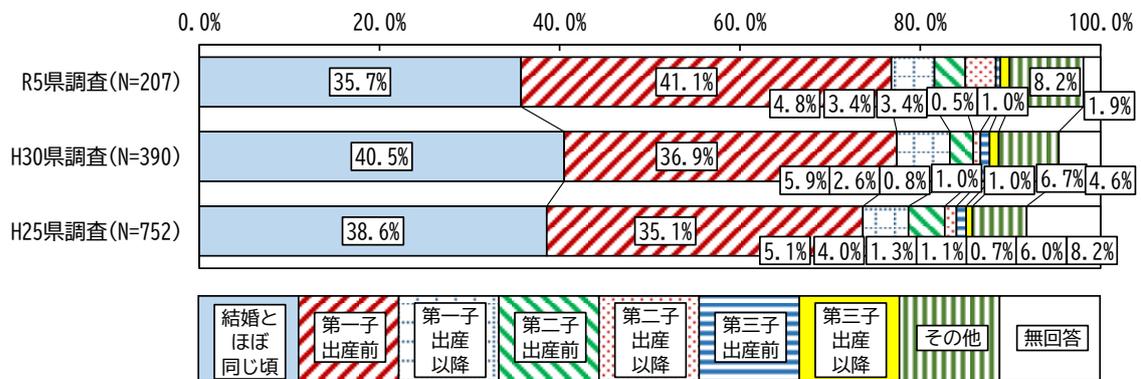
妻が以前仕事をされていたが、現在はお仕事をされていないご夫婦について(妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答)うかがいます。それ以外の方は自由記述へお進みください。(産休・育児休業は「仕事を辞めた」とは捉えません)

問 32 あなた(あなたの妻)がお仕事を辞めた時期はいつごろですか。(複数回辞めている場合、初めて辞めた時期に○をつけてください)。

妻が仕事を辞めた時期をみると、「第一子出産前」が41.1%で最も多く、次いで、「結婚とほぼ同じ頃」が35.7%となっている。

前回調査に比べて、「第一子出産前」が4.2ポイント上昇し、「結婚とほぼ同じ頃」が4.8ポイント低下している。

図表 妻が仕事を辞めた時期



②妻が仕事を辞めた理由

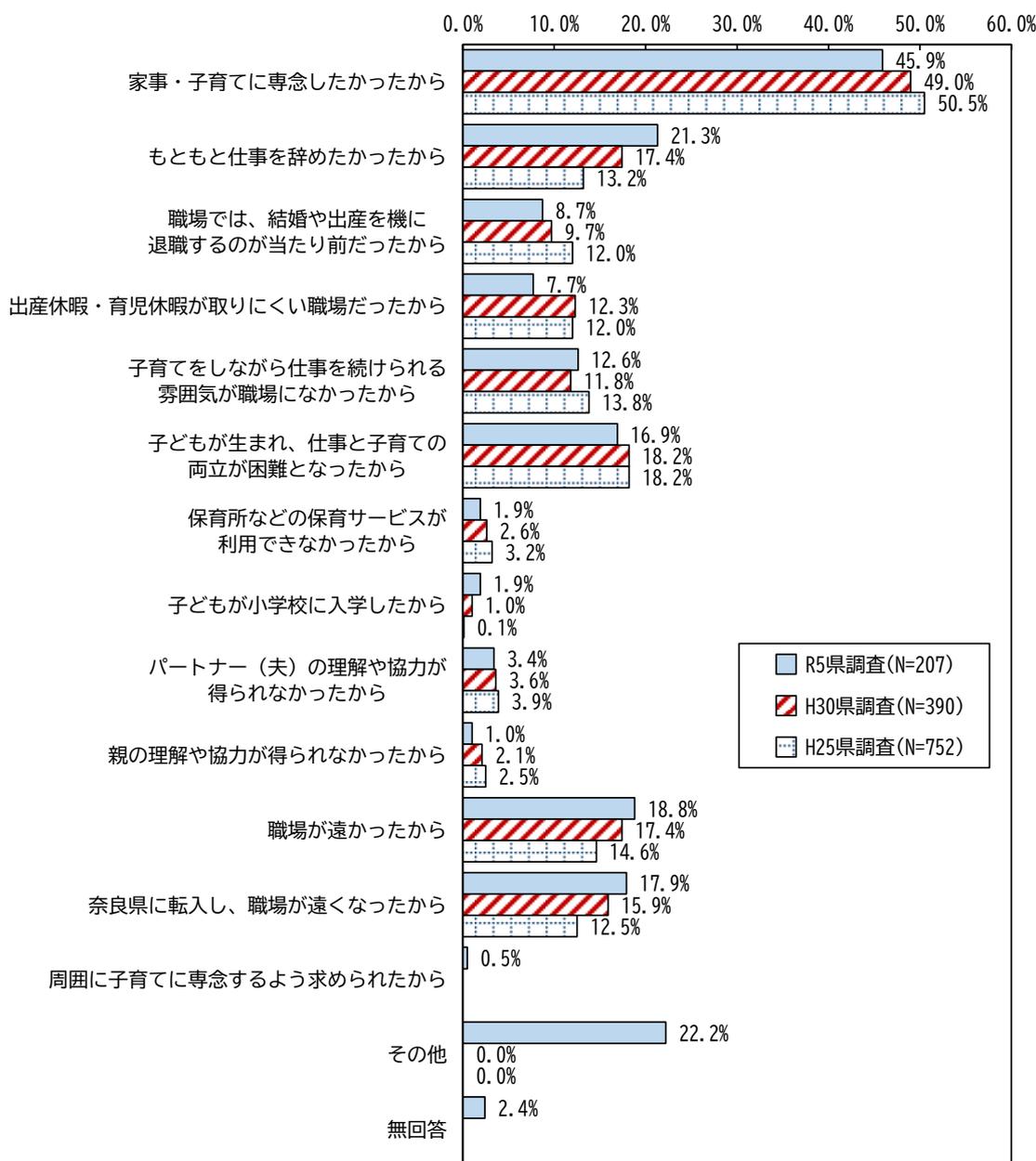
問 32-1 あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた理由は何でしたか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由に◎をつけてください。

妻が仕事を辞めた理由をみると、「家事・子育てに専念したかったから」が45.9%で最も多く、次いで、「もともと仕事を辞めたかったから」が21.3%、「子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから」が16.9%となっている。

前回調査に比べて、「出産休暇・育児休暇が取りにくい職場だったから」が4.6ポイント低下している。

最大の理由は、「家事・子育てに専念したかったから」が23.7%で最も多く、前回調査から8.8ポイント上昇しているが、前回調査に比べ「無回答」の割合が大きく低下している点に留意が必要である。

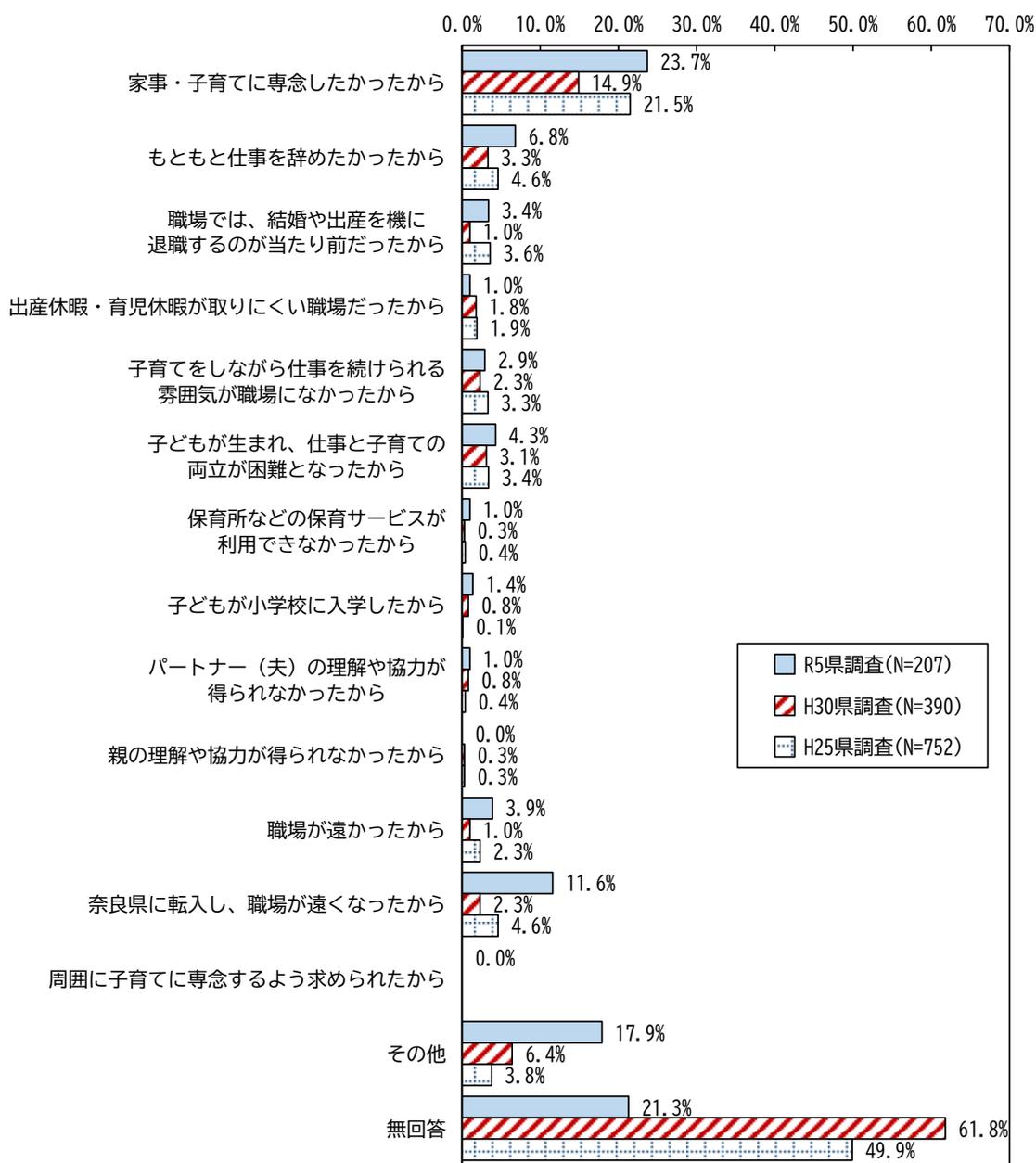
図表 妻が仕事を辞めた理由（複数回答）



※「周囲に子育てに専念するよう求められたから」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

図表 妻が仕事を辞めた理由（最大の理由）



※ 「周囲に子育てに専念するよう求められたから」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査、H25 県調査は無回答の掲載なし

### 3 出会い・結婚

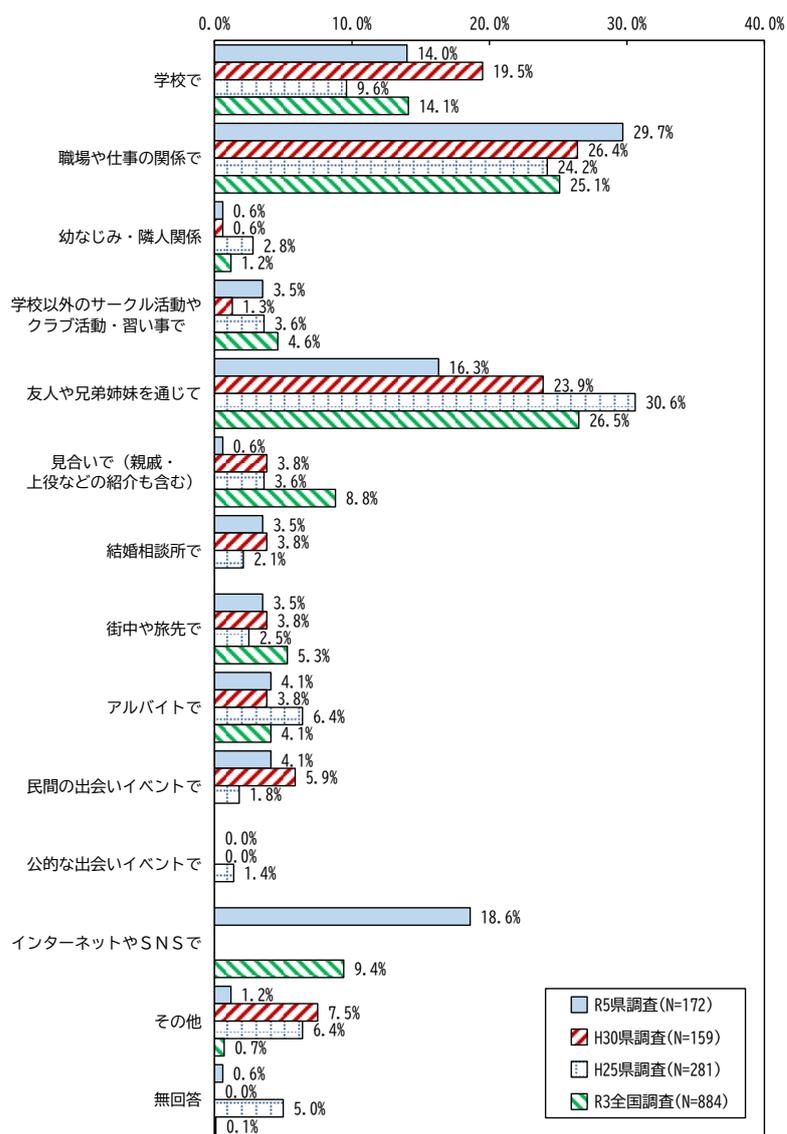
#### (1) 出会いのきっかけ

問1 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

初婚同士かつ結婚5年以内の夫婦の出会いのきっかけをみると、「職場や仕事の関係で」が29.7%で最も多く、次いで、「インターネットやSNSで」が18.6%となっている。

前回調査に比べて、「友人や兄弟姉妹を通じて」が7.6ポイント低下している。

図表 出会いのきっかけ（初婚同士、結婚5年以内）



※「インターネットやSNSで」は今回調査からの新規項目

※R3 全国調査では「結婚相談所で」「民間の出会いイベントで」「公的な出会いイベントで」はなし

## (2) 理想的な初婚年齢

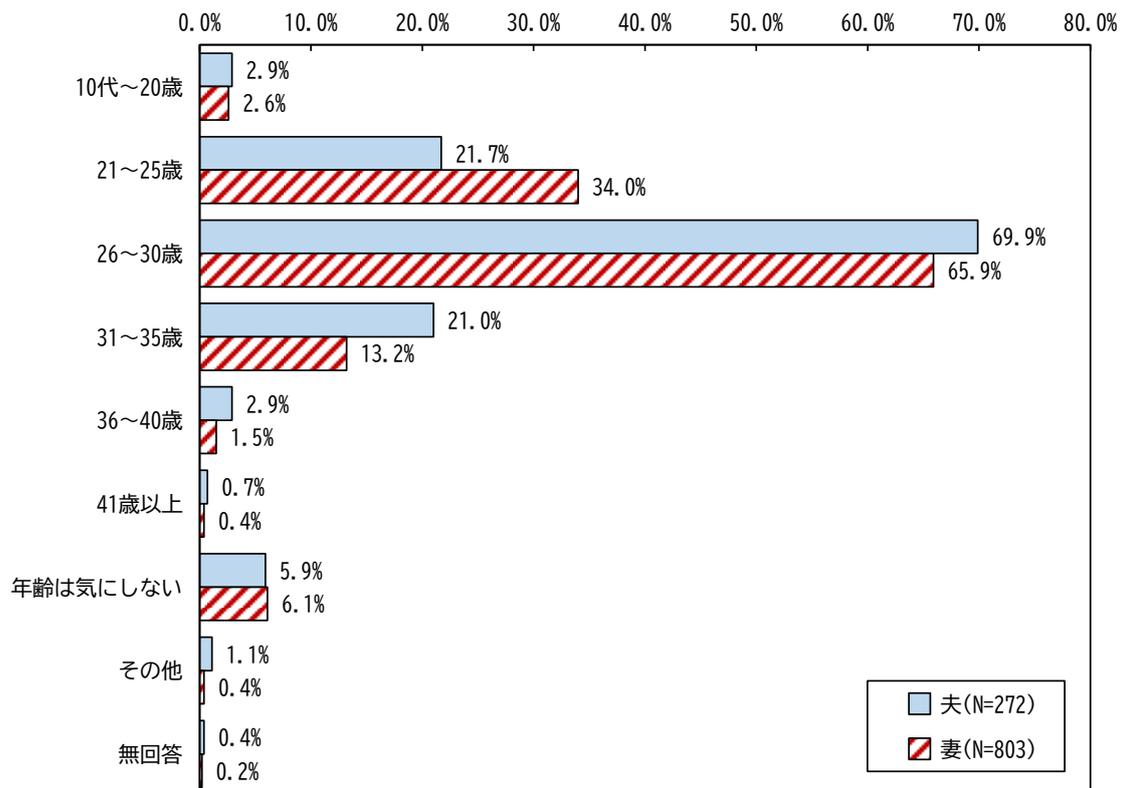
問2 ご自身の理想的な初婚年齢はいつ頃だとお考えでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

### ①理想的な初婚年齢

理想的な初婚年齢をみると、夫、妻とも「26～30歳」で最も多く、夫で69.9%、妻で65.9%となっている。次いで、「21～25歳」が夫で21.7%、妻で34.0%、「31～35歳」が夫で21.0%、妻で13.2%となっている。

夫と妻を比べると、順位は同じであるが、「21～25歳」では妻の方が12.3ポイント高い。

図表 理想的な初婚年齢



※新規質問項目

②理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由

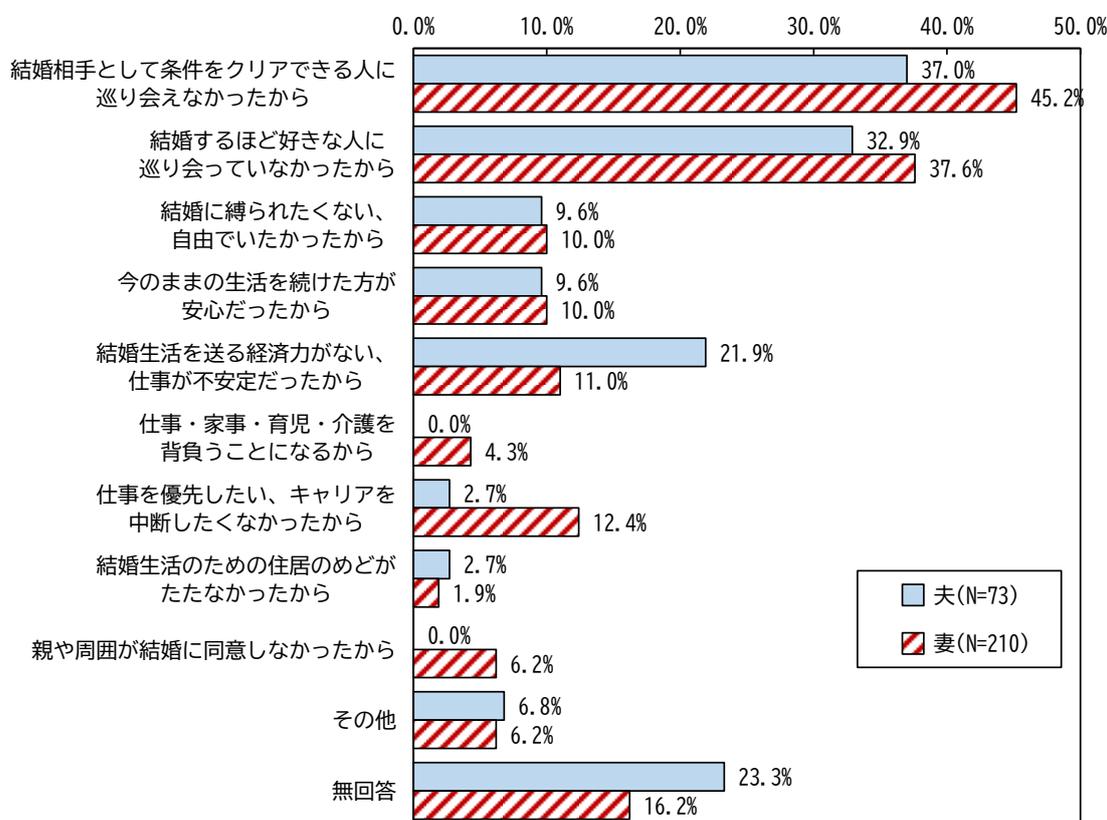
問3 理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、その中で最大の理由に◎をおつけください。

理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由をみると、夫では「結婚相手として条件をクリアできる人に巡り会えなかったから」が37.0%で最も多く、次いで、「結婚するほど好きな人に巡り会っていないから」が32.9%、「結婚生活を送る経済力がない、仕事が不安定だったから」が21.9%となっている。妻では「結婚相手として条件をクリアできる人に巡り会えなかったから」が45.2%で最も多く、次いで、「結婚するほど好きな人に巡り会っていないから」が37.6%となっている。

「結婚相手として条件をクリアできる人に巡り会えなかったから」は妻の方が8.2ポイント高く、「結婚生活を送る経済力がない、仕事が不安定だったから」は夫の方が10.9ポイント高い。

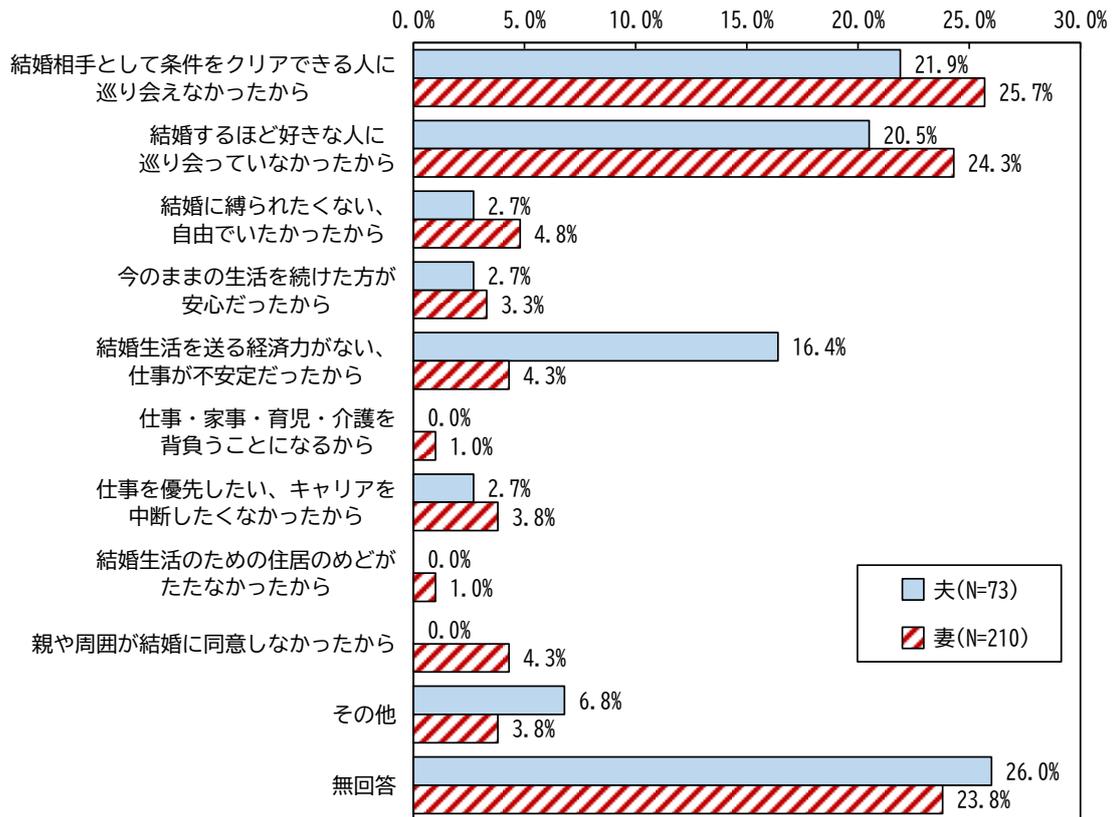
最大の理由をみると、夫、妻ともに「結婚相手として条件をクリアできる人に巡り会えなかったから」がそれぞれ夫21.9%、妻25.7%で最も多くなっている。

図表 理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由（複数回答）



※新規質問項目

図表 理想的な初婚年齢で結婚しなかった理由（最大の理由）



## 4 子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手

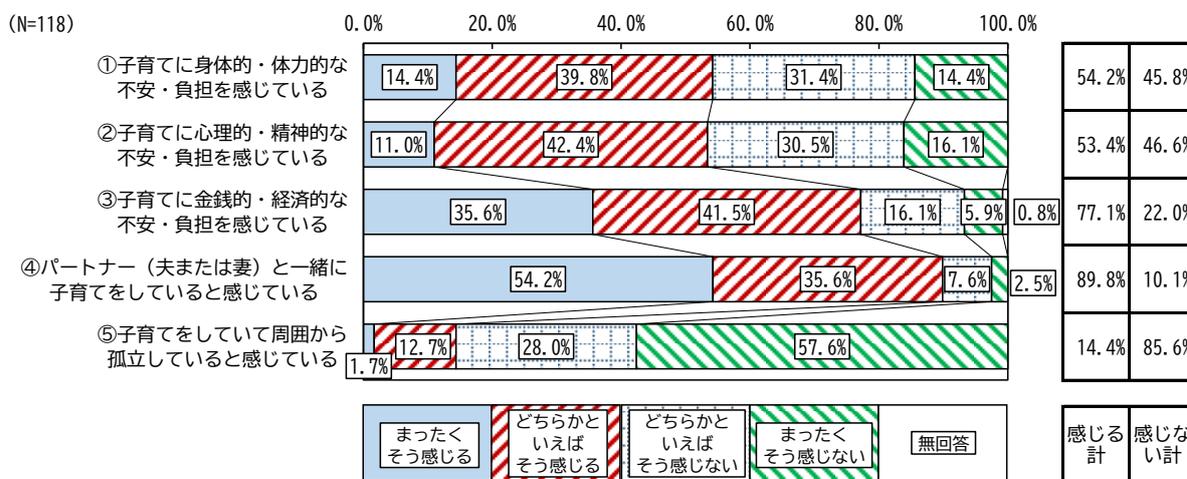
### (1) 子育てに対する不安感・負担感

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。それ以外の方は問 12 へお進みください。

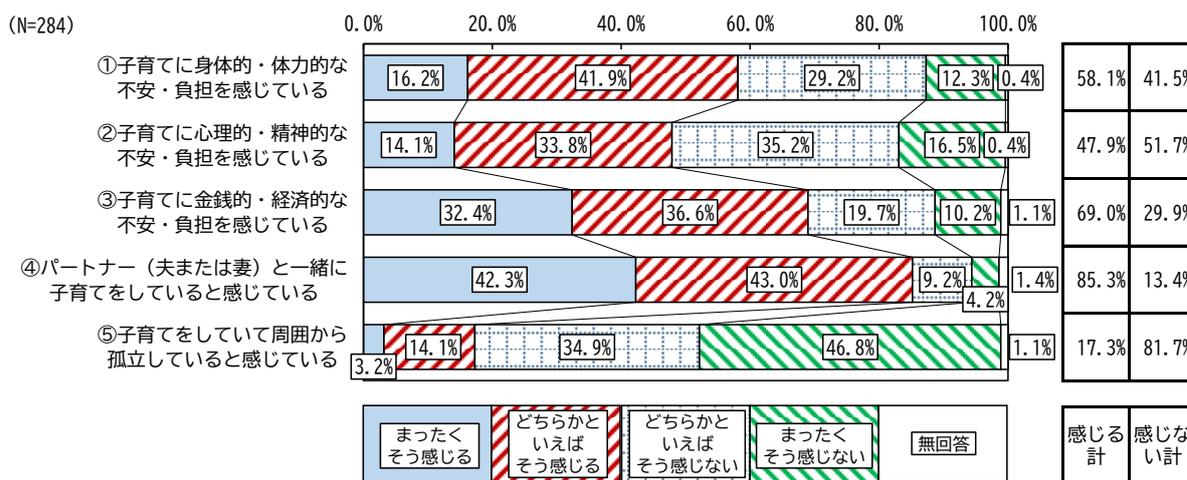
問 4 子育ての不安感や負担感などに関する以下の①～⑤の項目について、あなた自身はどのように感じていますか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

「まったくそう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計 (=感じる計) をみると、「子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている」は妻の方が 3.9 ポイント高く、「子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている」は夫の方が 8.1 ポイント高い。

図表 子育てに対する不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）・夫



図表 子育てに対する不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）・妻

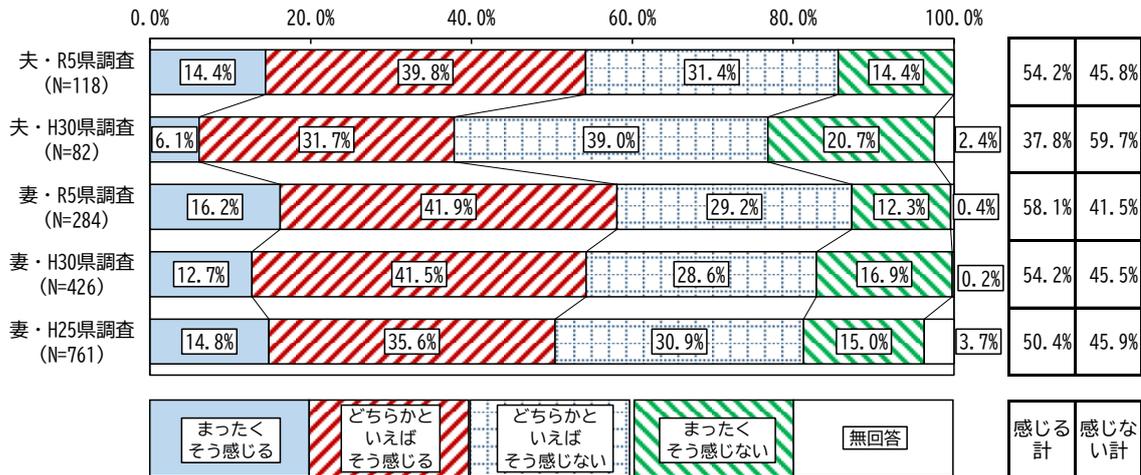


①子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている

「まったくそう感じる」の割合は、夫で 14.4%、妻で 16.2%と大きな差はみられないが、感じる計でみると、夫が 54.2%、妻が 58.1%と、妻の方が 3.9 ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、夫では「まったくそう感じる」が 8.3 ポイント、感じる計が 16.4 ポイントと、ともに上昇している。妻では、感じる計が H25 県調査から上昇傾向で、前回調査から 3.9 ポイント上昇している。

図表 身体的・体力的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



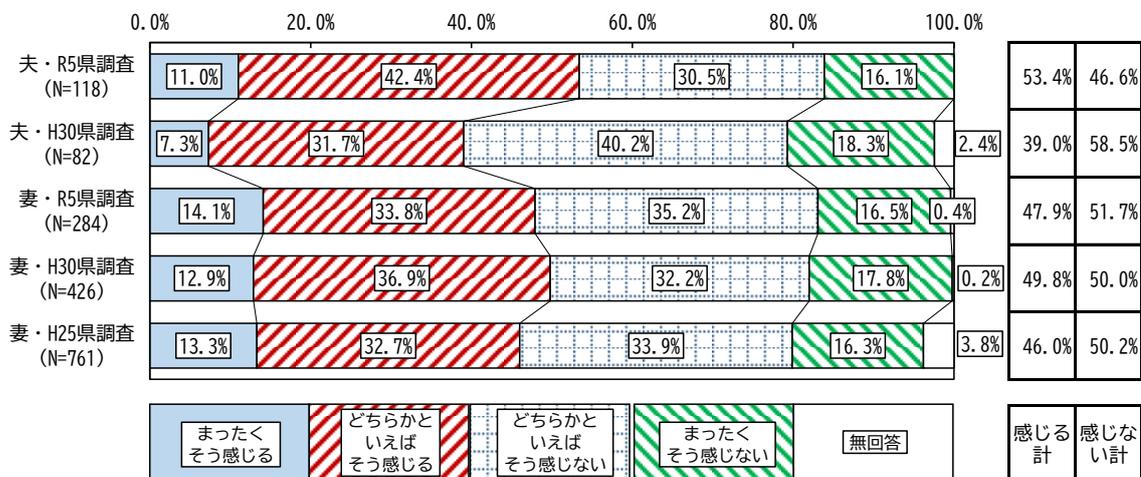
※H25 県調査は妻のみに聴取

②子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている

「まったくそう感じる」の割合は、夫で 11.0%、妻で 14.1%と妻の方が 3.1 ポイント高いが、感じる計でみると、夫が 53.4%、妻が 47.9%と、夫の方が 5.5 ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、夫では「まったくそう感じる」が 3.7 ポイント、感じる計が 14.4 ポイントと、ともに上昇している。妻では、前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 心理的・精神的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



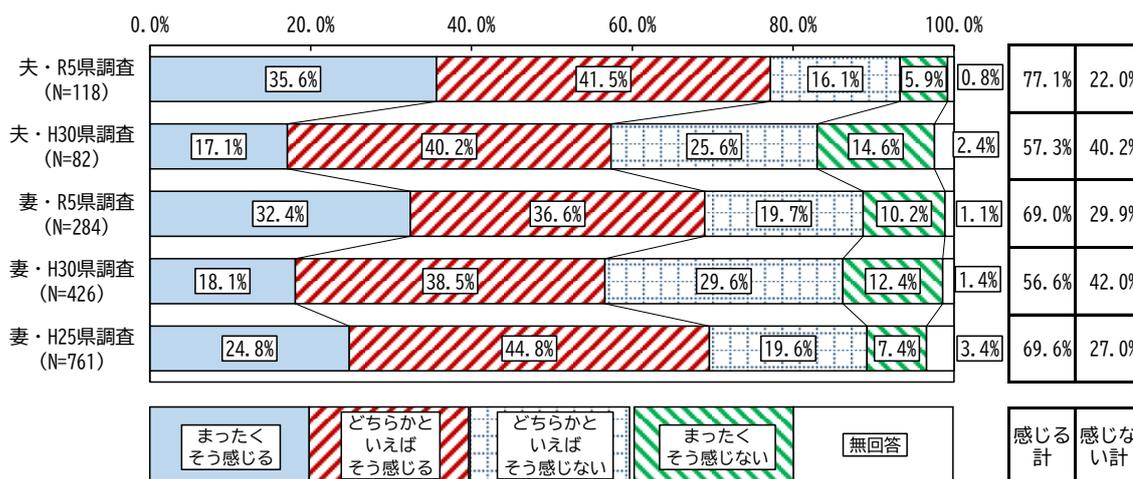
※H25 県調査は妻のみに聴取

### ③子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている

「まったくそう感じる」の割合は、夫で 35.6%、妻で 32.4%と夫の方が 3.2 ポイント高く、感じる計でみても、夫が 77.1%、妻が 69.0%と、夫の方が 8.1 ポイント高くなっており、夫の方がより子育ての金銭的・経済的な不安・負担を感じている。

前回調査に比べて、夫では「まったくそう感じる」が 18.5 ポイント、感じる計が 19.8 ポイントと、ともに大きく上昇している。妻でも、「まったくそう感じる」が 14.3 ポイント、感じる計が 12.4 ポイントと、ともに大きく上昇している。

図表 金銭的・経済的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



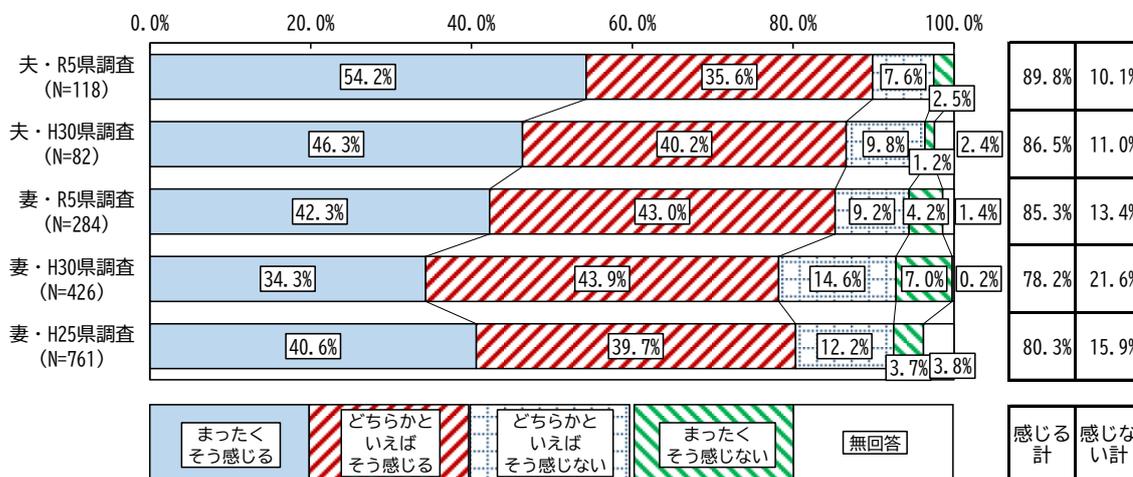
※H25 県調査は妻のみに聴取

### ④パートナー（夫または妻）と一緒に子育てをしていると感じている

「まったくそう感じる」の割合は、夫で 54.2%、妻で 42.3%と夫の方が 11.9 ポイント高く、感じる計でみても、夫が 89.8%、妻が 85.3%と、夫の方が 4.5 ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、夫では「まったくそう感じる」が 7.9 ポイント、感じる計が 3.3 ポイントと、ともに上昇している。妻でも、「まったくそう感じる」が 8.0 ポイント、感じる計が 7.1 ポイントと、ともに上昇している。

図表 パートナーとの子育て一体感（6歳未満の子どもがいる家庭）



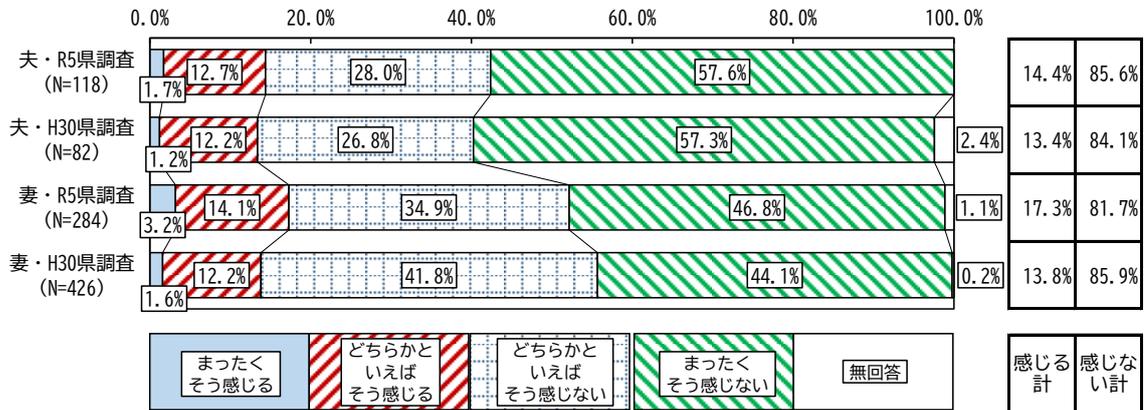
※H25 県調査は妻のみに聴取

⑤子育てをしていて周囲から孤立していると感じている

「まったくそう感じる」の割合は、夫で1.7%、妻で3.2%、感じる計の割合は、夫が14.4%、妻が17.3%と、ともに大きな差はみられない。

前回調査に比べて、夫では「まったくそう感じる」、感じる計ともあまり変化がないが、妻では、感じる計が3.5ポイント上昇している。

図表 周囲からの孤立感（6歳未満の子どもがいる家庭）



※H30 県調査からの新規質問項目

## (2) 各時期の子育てに対する不安感・負担感

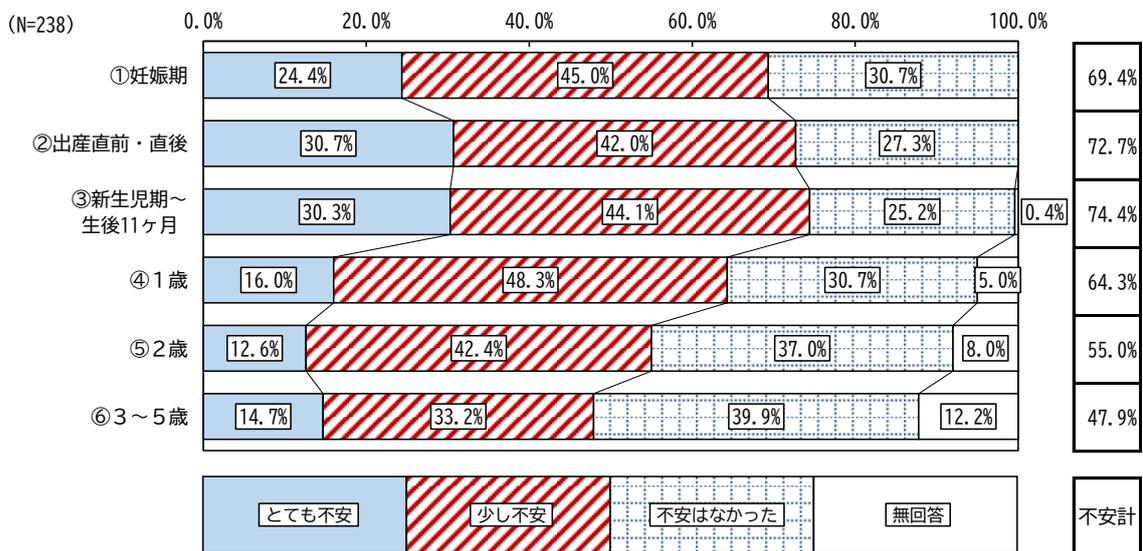
お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問5 以下の①～⑥の各時期において、子育てに対する不安感・負担感がどれくらいありましたか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。回答者が夫の場合、ご自身が感じたことに基づいて回答してください。また、お子さんが複数いる場合は最初のお子さんについて回答してください。

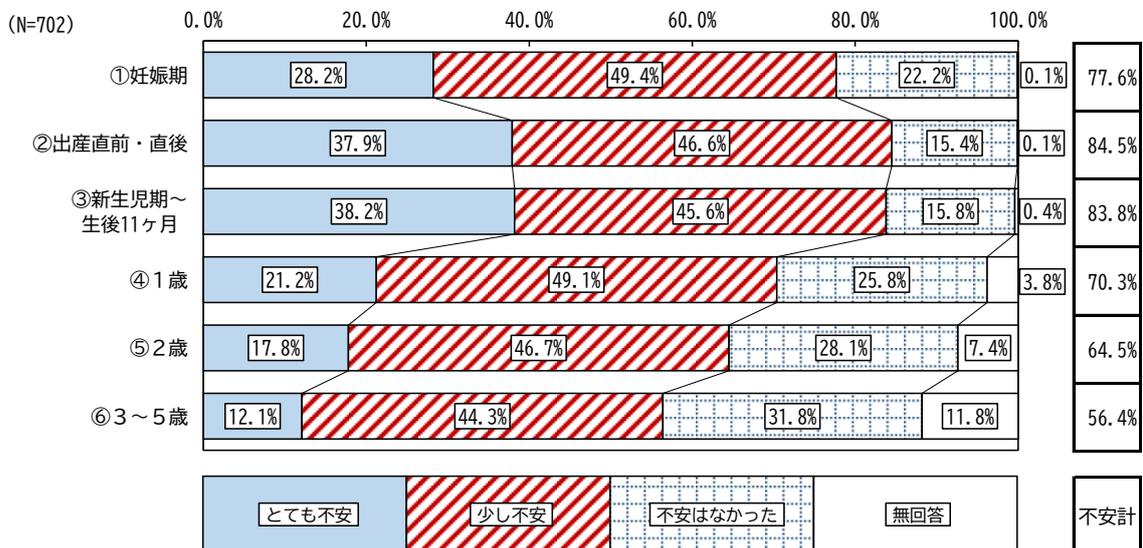
「とても不安」と「少し不安」の割合を合計(=不安計)すると、夫では「新生児期～生後11ヶ月」が74.4%で最も多く、次いで、「出産直前・直後」が72.7%となっている。妻では「出産直前・直後」が84.5%で最も多く、次いで、「新生児期～生後11ヶ月」が83.8%となっている。いずれも、子どもの年齢が大きくなるほど、不安計は低下していく。

夫と妻を比べると、不安計の割合は、どの時期でも妻の方が高く、「出産直前・直後」で11.8ポイント、「2歳」で9.5ポイントの差がみられた。

図表 各時期の子育てに対する不安感・負担感・夫



図表 各時期の子育てに対する不安感・負担感・妻



(3) 不安だった時期に助けてくれた人、助けてほしかった人

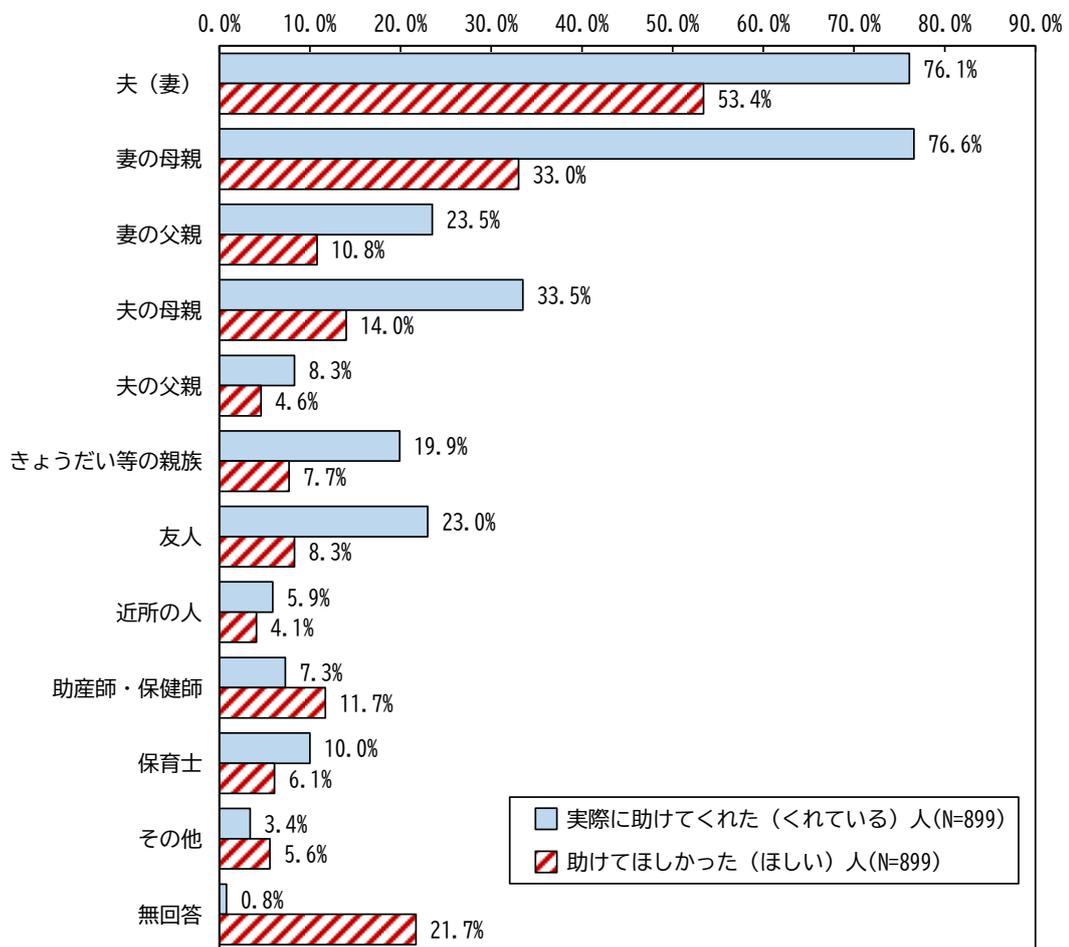
問5で①～⑥の各時期のいずれかに「1. とても不安」または「2. 少し不安」と回答した方にうかがいます。

問6 不安だった時期に、①実際に助けてくれた（くれている）人、②助けてほしかった（ほしい）人は誰ですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

不安だった時期に助けてくれた人は、「妻の母親」が76.6%で最も多く、次いで、「夫（妻）」が76.1%、「夫の母親」が33.5%となっている。

助けてほしかった（ほしい）人は、「夫（妻）」が53.4%で最も多く、次いで、「妻の母親」が33.0%となっている。

図表 不安だった時期に助けてくれた人、助けてほしかった人



#### (4) 子育てに関する相談相手

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

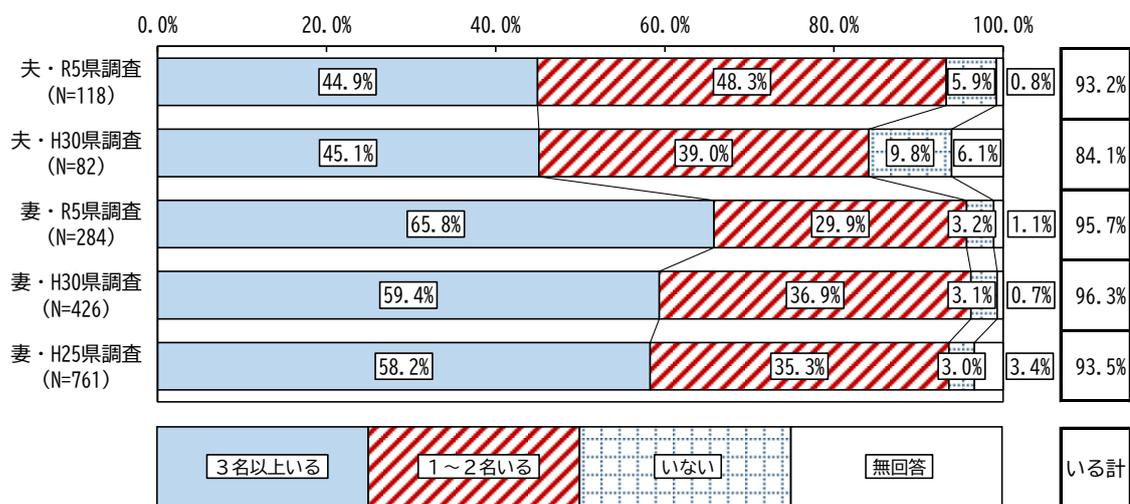
##### ①子育てに関する相談相手の有無・人数

問7 あなたは、子育てについて、気軽に相談できる人がいますか。

子育てに関する相談相手は、妻では「3名以上いる」が65.8%で最も多く、夫の44.9%と比べて20.9ポイント高い。「3名以上いる」と「1～2名いる」の割合の合計（=いる計）をみると、夫で93.2%、妻で95.7%と、いずれも9割超となっている。

前回調査に比べて、「3名以上いる」は、妻で6.4ポイント上昇。いる計については、夫が9.1ポイント上昇している。

図表 子育てに関する相談相手の有無・人数（6歳未満の子どもがいる家庭）



※H30 県調査は小学生未満のお子さんをお持ちの方に聴取

※H25 県調査は妻のみに聴取

## ②子育てに関する相談相手

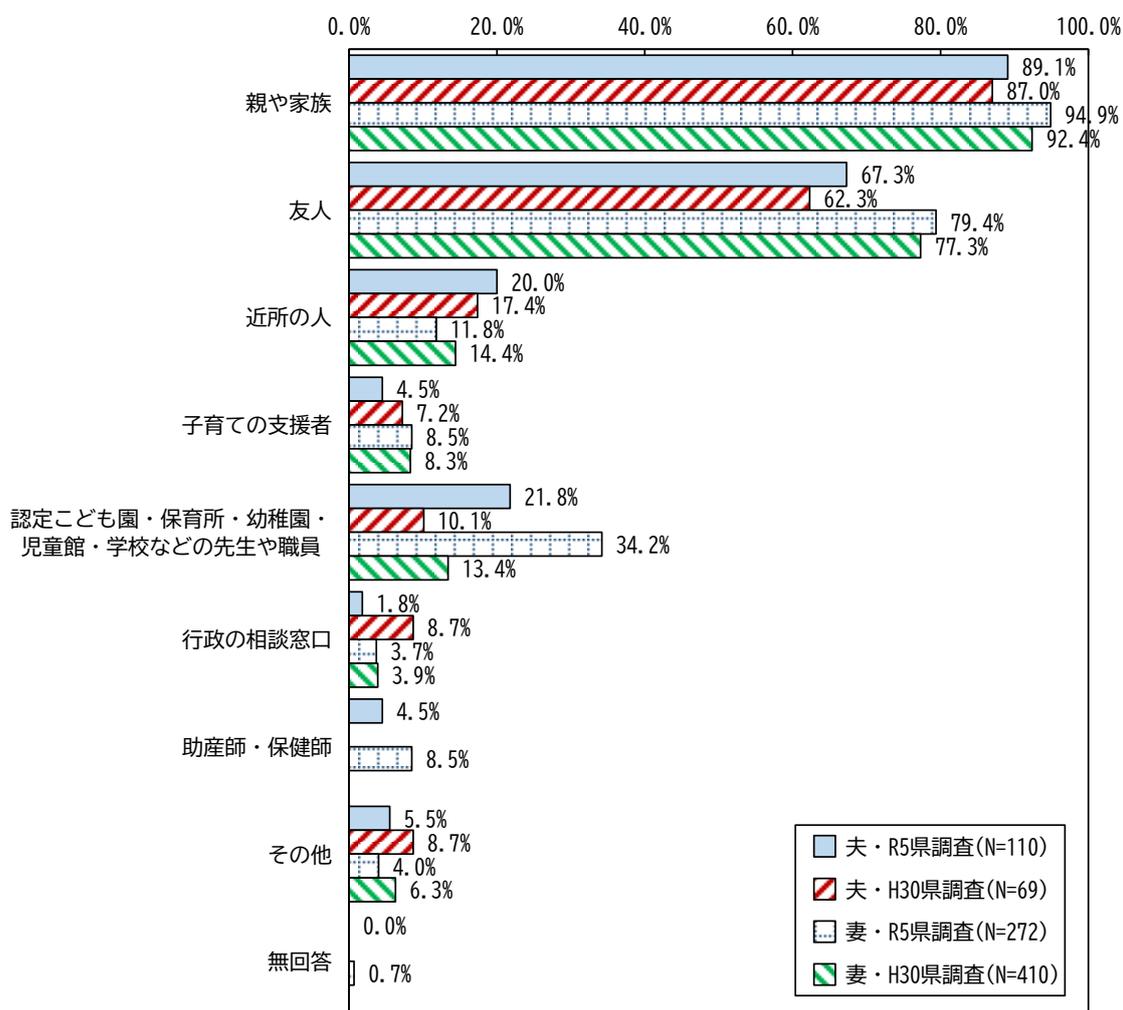
問7-1 問7で「1.」または「2.」と回答した方にうかがいます。気軽に相談できる人は誰ですか。

子育てに関する相談相手を見ると、「親や家族」が夫で 89.1%、妻で 94.9%と最も多く、次いで、「友人」が夫で 67.3%、妻で 79.4%、「認定子ども園・保育所・幼稚園・児童館・学校などの先生や職員」が夫で 21.8%、妻で 34.2%となっている。

「近所の人」以外では、夫より妻の方が高く、「認定子ども園・保育所・幼稚園・児童館・学校などの先生や職員」で 12.4 ポイント、「友人」で 12.1 ポイントの差がみられた。

前回調査に比べて、「認定子ども園・保育所・幼稚園・児童館・学校などの先生や職員」が、夫で 11.7 ポイント、妻で 20.8 ポイント上昇しているが、前回調査は「学校や教員」で聴取していた点に留意が必要である。

図表 子育てに関する相談相手（6歳未満の子どもがいる家庭）



※H30 県調査は小学生未満のお子さんをお持ちの方に聴取。また、無回答の掲載なし

※H30 県調査では「認定子ども園・保育所・幼稚園・児童館・学校などの先生や職員」は「学校や教員」であった

※「助産師・保健師」は今回調査からの新規項目。

## (5) 子育て支援情報・制度の認知経路

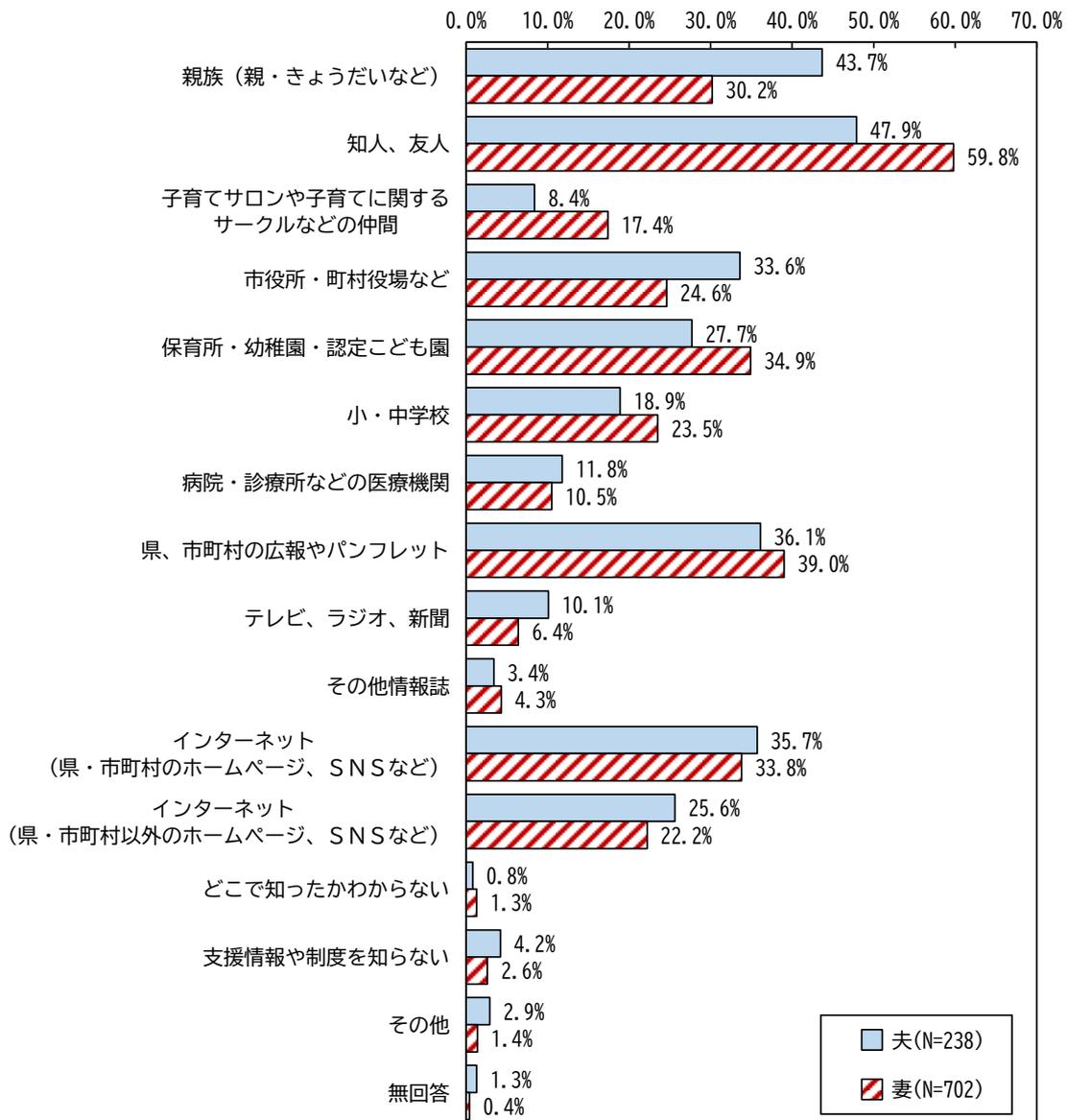
お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問8 あなたは、子育てについての支援情報や制度を誰から、どこから知り得ていますか（知り得ましたか）。あてはまるものすべてに○をつけてください。

子育て支援情報や制度の認知経路をみると、夫では「知人、友人」が47.9%で最も多く、次いで、「親族（親・きょうだいなど）」が43.7%、「県、市町村の広報やパンフレット」が36.1%となっている。妻では、「知人、友人」が59.8%で最も多く、「県、市町村の広報やパンフレット」が39.0%、「保育所・幼稚園・認定子ども園」が34.9%となっている。

夫と妻を比べると、夫は「親族（親・きょうだいなど）」が13.5ポイント、「市役所・町村役場など」が9ポイント妻より高く、妻は「知人、友人」が11.9ポイント、「子育てサロンや子育てに関するサークルなどの仲間」が9ポイント、「保育所・幼稚園・認定子ども園」が7.2ポイント夫より高くなっている。

図表 子育て支援情報・制度の認知経路



※新規質問項目

## (6) 子育てに関する不安や悩み

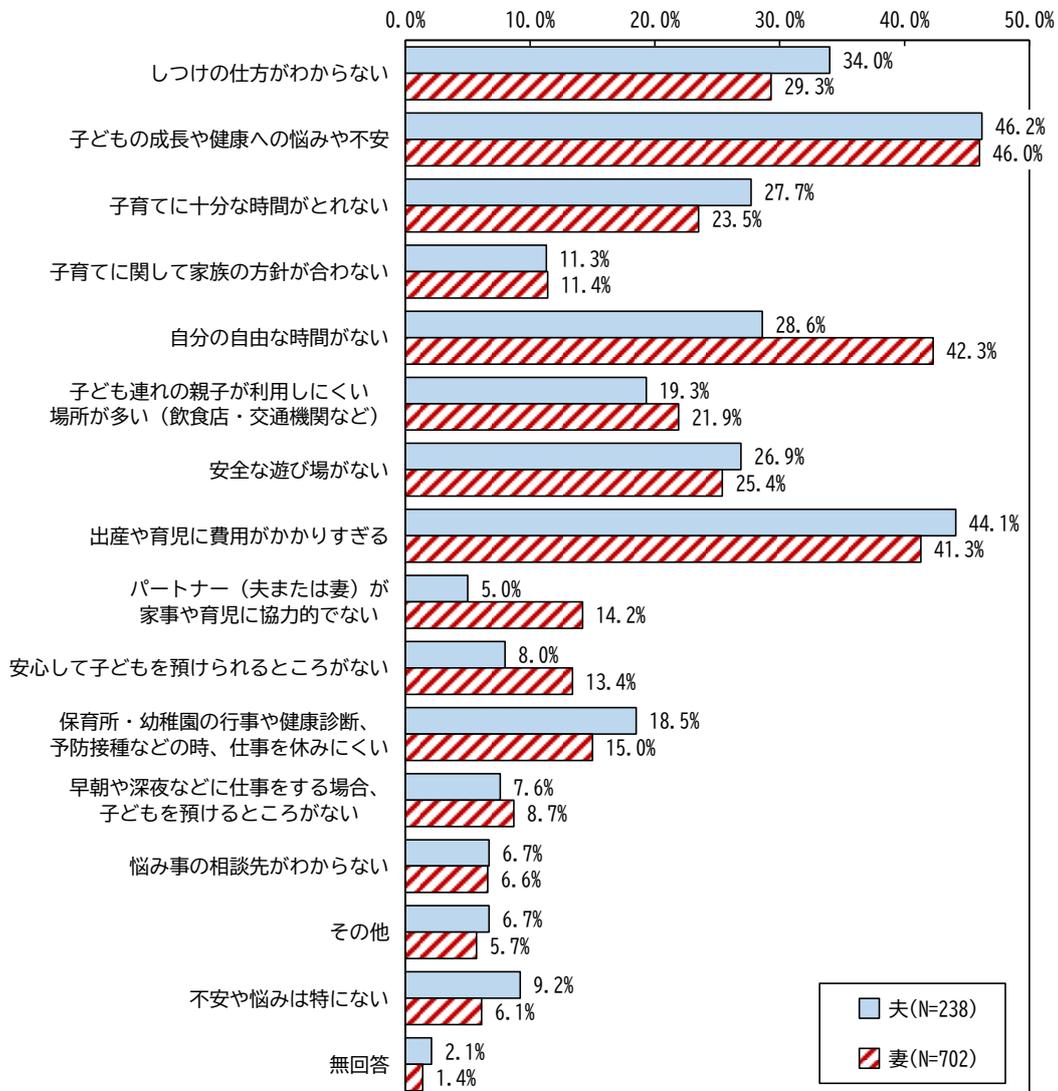
お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問9 以下のような不安や悩みがありましたか（現在ありますか）。あてはまるものすべてに○をつけてください。

子育ての不安や悩みをみると、夫では、「子どもの成長や健康への悩みや不安」が46.2%で最も多く、「出産や育児に費用がかかりすぎる」が44.1%、「しつけの仕方がわからない」が34.0%で続いている。妻では、「子どもの成長や健康への悩みや不安」が46.0%で最も多く、「自分の自由な時間がない」が42.3%、「出産や育児に費用がかかりすぎる」が41.3%となっている。

夫と妻を比べると、夫は「しつけの仕方がわからない」が4.7ポイント妻より高く、妻は「自分の自由な時間がない」が13.7ポイント、「パートナー（夫または妻）が家事や育児に協力的でない」が9.2ポイント夫より高くなっている。

図表 子育てに関する不安や悩み



## 5 男性の育児や家事への関わり

### (1) 育児・家事を積極的にする男性だと思うか

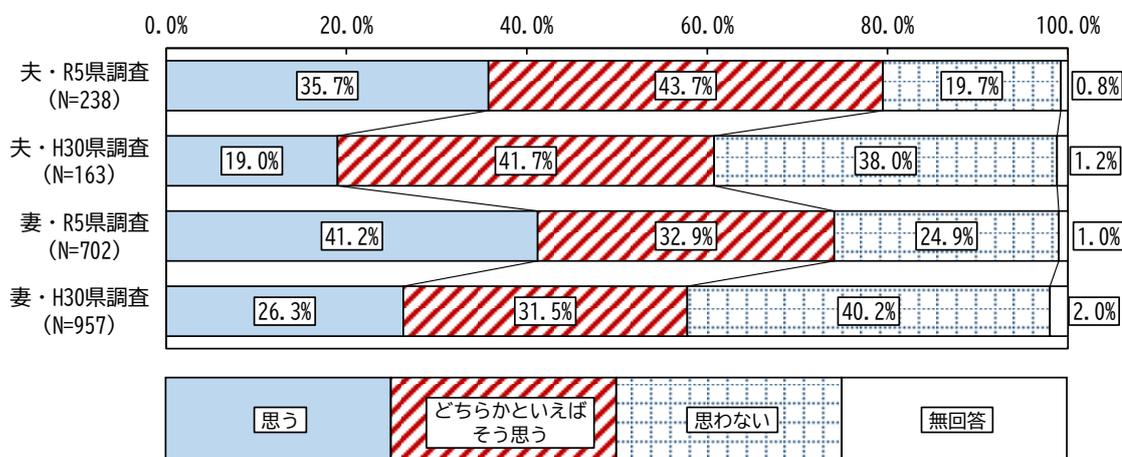
お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問10 あなた（あなたの夫は）は育児や家事を積極的にする男性だと思いますか。

夫が育児や家事を積極的にする男性だと思う妻は、「思う」が41.2%、「どちらかといえばそう思う」が32.9%で、合計74.1%となっている。夫が自分自身を育児や家事を積極的にする男性だと思うかどうかは、「思う」が35.7%、「どちらかといえばそう思う」が43.7%で、合計79.4%となっており、妻よりも5.3ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合は、夫・妻とも10ポイント以上上昇している。

図表 育児・家事を積極的にする男性だと思うか



※H30 県調査では質問文が『あなた（あなたの夫）はイクメン（育児を積極的にする男性）だと思いますか』である点に留意が必要である

## (2) 夫の子育ての関わり方

### ①夫の育児・家事の関わり方

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

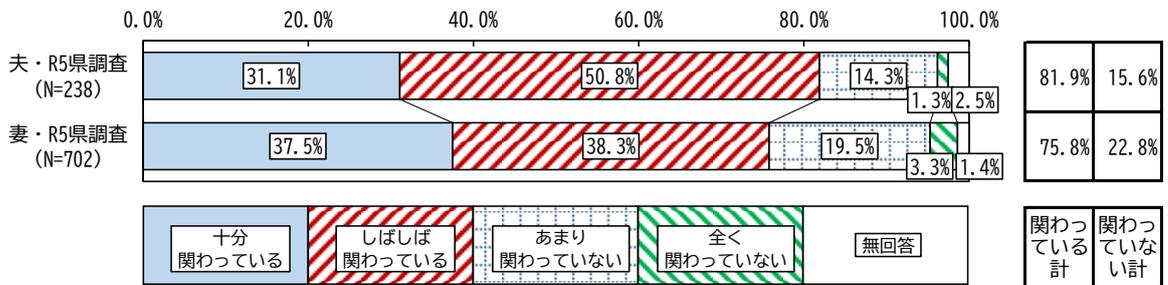
問 10-1 妻のみに伺います。回答者が夫の場合は回答不要です。あなたの夫の育児や家事の関わり方のイメージに近いのはどれですか。

お子さんをお持ちの夫にうかがいます。

問 10-3 夫のみにうかがいます。回答者が妻の場合は、回答不要です。あなたの育児や家事の関わり方のイメージに近いのはどれですか。

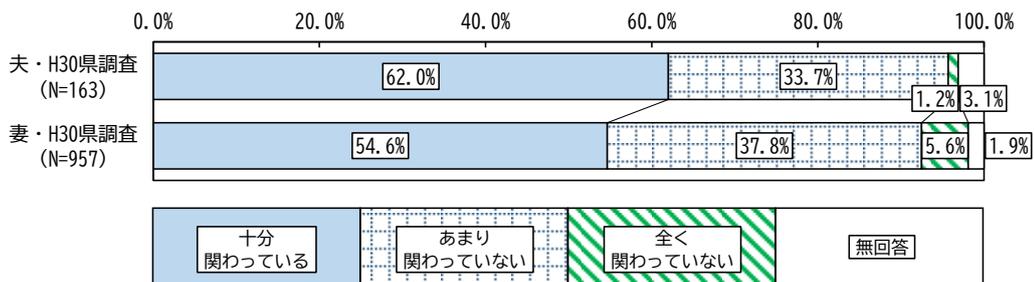
夫の子育ての関わり方をみると、「十分関わっている」の割合は夫の自認で31.1%、妻の評価で37.5%と、妻の方が6.4ポイント高くなっているが、「しばしば関わっている」を合計した関わっている計の割合でみると、夫の自認で81.9%、妻の評価で75.8%と、夫の方が6.1ポイント高くなっている。

図表 夫の育児・家事の関わり方



※「しばしば関わっている」は今回調査からの新規項目

図表 夫の育児・家事の関わり方 (H30 県調査)



②夫が育児・家事に関わらない理由

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問 10-2 問 10-1 で「3. あまり関わっていない」「4. 全く関わっていない」を選んだ方にうかがいます。育児や家事に関わっていないと思う理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

お子さんをお持ちの夫にうかがいます。

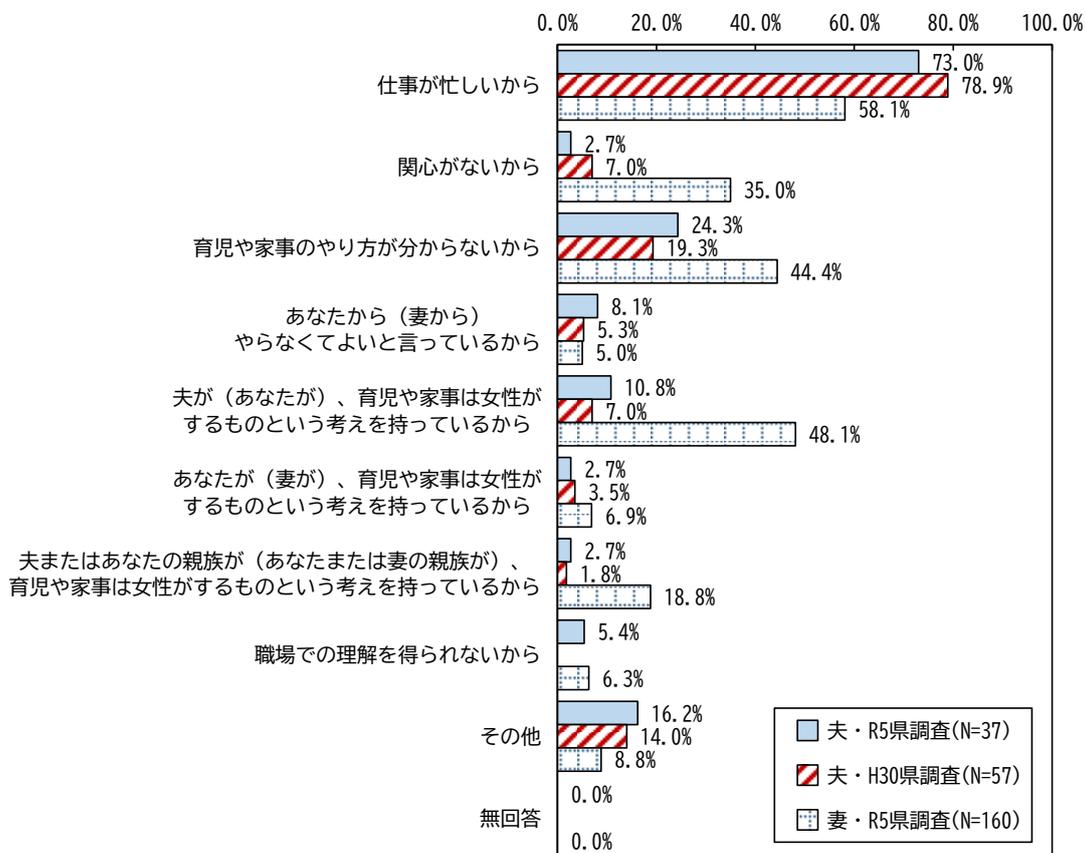
問 10-4 問 10-3 で「3. あまり関わっていない」「4. 全く関わっていない」を選んだ方にうかがいます。育児や家事に関わらない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

育児・家事に関わらない夫側の理由をみると、「仕事が忙しいから」が73.0%で最も多く、次いで、「育児や家事のやり方が分からないから」が24.3%となっている。一方、妻側が考える理由は、「仕事が忙しいから」が58.1%で最も多く、次いで、「夫が（あなたが）、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから」が48.1%、「育児や家事のやり方が分からないから」が44.4%となっている。

夫と妻を比べると、夫は「仕事が忙しいから」が14.9ポイント妻より高く、妻は「夫が（あなたが）、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから」が37.3ポイント、「関心がないから」が32.3ポイント、「夫またはあなたの親族が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから」が16.1ポイント夫より高く、大きな差がみられた。

前回調査に比べて、夫の「仕事が忙しいから」が5.9ポイント低下している。

図表 夫が育児・家事に関わらない理由



※（ ）内は夫側の理由

※H30 県調査では夫のみに聴取。また、無回答の掲載なし

※「職場の理解を得られないから」は今回調査からの新規項目

## 6 子どもを持つことへの考え

### (1) 子育てについての考え

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

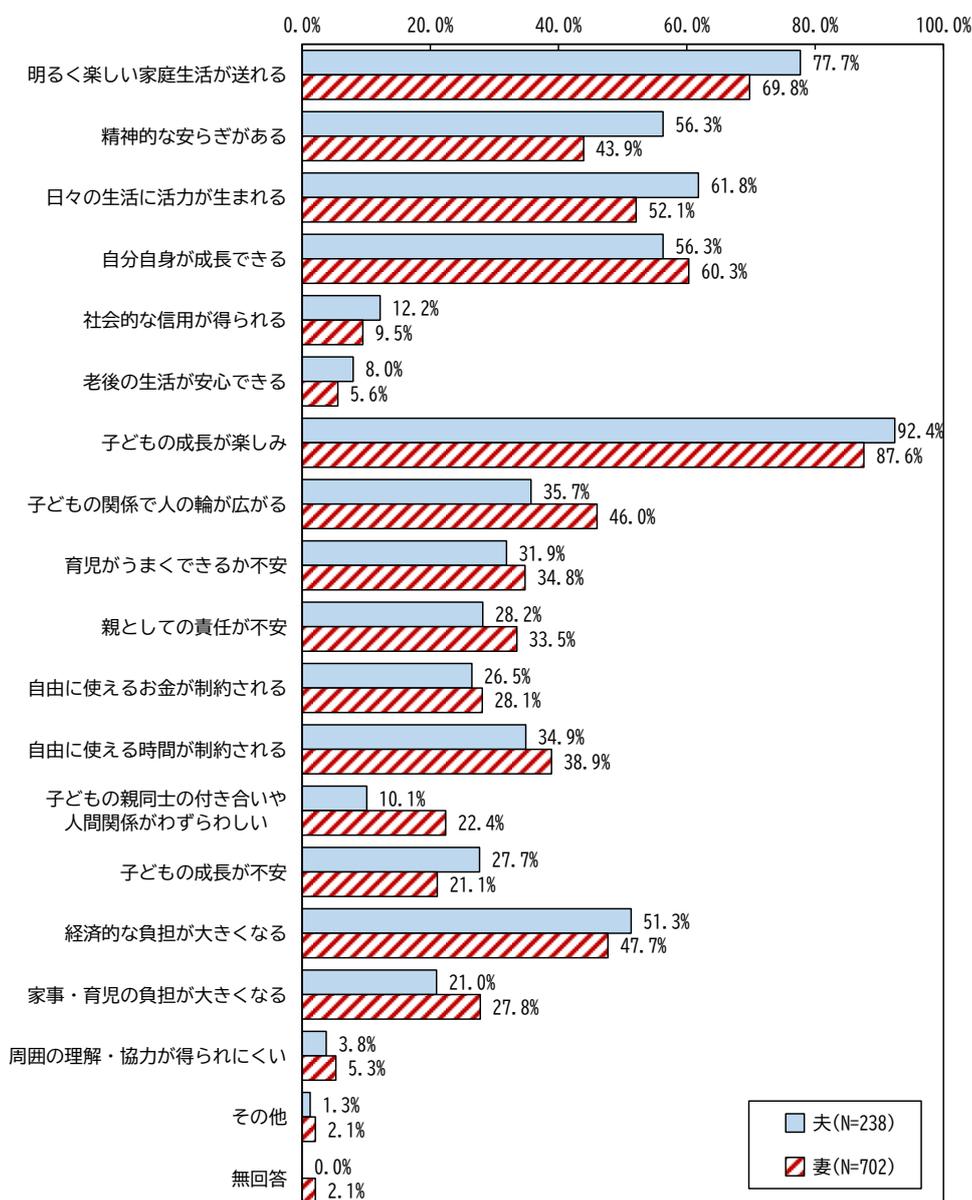
問11 あなたは、ご自身の子育てについてどのようにお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものに◎をつけてください。

子育てについての考えをみると、「子どもの成長が楽しみ」が夫で92.4%、妻で87.6%と最も多く、次いで、「明るく楽しい家庭生活が送れる」が夫で77.7%、妻で69.8%となっている。以下、夫では「日々の生活に活力が生まれる」が61.8%、妻では「自分自身が成長できる」が60.3%となっている。

夫と妻を比べると、夫は「精神的な安らぎがある」が12.4ポイント妻より高く、妻は「子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい」が12.3ポイント、「子どもの関係で人の輪が広がる」が10.3ポイント夫より高い。

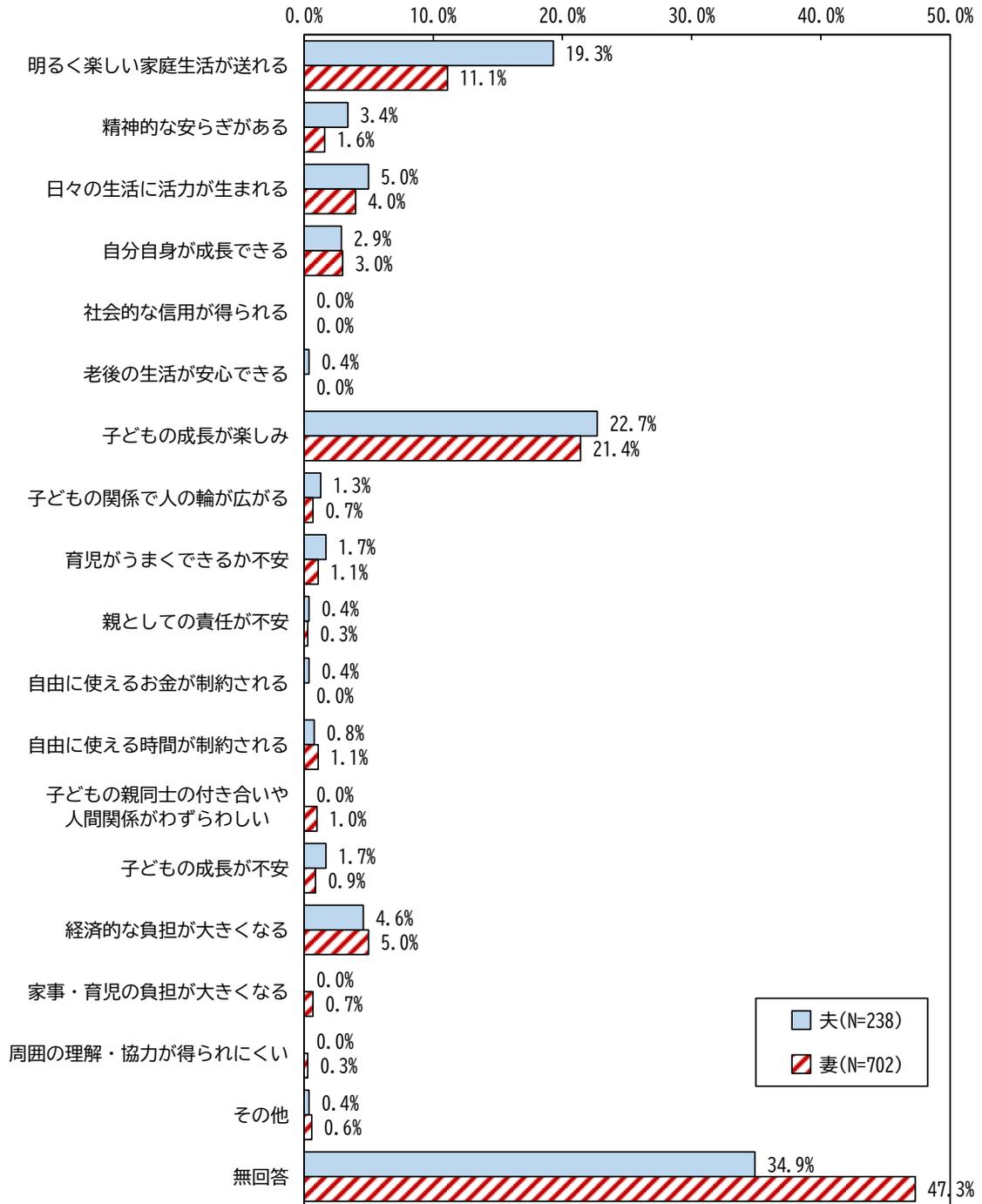
最もあてはまるものについては、夫、妻ともに「子どもの成長が楽しみ」が22.7%、21.4%で最も多くなっている。妻は、「無回答」が半数近くを占める点に留意が必要である。

図表 子育てについての考え（複数回答）



※新規質問項目

図表 子育てについての考え（最もあてはまるもの）



※新規質問項目

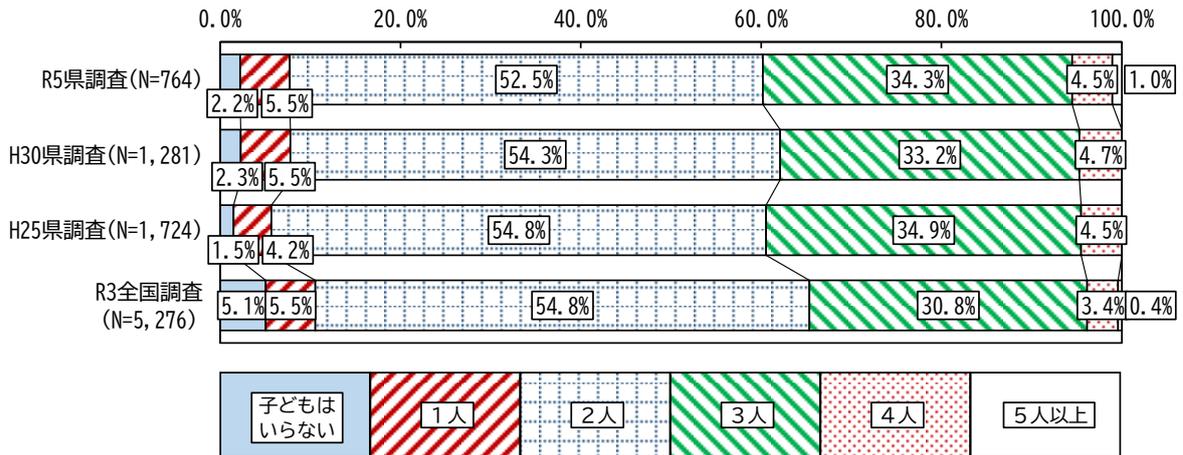
## (2) 理想の子どもの人数

問12 あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの数は何人ですか。

理想の子どもの人数をみると、「2人」が52.5%で最も多く、次いで、「3人」が34.3%となっている。前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

理想の子どもの人数の平均は2.33人だが、予定している子どもの数の平均（問13）は2.10人で、その差は0.23人となっている。前回調査の差（0.32人）と比べると、やや差は縮まっている。

図表 理想の子どもの人数

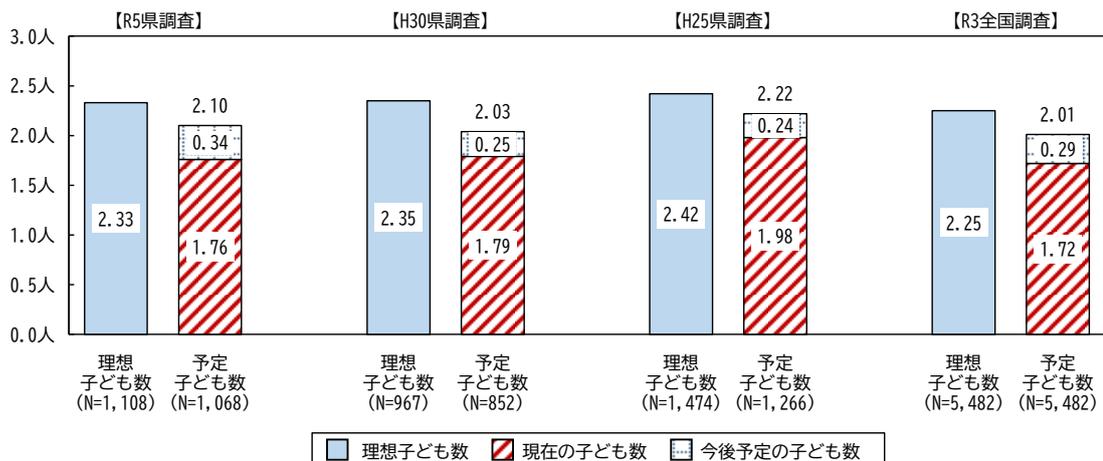


※無回答および不詳を除く

※R5 県調査、H30 県調査、R3 全国調査は初婚同士の夫婦、H25 は初婚同士の夫婦の妻

※H30 県調査、H25 県調査では「4人以上」で聴取している

図表 理想・予定・現在の子どもの平均人数



### (3) 理想的な子どもの人数の理由

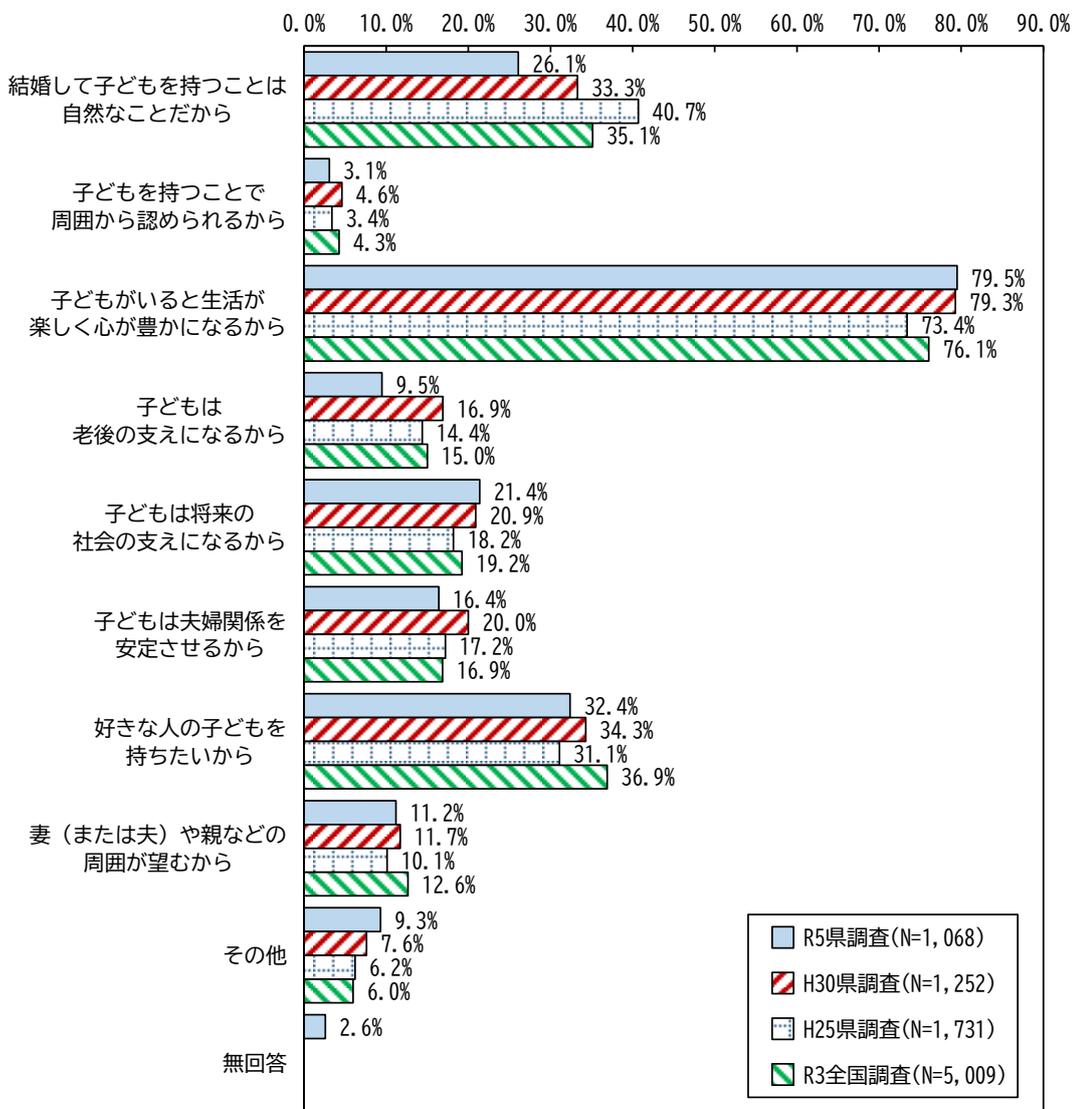
問 12-1 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由に◎をつけてください。

理想的な子どもの人数を1人以上と考える理由をみると、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が79.5%で最も多く、「好きな人の子どもを持ちたいから」が32.4%、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」が26.1%となっている。

過去の調査と比べると、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は低下傾向がみられ、前々回調査より14.6ポイント低下している。また、「子どもは老後の支えになるから」も前回調査から7.4ポイント低下している。

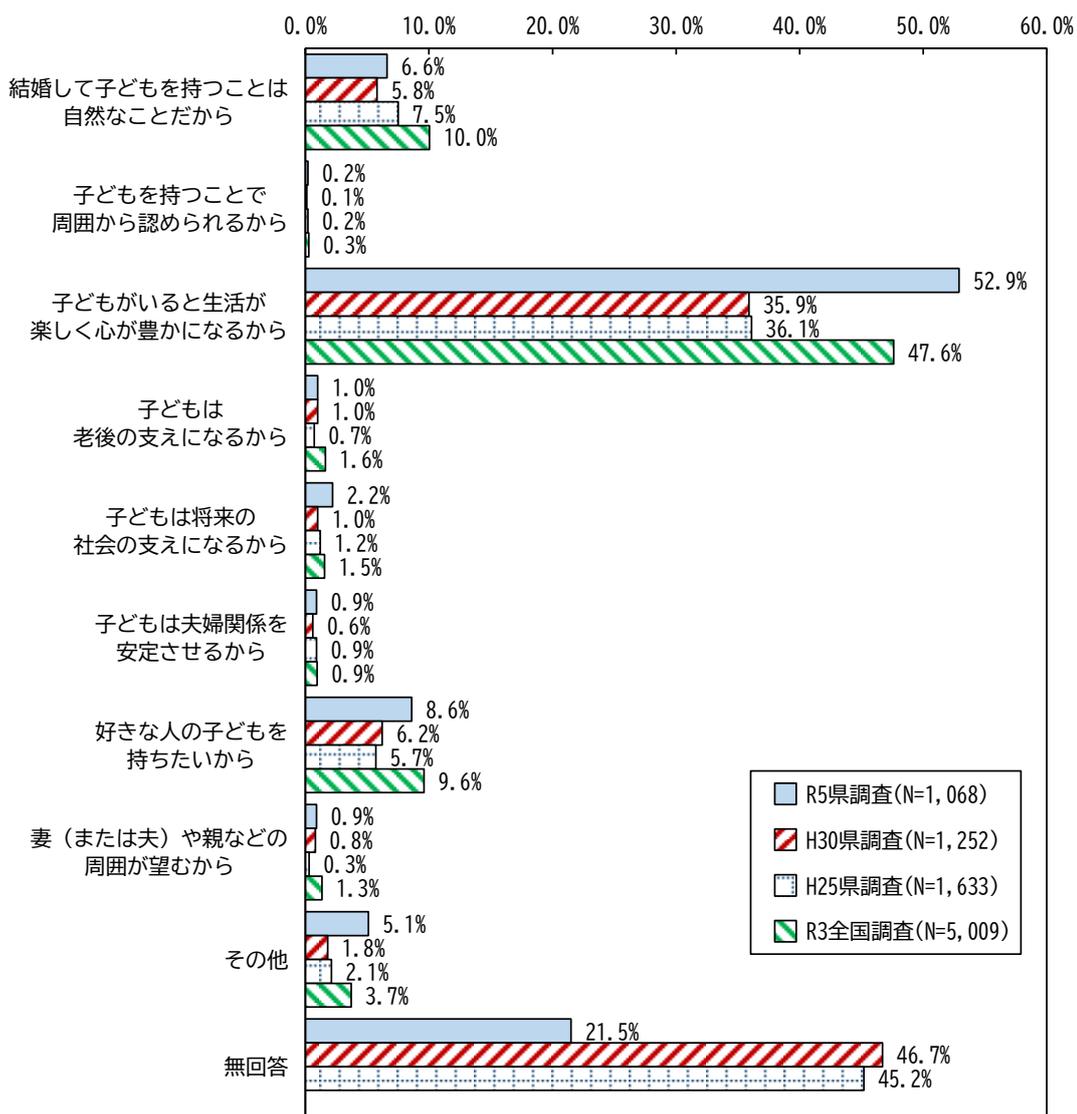
また、最大の理由をみると、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が52.9%と半数以上を占めており、前回、前々回調査と比べても15ポイント以上上昇しているが、前回、前々回調査では「無回答」の割合が高い点に留意が必要である。

図表 理想的な子どもの人数の理由（複数回答）



※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では無回答の掲載なし

図表 理想的な子どもの人数の理由（最大の理由）



※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では無回答の掲載なし

#### (4) 今後の子どもの予定

問12で理想的な子どもの数を1人以上と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問16へお進みください。

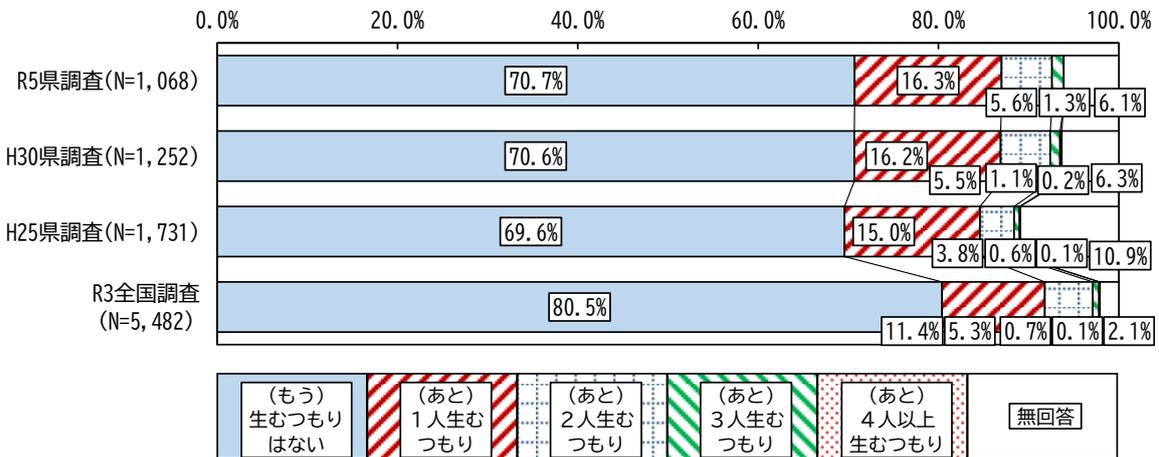
問13 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。①今後のお子さんの予定数と②希望の時期について、また、③今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つつもりかを、あてはまる番号に○をつけてください。

今後の子どもの予定数を見ると、「(もう) 生むつもりはない」が70.7%と約7割を占めており、前回、前々回調査と比べても大きな変化はみられない。

子どもを生む予定のある方の希望の時期をみると、「できるだけ早く」が44.8%で最も多いが、前回調査よりは7.1ポイント低下しており、「現在妊娠中」が4.5ポイント上昇している。

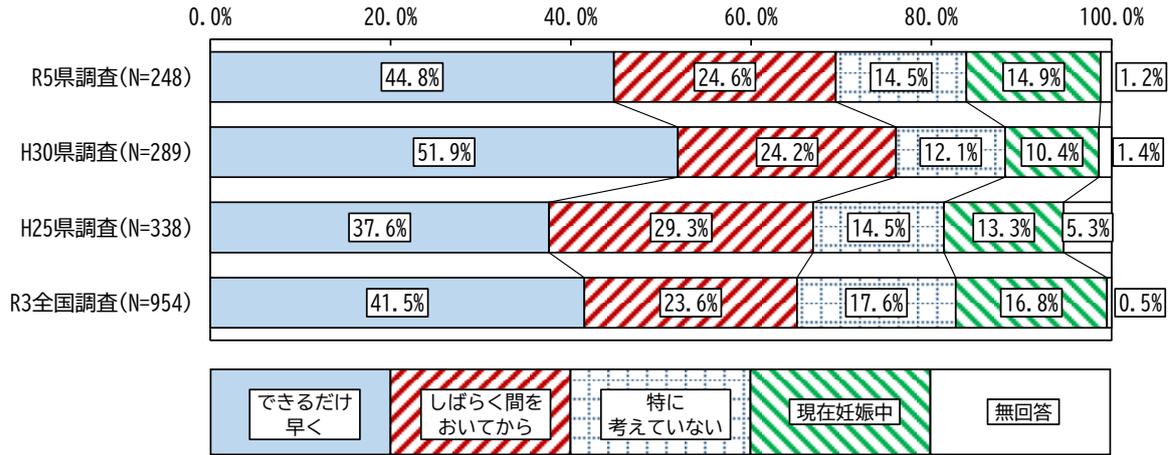
最終的な子どもの人数は、「2人」が54.7%で最も多い。前回調査と比べて、「子どもはிரらない」がやや低くなっているが、その他では大きな変化はみられない。

図表 今後の子どもの予定数

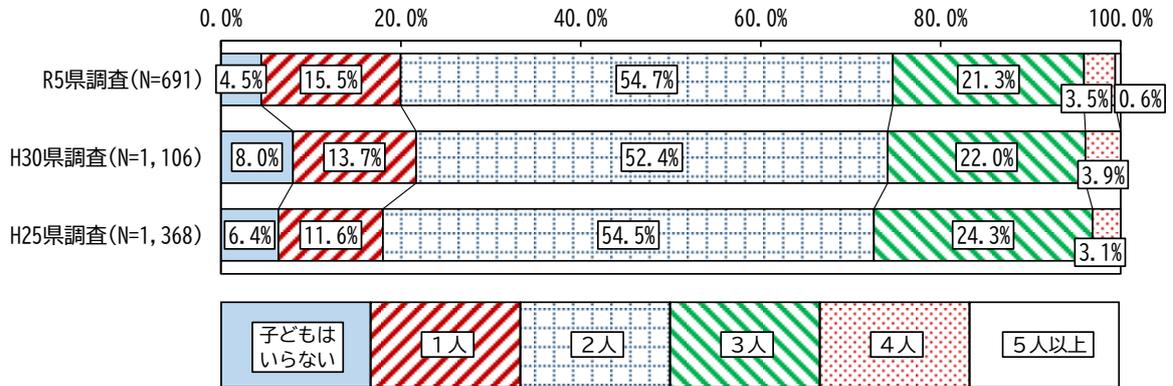


※無回答および不詳を除く

図表 希望の時期



図表 最終的な子どもの人数



※R5 県調査、H30 県調査は初婚同士の夫婦、H25 県調査は初婚同士の夫婦の妻、R3 全国調査については全体値  
 ※H30 県調査、H25 県調査では「4人以上」で聴取している

(5) 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由

問12と問13で「持つつもりの子どもの数 (b)」が「理想とする子どもの数 (a)」より少ない方にかがいます。それ以外の方は、問17へお進みください。

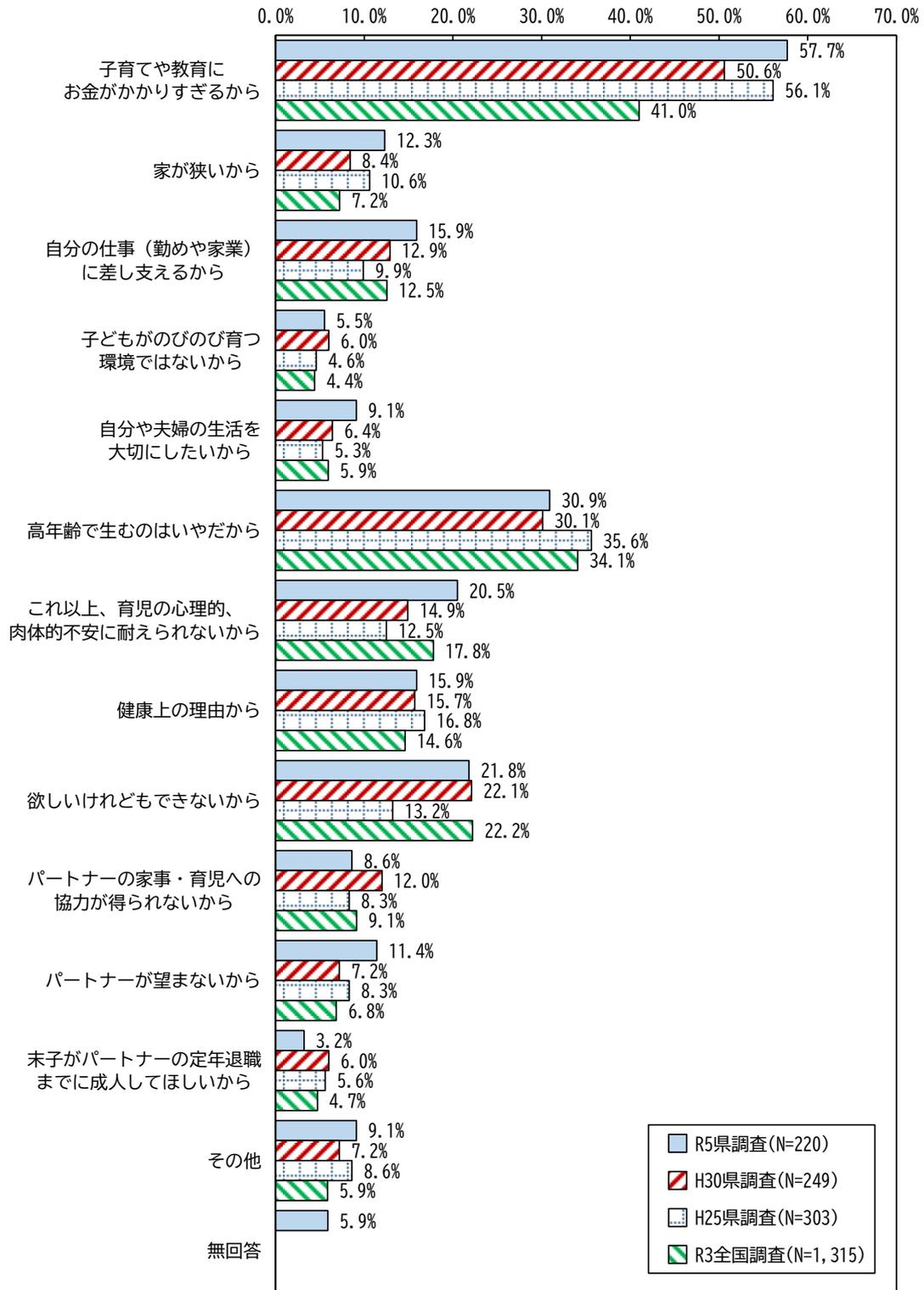
問14 持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由について、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由に◎をつけてください。

予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由をみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が57.7%で最も多く、次いで、「高年齢で生むのはいやだから」が30.9%、「欲しいけれどもできないから」が21.8%となっている。

前回調査に比べて、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多い点は同様だが、ポイントは7.1ポイント上昇している。また、「これ以上、育児の心理的、肉体的不安に耐えられないから」は前々回調査から上昇傾向がみられる。

最大の理由をみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が38.2%で最も多く、複数回答同様、最も多い点は前回調査同様だが、ポイントは5.1ポイント上昇している。「欲しいけれどもできないから」が19.7%で続いている。

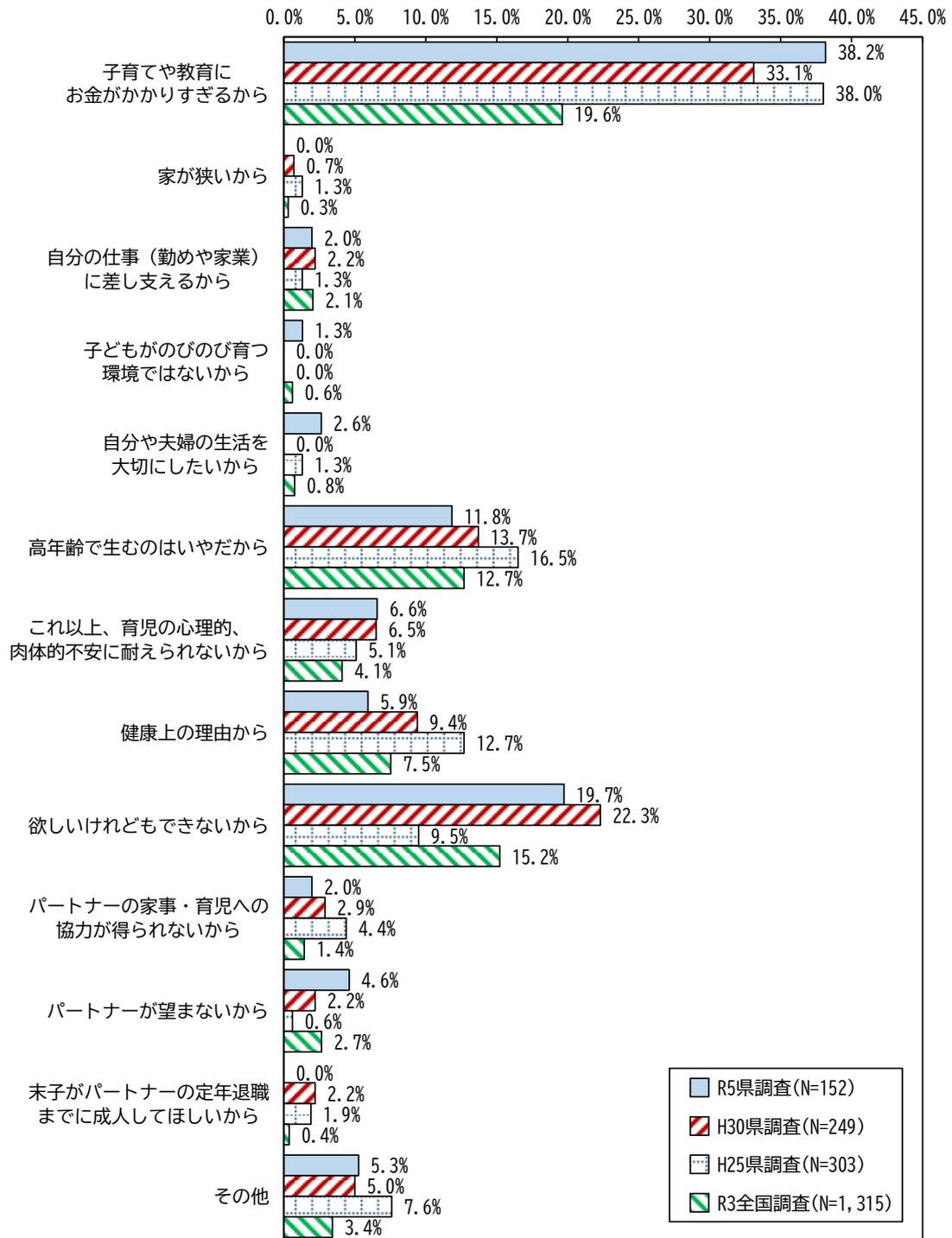
図表 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由（複数回答）（初婚同士）



※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では「パートナー」ではなく「夫」であった

※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では無回答の掲載なし

図表 実際に持つ子どもの人数が理想の人数より少ない理由（最大の理由）（初婚同士）



※無回答を除く

※H30 県調査、H25 県調査、R3 全国調査では「パートナー」ではなく「夫」であった

(6) 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因

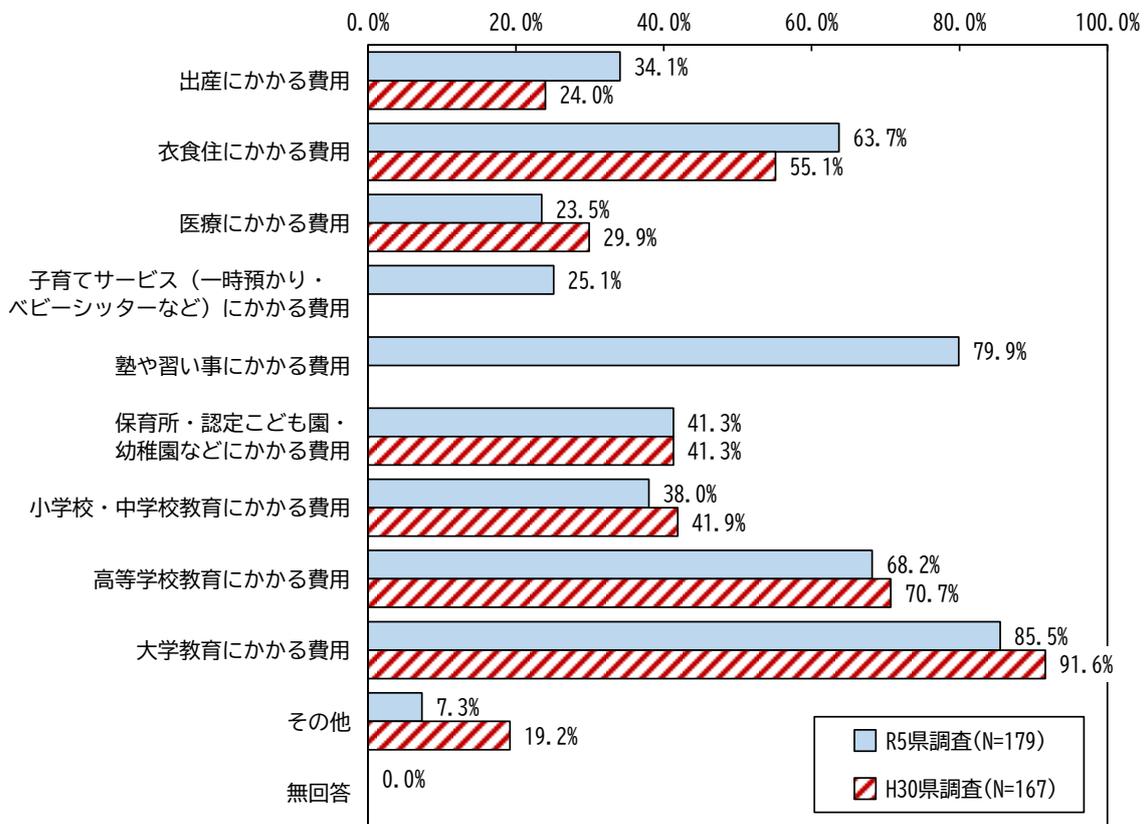
問14で「1.子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答した方にかかっています。それ以外の方は、問17へお進みください。

問15 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因について、下の理由のうちあてはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因をみると、「大学教育にかかる費用」が85.5%で最も多く、次いで、「塾や習い事にかかる費用」が79.9%、「高等学校教育にかかる費用」が68.2%となっている。

前回調査に比べて、「大学教育にかかる費用」が最も多い点は同様だが、ポイントは6.1ポイント低下しており、前回調査はなかった「塾や習い事にかかる費用」が非常に高い割合となっている。また、「出産にかかる費用」が10.1ポイント、「衣食住にかかる費用」が8.6ポイント上昇している。

図表 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因



※「子育てサービス（一時預かり・ベビーシッターなど）にかかる費用」「塾や習い事にかかる費用」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査では無回答の掲載なし

## (7) 子どもはいらないと考える要因

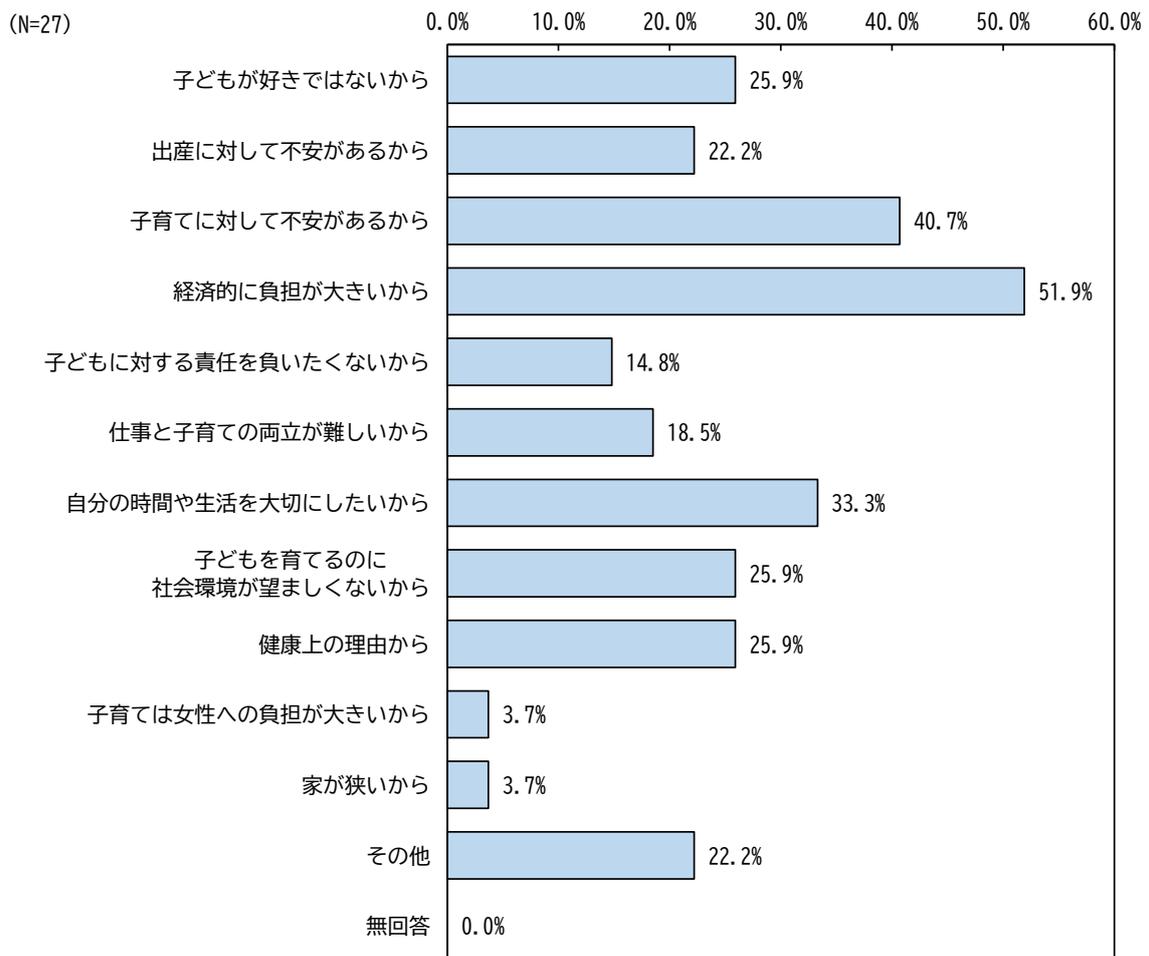
問12で「子どもはいない」と回答した方にうかがいます。

問16 子どもはいらないと考える要因について、下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

子どもはいらないと考える要因をみると、「経済的に負担が大きいから」が51.9%で最も多く、次いで、「子育てに対して不安があるから」が40.7%、「自分の時間や生活を大切にしたいから」が33.3%となっている。

(※サンプル数が少ない点に留意が必要である。)

図表 子どもはいらないと考える要因



※新規質問項目

## 7 子育て支援策

### (1) 結婚・子育ての場所としての奈良県の評価

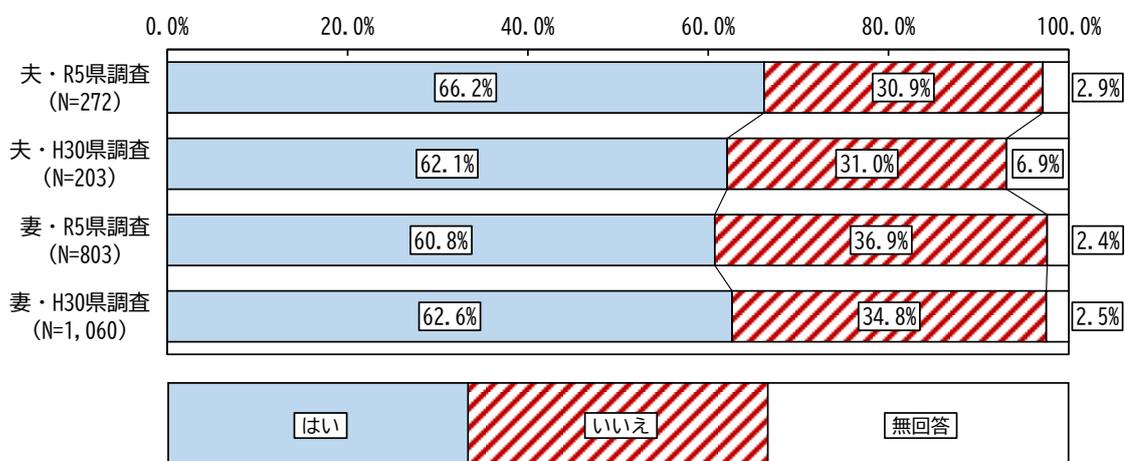
問 17 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

#### ①奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところか

奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うかどうかについては、「はい」が夫で66.2%、妻で60.8%と、夫の方が5.4ポイント高い。

前回調査に比べて、大きな変化はみられない。

図表 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところか



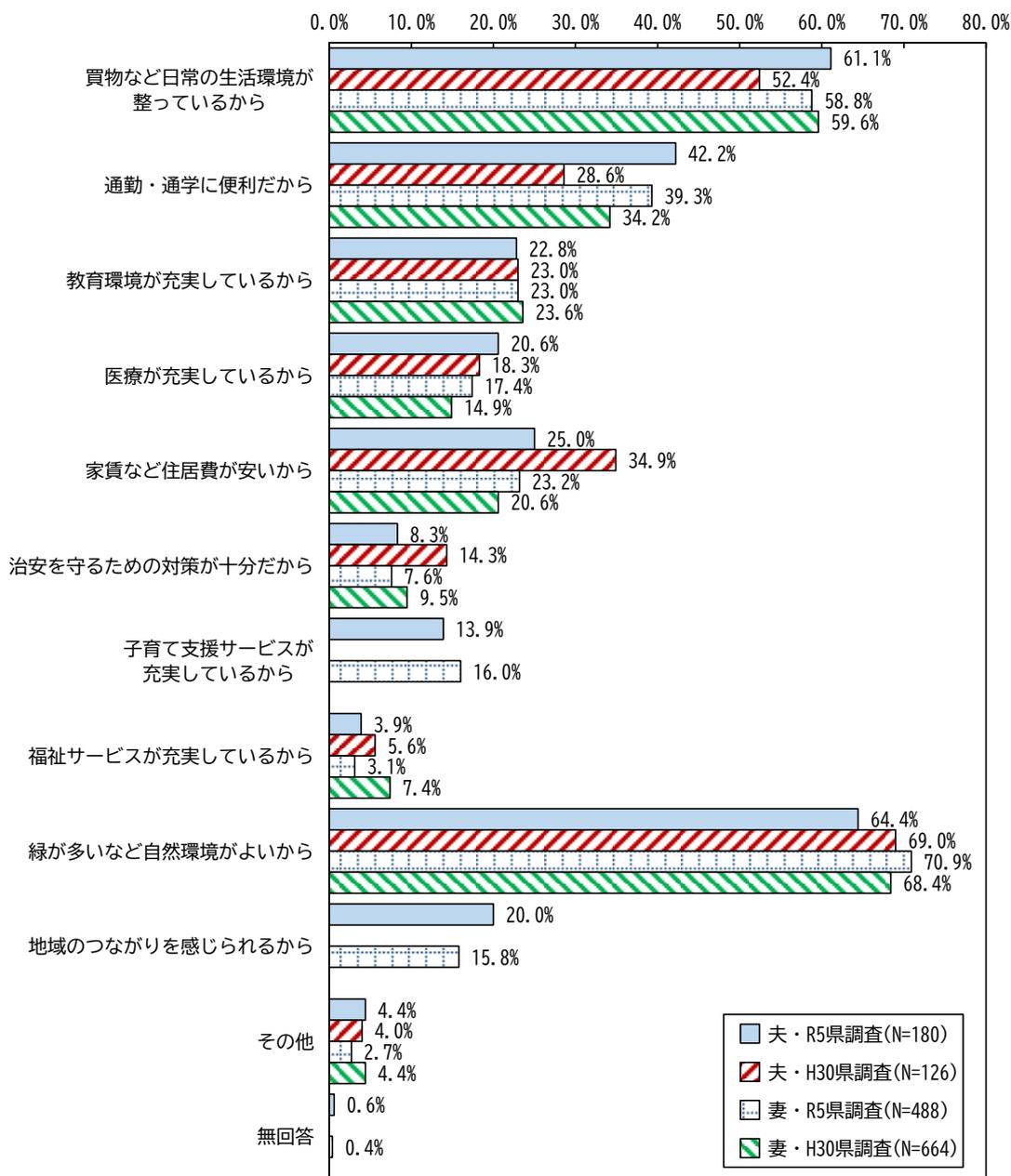
## ②結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由

結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由をみると、「緑が多いなど自然環境がよいから」が夫で64.4%、妻で70.9%と最も多く、次いで、「買物など日常の生活環境が整っているから」が夫で61.1%、妻で58.8%、「通勤・通学に便利だから」が夫で42.2%、妻で39.3%となっている。

夫と妻を比べると、「緑が多いなど自然環境がよいから」は妻の方が6.5ポイント高く、「地域のつながりを感じられるから」は夫の方が4.2ポイント高い。

前回調査に比べて、夫で変動が大きく、「通勤・通学に便利だから」は13.6ポイント、「買物など日常の生活環境が整っているから」は8.7ポイント上昇。一方、「家賃など住居費が安いから」は9.9ポイント、「治安を守るための対策が十分だから」は6ポイント、「緑が多いなど自然環境がよいから」は4.6ポイント低下している。

図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思う理由



※ 「子育て支援サービスが充実しているから」「地域のつながりを感じられるから」は今回調査からの新規項目

※ H30 県調査では無回答の掲載なし

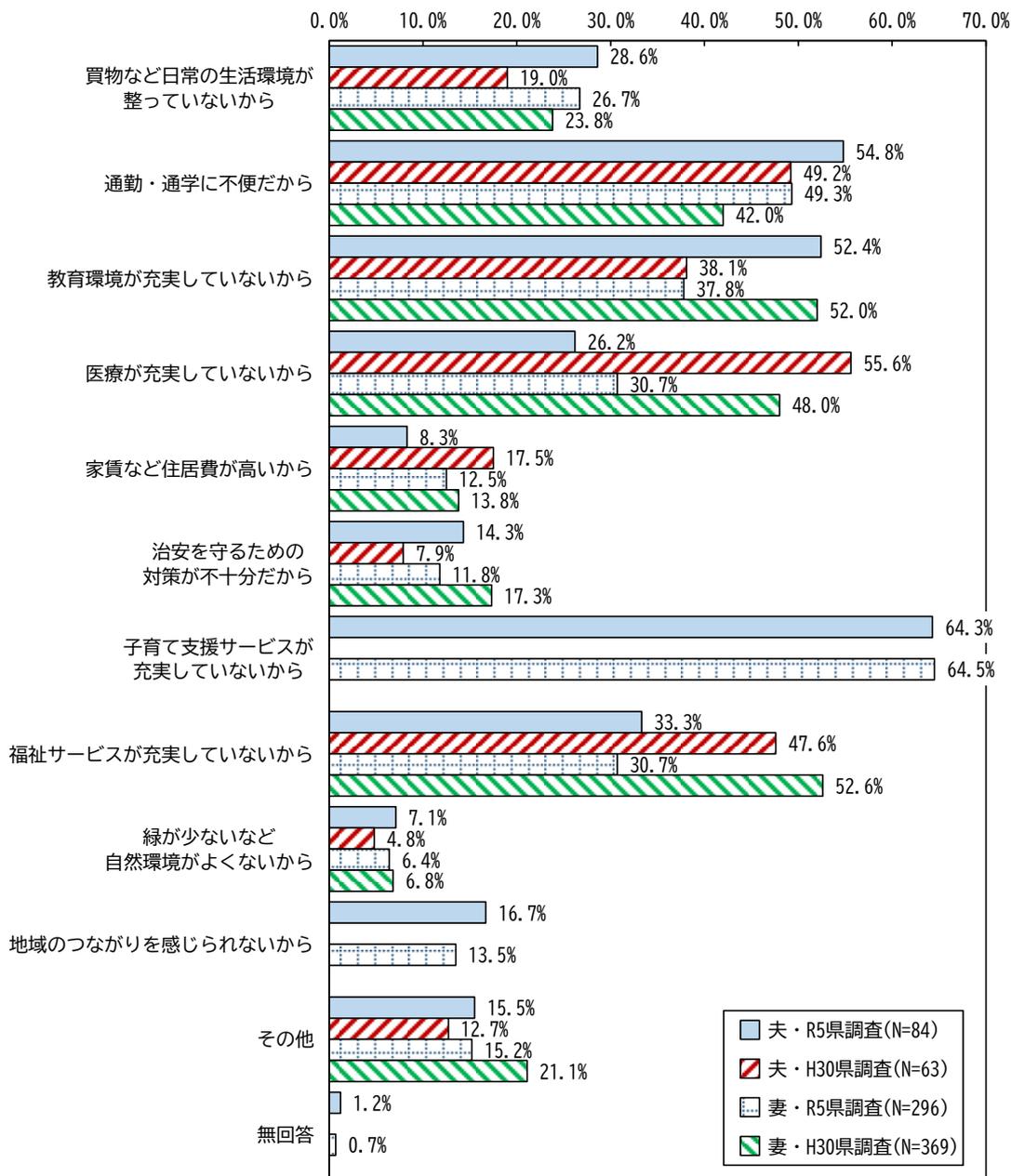
### ③結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由

結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由をみると、「子育て支援サービスが充実していないから」が夫で 64.3%、妻で 64.5%とほぼ同程度で最も多く、次いで、「通勤・通学に不便だから」が夫で 54.8%、妻で 49.3%、「教育環境が充実していないから」が夫で 52.4%、妻で 37.8%となっている。

夫と妻を比べると、夫の方が「教育環境が充実していないから」で 14.6 ポイント、「通勤・通学に不便だから」で 5.5 ポイント、妻より高くなっている。

前回調査に比べて、夫・妻とも変動が大きく、特に「医療が充実していないから」「福祉サービスが充実していないから」は、いずれも 10 ポイント以上低下している。一方、夫では「買物など日常の生活環境が整っていないから」が 9.6 ポイント上昇している。

図表 結婚して子どもを生き育てやすいと思わない理由



※「子育て支援サービスが充実していないから」「地域のつながりを感じられないから」は今回調査からの新規項目

※H30 県調査は無回答掲載なし

## (2) 父親の育児休暇・休業取得

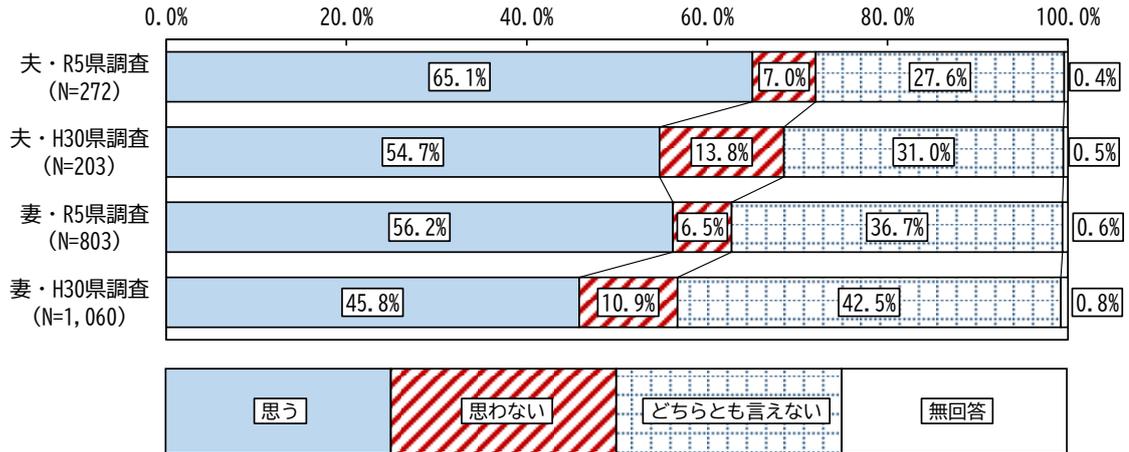
### ①父親が育児休暇・休業をとることについての考え

問 18 父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思いますか。

父親も育児休暇・休業をとった方がいいと思う人は、夫で 65.1%、妻で 56.2%と、夫の方が 8.9 ポイント高くなっている。

前回調査に比べて、とった方がいいと思う人は、夫、妻ともに 10.4 ポイント上昇している。

図表 父親が育児休暇・休業をとることについての考え

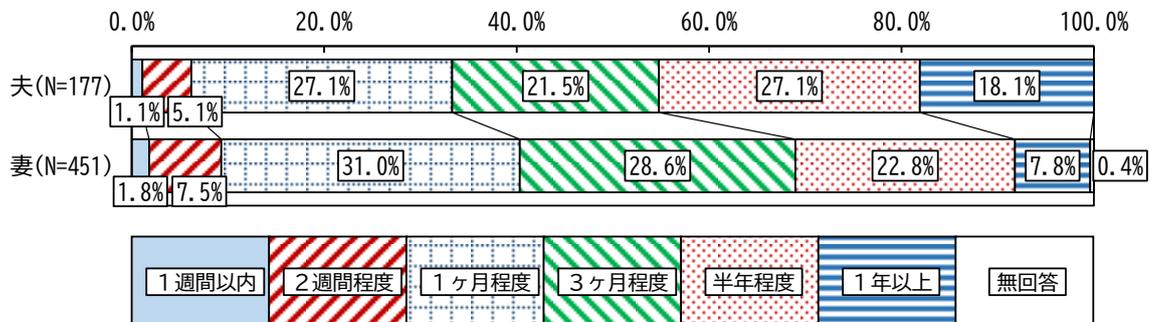


### ②必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間

問 18-1 問 18 で「1. 思う」を選んだ方にうかがいます。父親の育児休暇・休業の取得期間はどれくらい必要だと思いますか。

必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間をみると、妻では「1ヶ月程度」が 31.0%で最も多く、次いで、「3ヶ月程度」が 28.6%となっている。一方、夫では「1ヶ月程度」と「半年程度」がともに 27.1%で最も多く、次いで、「3ヶ月程度」が 21.5%となっており、妻よりも長い期間必要だと考える人が多くなっている。

図表 必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間



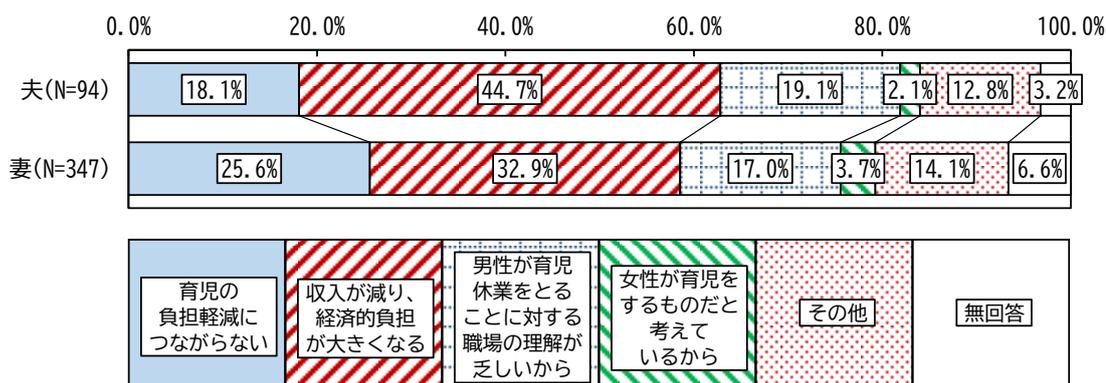
※ 「3ヶ月程度」「半年程度」「1年以上」は今回調査からの新規項目

③育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由

問 18-2 問 18 で「2. 思わない」「3. どちらとも言えない」を選んだ方にうかがいます。その理由は何ですか。

育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由をみると、夫・妻とも「収入が減り、経済的負担が大きくなる」が最も多いが、夫で44.7%、妻で32.9%と、11.8ポイントの差がある。次いで、夫では、「男性が育児休業をとることに対する職場の理解が乏しいから」が19.1%で続き、妻では「育児の負担軽減につながらない」が25.6%となっている。「育児の負担軽減につながらない」は、夫より妻の方が7.5ポイント高い。

図表 育児休暇・休業をとらない方がよい（取得にどちらとも言えない）理由



※新規質問項目

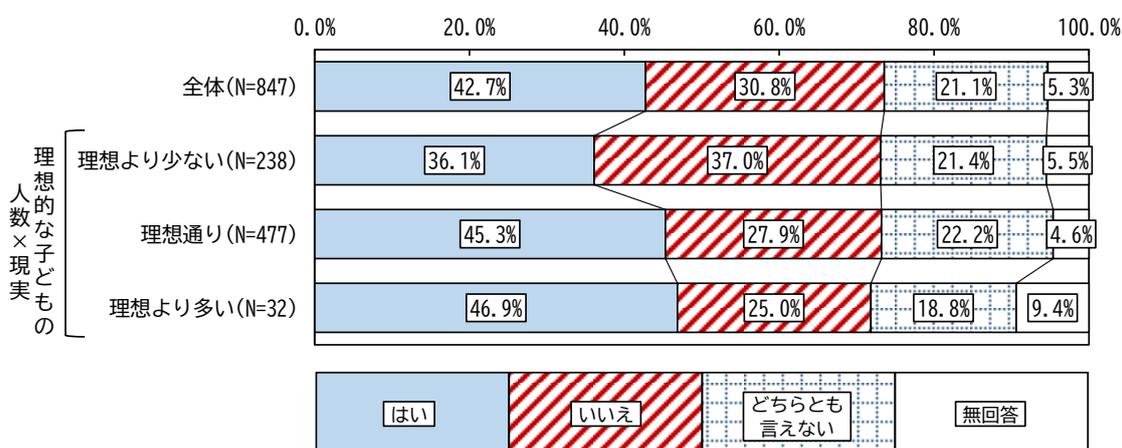
④あなたの職場は、男性が結婚・出産・子育てと仕事との両立ができるか

問 19 あなたの職場は、男性が結婚、出産、子育て（育休等）と仕事との両立ができる職場ですか。

男性が結婚、出産、子育て（育休等）と仕事との両立ができる職場かどうかについては、「はい」が42.7%、「いいえ」が30.8%で、「はい」の方が多い。「どちらとも言えない」は21.1%みられた。

理想の子どもの人数と現実の子どもの人数とのギャップ別にみると、理想より人数が少ないほど、両立のしにくい職場であることがわかる。

図表 あなたの職場は、男性が結婚・出産・子育てと仕事との両立ができるか



※新規質問項目

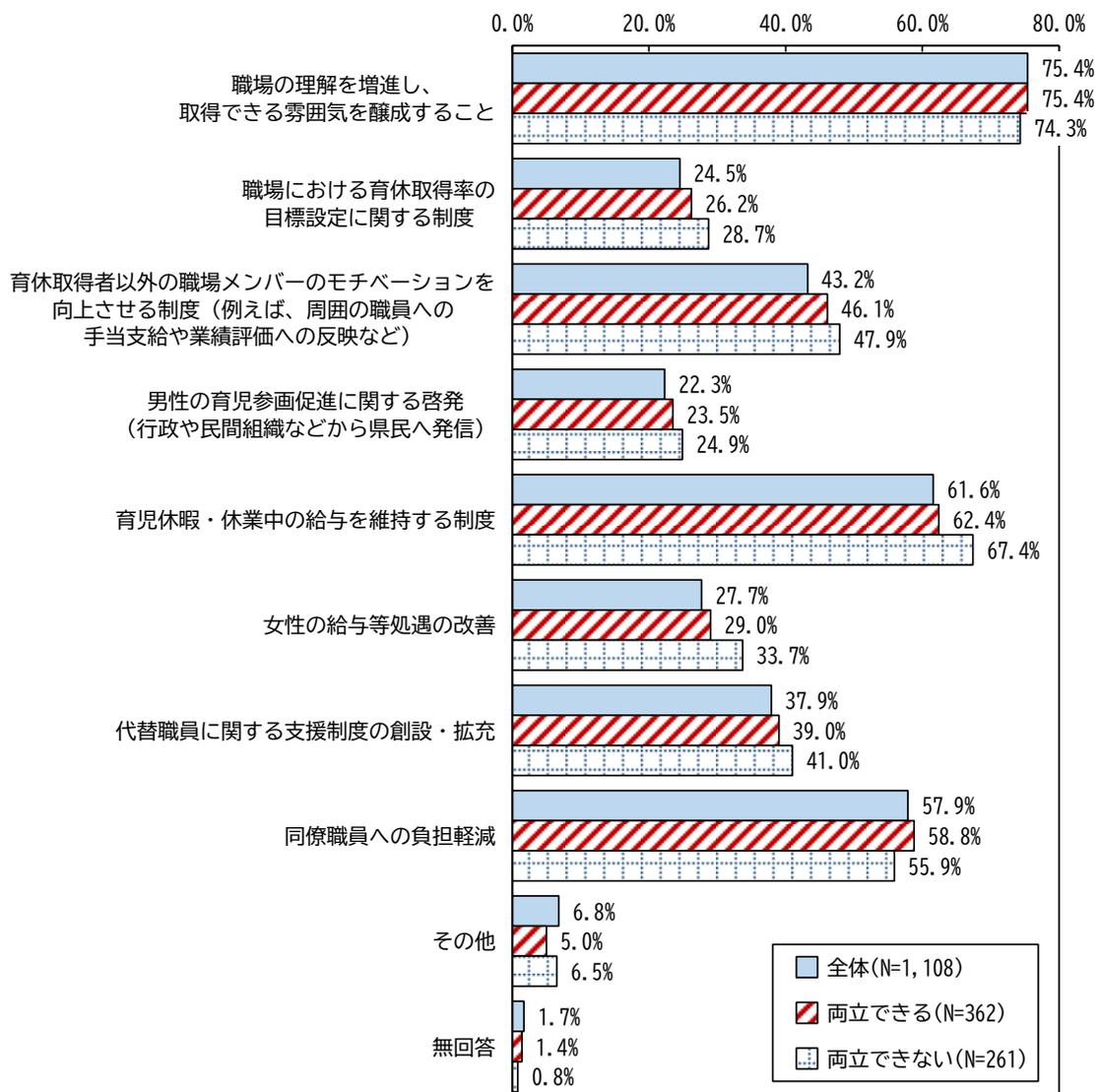
⑤男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策

問 20 男性が育児休業を取得しやすくするためには何が重要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

男性が育児休業を取得しやすくするために必要な施策をみると、「職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること」が75.4%で最も多く、次いで、「育児休暇・休業中の給与を維持する制度」が61.6%、「同僚職員への負担軽減」が57.9%となっている。

自身の職場が、男性の仕事と子育ての両立が可能かどうか別にみても、傾向はあまり変わらないが、「育児休暇・休業中の給与を維持する制度」で5ポイント、両立できない層の方が高くなっている。

図表 男性の仕事と子育ての両立可否別・男性が育児休暇を取得しやすくするために必要な施策



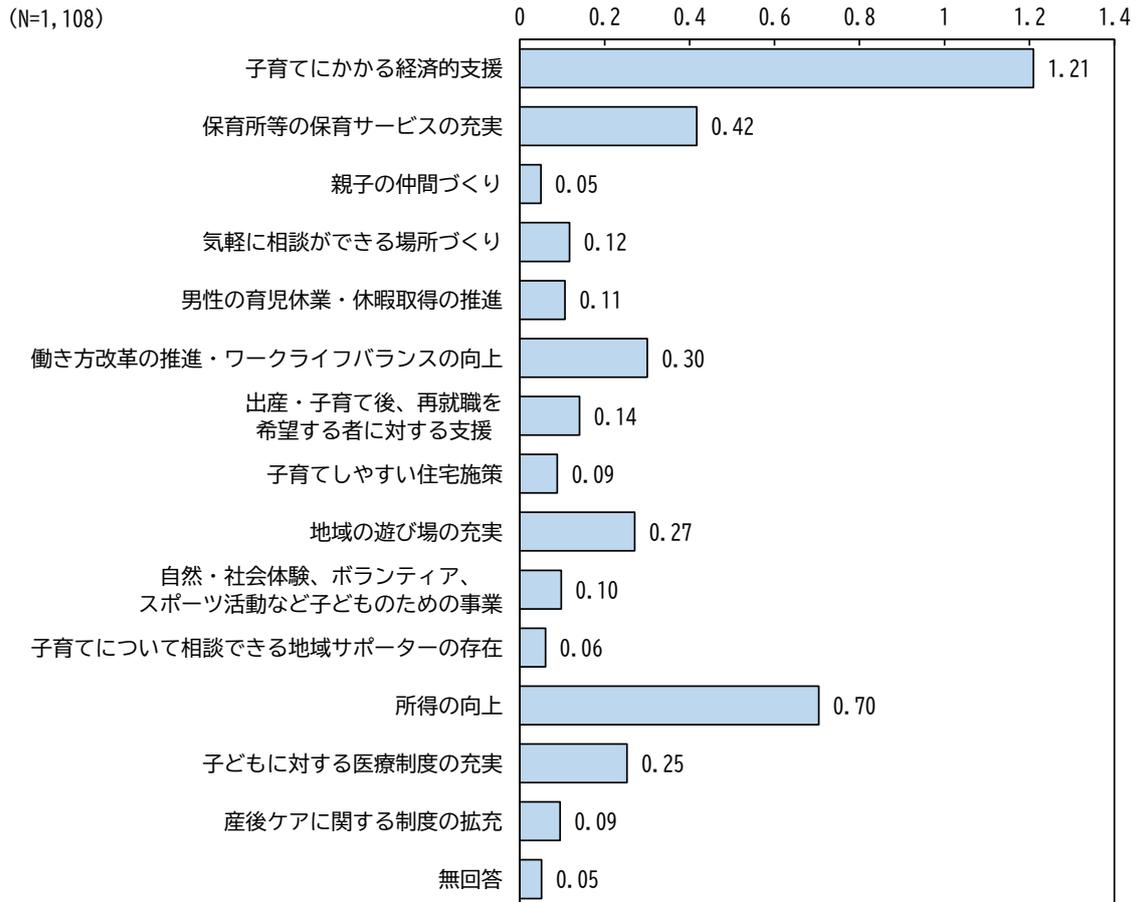
※新規質問項目

### (3) 子育て支援に関する重要度

問21 奈良県で子育てをするにあたり、下記問22の①～⑭の各項目について、最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入して下さい。

奈良県での子育て支援に関する重要度をみると、「子育てにかかる経済的支援」が1.21点で最も多く、次いで、「所得の向上」が0.70点、「保育所等の保育サービスの充実」が0.42点、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」が0.30点、「地域の遊び場の充実」が0.27点となっている。

図表 子育て支援に関する重要度



※最重要＝2点、次に重要＝1点として合計し、対象母数で割った値を得点とした

#### (4) 子育て支援に関する満足度

お子さんをお持ちの方にうかがいます。

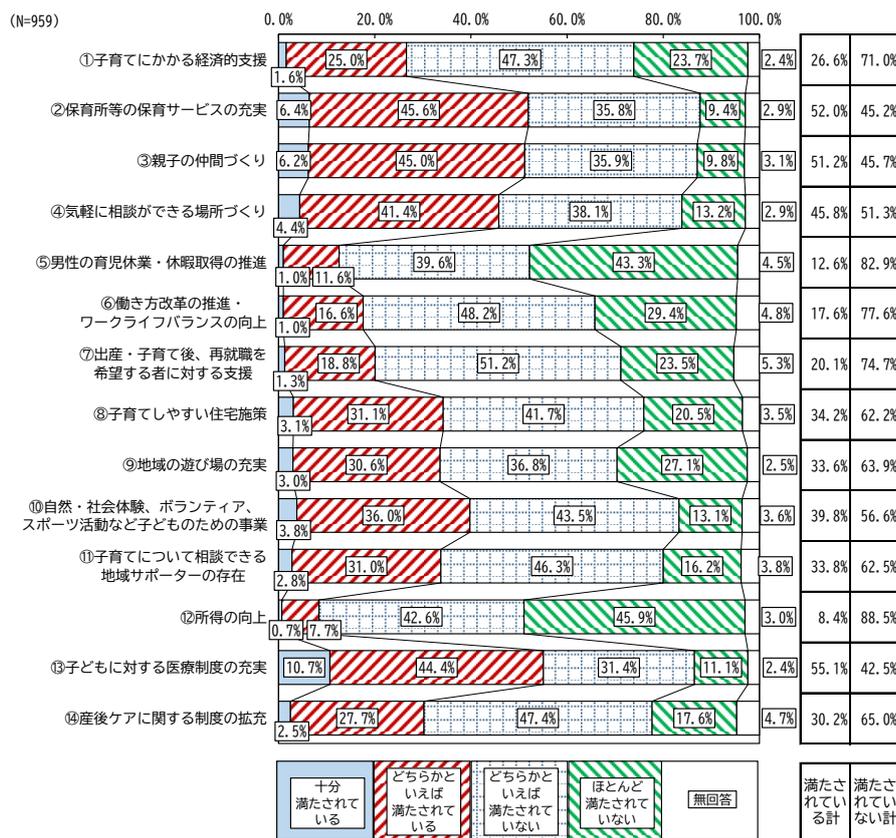
問 22 奈良県で子育てをするにあたり、次の①～⑭の各項目について、どれくらいの「満足度」を感じていますか。各項目それぞれの「満足度」について、あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

「十分満たされている」と「どちらかといえば満たされている」の割合の合計（＝満たされている計）をみると、「子どもに対する医療制度の充実」が55.1%で最も多く、次いで、「保育所等の保育サービスの充実」が52.0%、「親子の仲間づくり」が51.2%、「気軽に相談ができる場所づくり」が45.8%となっている。

一方、「ほとんど満たされていない」と「どちらかといえば満たされていない」の割合の合計（＝満たされていない計）は、「所得の向上」が88.5%で最も多く、次いで、「男性の育児休業・休暇取得の推進」が82.9%、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」が77.6%、「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」が74.7%となっている。

前回調査に比べて、いずれも満たされている計は上昇しているが、最も上昇しているのは「自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業」で9.7ポイント上昇している。

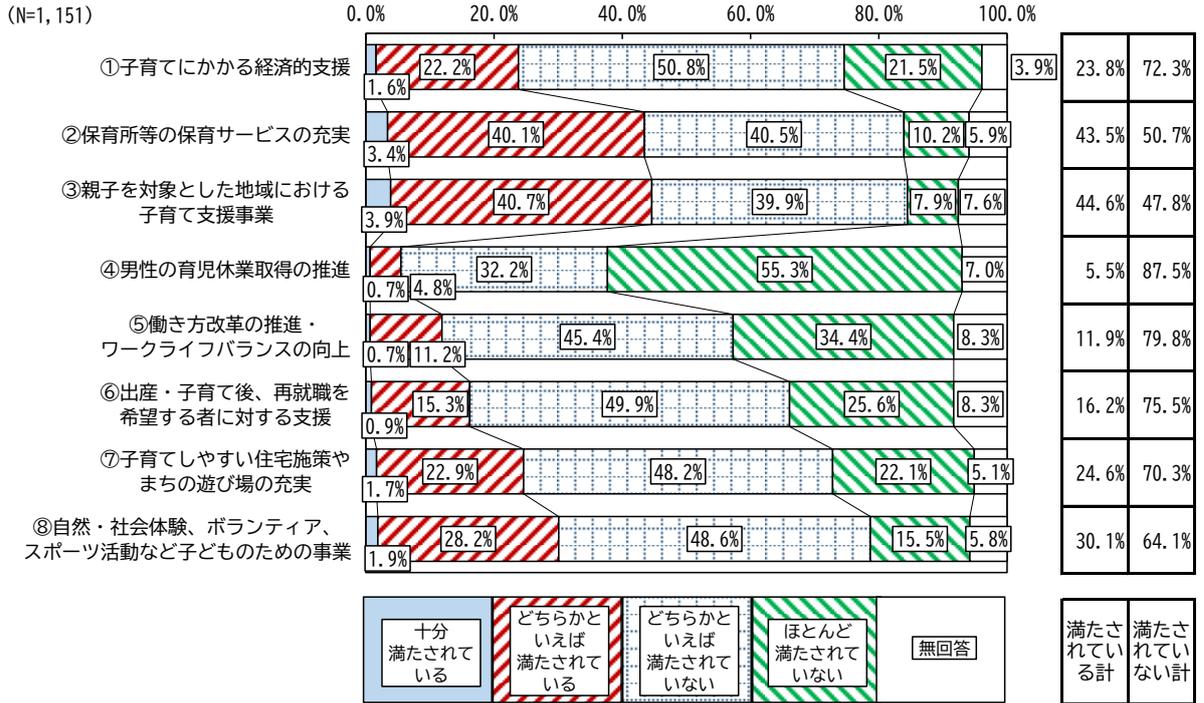
図表 子育て支援に関する満足度



※「③親子の仲間づくり」「④気軽に相談ができる場所づくり」「⑪子育てについて相談できる地域サポーターの存在」「⑫所得の向上」「⑬子どもに対する医療制度の充実」「⑭産後ケアに関する制度の拡充」は今回調査からの新規項目

※「⑧子育てしやすい住宅施策」「⑨地域の遊び場の充実」はH30 県調査では「子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実」となっていた

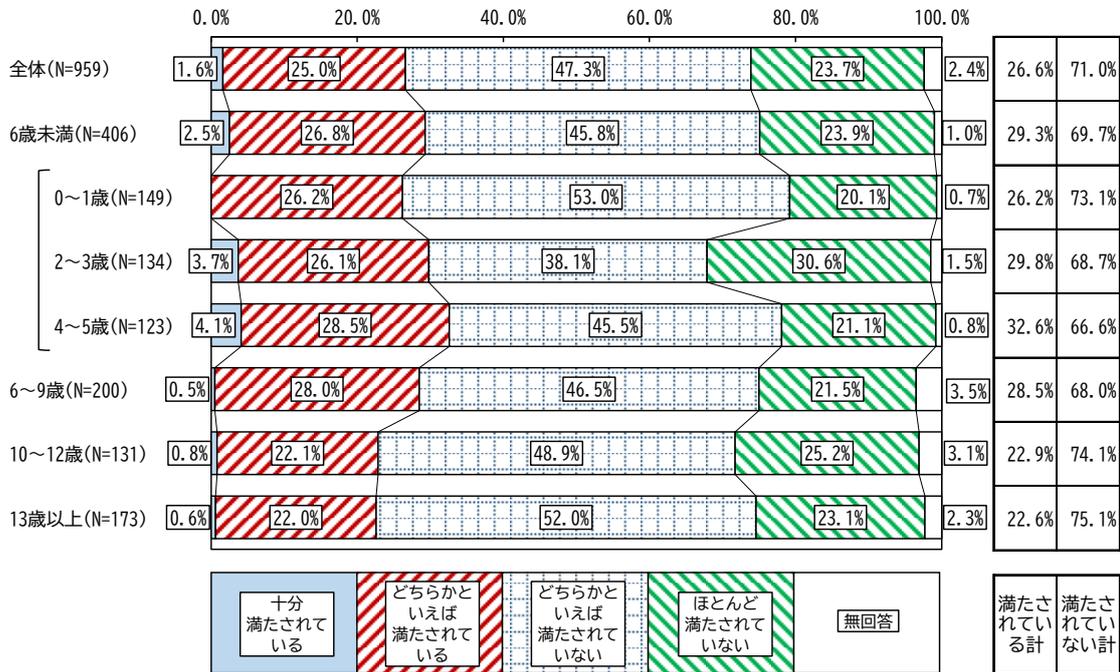
図表 子育て支援に関する満足度 (H30 県調査)



①子育てにかかる経済的支援

子育てにかかる経済的支援については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で32.6%と最も高く、末子が13歳以上の家庭で22.6%と最も低い。

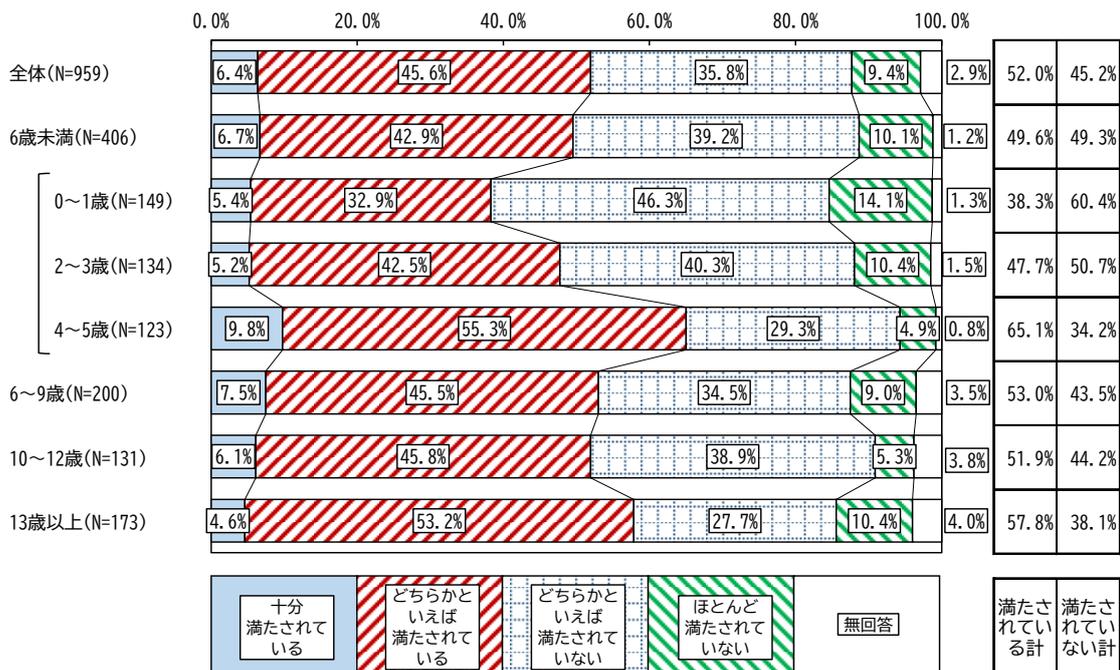
図表 末子年齢別・子育てにかかる経済的支援



②保育所等の保育サービスの充実

保育所等の保育サービスの充実については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で高く、末子が0～1歳の家庭で低い。

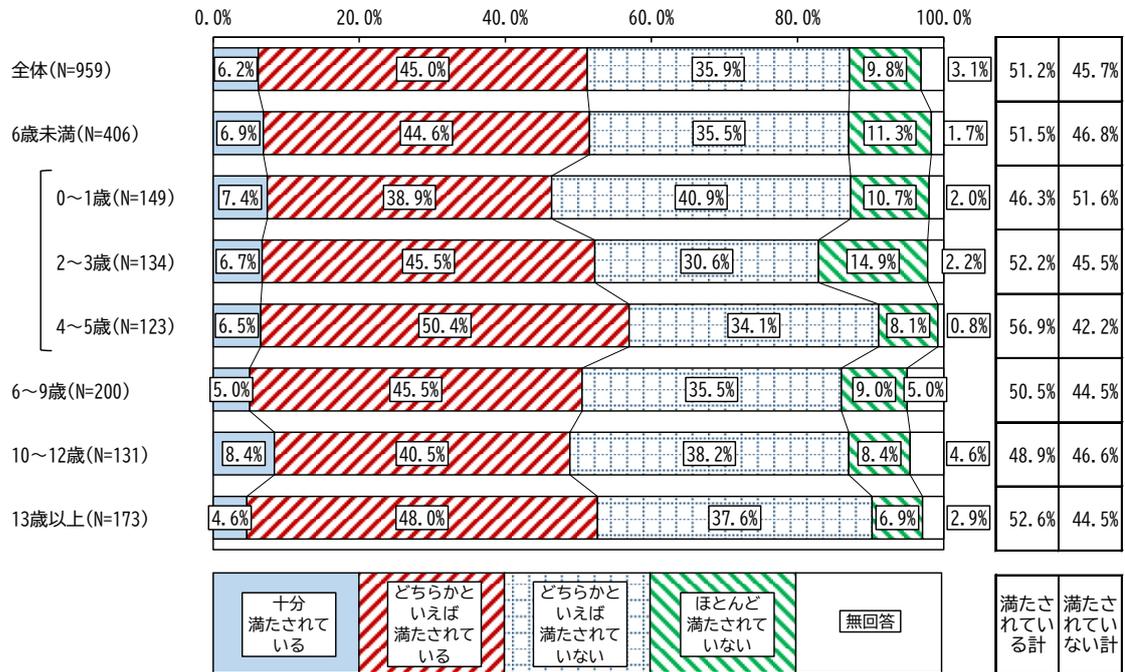
図表 末子年齢別・保育所等の保育サービスの充実



### ③親子の仲間づくり

親子の仲間づくりについては、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で56.9%と最も高く、末子が0～1歳の家庭で46.3%と最も低い。

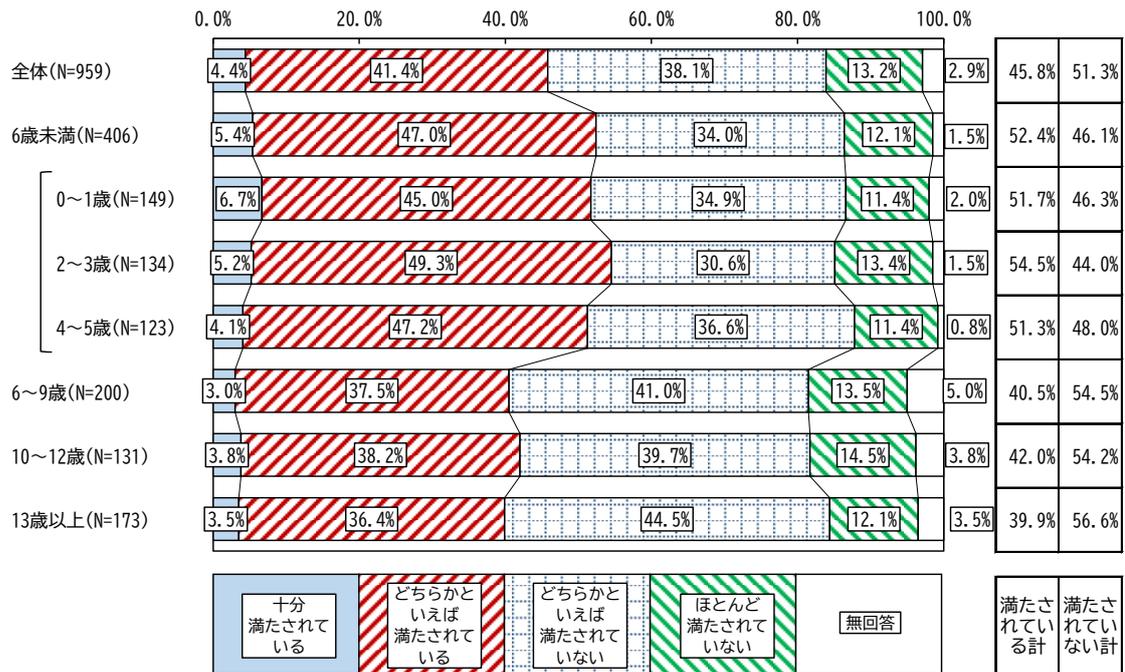
図表 末子年齢別・親子の仲間づくり



### ④気軽に相談ができる場所づくり

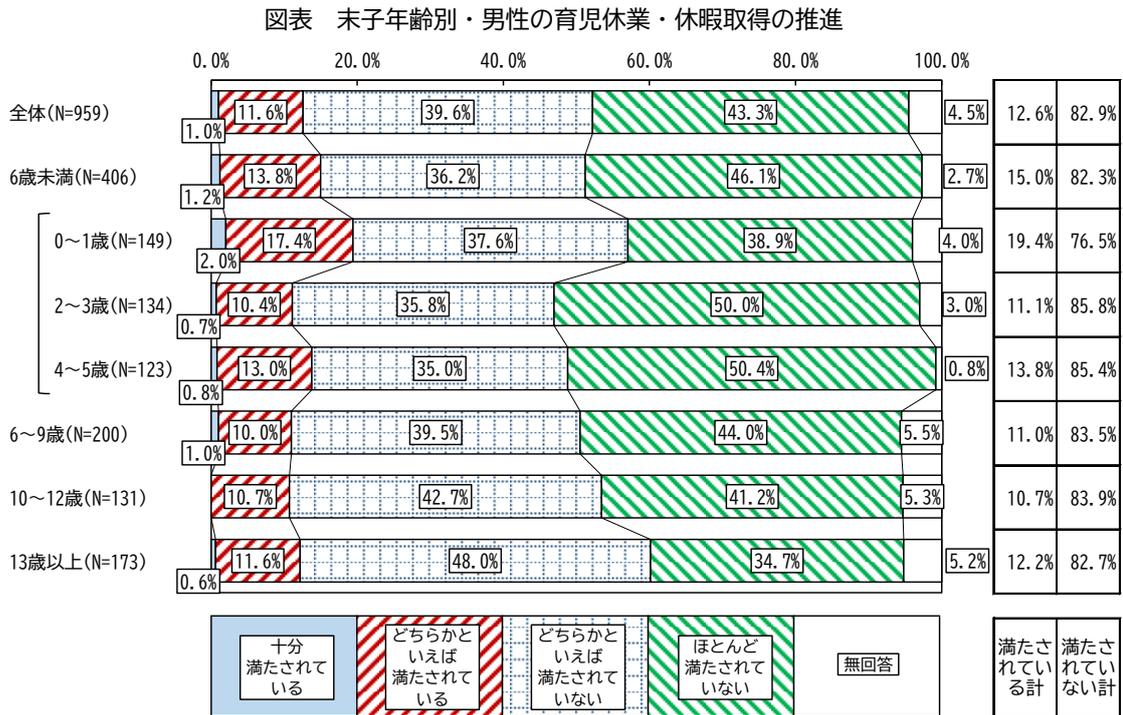
気軽に相談ができる場所づくりについては、満たされている計は、末子が0～5歳の家庭で5割以上と高く、13歳以上の家庭で39.9%と最も低い。

図表 末子年齢別・気軽に相談ができる場所づくり



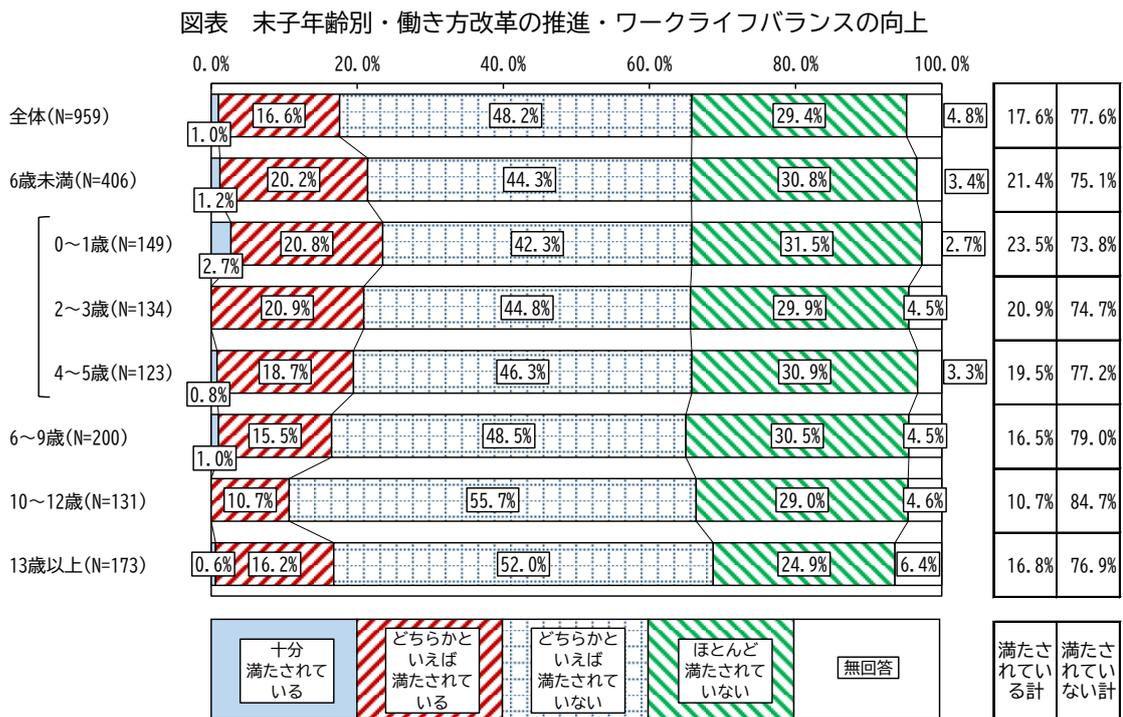
⑤男性の育児休業・休暇取得の推進

男性の育児休業・休暇取得の推進については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で最も高いが19.4%に留まる。



⑥働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上

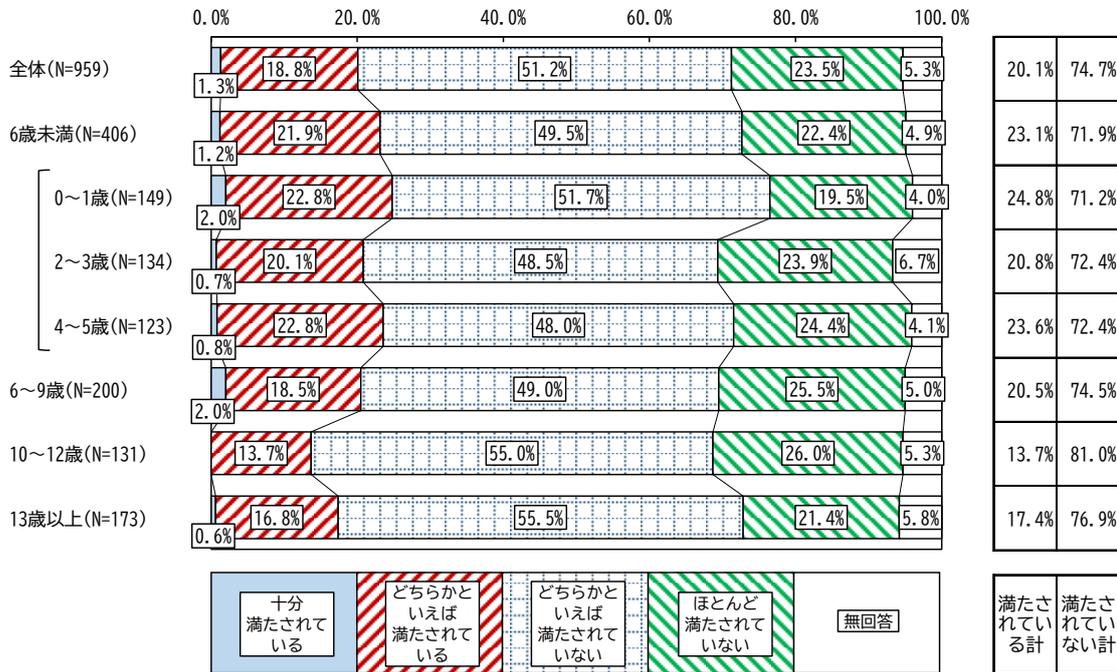
働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で23.5%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で10.7%と最も低い。



⑦出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援

出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で24.8%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で13.7%と最も低い。

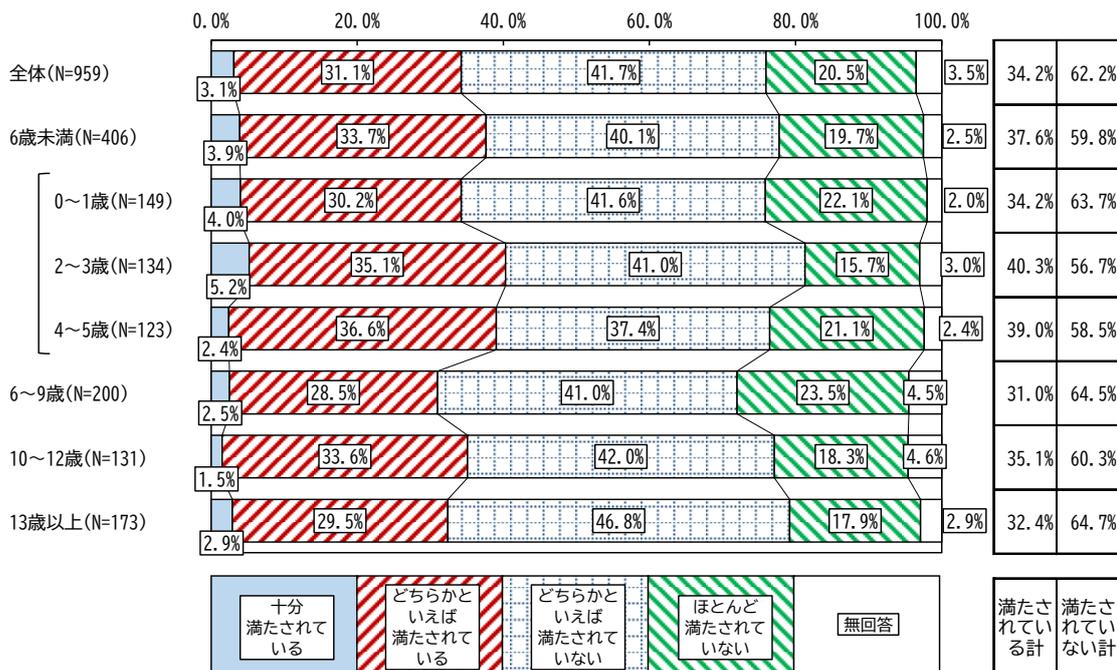
図表 末子年齢別・出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援



⑧子育てしやすい住宅施策

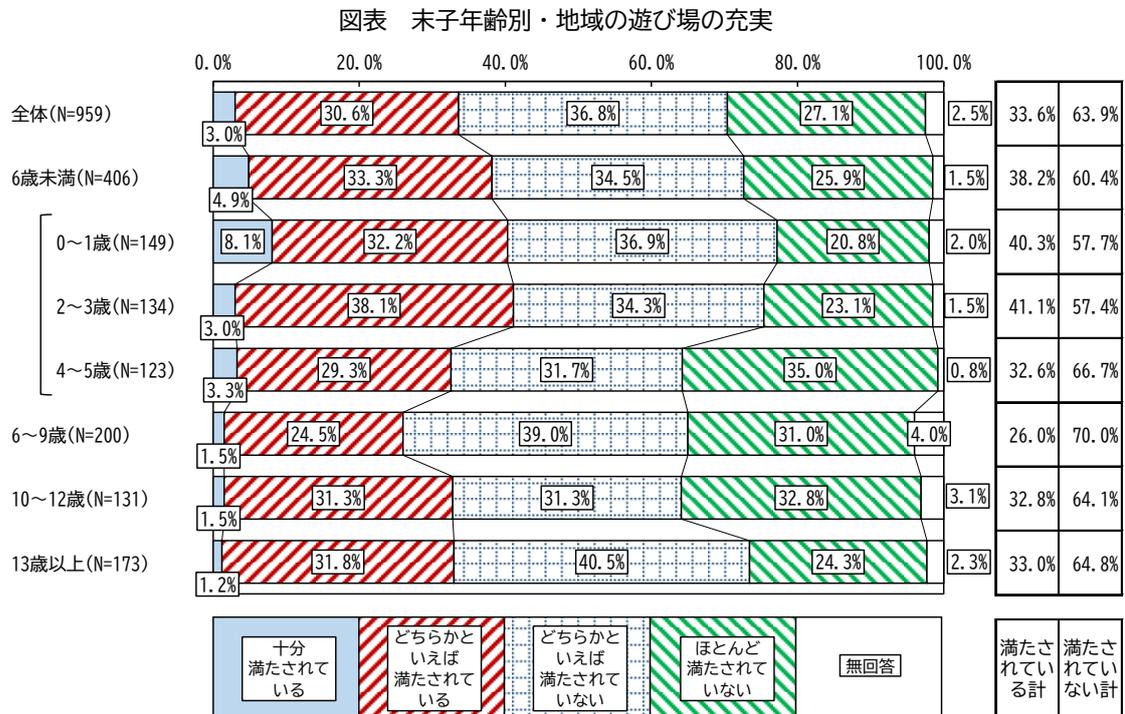
子育てしやすい住宅施策については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で40.3%と最も高く、末子が6～9歳の家庭で31.0%と最も低い。

図表 末子年齢別・子育てしやすい住宅施策



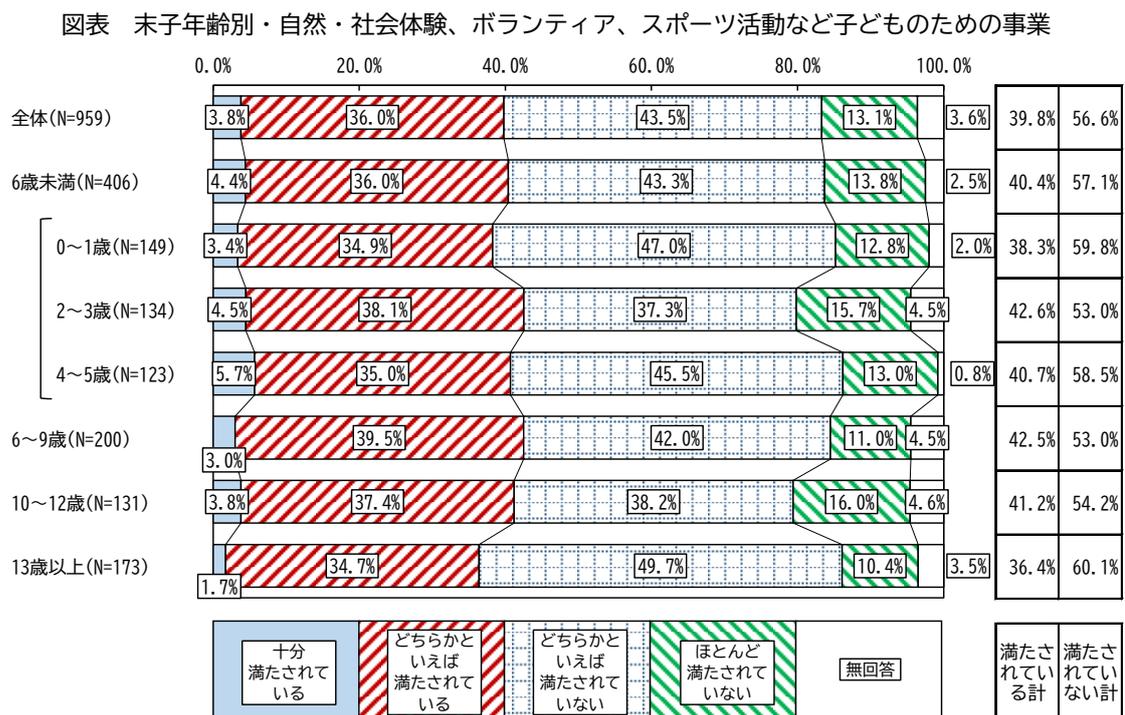
### ⑨地域の遊び場の充実

地域の遊び場の充実については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で41.1%と最も高く、末子が6～9歳の家庭で26.0%と最も低い。



### ⑩自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業

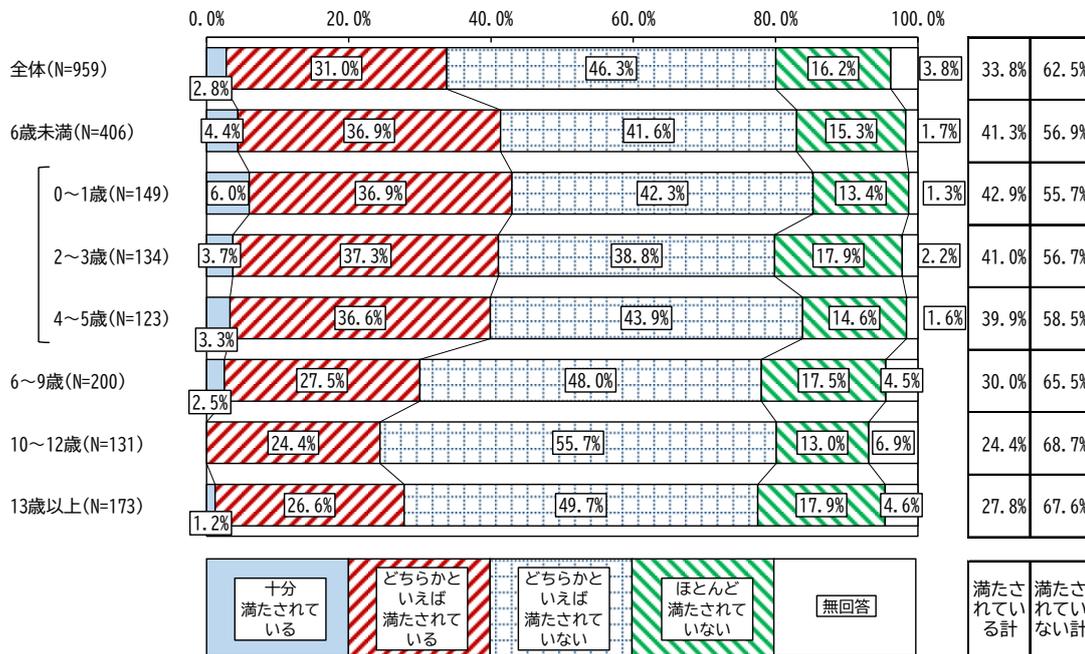
自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業については、満たされている計は、末子が2～3歳の家庭で42.6%と最も高いが、他の年齢層の家庭でも3割後半～4割前半とあまり差がない。



### ⑪子育てについて相談できる地域サポーターの存在

子育てについて相談できる地域サポーターの存在については、満たされている計は、末子が0～1歳の家庭で42.9%と最も高く、末子が10～12歳の家庭で24.4%と最も低い。

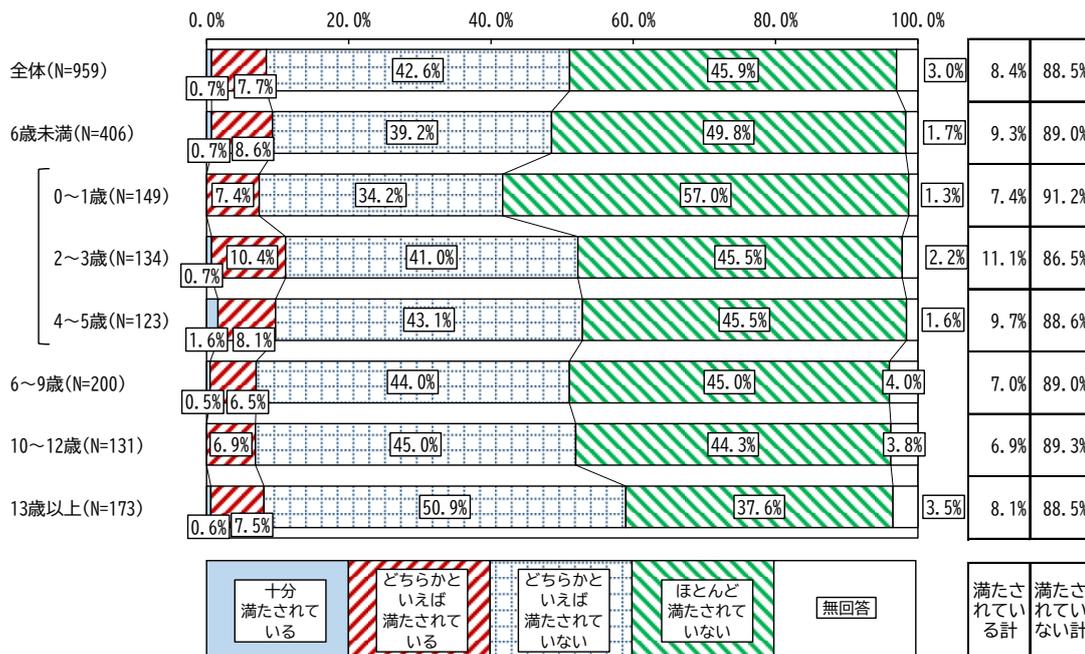
図表 末子年齢別・子育てについて相談できる地域サポーターの存在



### ⑫所得の向上

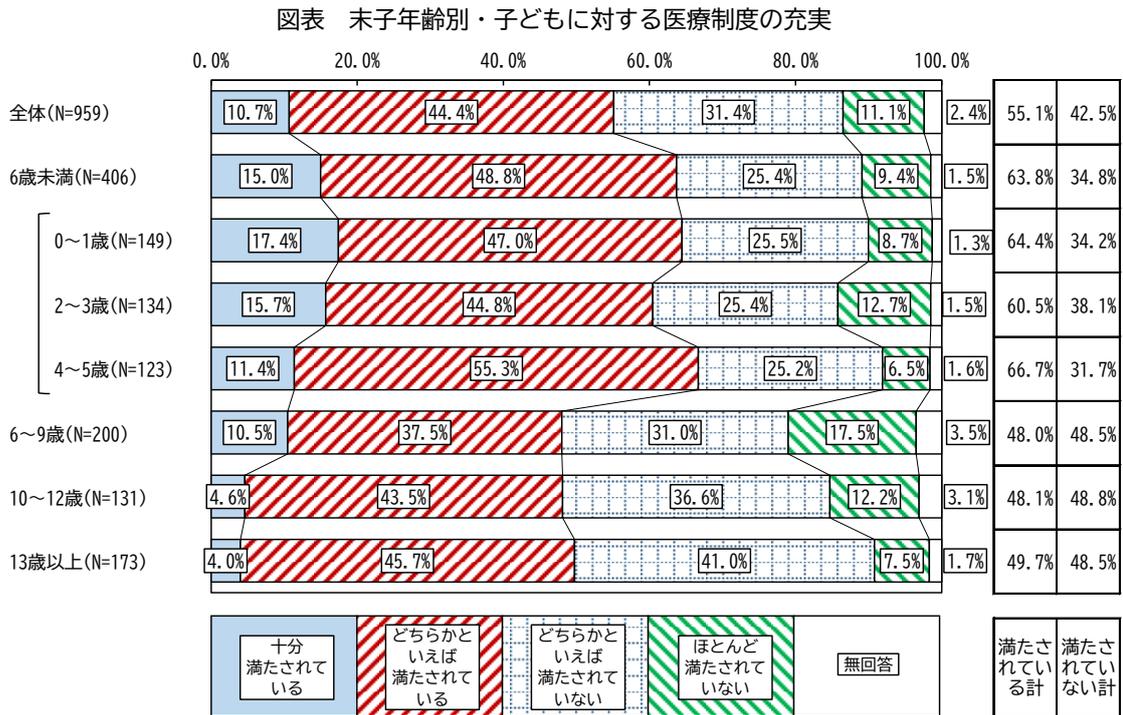
所得の向上については、満たされている計は、末子の年齢に関わらず、6～11%程となっているが、末子が0～1歳の家庭で「ほとんど満たされていない」が57.0%と、他の年齢層の家庭より約10ポイント以上高くなっている。

図表 末子年齢別・所得の向上



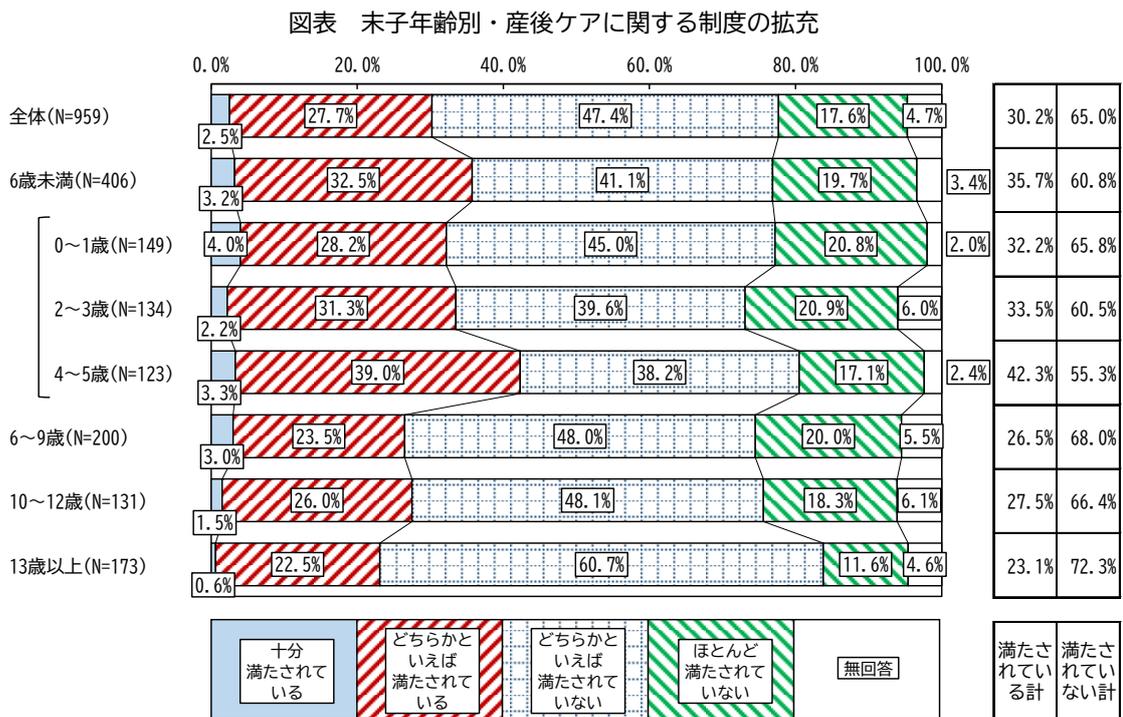
### ⑬子どもに対する医療制度の充実

子どもに対する医療制度の充実については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で66.7%と最も高く、末子が6～9歳が48.0%と最も低い。



### ⑭産後ケアに関する制度の拡充

産後ケアに関する制度の拡充については、満たされている計は、末子が4～5歳の家庭で42.3%と最も高く、末子が13歳以上の家庭で23.1%と最も低い。

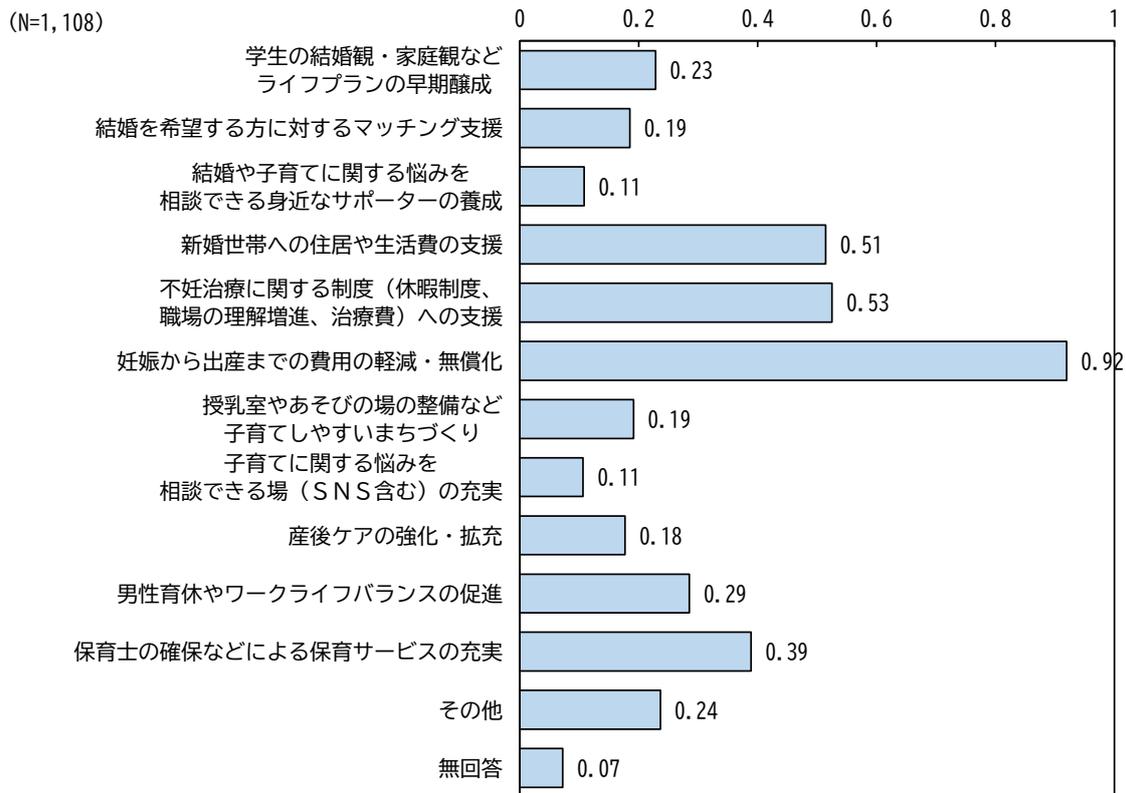


(5) 希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組み

問 23 希望する人数の子どもを生き育てられるようにするために、以下の1~12のうち、何が重要だと思いますか。最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入してください。

希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組みをみると、「妊娠から出産までの費用の軽減・無償化」が0.92点で最も多く、次いで、「不妊治療に関する制度（休暇制度、職場の理解増進、治療費）への支援」が0.53点、「新婚世帯への住居や生活費の支援」が0.51点、「保育士の確保などによる保育サービスの充実」が0.39点、「男性育休やワークライフバランスの促進」が0.29点となっている。

図表 希望する人数を生き育てられるようにするために必要な取組み



※新規質問項目

※最重要=2点、次に重要=1点として合計し、対象母数で割った値を得点とした

## (6) 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況

お子さんをお持ちの方にかがいます。

問 24 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、子育てに関する各制度や施設を利用しましたか。

子どもが3歳になるまでの間に利用した制度や施設は、第一子が「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」で44.0%、第二子が、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」で34.5%、第三子が「産前・産後休暇制度」で29.4%が最も多くなっている。次いで、第一子、第二子は「産前・産後休暇制度」「育児休業制度（妻）」と続き、第三子は「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」「育児休業制度（妻）」となっている。

第一子ほど利用が多い制度・施設が多いが、「認定子ども園（保育所と幼稚園が一体化した施設）」「育児休業制度（夫）」は第三子ほど利用が多くなっている。

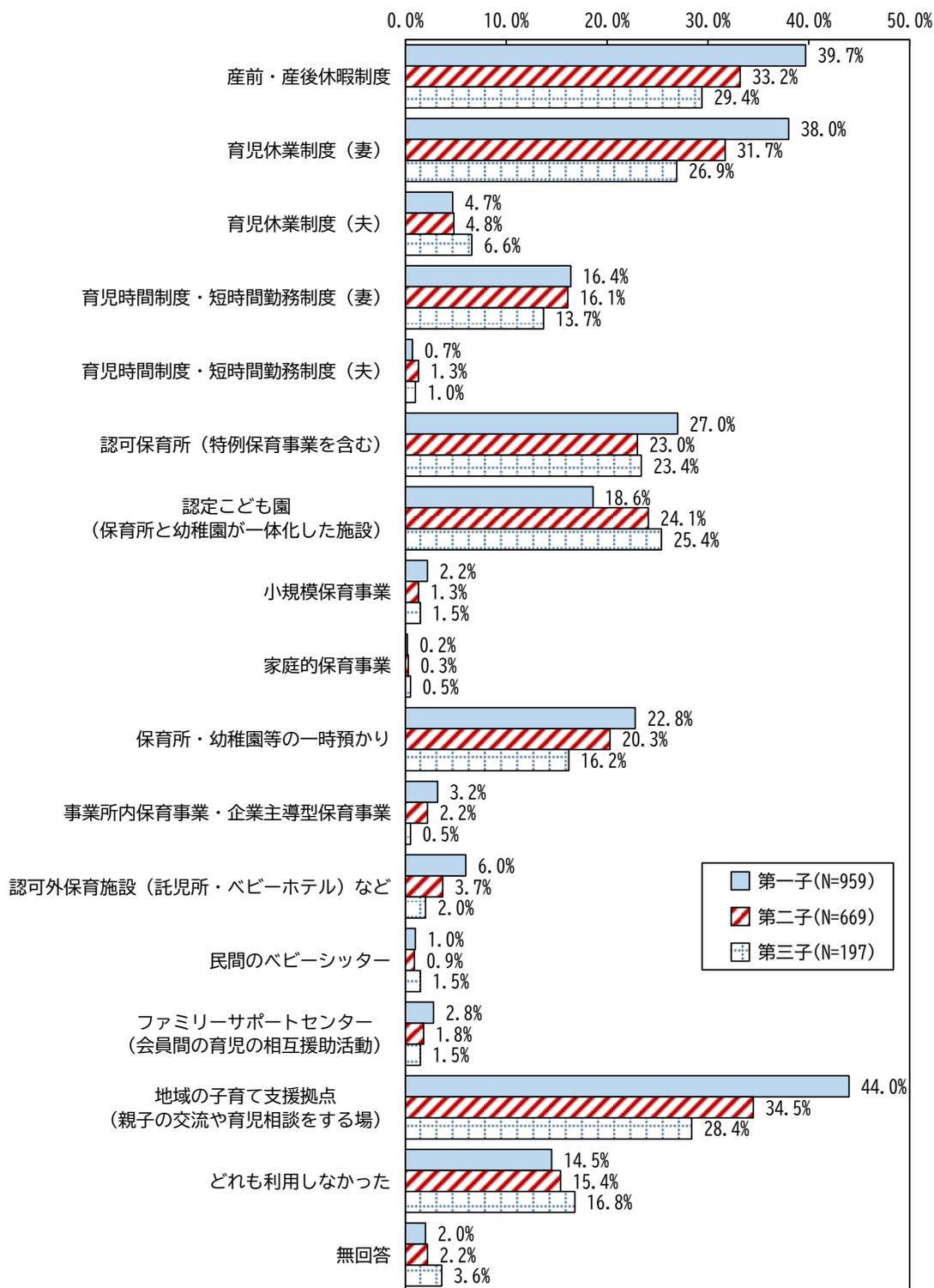
子どものいる初婚同士の夫婦で前回調査に比べて、第一子ではほとんどの制度・施設の割合が上昇しているが、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」は1.4ポイント低下している。上昇幅が大きいのは、「育児休業制度（妻）」で9.8ポイント、「産前・産後休暇制度」で9.4ポイントの上昇となっている。また、「どれも利用しなかった」は、前回調査の20.4%から4.9ポイント低下して15.5%となっている。

同様に、第二子でも、ほとんどの制度・施設の割合が上昇しており、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」の割合は、前回調査とほぼ同じとなっている。上昇幅が大きいのは、「産前・産後休暇制度」で9.6ポイント、「育児休業制度（妻）」で9.1ポイントの上昇となっている。「どれも利用しなかった」は、前回調査の24.8%から8.6ポイント低下して16.2%となっている。

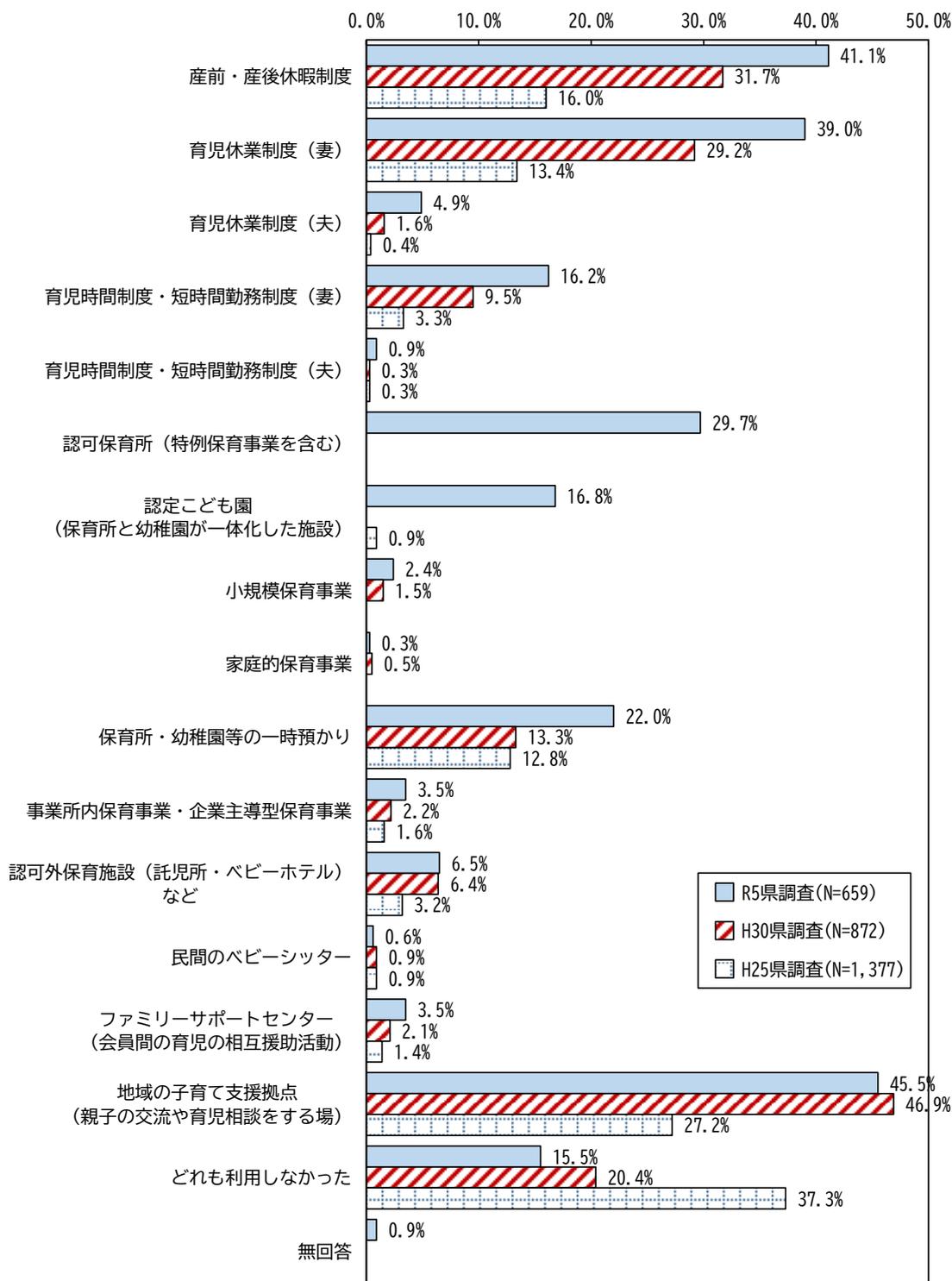
同様に、第三子でも、ほとんどの制度・施設の割合が上昇しているが、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」の割合は、前回調査とほぼ同じとなっている。上昇幅が大きいのは、「産前・産後休暇制度」で9.9ポイント、「育児休業制度（妻）」で7.8ポイントの上昇となっている。「どれも利用しなかった」は、前回調査の26.0%から6.3ポイント低下して19.7%となっている。

第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況を、妻の就業状況別にみると、就業継続中の妻では「産前・産後休暇制度」「育児休業制度（妻）」の割合は6割弱となっている。また、「育児時間制度・短時間勤務制度（妻）」「認可保育所（特例保育事業を含む）」「認定子ども園（保育所と幼稚園が一体化した施設）」も、就業継続中の妻で高くなっている。一方、「保育所・幼稚園等の一時預かり」は復職した妻、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」は、離職した妻が高くなっている。また、妻の就業状況に関わらず、「育児休業制度（夫）」「育児時間制度・短時間勤務制度（夫）」の利用率にはほとんど差はなく、いずれも6%未満となっている。

図表 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況



図表 第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

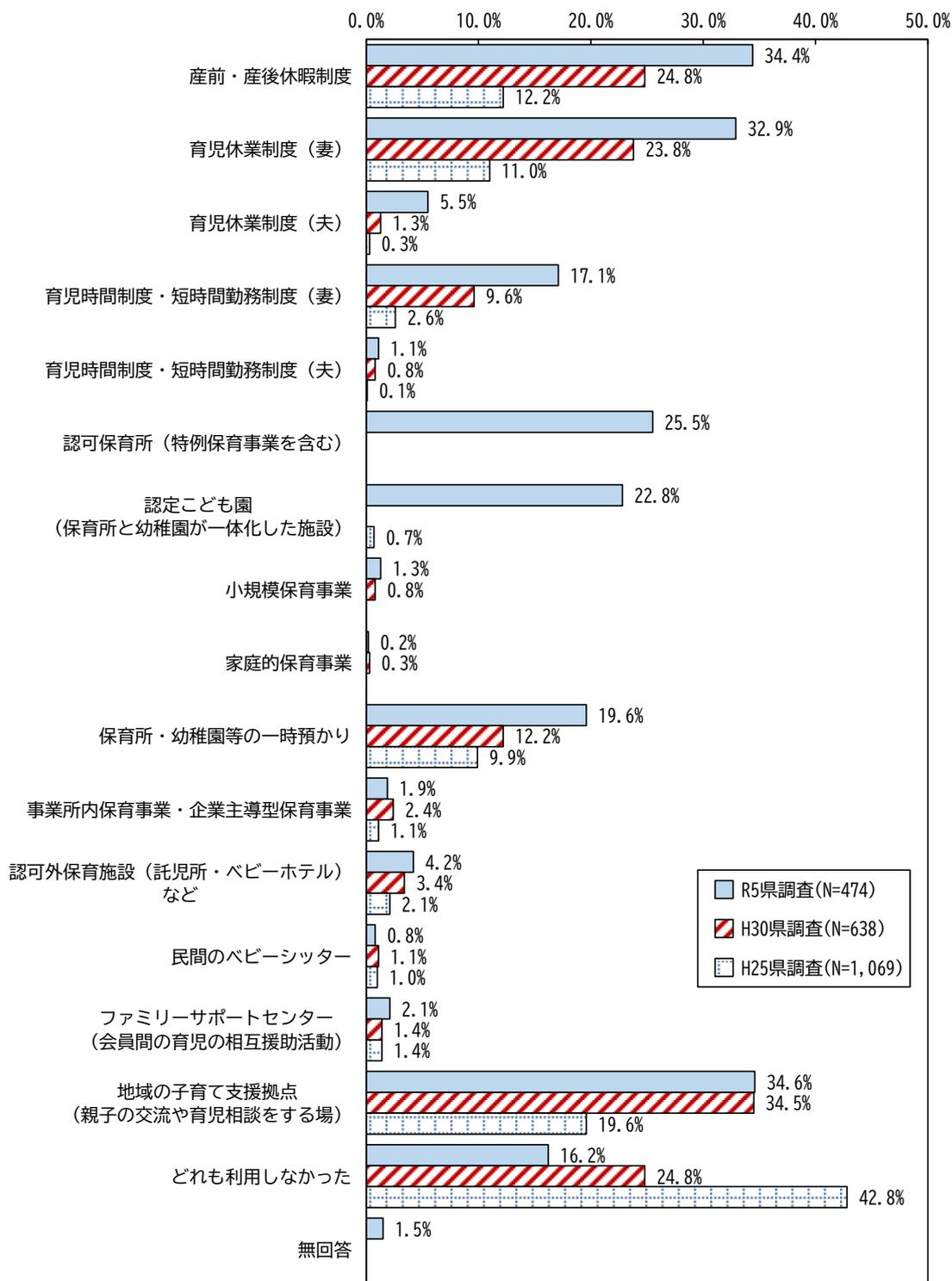
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 第二子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

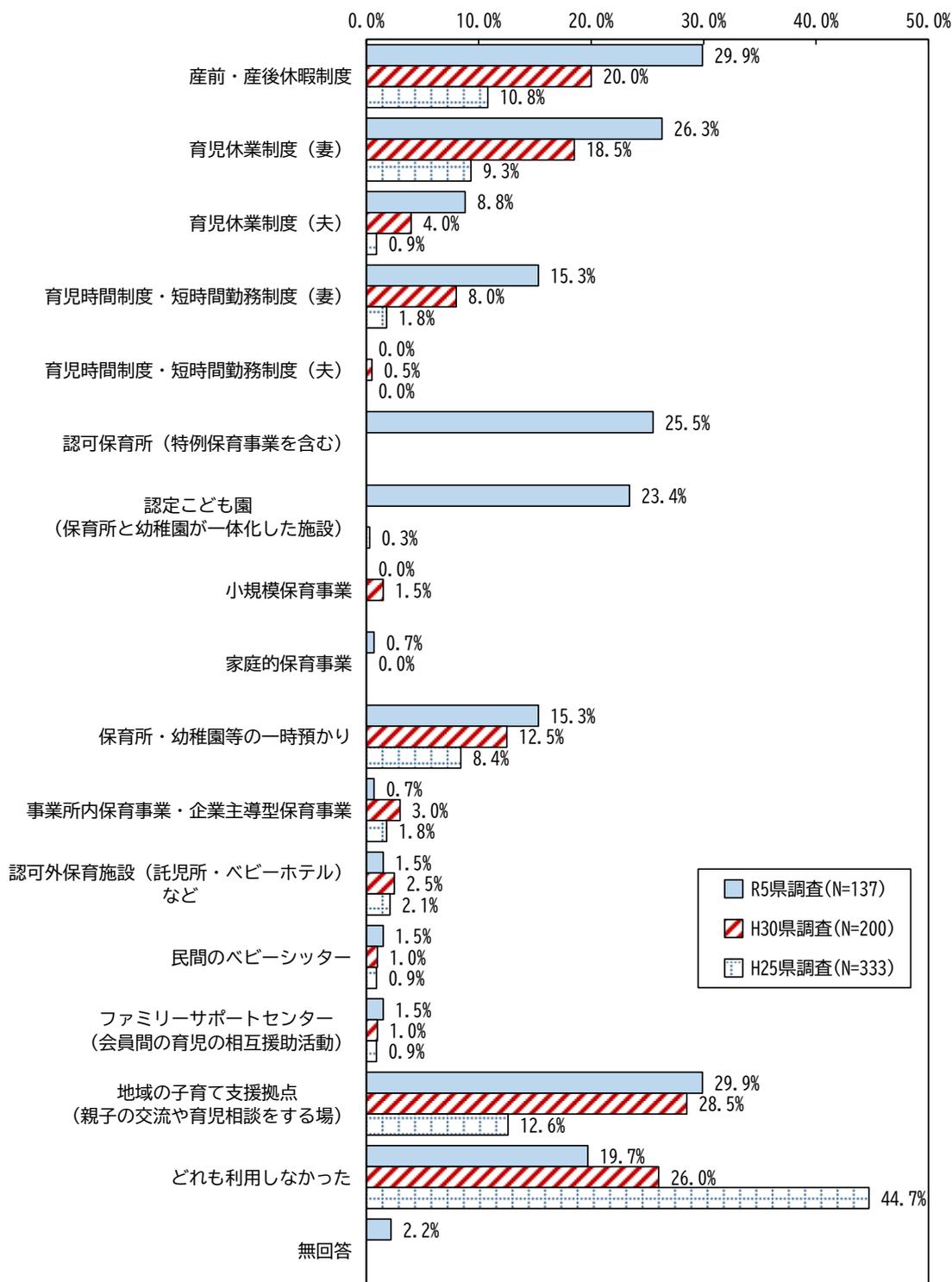
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 第三子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況（過去調査比較）



※R5 県調査、H30 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦、H25 県調査は子どもがいる初婚同士の夫婦の妻

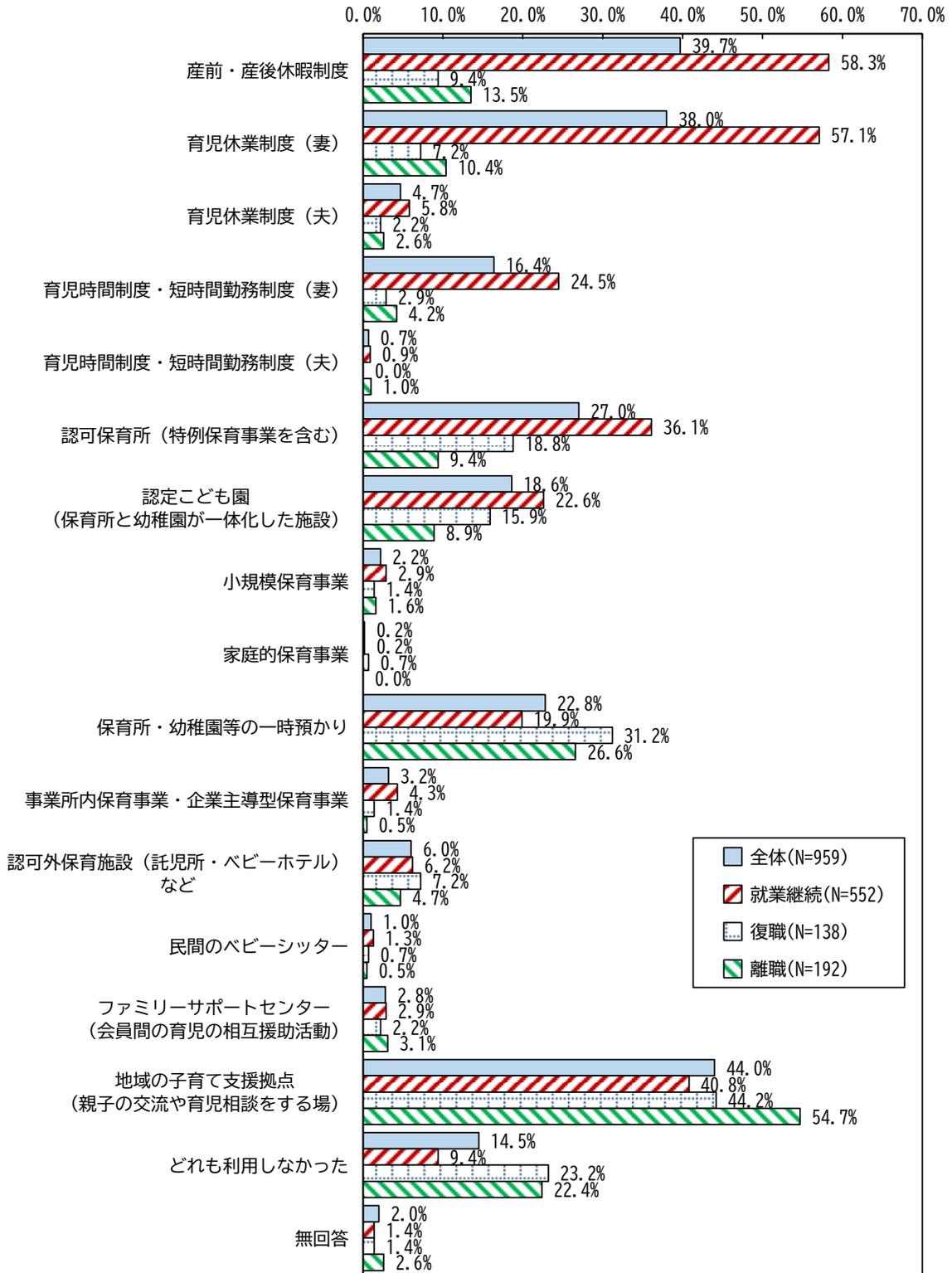
※H30 県調査、H25 県調査は「育児時間制度・短時間勤務制度」は「短時間勤務制度」、「事業所内保育事業・企業主導型保育事業」は「事業所内保育事業」であった。また、「認可保育所」は公立・私立の区別があった。また、無回答は掲載なし

※H30 県調査は「認定子ども園」は公立・私立の区別があった

※「小規模保育事業」「家庭的保育事業」は H30 県調査からの項目

※H25 県調査は「民間のベビーシッター」は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」であった

図表 妻の就労継続状況別・第一子が3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況

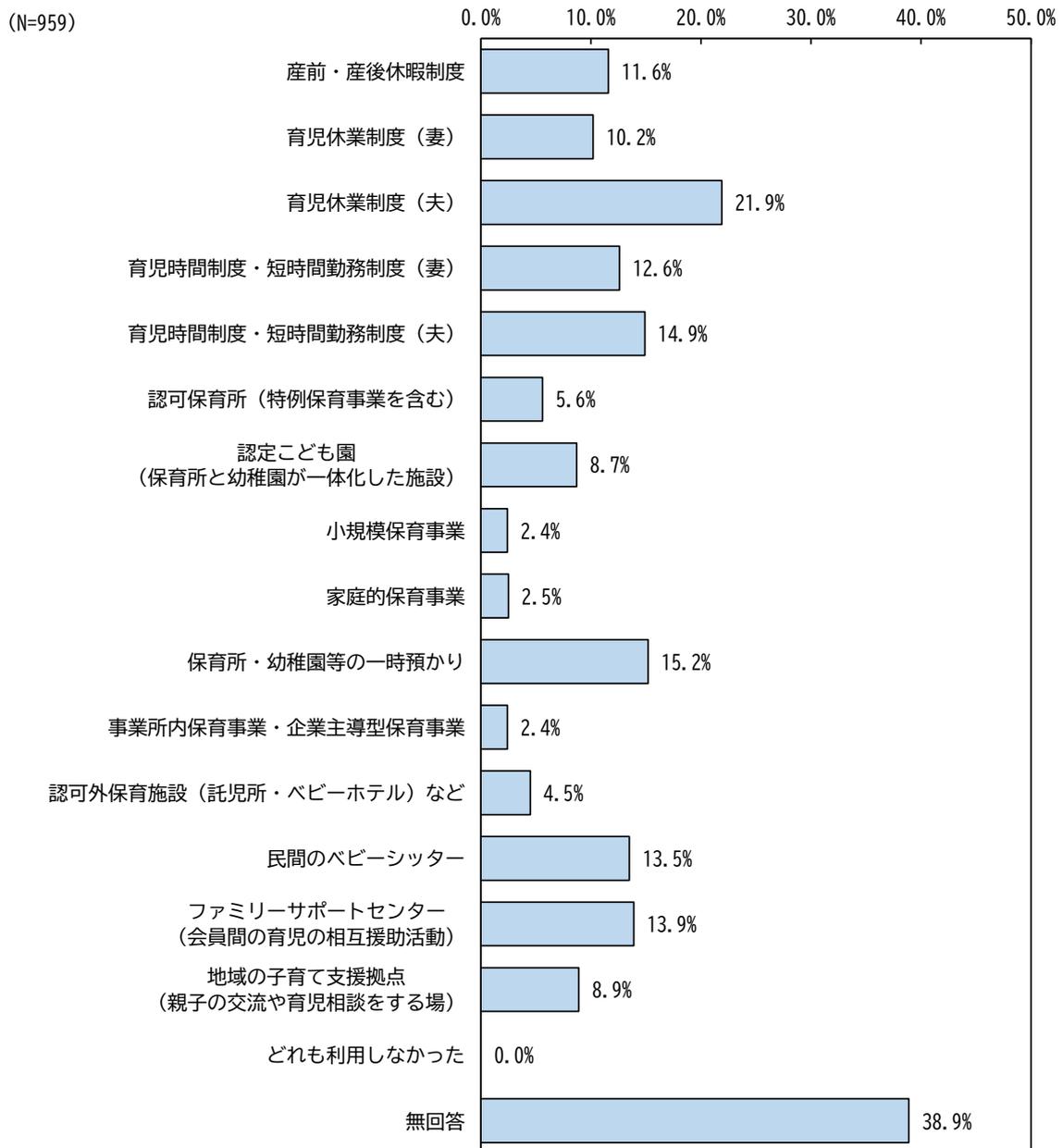


(7) 実際に利用してみたい(したかった)制度や施設

問 24-1 実際に利用してみたい(利用したかった)各制度や施設はどれですか。上記問 24 の 1~15 からあてはまるものすべての番号を選んでください。

実際に利用してみたい(利用したかった)制度や施設をみると、「育児休業制度(夫)」が21.9%で最も多く、次いで、「保育所・幼稚園等の一時預かり」が15.2%、「育児時間制度・短時間勤務制度(夫)」が14.9%となっている。

図表 実際に利用してみたい(したかった)制度や施設



※新規質問項目

## 8 自由記述意見

番号	項目	件数	主な意見	夫	妻	不明	計
1	結婚に関する こと	9	結婚への期待をもてるような環境づくりを望む	2	1	0	3
2			出会いの場の提供を望む	0	3	0	3
3			その他	1	2	0	3
4	妊娠・出産に関 すること	61	妊娠・出産時の費用の補助を増やす、または無償化してほしい	10	15	1	26
5			不妊治療の助成を充実させてほしい、年齢制限が不満	3	12	0	15
6			妊娠・出産に関する情報提供を望む	1	3	0	4
7			子どもを産みやすい環境整備を望む	1	2	0	3
8			産後ケアサービスをもっと気軽に使いたい	0	2	0	2
9			産後ケアをもっと充実してほしい	0	2	0	2
10			妊娠・出産に関する意識改善が必要	1	1	0	2
11			その他	1	6	0	7
12	子育て支援制度 に関する こと	57	子育て支援制度、サービスの充実を望む	6	22	1	29
13			子育て支援の地域格差を是正してほしい	1	5	0	6
14			障害を持つ親、または子に対する支援の充実を望む	0	6	0	6
15			相談体制を強化してほしい	0	4	0	4
16			子育てしやすい街にしてほしい	1	1	0	2
17	その他	1	9	0	10		
18	子育て環境・地 域連携に関す ること	65	公園、子どもの遊び場・施設を増やして欲しい、整備してほしい	5	37	0	42
19			子育て環境を整えてほしい	1	3	0	4
20			ファミリーサポート、託児の利用をやすくしてほしい	0	2	0	2
21			子どもの通学を安全なバス送迎にしてほしい	0	2	0	2
22			子どもや障害児への医療体制を整えてほしい	1	1	0	2
23			その他	5	8	0	13
24	経済的な子育て 支援に関する こと	132	経済的支援をしてほしい	10	17	1	28
25			育児・教育費用の助成を手厚くしてほしい	5	8	0	13
26			経済的な子育て支援は大学まで継続してほしい	1	10	1	12
27			経済的な子育て支援の所得格差を無くしてほしい	2	9	0	11
28			高校の完全無償化をしてほしい	0	7	1	8
29			子供の数や、世帯収入での支援格差は無くすべき	0	8	0	8
30			税金が高い上に、保育料などの負担が大きい	1	6	0	7
31			医療費補助をしてほしい	1	5	0	6
32			経済的な子育て支援の地域格差を無くしてほしい	2	3	0	5
33			公立・私立高校の学費を無償化してほしい	1	4	0	5
34			給食費を無償化してほしい	2	2	0	4
35			教育費用の助成を手厚くしてほしい	0	3	0	3
36			子育て支援クーポンが欲しい・充実してほしい	0	3	0	3
37			高校・大学費用の負担を軽減してほしい	0	2	0	2
38			多子世帯への経済的支援をしてほしい	2	0	0	2
39			その他	0	15	0	15

番号	項目	件数	主な意見	夫	妻	不明	計
40	経済支援に関する こと	63	所得向上に向けた取組みをしてほしい	7	19	0	26
41			経済的に余裕がなければ理想の子どもの人数は増えない	3	7	1	11
42			物価上昇により生活がしづらい	2	7	1	10
43			経済的に余裕がないと子どもの進路の選択肢が用意できない	2	6	0	8
44			自営業・個人事業主の育休・子どもの病欠時の給料保証をしてほしい	1	1	0	2
45			その他	0	6	0	6
46	ワークライフバ ランスに関する こと	43	フレックス制など柔軟な就労形態が進むことが重要	0	18	0	18
47			家庭と仕事の両立が難しい	1	5	0	6
48			子どもの送迎のために長く働けない	1	3	0	4
49			休みがとりづらい労働環境である	1	2	0	3
50			ワークライフバランスの推進するための施策を望む	1	1	0	2
51			職場の意識改善が重要	0	2	0	2
52			働くことで子どもと過ごす時間が少なくなる	0	2	0	2
53			その他	1	5	0	6
54	保育に関するこ と	63	待機児童問題を解消し、希望者全員が希望の保育園を利用できるようにしてほしい	4	4	0	8
55			保育士の確保、待遇改善が必要である	1	5	0	6
56			保育士の労働環境の改善、地位の向上	2	4	0	6
57			保育所に入れない・入りにくい	0	5	0	5
58			保育制度の改善	0	5	0	5
59			病児保育、一時預かり、早朝保育、夜間保育、休日保育を充実させてほしい	0	4	0	4
60			保育園の増設を望む（土日含む）	1	3	0	4
61			保育料が高い	2	2	0	4
62			育休中、保育園退園なしの制度にしてほしい	0	3	0	3
63			育休退園の改善	0	2	0	2
64			収入による保育料格差の解消をしてほしい	1	1	0	2
65			その他	4	9	1	14
66			教育に関するこ と	23	子育てに関する教育を行う	1	8
67	教育環境の改善	0			5	0	5
68	障害児、不登校に対する支援の強化	1			1	0	2
69	その他	1			5	0	6
70	本調査に関する こと	41	設問が多い、問題がある	3	18	1	22
71			オンライン回答にしてほしい	6	6	0	12
72			調査結果を有効活用してほしい	2	2	0	4
73			その他	2	1	0	3
74	その他の意見・ 要望	77	意識改善が重要	4	6	1	11
75			就労環境の改善が重要	3	6	0	9
76			少子化対策の推進	5	3	0	8
77			よりよい政策を望む	0	7	0	7
78			情報提供を工夫してほしい	1	3	0	4
79			里親や特別養子縁組の取組みの推進	0	4	0	4
80			交通が不便	1	1	0	2
81			子育てしやすいまちになることを望む	1	1	0	2
82			子育てや介護による女性の負担が大きい	0	2	0	2
83			若年者向けの支援が不足している	1	1	0	2
84			税金が適切に使われていない	2	0	0	2
85			発達障害児への支援・サービスの強化を望む	0	2	0	2
86			その他	12	10	0	22

### 第3章 独身者調査の結果

#### 1 回答者の属性

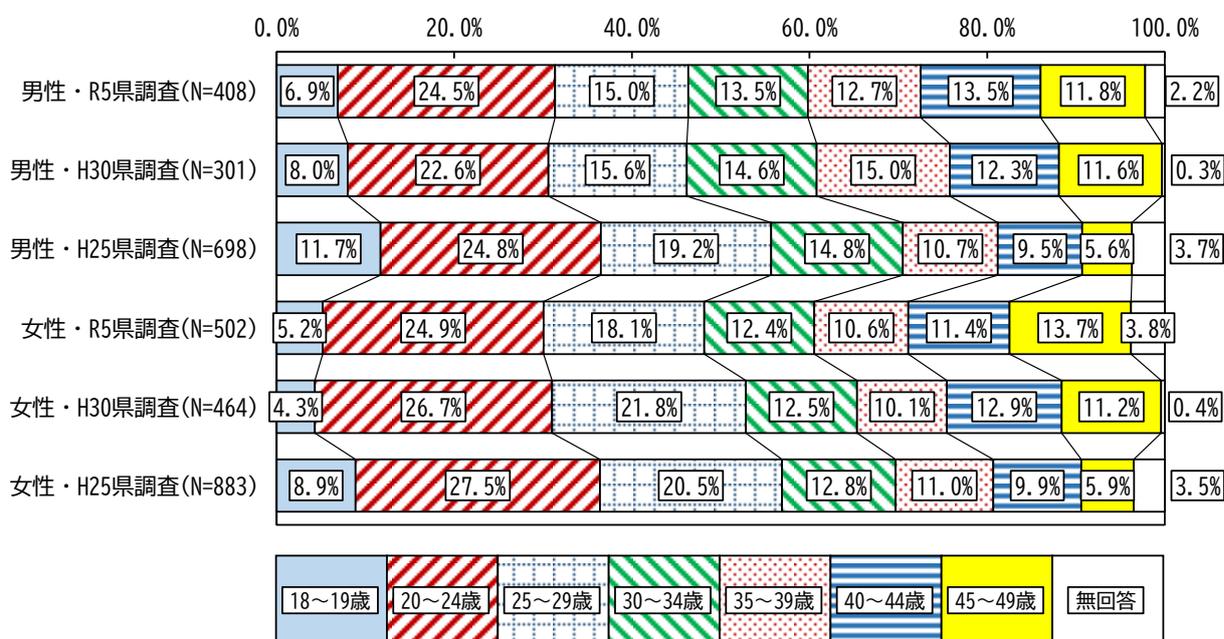
##### (1) 年齢

問23 ①にあなたの出生年月を、②にあなたの性別を記入してください。また、③親との同居/別居について、あてはまる番号に○をつけてください。

年齢構成をみると、男性では「20～24歳」が24.5%で最も多く、次いで「25～29歳」が15.0%、「30～34歳」「40～44歳」がともに13.5%となっている。前回調査に比べて、18～19歳、25～39歳の割合が低下し、20～24歳、40歳代の割合が上昇している。

女性では「20～24歳」が24.9%で最も多く、次いで「25～29歳」が18.1%、「45～49歳」が13.7%となっている。前回調査に比べて、20～34歳、40～44歳の割合が低下し、18～19歳、35～39歳、45歳～49歳の割合が上昇している。

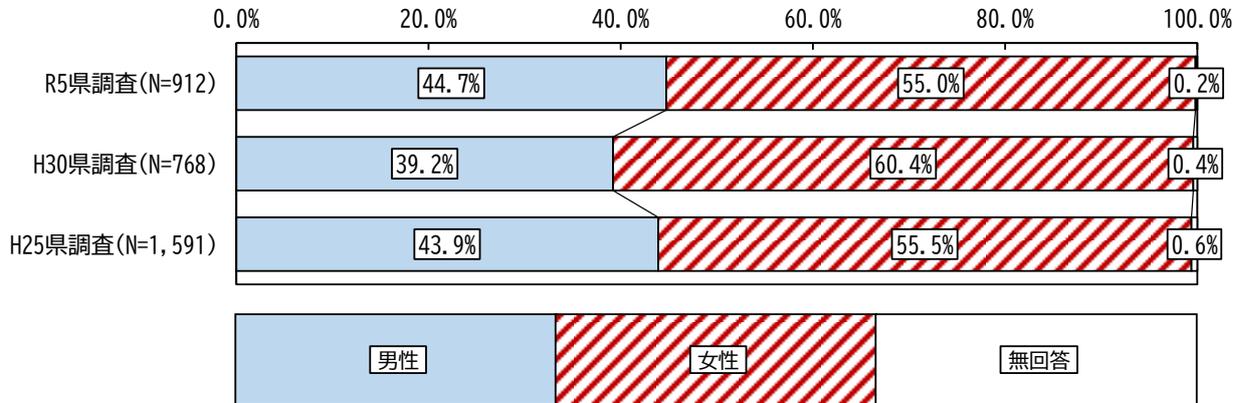
図表 年齢構成



## (2) 性別

回答者の性別をみると、「男性」が44.7%、「女性」が55.0%と、女性のほうが10.3ポイント高い。前回調査に比べて、男性の割合が5.5ポイント上昇し、女性の割合が5.4ポイント低下している。

図表 性別

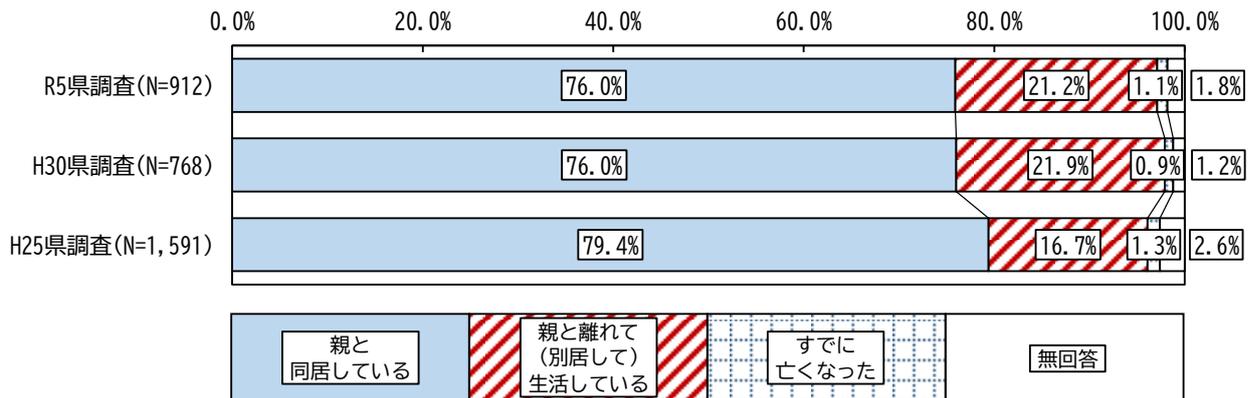


## (3) 親との同居/別居

親との同居/別居の状況をみると、「親と同居している」が76.0%で最も多く、次いで「親と離れて（別居して）生活している」が21.2%となっている。

前回調査に比べて、「親と離れて（別居して）生活している」の割合が0.7ポイント低下し、「親と同居している」の割合は前回調査と変わっていない。

図表 親との同居/別居

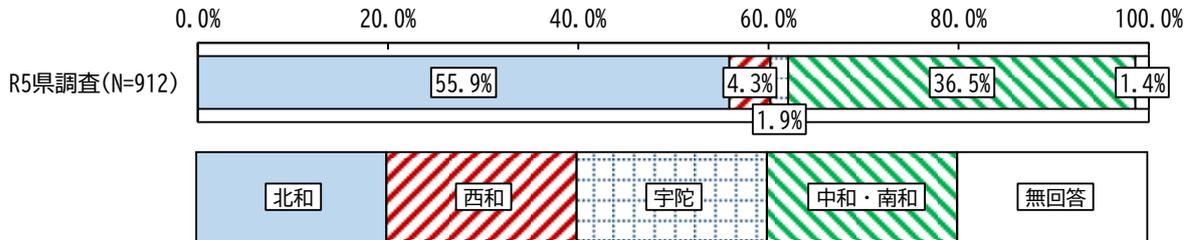


(4) お住まいの市町村

問24 あなたのお住まいの地域を記入してください。(市町村名)

お住まいの地域をみると、「北和」が55.9%で最も多く、次いで「中和・南和」が36.5%、「西和」が4.3%となっている。

図表 お住まいの市町村



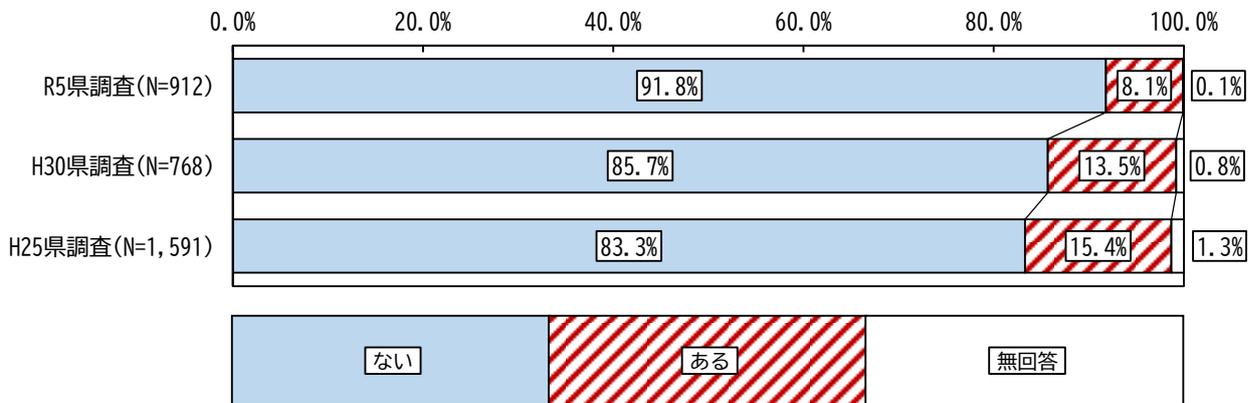
※新規質問項目

(5) 結婚経験の有無

問25 あなたはこれまでに結婚（届出をしたもの）をしたことがありますか。

結婚経験の有無をみると、「ない」が91.8%、「ある」が8.1%と、「ない」ほうが83.7ポイント高い。前回調査に比べて、有無の割合に大きな変化はない。

図表 結婚経験の有無



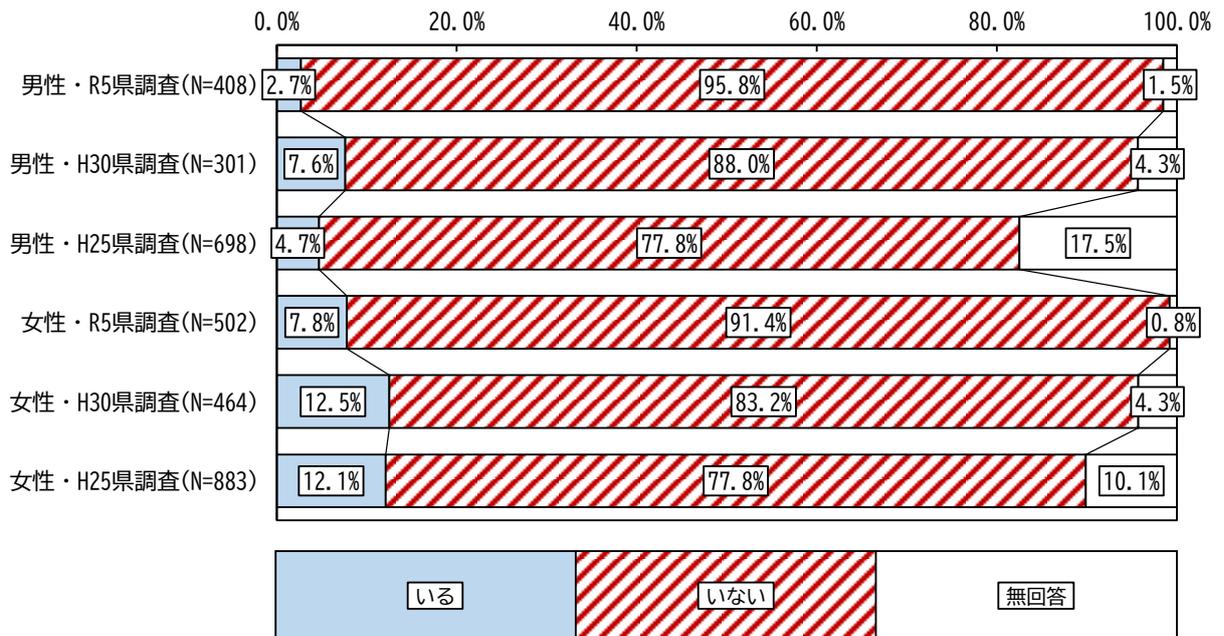
(6) 子どもの有無・人数

問25-1① あなたに現在お子さんはいますか（成人を含む）。①の1. に○をつけた方は、右側②にお子さんの数を記入してください。

①子どもの有無

子どもの有無をみると、男性ではいる割合が 2.7%となっており、女性ではいる割合が 7.8%となっている。

図表 子どもの有無

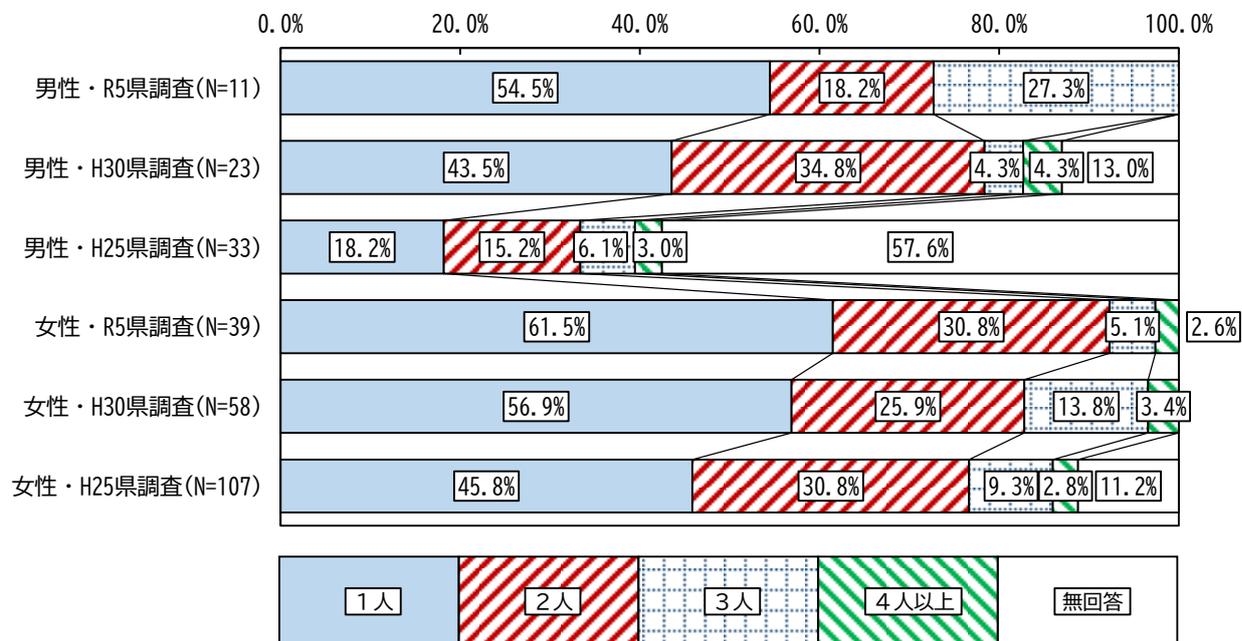


## ②子どもの数

子どもの数をみると、男性では「1人」が54.5%で最も多く、次いで「3人」が27.3%、「2人」が18.2%となっている。

女性では「1人」が61.5%で最も多く、次いで「2人」が30.8%、「3人」が5.1%となっている。

図表 子どもの数



## 2 就労状況

### (1) 就労形態・職種・勤め先の従業員数

問26 あなたのお仕事についておたずねします。a、bの2つの時期について、それぞれ①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。  
①おつとめの状況

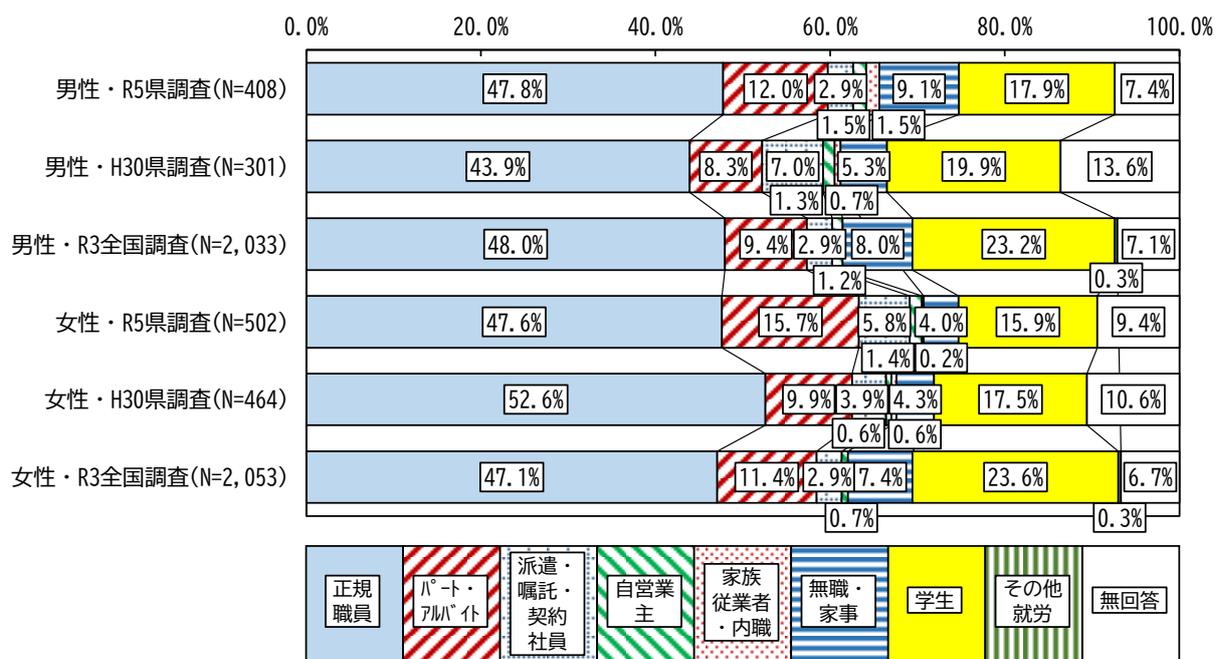
#### ①就労形態

現在の就労の有無をみると、就労している割合は、男性では66.4%、女性では70.1%となっている。前回調査に比べて、就労している割合には大きな変化はみられない。

就労形態をみると、男性では「正規職員」が46.1%で最も多くなっている。「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用職員は13.7%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

女性では「正規職員」が48.6%で最も多くなっている。「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用職員は17.2%となっている。前回調査に比べて、「正規職員」の割合が4.6ポイント上昇し、非正規雇用職員の割合が3.5ポイント低下している。

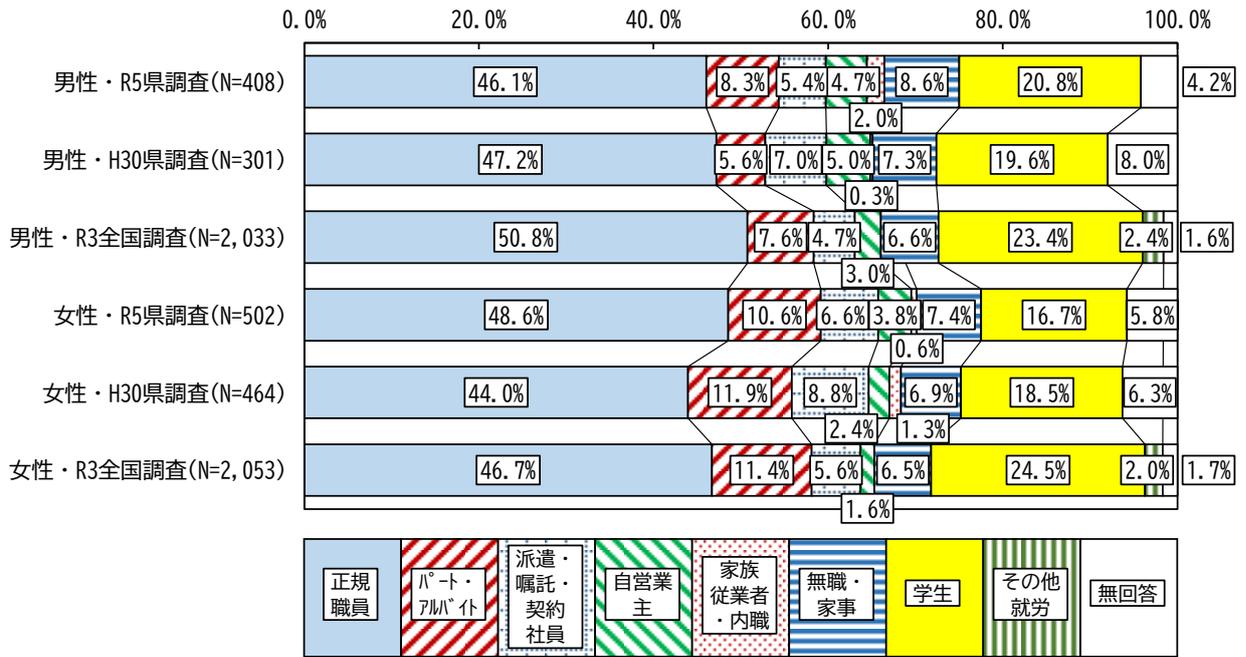
図表 就労形態 a. 最後に学校を卒業した直後



※R3 全国調査は「自営業主・家族従業者」が1項目にまとめられている

※「その他就労」はR3 全国調査のみ

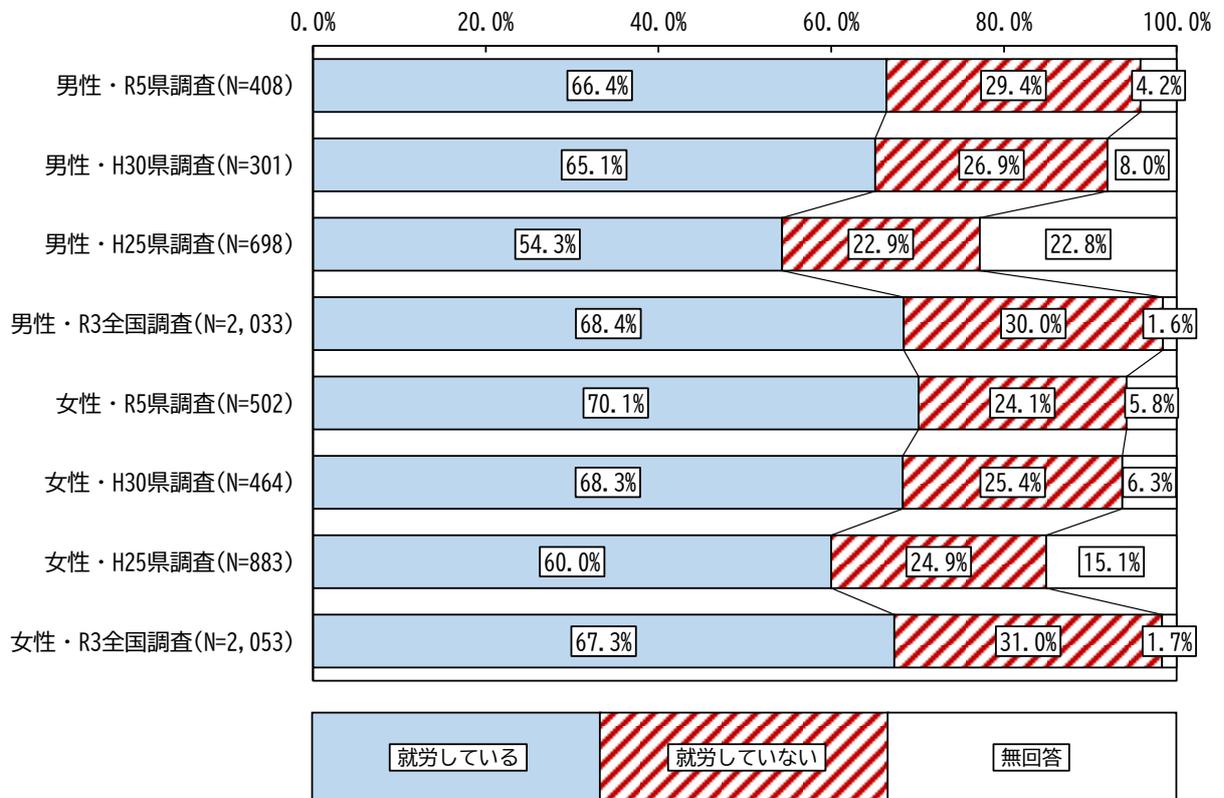
図表 就労形態 b. 現在



※R3 全国調査は「自営業主・家族従業者」が1項目にまとめられている

※「その他就労」はR3 全国調査のみ

図表 現在の就労の有無

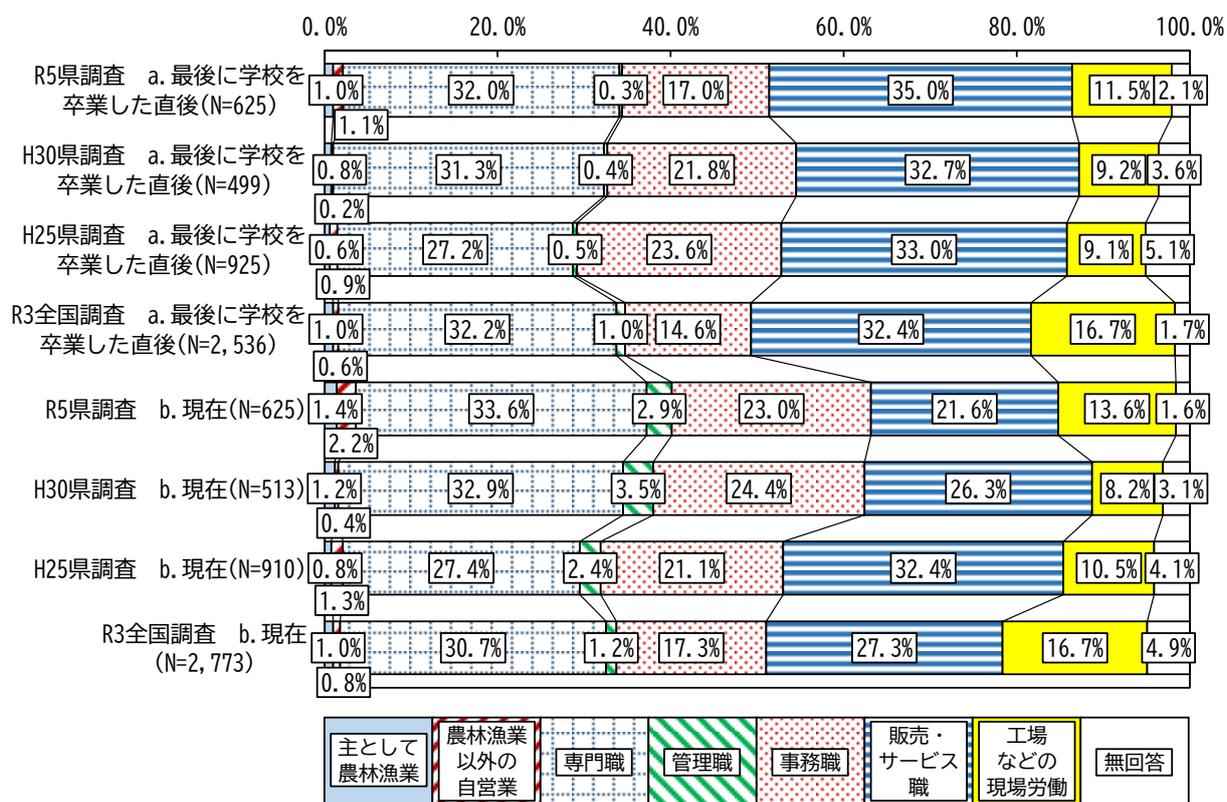


## ②職種

時期別に職種をみると、最後に学校を卒業した直後では「販売・サービス職」が35.0%で最も多く、次いで「専門職」が32.0%、「事務職」が17.0%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

現在では「専門職」が33.6%で最も多く、次いで「事務職」が23.0%、「販売・サービス職」が21.6%となっている。前回調査に比べて、「販売・サービス職」の割合が4.7ポイント低下している。

図表 職種

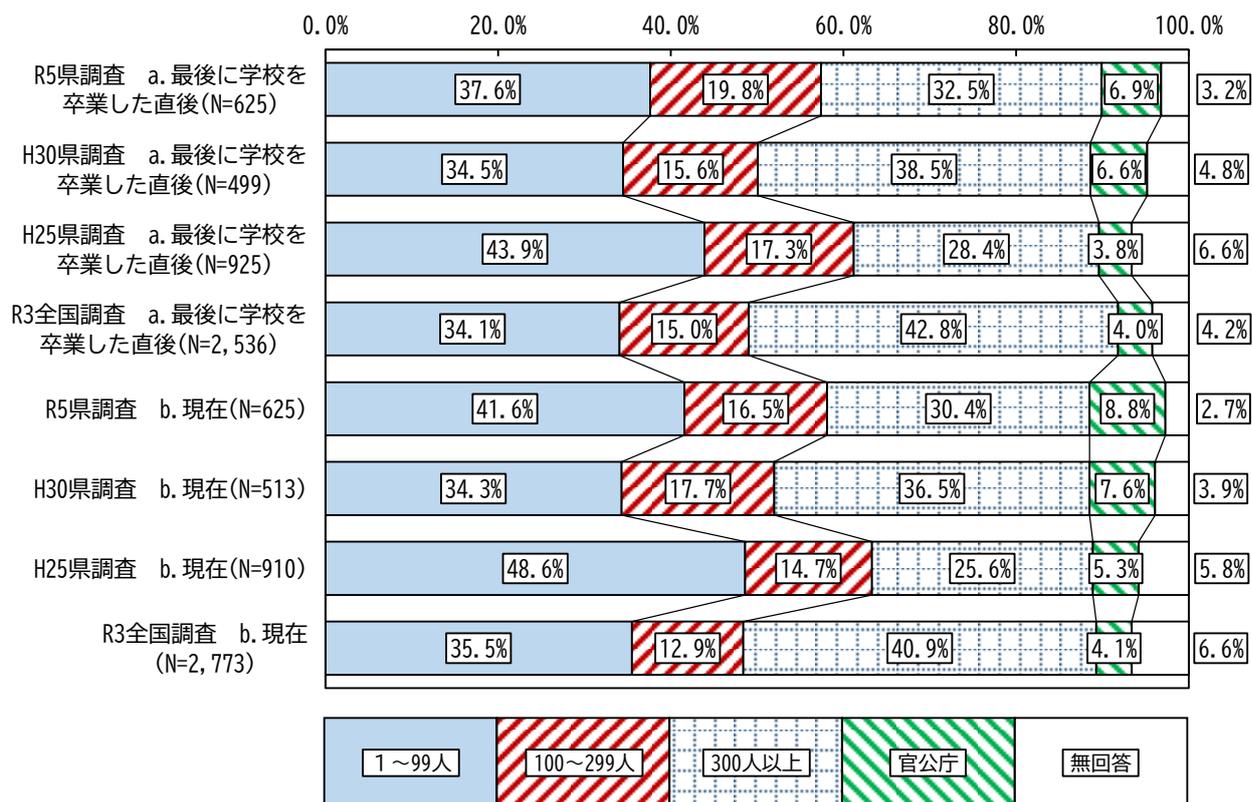


### ③勤め先の従業員数

時期別に勤め先の従業員数をみると、最後に学校を卒業した直後では「1～99人」が37.6%で最も多く、次いで「300人以上」が32.5%、「100～299人」が19.8%となっている。前回調査に比べて、「1～99人」の割合が3.1ポイント上昇し、「300人以上」の割合が6.0ポイント低下している。

現在では「1～99人」が41.6%で最も多く、次いで「300人以上」が30.4%、「100～299人」が16.5%となっている。前回調査に比べて、「1～99人」の割合が7.3ポイント上昇し、「300人以上」の割合が6.1ポイント低下している。

図表 勤め先の従業員数



## (2) 就労状況

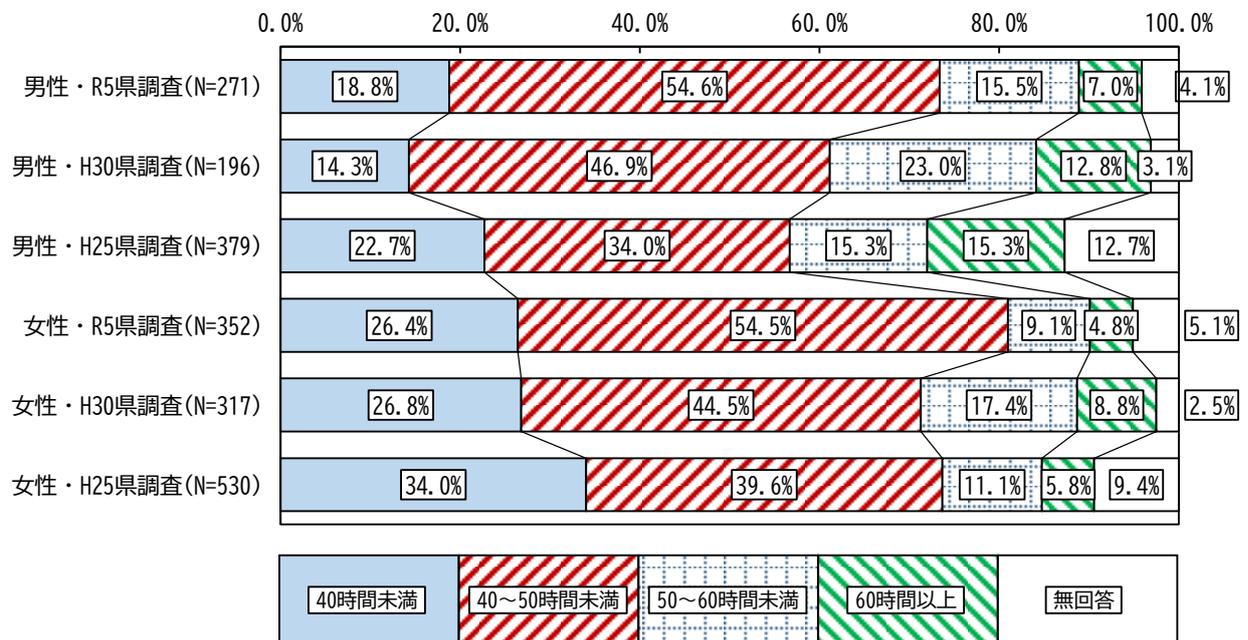
問27 あなたの現在のお仕事について、次の①～⑤までの項目について数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

### ①一週間の平均的な労働時間

1週間の平均的な労働時間をみると、男性では「40～50時間未満」が54.6%で最も多く、次いで「40時間未満」が18.8%となっている。前回調査に比べて、「40～50時間未満」の割合が7.7ポイント上昇し、「50～60時間未満」の割合が7.5ポイント低下している。

女性では「40～50時間未満」が54.5%で最も多く、次いで「40時間未満」が26.4%となっている。前回調査に比べて、「50～60時間未満」の割合が8.3ポイント低下し、「40～50時間未満」の割合が10.0ポイント上昇している。

図表 一週間の平均的な労働時間

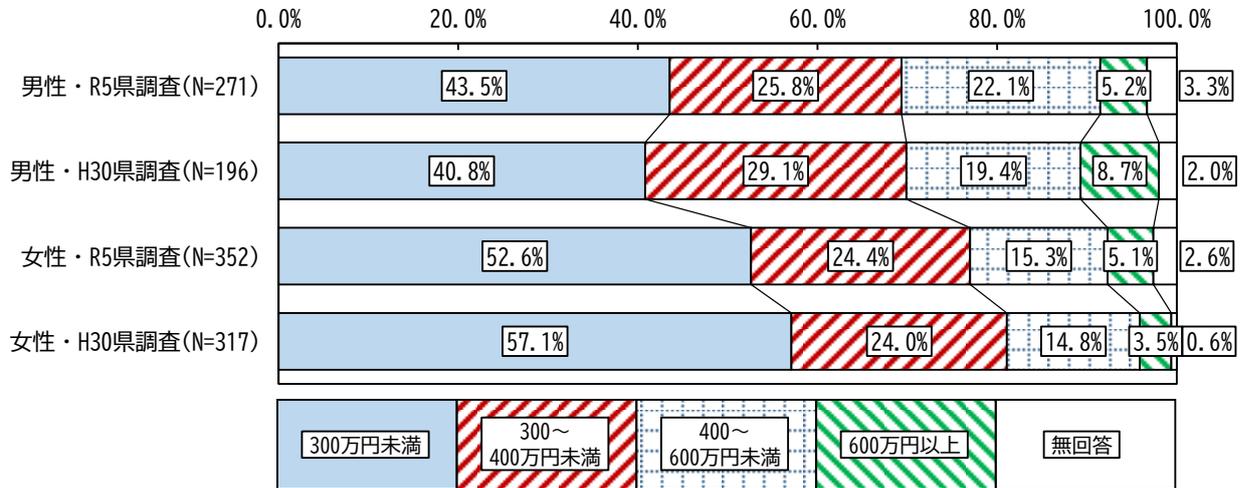


## ②年間の収入

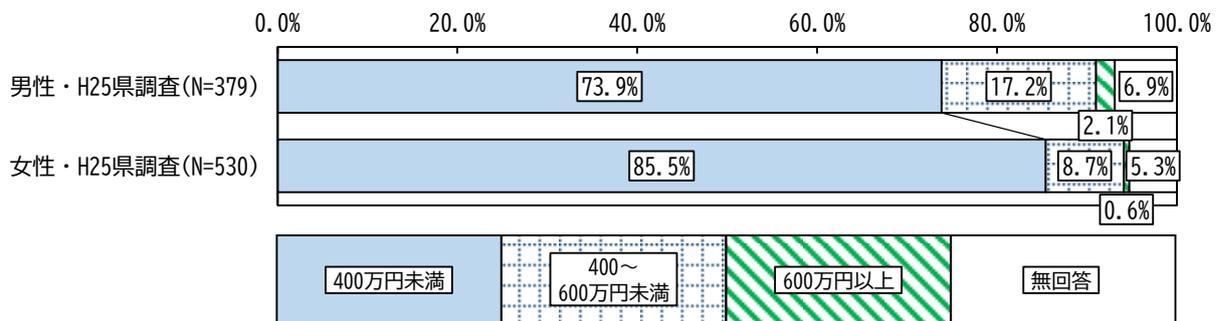
年間の収入をみると、男性では「300万円未満」が43.5%で最も多く、次いで「300～400万円未満」が25.8%となっている。

女性では「300万円未満」が52.6%で最も多く、次いで「300～400万円未満」が24.4%となっている。

図表 勤労者の年間収入



図表 勤労者の年間収入 (H25 県調査)

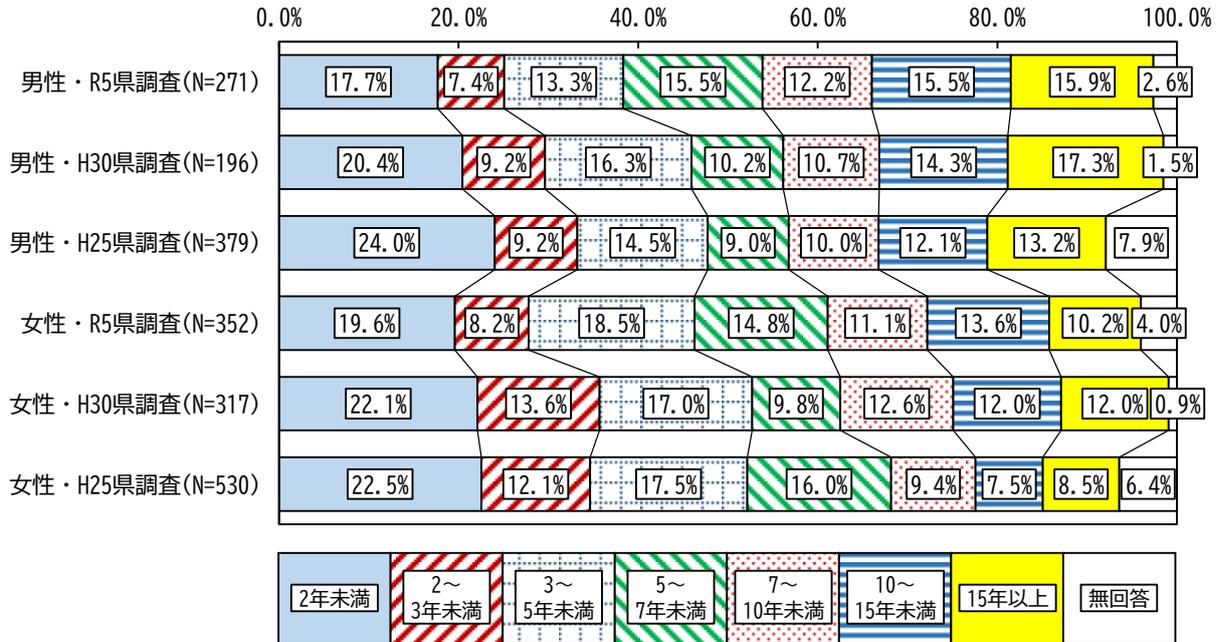


### ③仕事の継続年数

現在の仕事の継続年数をみると、男性では「2年未満」が17.7%で最も多く、次いで「15年以上」が15.9%、「5～7年未満」と「10～15年未満」がともに15.5%となっている。前回調査に比べて、「5～7年未満」の割合が5.3ポイント上昇している。

女性では「2年未満」が19.6%で最も多く、次いで「3～5年未満」が18.5%、「5～7年未満」が14.8%となっている。前回調査に比べて、「2～3年未満」の割合が5.4ポイント低下している。

図表 現在の仕事の継続年数

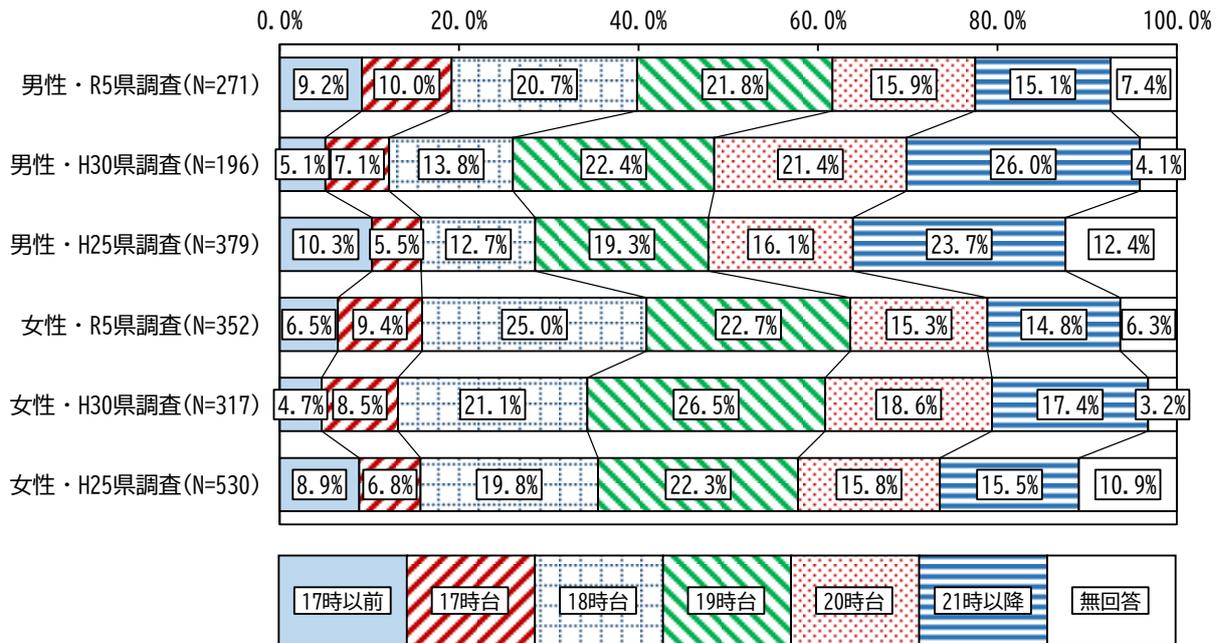


#### ④平均的な帰宅時刻

平均的な帰宅時刻をみると、男性では「19時台」が21.8%で最も多く、次いで「18時台」が20.7%、「20時台」が15.9%となっている。前回調査に比べて、「21時以降」の割合が10.9ポイント低下し、「18時台」の割合が6.9ポイント上昇している。

女性では「18時台」が25.0%で最も多く、次いで「19時台」が22.7%、「20時台」が15.3%となっている。前回調査に比べて、「19時台」の割合が3.8ポイント低下し、「18時台」の割合が3.9ポイント上昇している。

図表 平均的な帰宅時刻

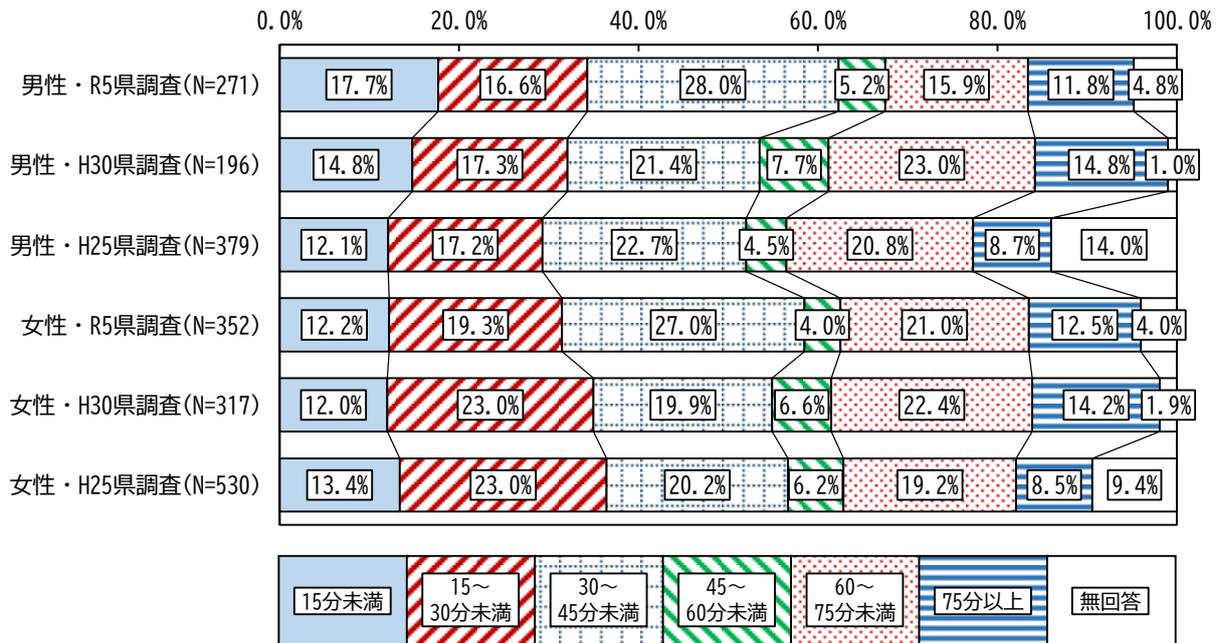


⑤通勤時間（片道）

通勤時間（片道）をみると、男性では「30～45分未満」が28.0%で最も多く、次いで「15分未満」が17.7%、「15～30分未満」が16.6%となっている。前回調査に比べて、「30～45分未満」の割合が6.6ポイント上昇している。

女性では「30～45分未満」が27.0%で最も多く、次いで「60～75分未満」が21.0%、「15～30分未満」が19.3%となっている。前回調査に比べて、「30～45分未満」の割合が7.1ポイント上昇している。

図表 通勤時間



### 3 結婚観

#### (1) 結婚することの利点の有無

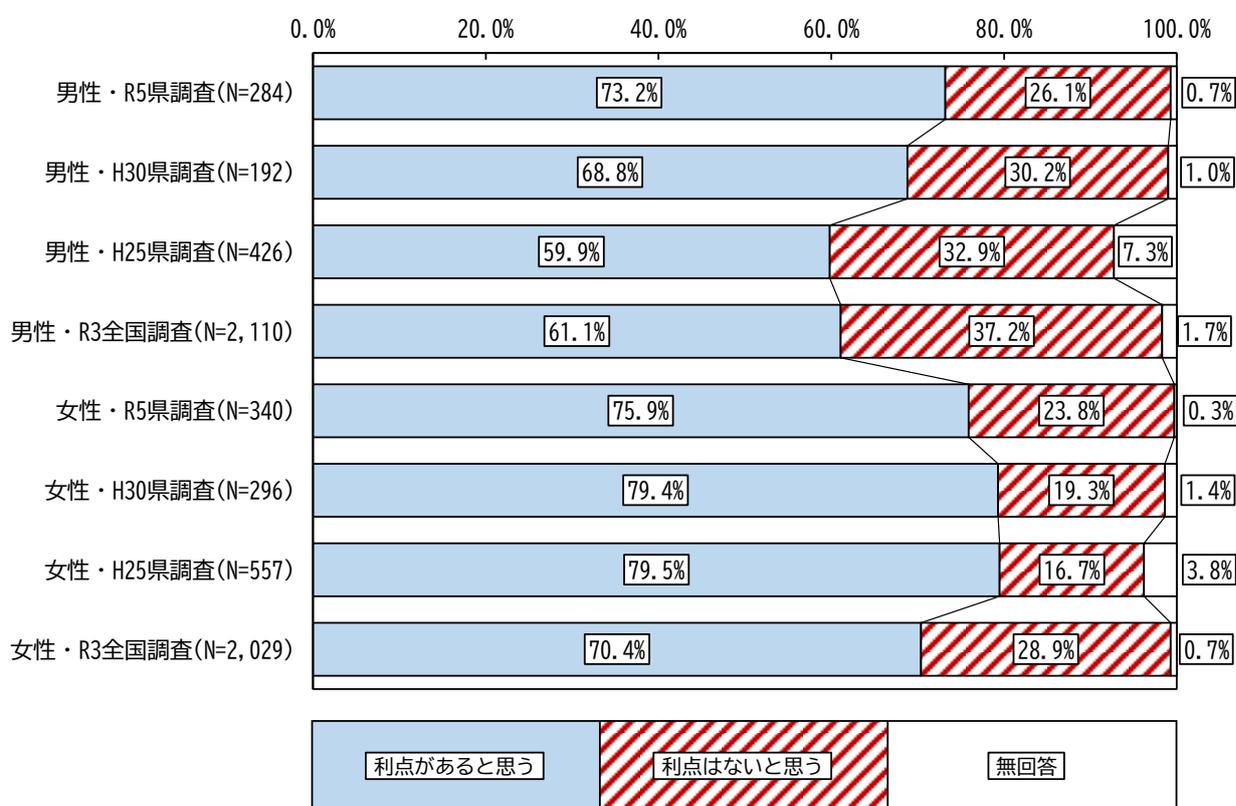
問1 今のあなたにとって、結婚することには何か利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

#### ①結婚することの利点の有無

結婚経験のない20～39歳の、結婚することの利点の有無をみると、男性では「利点があると思う」が73.2%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が4.4ポイント上昇している。

女性では「利点があると思う」が75.9%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が3.5ポイントとわずかながら低下している。

図表 結婚することの利点の有無



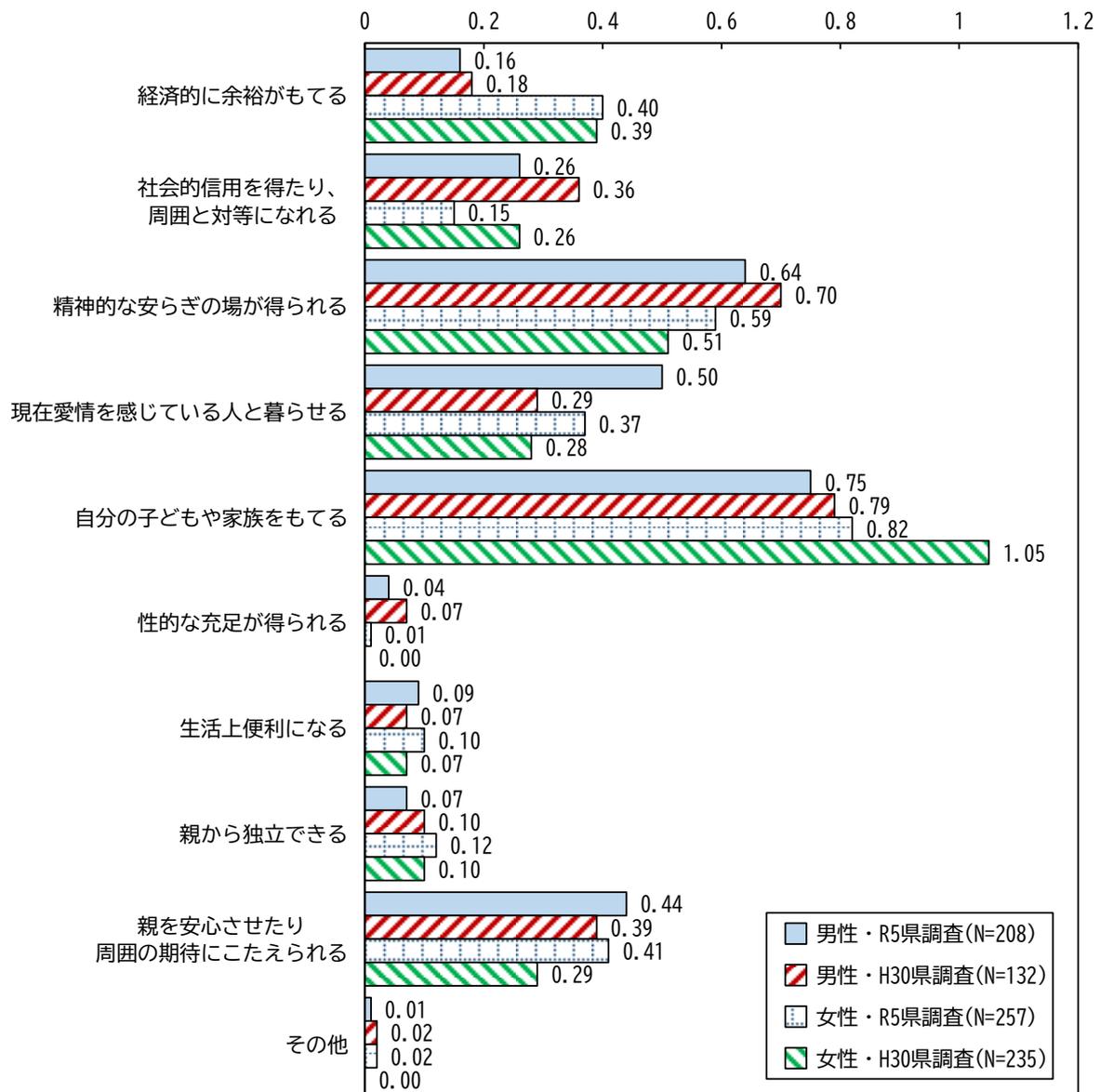
※集計対象：結婚経験のない20～39歳

## ②結婚することの具体的な利点

結婚経験のない20～39歳の、結婚することの具体的な利点をみると、男性では「自分の子どもや家族をもてる」が0.75点で最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」が0.64点、「現在愛情を感じている人と暮らせる」が0.50点となっている。

女性では「自分の子どもや家族をもてる」が0.82点で最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」が0.59点、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」が0.41点となっている。

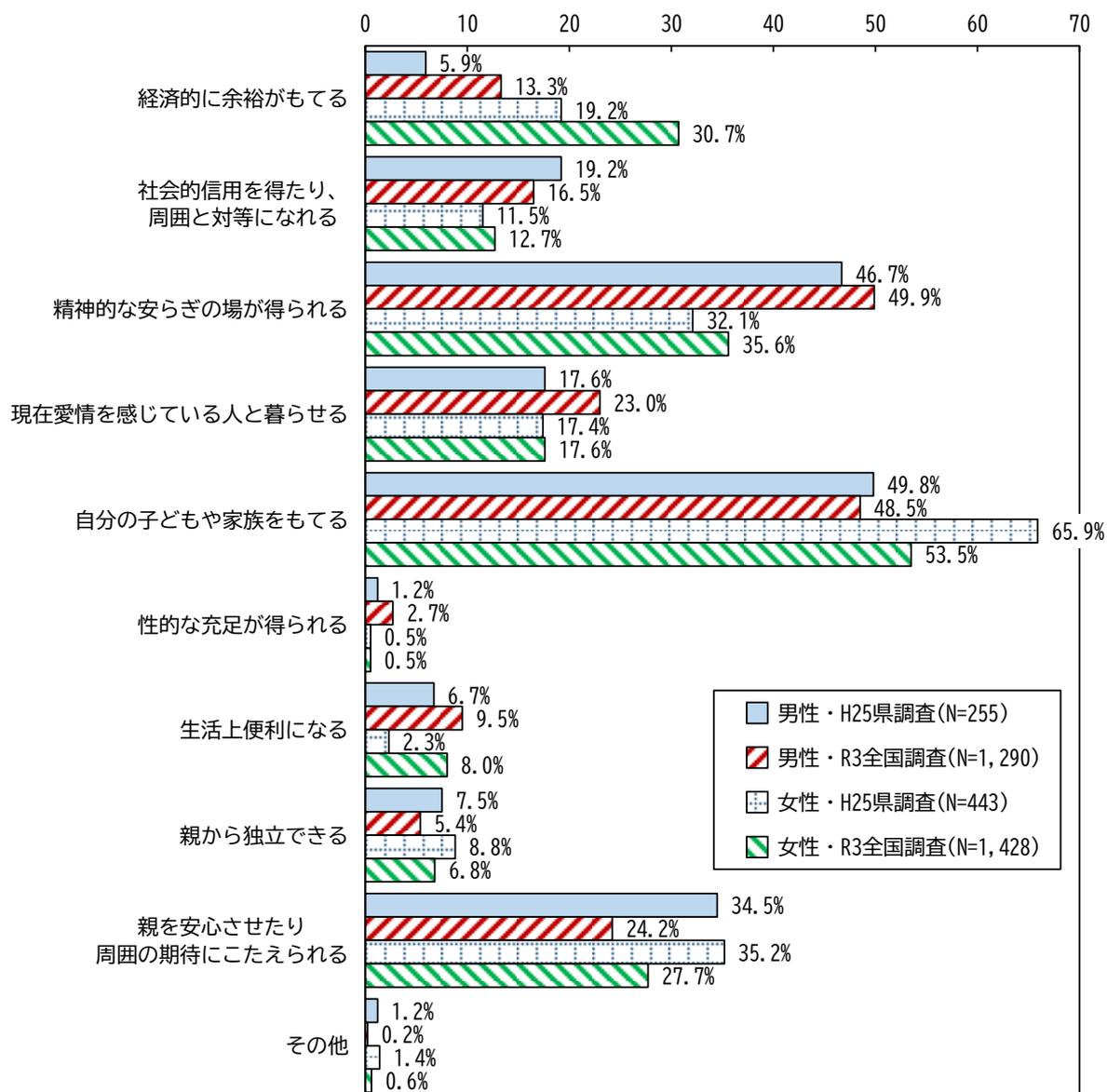
図表 結婚することの具体的な利点（2つ選択）



※集計対象：結婚経験のない20～39歳について、

最大の理由＝2点、第二の理由＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

(参考) 図表 結婚することの具体的な利点 (過去調査)



※集計対象：結婚経験のない20～39歳

## (2) 独身生活の利点の有無

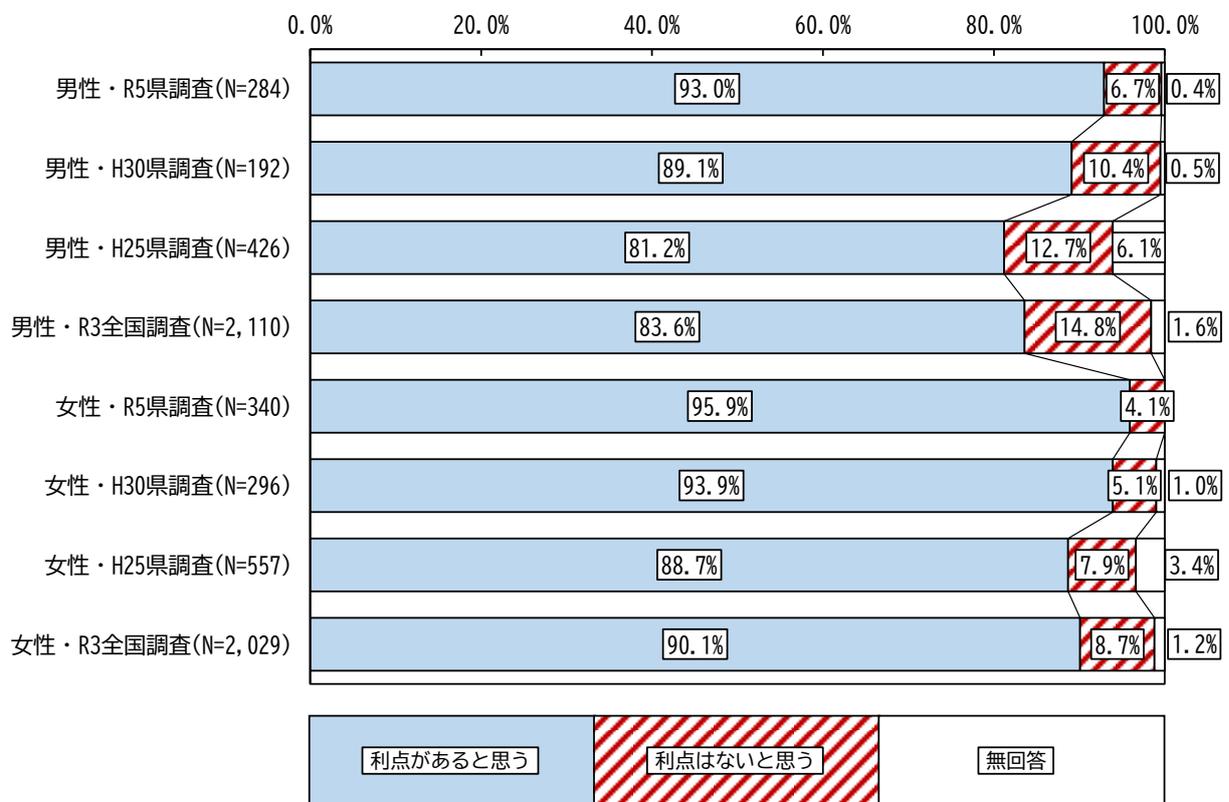
問2 逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

### ①独身生活の利点の有無

結婚経験のない20～39歳の、独身生活の利点の有無をみると、男性では「利点があると思う」が93.0%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が3.9ポイント上昇している。

女性では「利点があると思う」が95.9%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が2.0ポイント上昇している。

図表 独身生活の利点



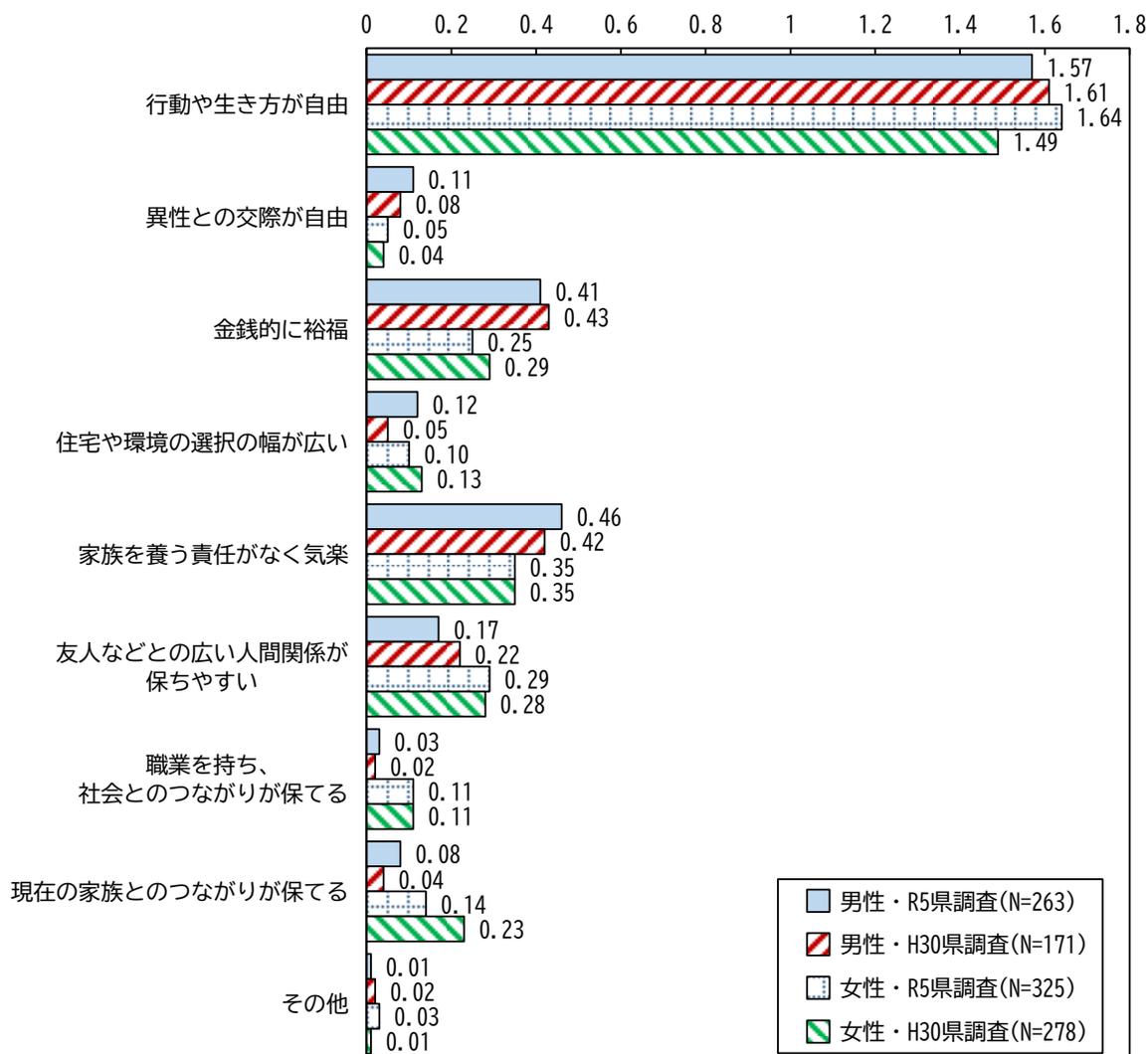
※集計対象：結婚経験のない20～39歳

## ②独身生活の具体的な利点

結婚経験のない20～39歳の、独身生活の具体的な利点をみると、男性では「行動や生き方が自由」が1.57点で最も多く、次いで「家族を養う責任がなく気楽」が0.46点、「金銭的に裕福」が0.41点となっている。

女性では「行動や生き方が自由」が1.64点で最も多く、次いで「家族を養う責任がなく気楽」が0.35点、「友人などとの広い人間関係が保ちやすい」が0.29点となっている。

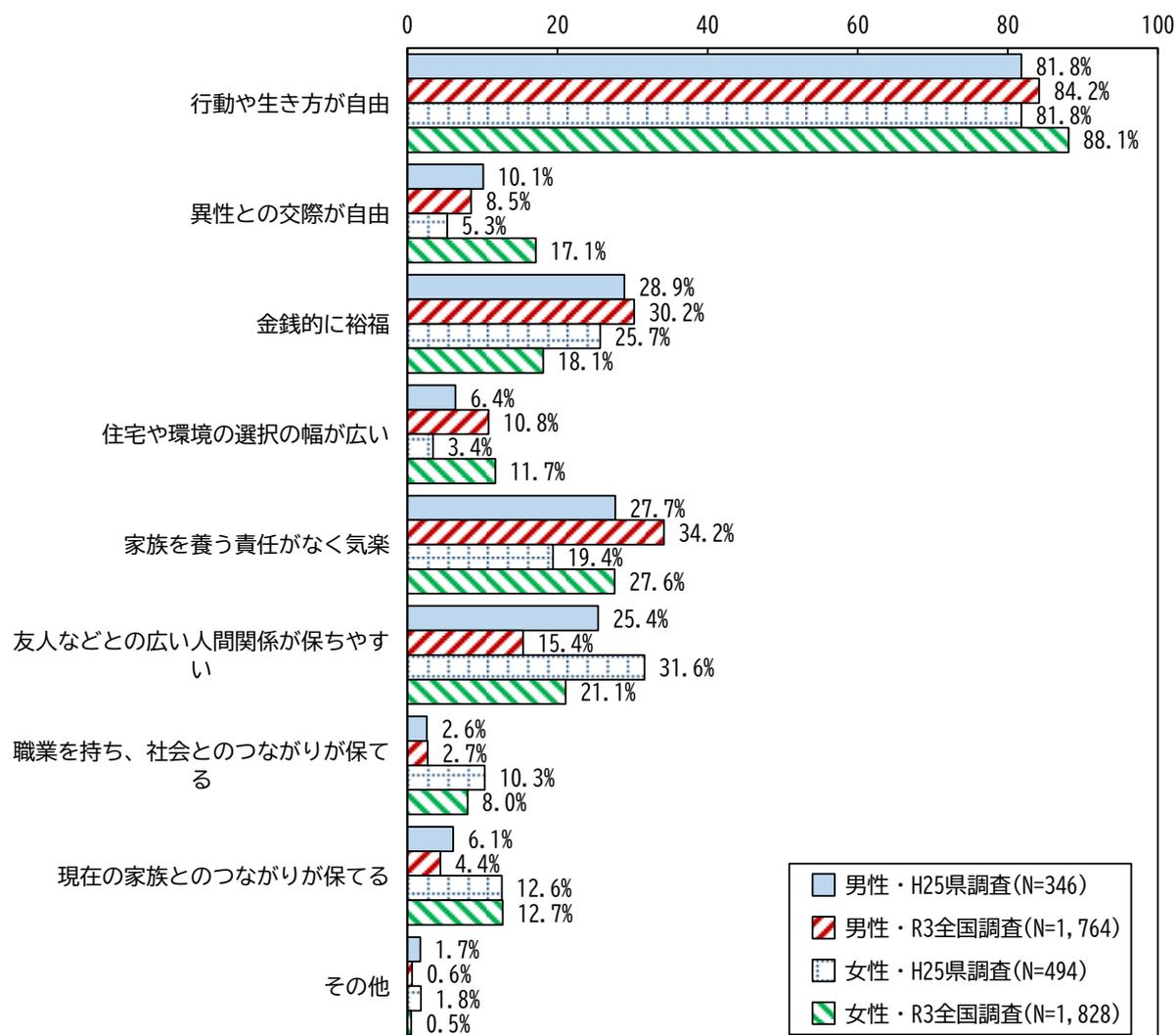
図表 独身生活の具体的な利点（2つ選択）



※結婚経験のない20～39歳について、

最大の理由＝2点、第二の理由＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

(参考) 図表 独身生活の具体的な利点 (過去調査)



※集計対象：結婚経験のない20～39歳

### (3) 希望するライフコース

問3 下記に女性・男性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ最も近いと思われるタイプの番号を選択肢から選び、回答欄に記入してください。

独身者は「結婚・出産・子育て」と「就業」との関係をもどのように考えているのか、理想とするライフコースと実際になりそうなライフコースについてそれぞれたずねた。

#### (3) - 1 女性のライフコース

- ①あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
- ②理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。(女性の方へ)
- ③パートナー(あるいは妻)となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

女性	非婚就業コース	結婚せず、仕事を続ける
	DINKSコース	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
	両立コース	結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける
	再就職コース	結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
	専業主婦コース	結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない

#### 【女性の理想のライフコース】

24歳以下、25～29歳、30～34歳、40～44歳、45～49歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

35～39歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「専業主婦コース」となっている。

#### 【女性の予定のライフコース】

24歳以下、30～34歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」となっている。

25～29歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「非婚就業コース」となっている。

35～39歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

40～44歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「DINKSコース」「両立コース」が同率となっている。

45～49歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「その他」となっている。

前回調査と比べて、25～29歳では「両立コース」「非婚就業コース」、30歳以上では「非婚就業コース」の割合が上昇している。

予定と理想とを比べると、25～29歳以外のすべての年代で「両立コース」を予定する割合が理想より低く、すべての年代で「非婚就業コース」を予定する割合が理想より高くなっている。25～29歳では「両立コース」を予定割合が理想より高くなっている。

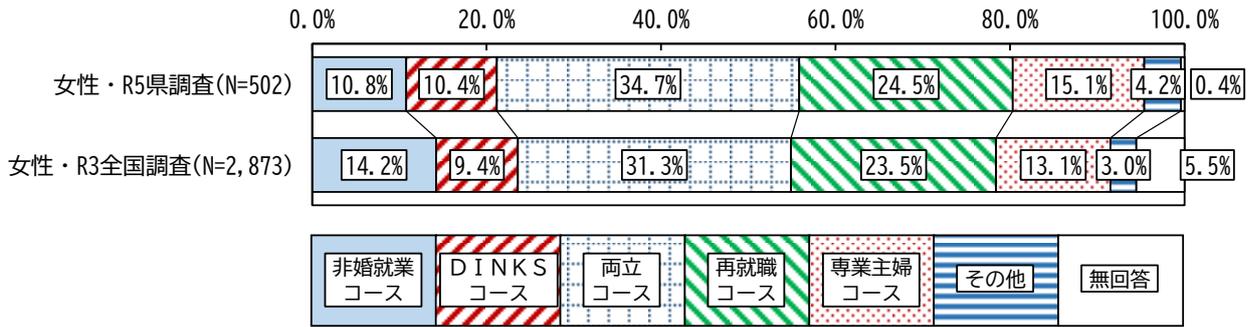
#### 【男性が期待する女性のライフコース】

24歳以下、35～39歳、40～44歳、45～49歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

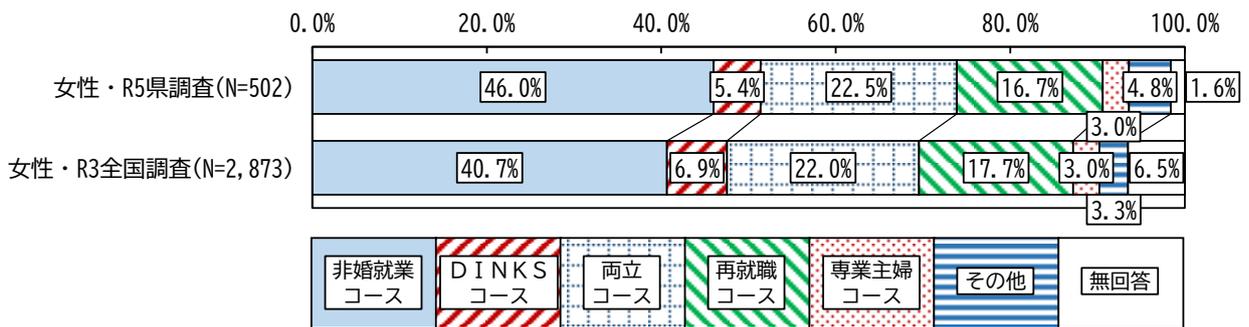
25～29歳、30～34歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」となっている。

女性の理想のライフコースと比べてみると、女性の理想はすべての年代で「専業主婦」「非婚就業コース」の割合が男性の期待より高く、44歳以下の年代で「再就職コース」の割合が男性の期待より低くなっている。

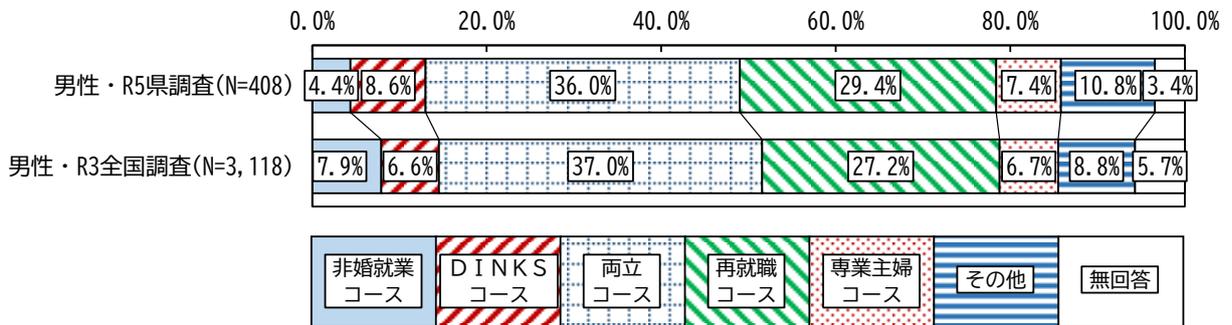
図表 女性が理想とするライフコース（全国調査比較）



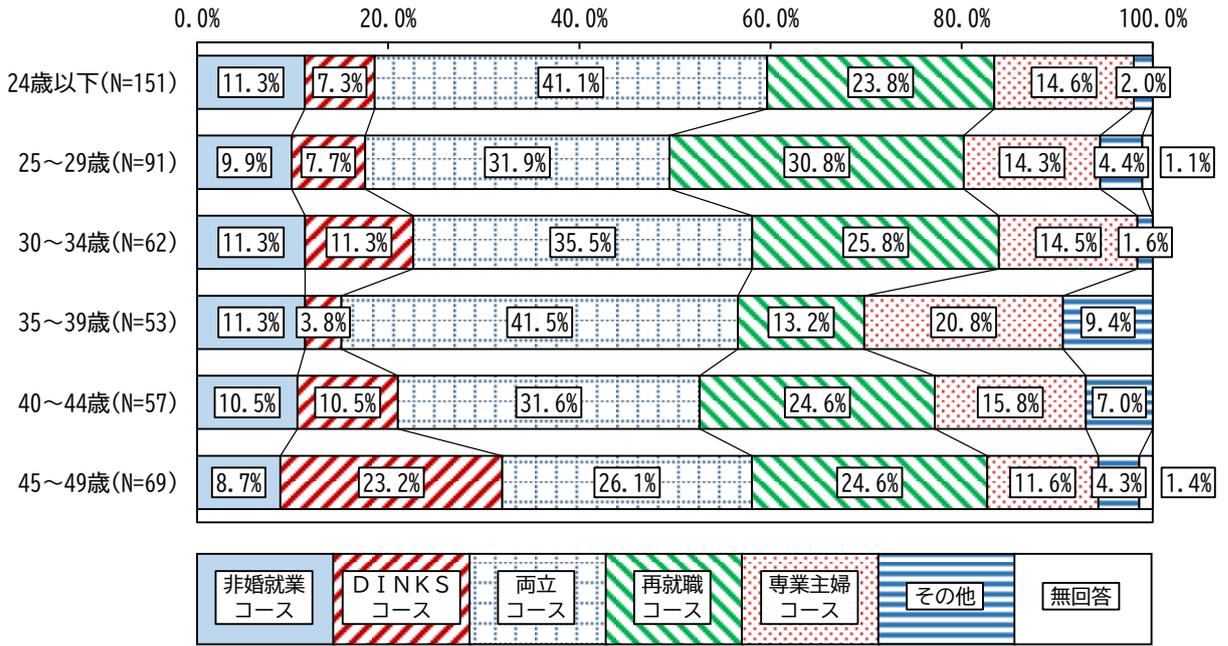
図表 女性が実際に予定するライフコース（全国調査比較）



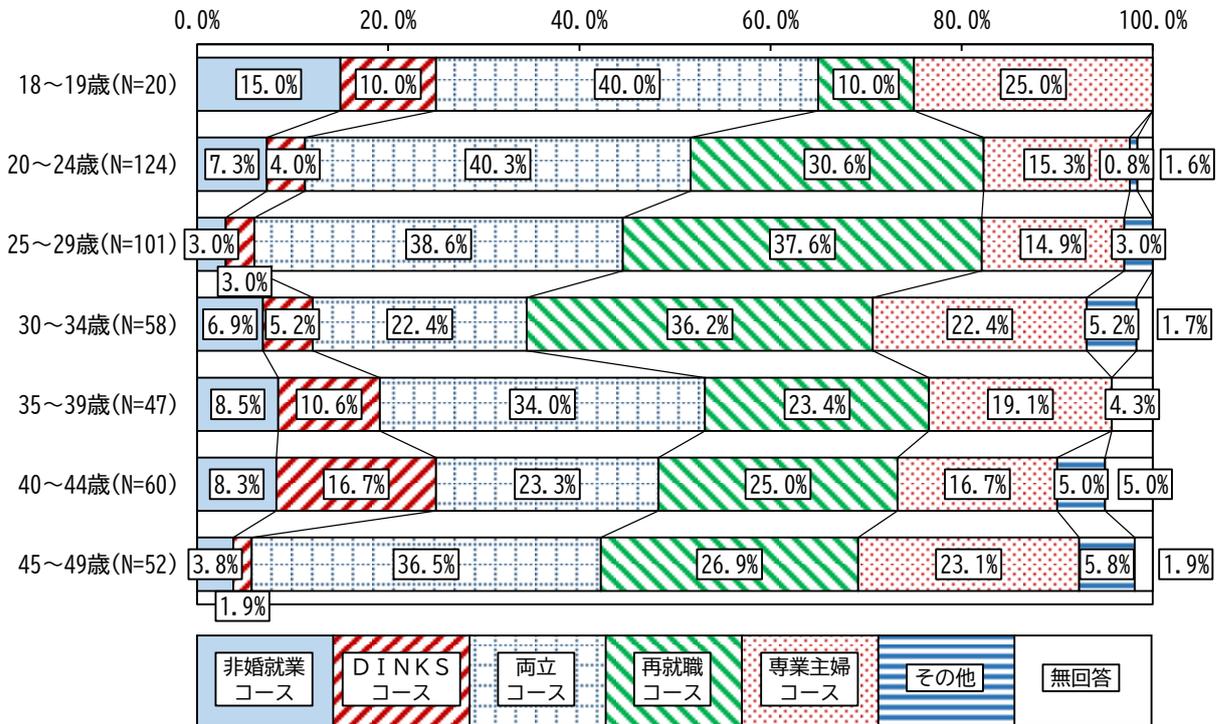
図表 男性が女性に期待するライフコース（全国調査比較）



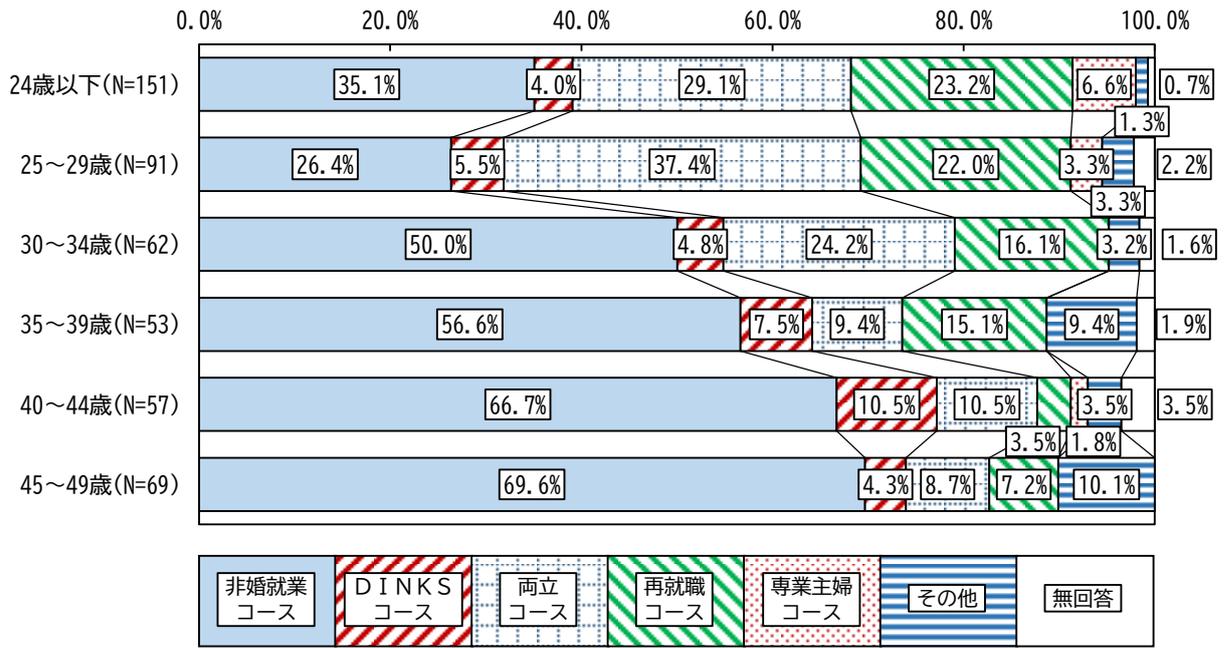
図表 年齢別 女性が理想とするライフコース



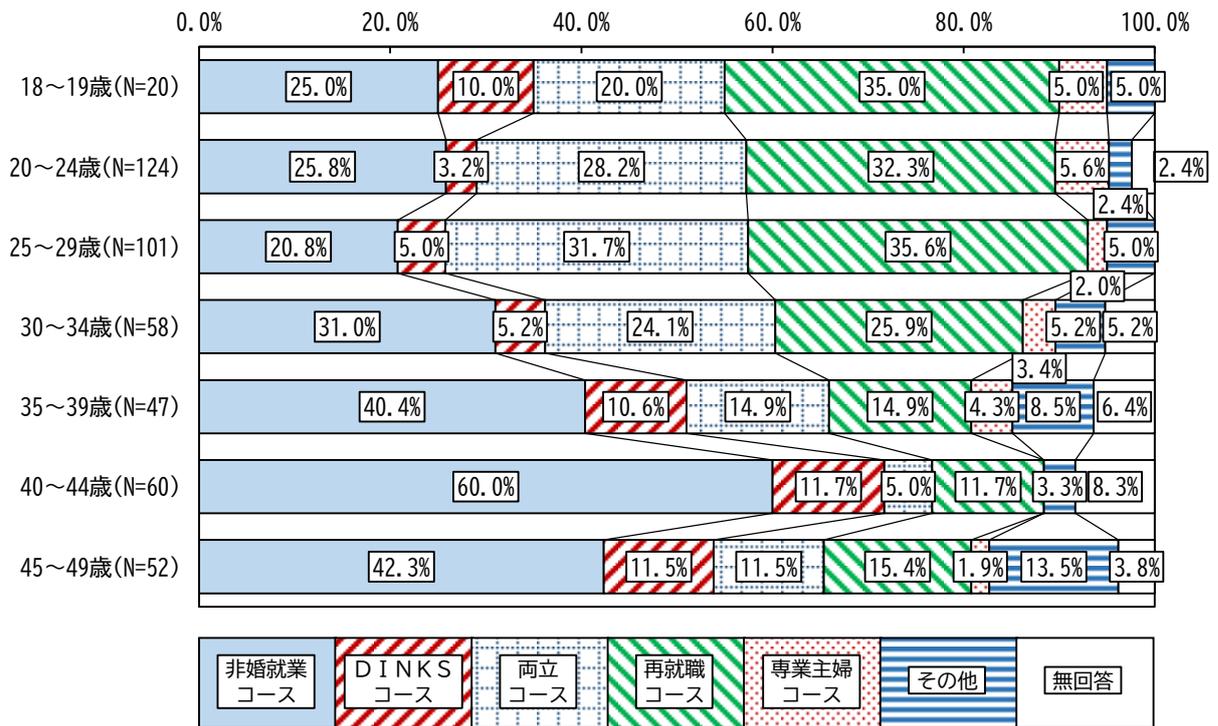
(参考) 図表 年齢別 女性が理想とするライフコース (H30 県調査)



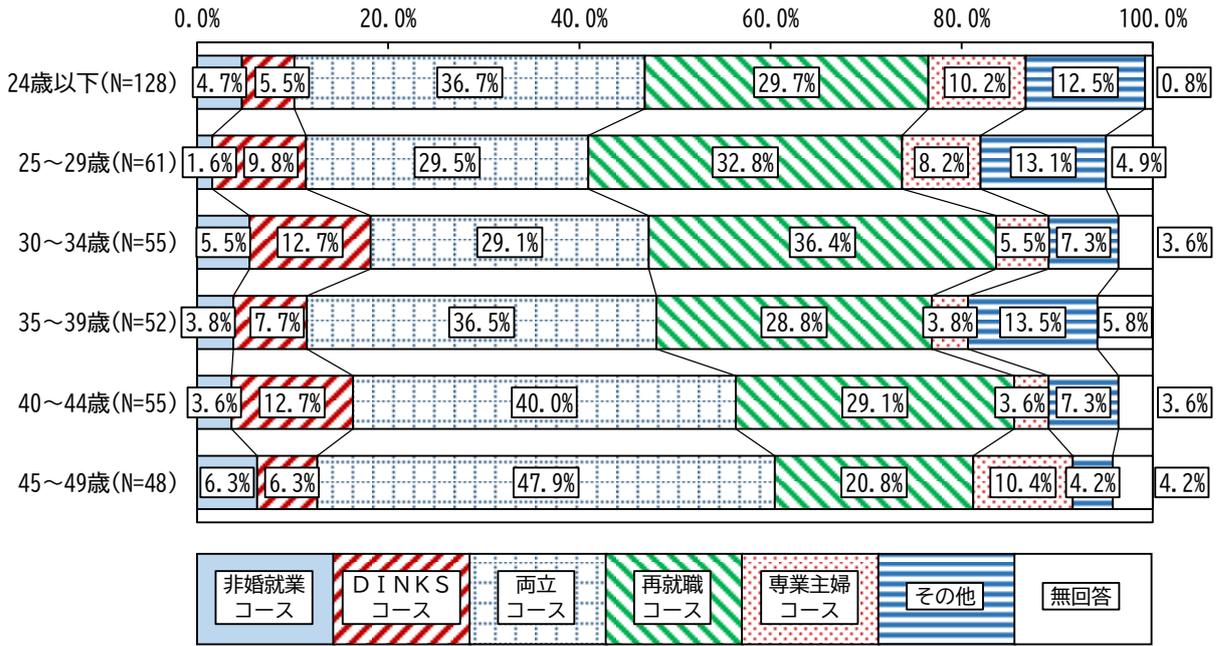
図表 年齢別 女性が実際に予定するライフコース



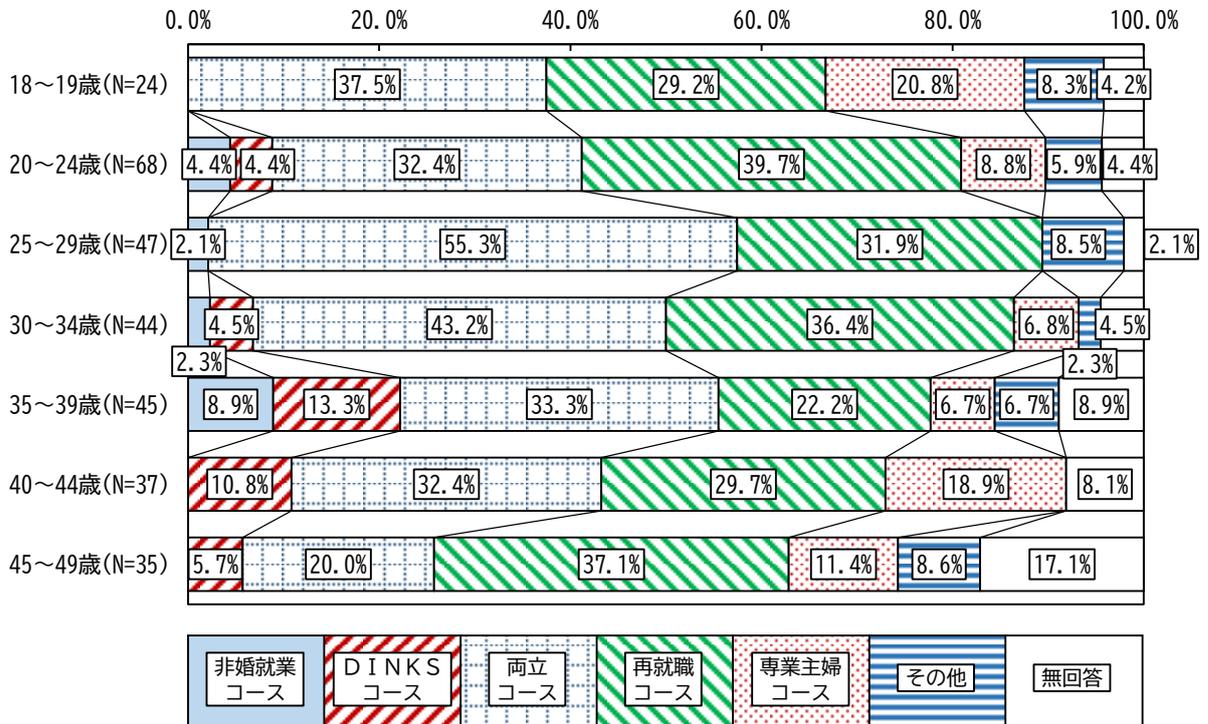
(参考) 図表 年齢別 女性が実際に予定するライフコース (H30 県調査)



図表 年齢別 男性が女性に期待するライフコース



(参考) 図表 年齢別 男性が女性に期待するライフコース (H30 県調査)



### (3) -2 男性のライフコース

- ①あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
- ②理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。(男性の方へ)
- ③パートナー(あるいは夫)となる男性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

男性	非婚就業コース	結婚せず、仕事を続ける
	DINKSコース	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
	仕事中心コース	結婚し、子どもを持つが、子育てはパートナー(妻)にまかせて、仕事を中心とした生活を送る
	両立コース(できるだけ子育て参加)	結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、できるだけ子育てにも参加する
	両立コース(積極的に子育て参加)	結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、積極的に子育てにも参加する
	専業主夫コース	結婚し、子どもを持つが、仕事はパートナー(妻)にまかせて、仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る

#### 【男性の理想のライフコース】

24歳以下、25～29歳、40～44歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

30～34歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「非婚就業コース」「両立コース(できるだけ子育て参加)」が同率となっている。

35～39歳、45～49歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(積極的に子育て参加)」となっている。

#### 【男性の予定のライフコース】

24歳以下では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「非婚就業コース」となっている。

25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、45～49歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

理想と予定を比べると、すべての年代で「両立コース(積極的に子育て参加)」を予定する割合は理想より低く、「非婚就業コース」を予定する割合は理想より高くなっている。25～29歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」「両立コース(できるだけ子育て参加)」を予定する割合が理想より低く、「仕事中心」を予定する割合が理想より高くなっている。

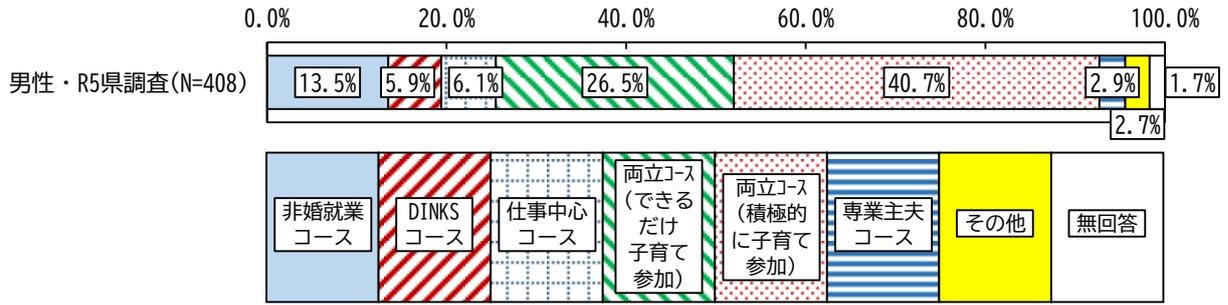
#### 【女性が期待する男性のライフコース】

24歳以下、25～29歳、30～34歳、35～39歳、45～49歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

40～44歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(積極的に子育て参加)」となっている。

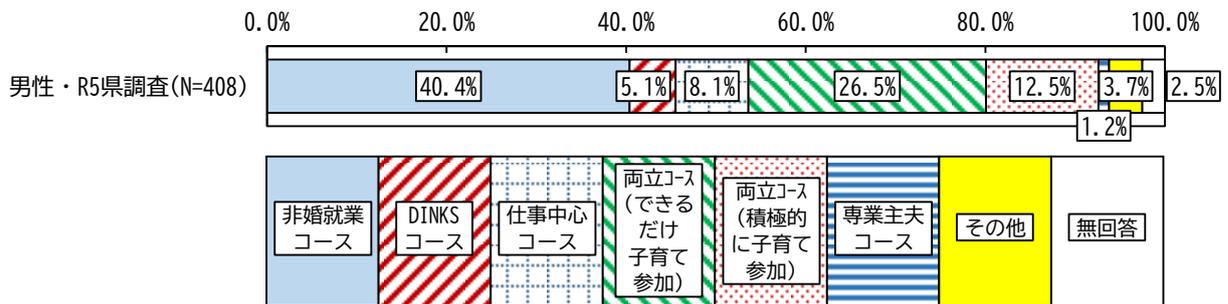
男性の理想のライフコースと比べてみると、男性の理想は40～44歳以外のすべての年代で「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が女性の期待より低く、「非婚就業コース」の割合が女性の期待より高くなっている。また、すべての年代で「DINKSコース」を理想とする割合が女性の期待より低くなっている。

図表 男性が理想とするライフコース



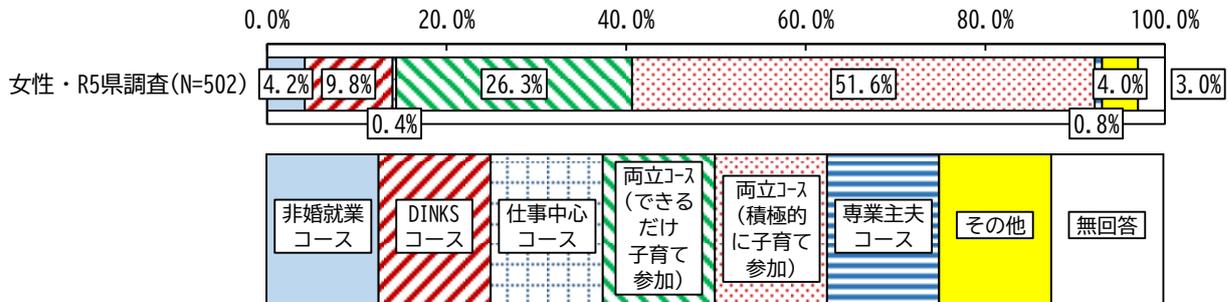
※R3 全国調査では女性が理想とするライフコースのみ聴取

図表 男性が実際に予定するライフコース



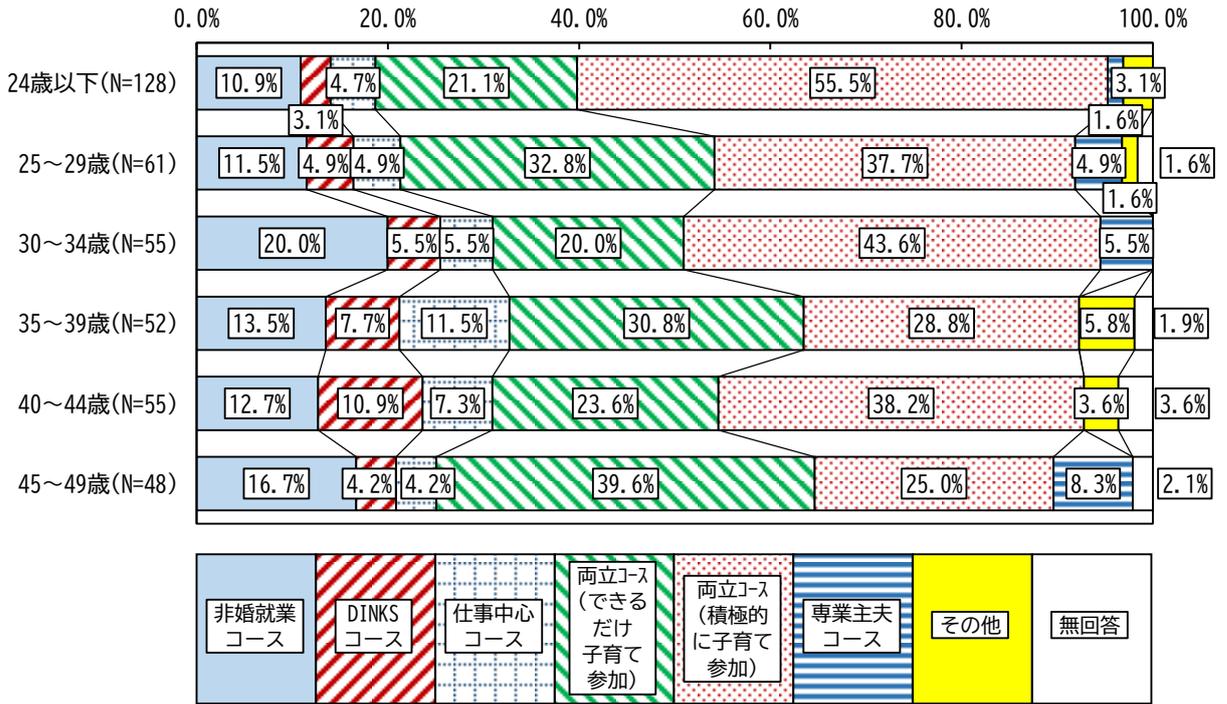
※R3 全国調査では女性が実際に予定するライフコースのみ聴取

図表 女性が男性に期待するライフコース

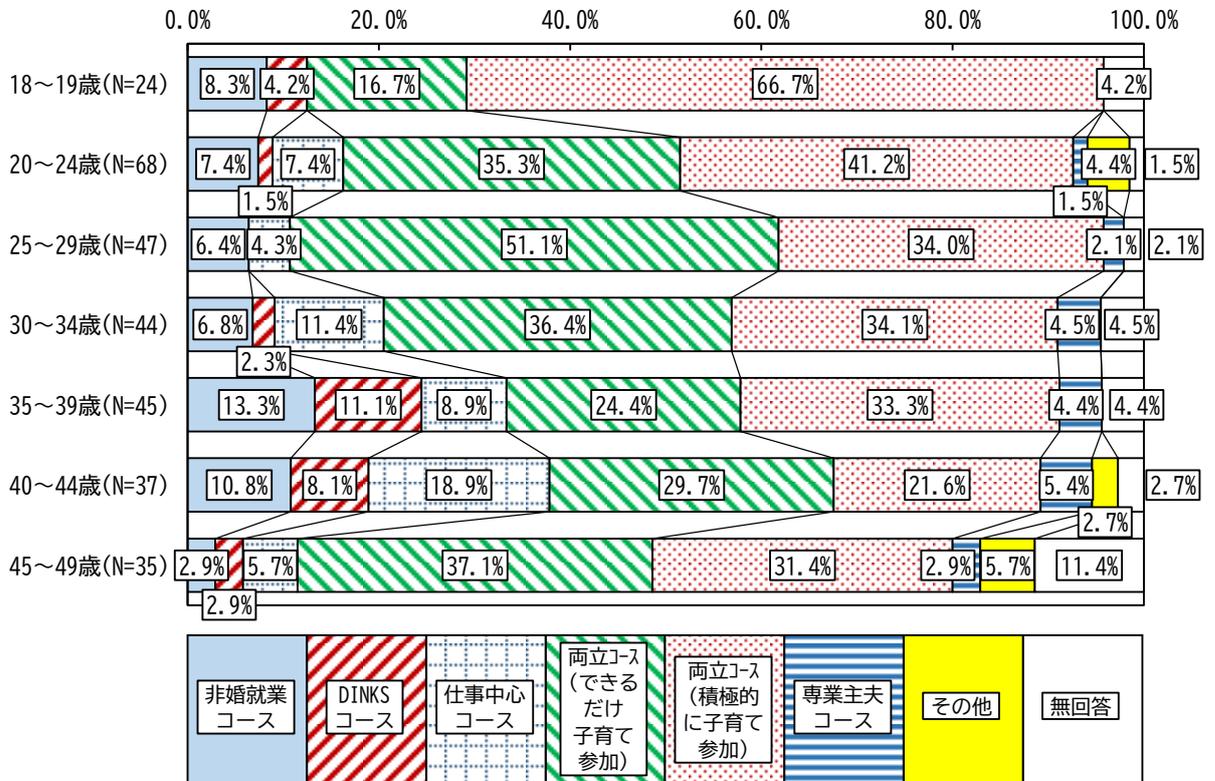


※R3 全国調査では男性が女性に期待するライフコースのみ聴取

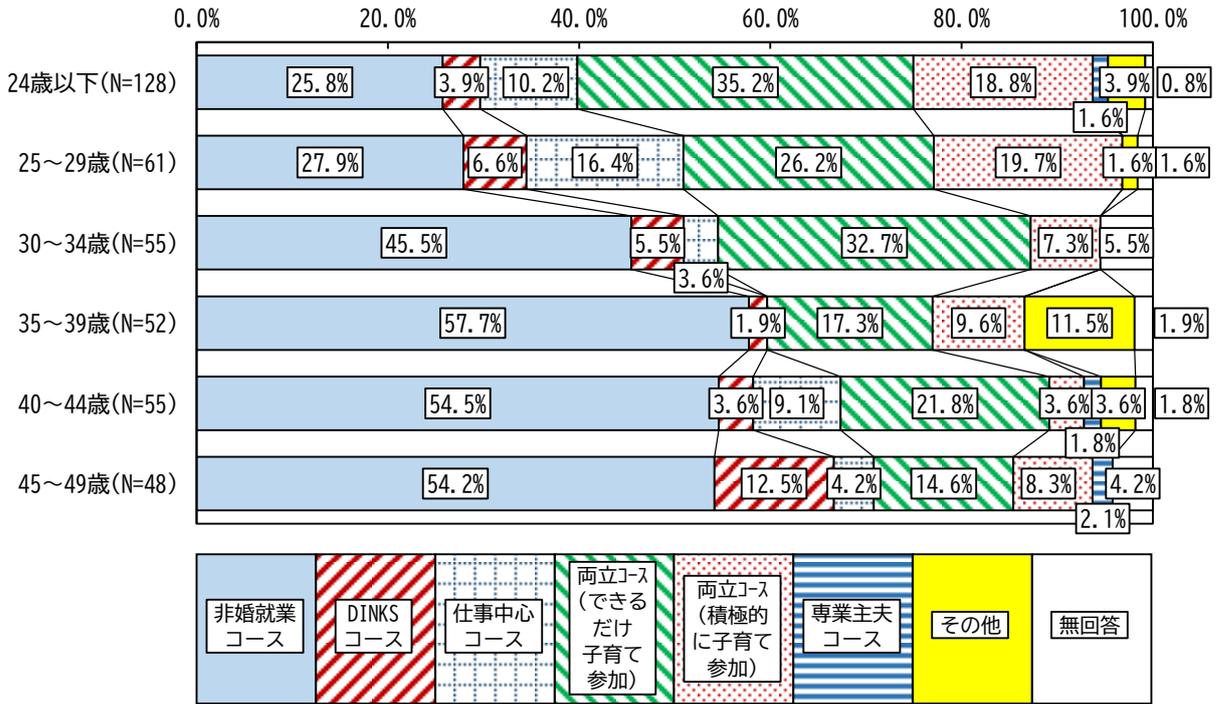
図表 年齢別 男性が理想とするライフコース



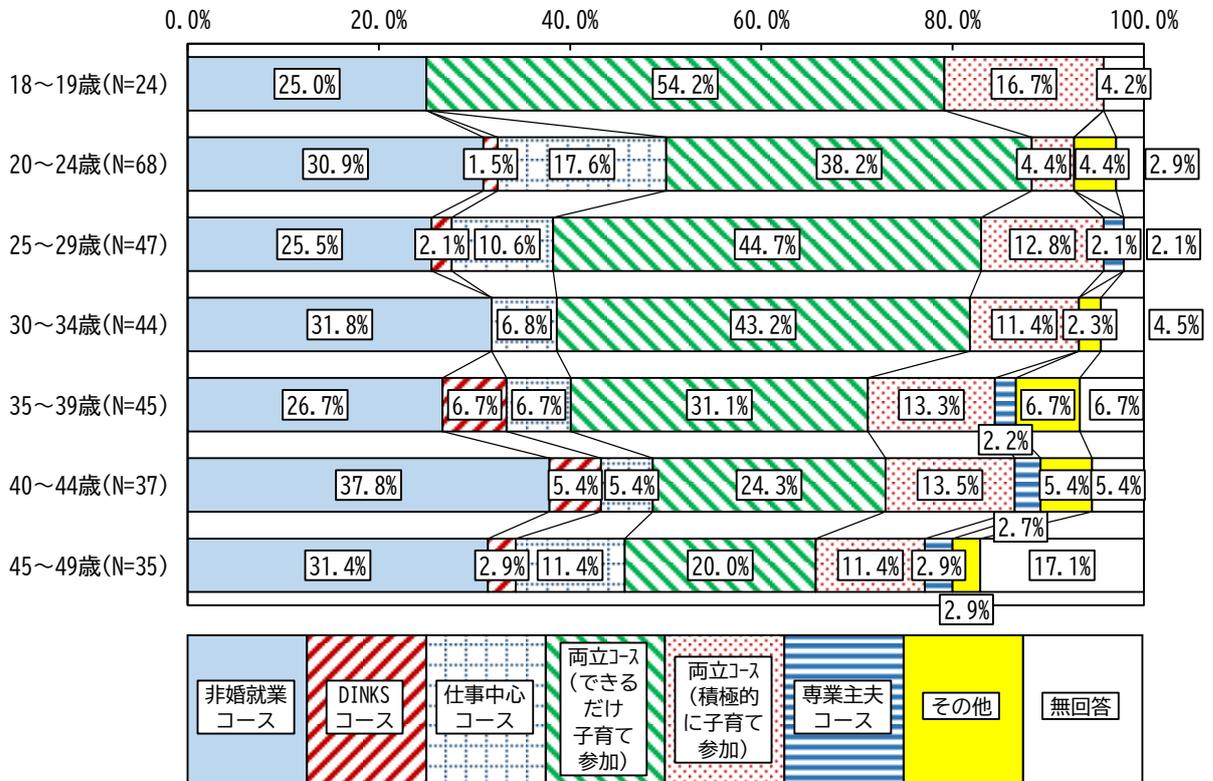
(参考) 図表 年齢別 男性が理想とするライフコース (H30 県調査)



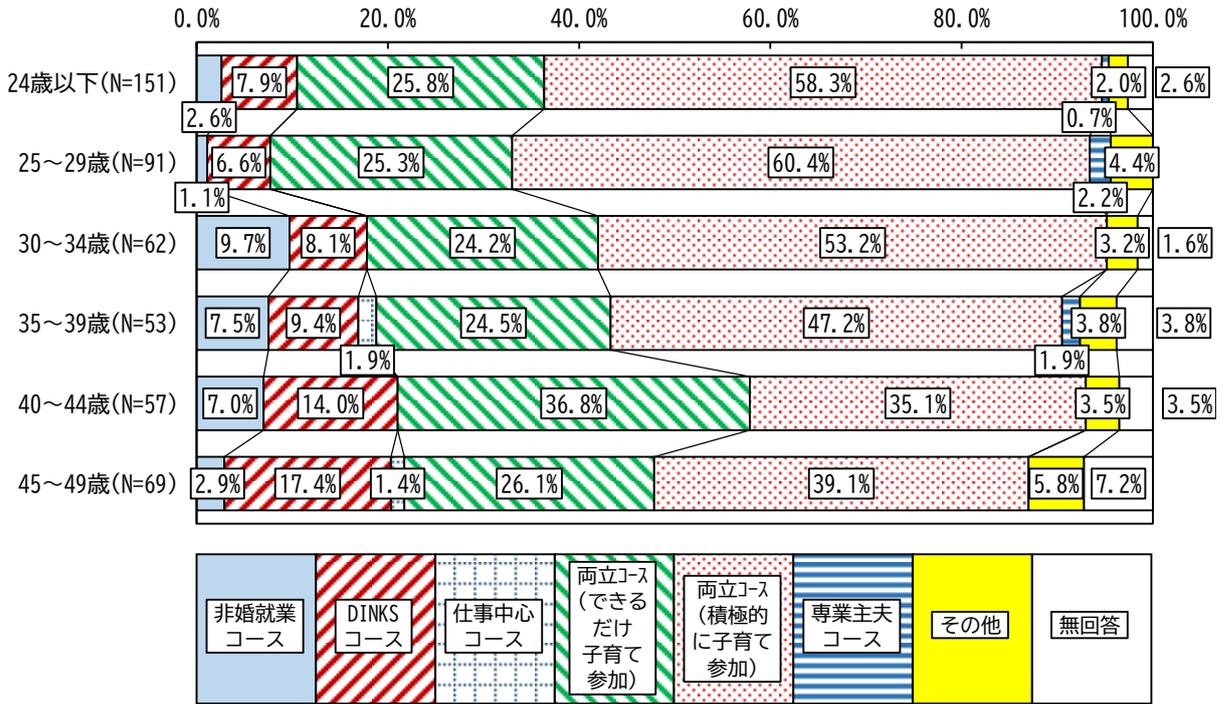
図表 年齢別 男性が実際に予定するライフコース



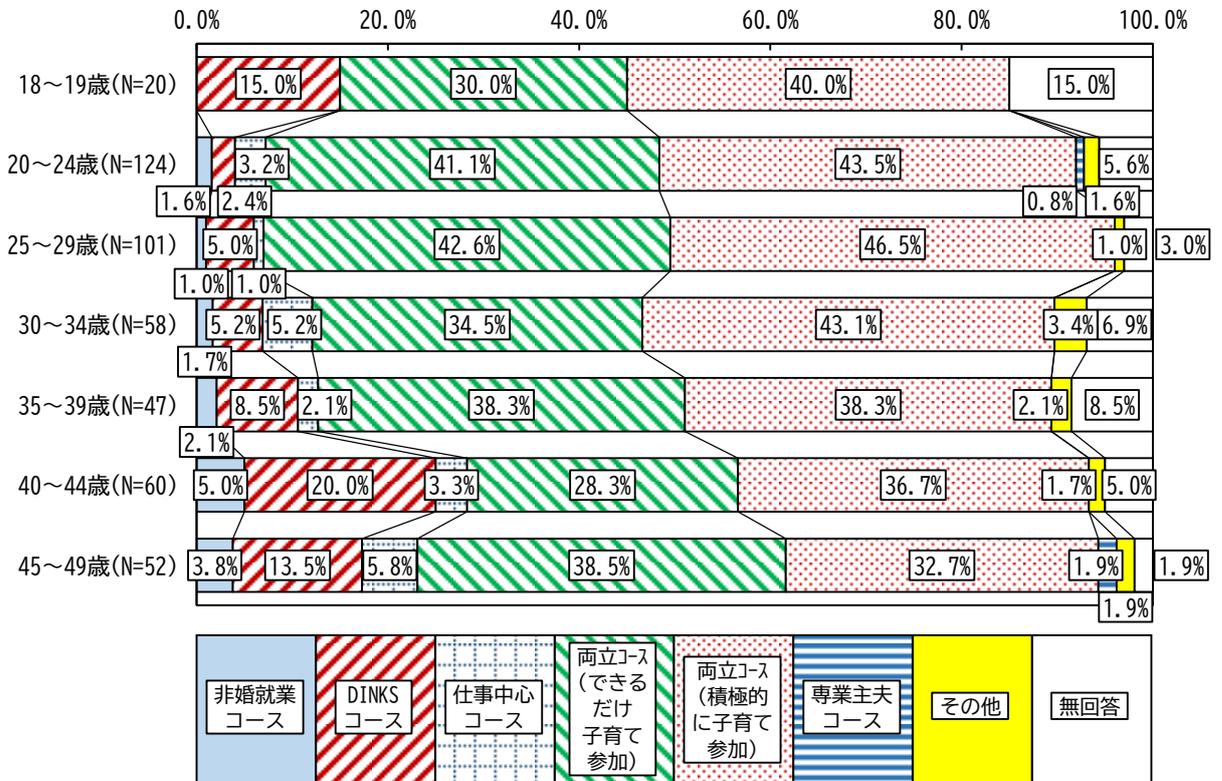
(参考) 図表 年齢別 男性が実際に予定するライフコース (H30 県調査)



図表 年齢別 女性が男性に期待するライフコース



(参考) 図表 年齢別 女性が男性に期待するライフコース (H30 県調査)



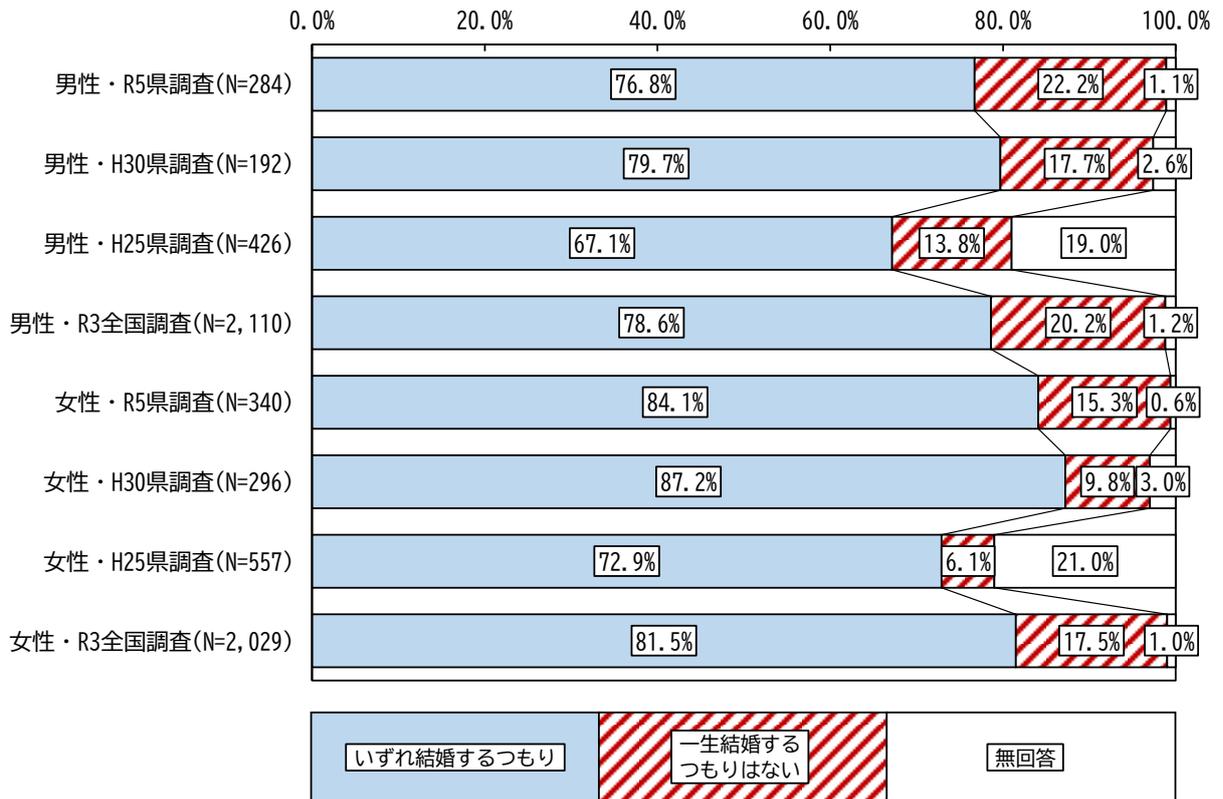
#### (4) 結婚意欲

問4 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。  
(○は1つ)

結婚経験のない20～39歳の、結婚意欲をみると、男性では「いずれ結婚するつもり」が76.8%となっており、前回調査に比べて大きな変化はみられない。

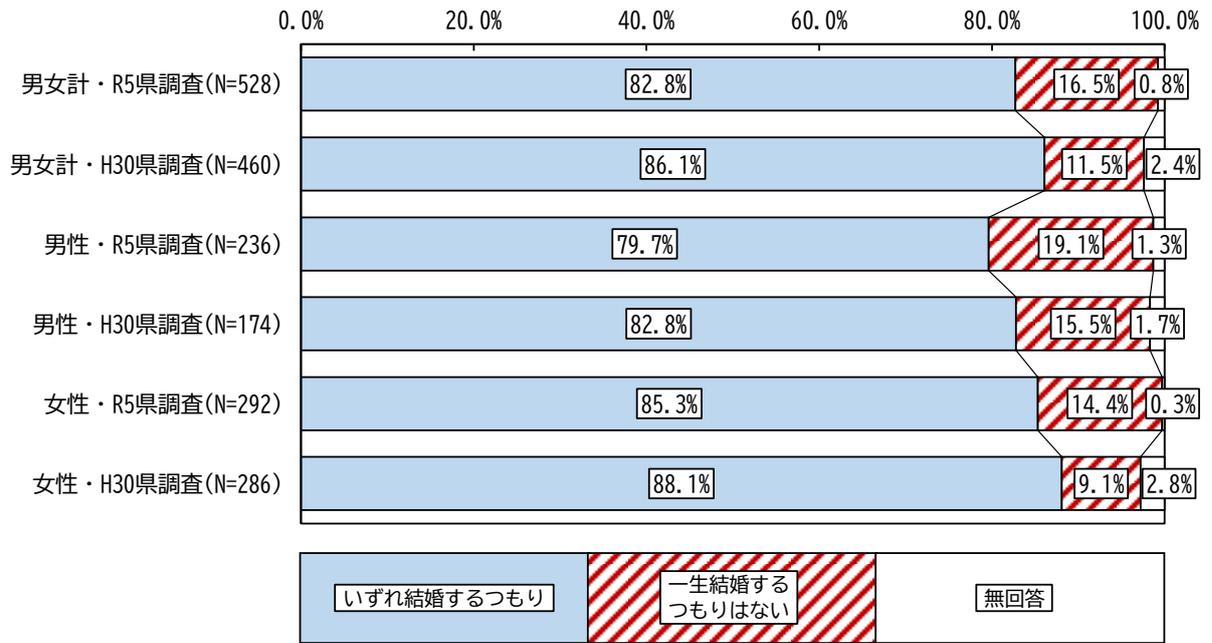
女性では「いずれ結婚するつもり」が84.1%となっており、前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 結婚意欲



※集計対象：結婚経験のない20～39歳

図表 若年層の結婚意欲



※集計対象：結婚経験のない35歳未満（性別不明を除く）

(5) 結婚時期についての考え

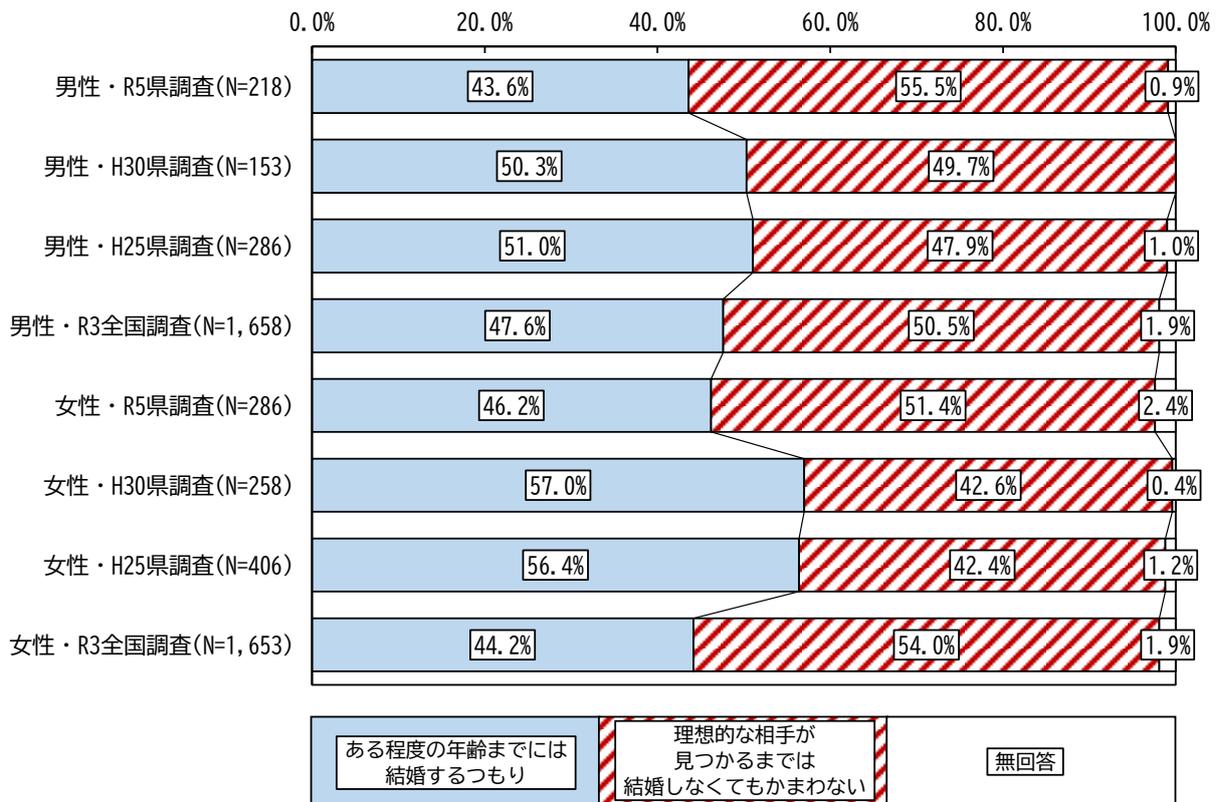
問5～7、9、11～12は問4で1に○をつけた方（いずれ結婚するつもりの方）にうかがいます。2に○をつけた方は問13に進んでください。

問5 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。（○は1つ）

結婚経験のない20～39歳の、結婚時期についての考えをみると、男性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が43.6%となっており、前回調査に比べて、6.7ポイント低下している。

女性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が46.2%となっており、前回調査に比べて10.8ポイント低下している。

図表 結婚時期についての考え



※集計対象：結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20～39歳

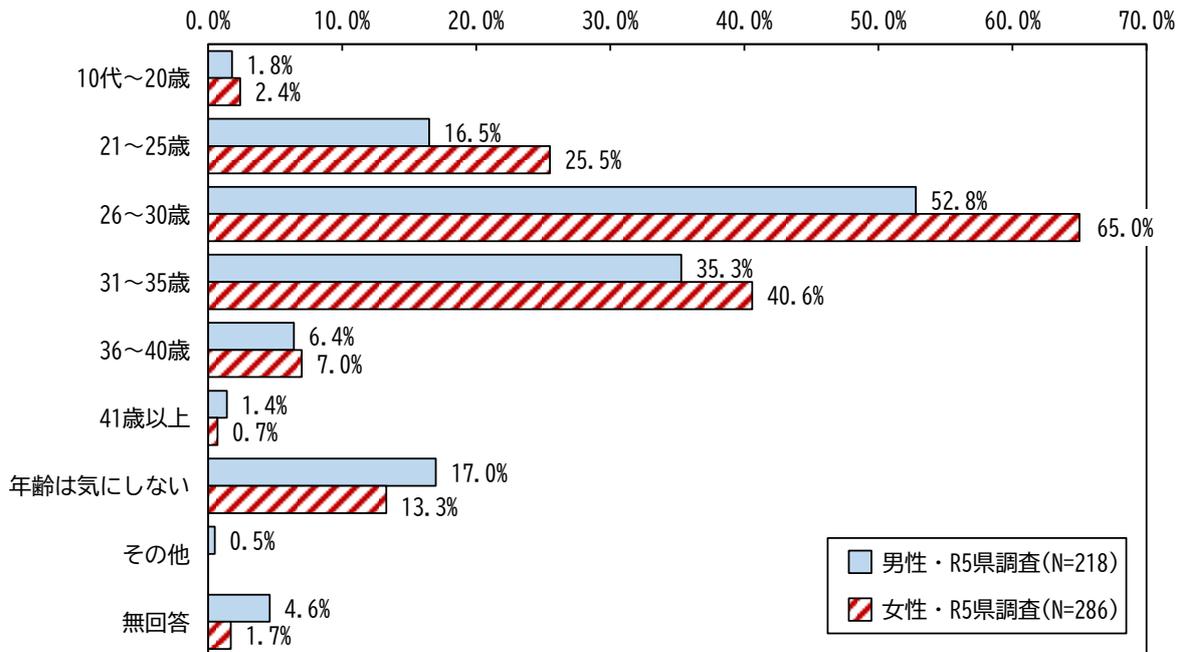
## (6) 希望結婚年齢

問6 理想的な初婚年齢はいつ頃だとお考えですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

いずれ結婚するつもりの方の20～39歳の希望初婚年齢をみると、男女とも「26～30歳」が最も多く、男性で52.8%、女性で65.0%となっている。次いで「31～35歳」が男性35.3%、女性40.6%となっている。

男性と女性を比べると、女性は「21～25歳」が9.0ポイント、「26～30歳」が12.2ポイント男性より高くなっている。

図表 希望初婚年齢



※集計対象：結婚経験がなく、いずれ結婚するつもりの方の20～39歳

※新規質問項目

## (7) 現在独身でいる理由

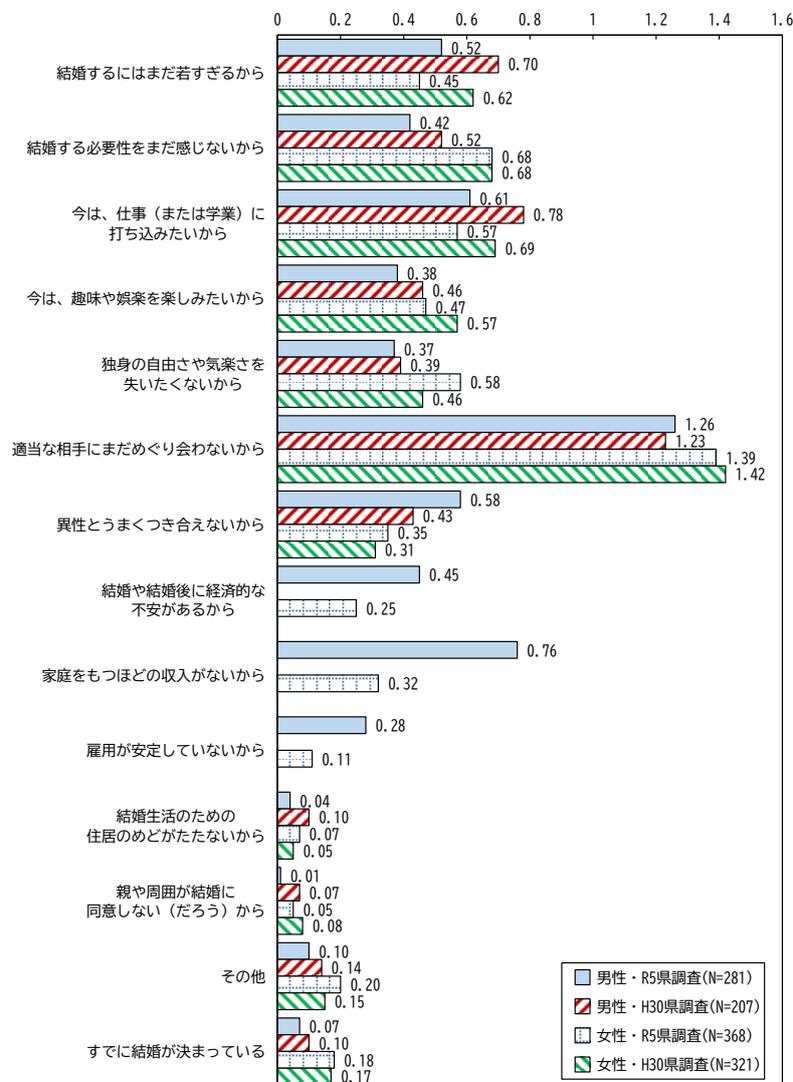
問7 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。自分にあてはまると思われる**最大の理由**、**第二の理由**、**第三の理由**をそれぞれ1つ選んで、右の回答欄に番号を記入してください。(すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に14と記入してください)

### ①現在独身でいる理由

現在独身でいる理由をみると、男性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.26点で最も多く、次いで「家庭をもつほどの収入がないから」が0.76点、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」が0.61点となっている。

女性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.39点で最も多く、次いで「結婚する必要性をまだ感じないから」が0.68点、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が0.58点となっている。

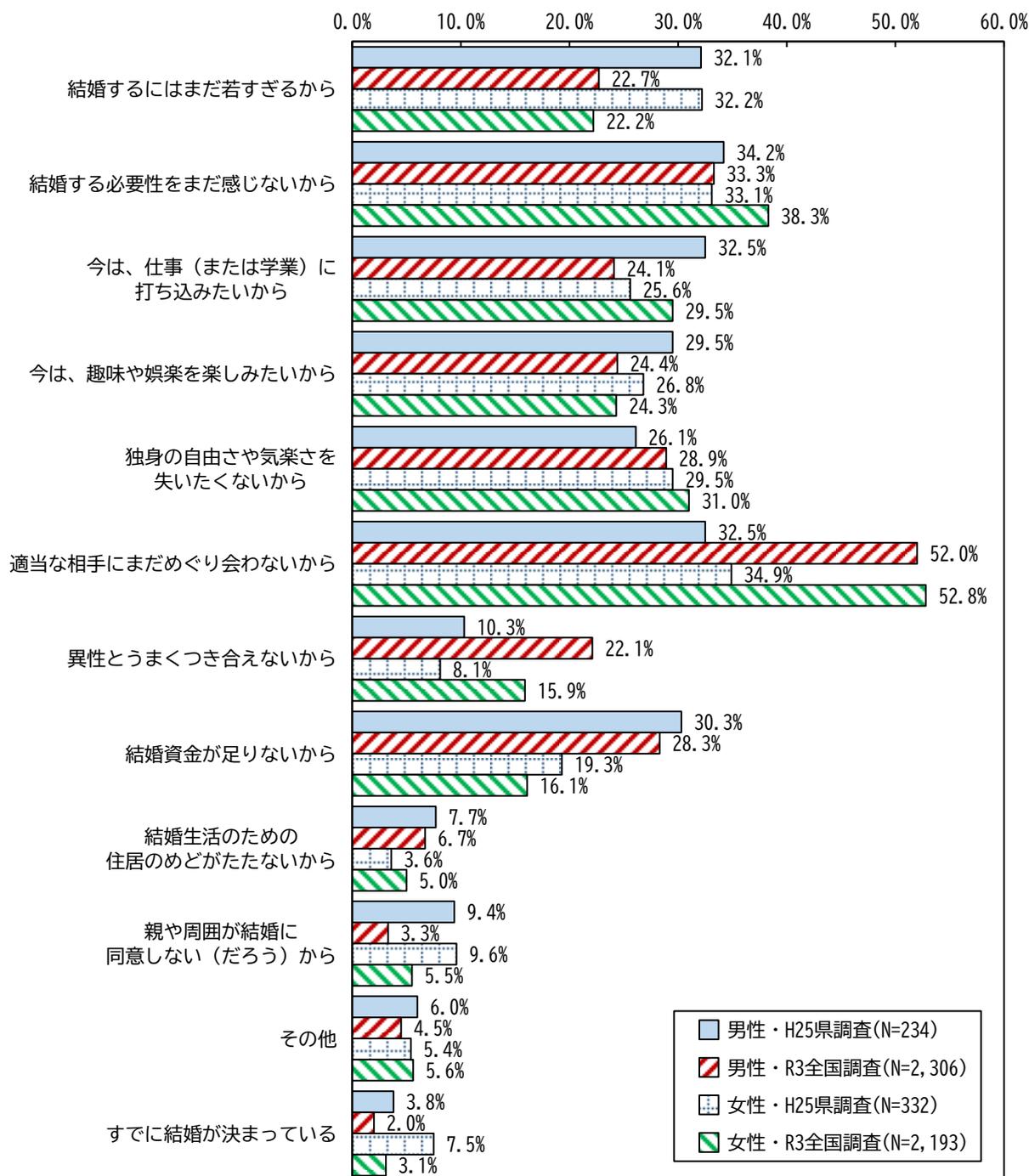
図表 現在独身でいる理由（あてはまる理由を3つ選択）



※「結婚や結婚後に経済的な不安があるから」「家庭をもつほどの収入がないから」「雇用が安定していないから」は今回調査からの新規項目

※結婚経験のない方について、最大の理由 = 3点、第二の理由 = 2点、第三の理由 = 1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

(参考) 図表 現在独身でいる理由 (過去調査、全国調査)



問7で「6.」（適切な相手にまだめぐり会わないから）を選択した方にうかがいます。

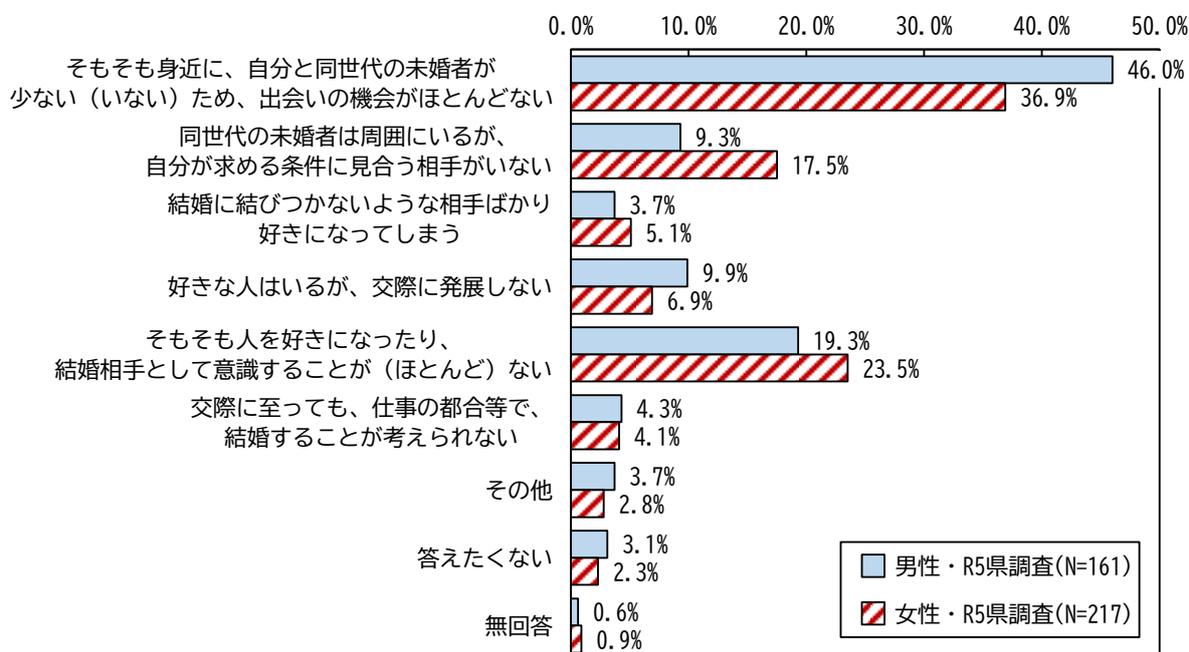
問8 「適切な相手にまだめぐり会わないから」の具体的な内容のうち、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

②適切な相手にめぐり会わない理由

適切な相手にめぐり会わない理由をみると、男女とも「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が最も多く、男性で46.0%、女性で36.9%となっている。次いで「そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識することが（ほとんど）ない」が男性で19.3%、女性で23.5%となっている。

男性と女性を比べると、男性は「そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない」が9.1ポイント女性より高く、女性は「同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がない」が8.2ポイント男性より高くなっている。

図表 適切な相手にめぐり会わない理由



※新規質問項目

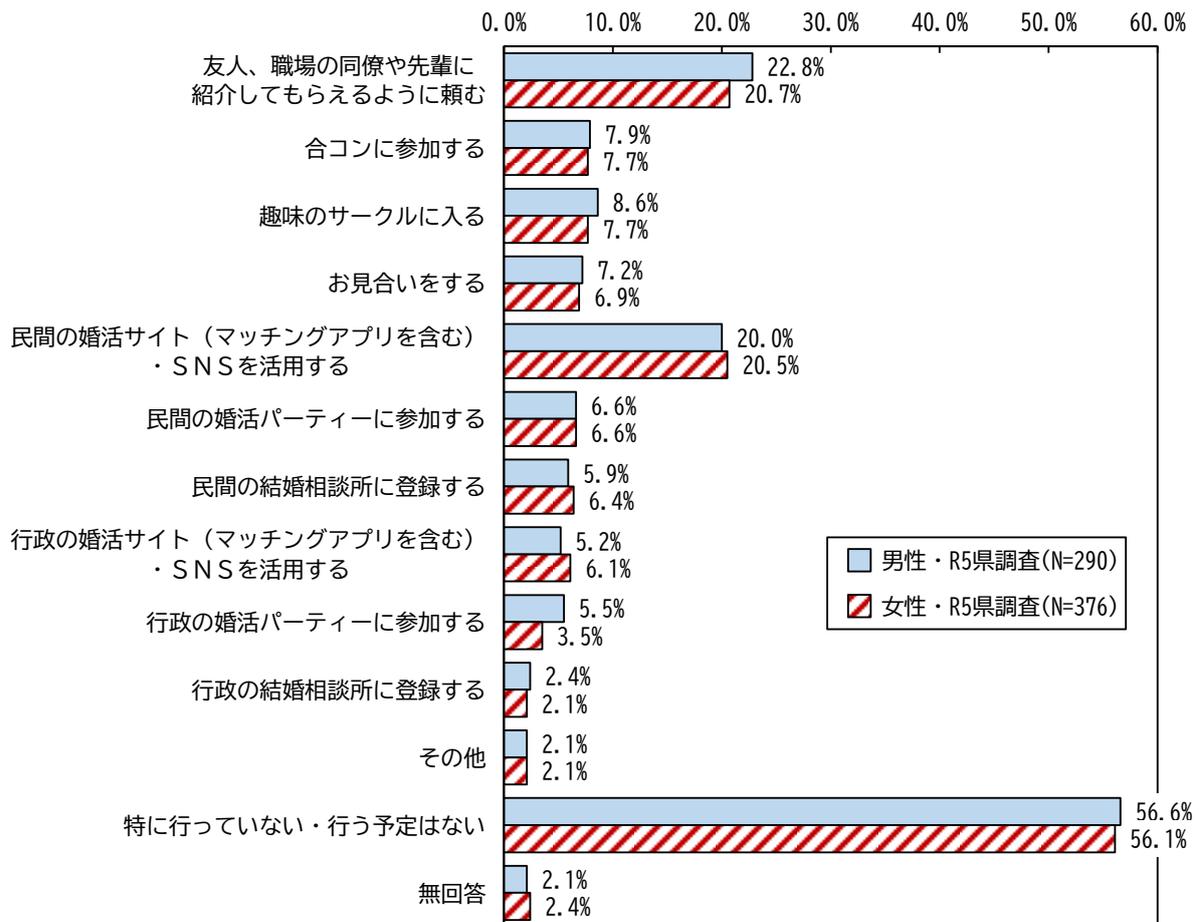
## (8) 婚活状況

問9 あなたは「婚活」としてどのようなことを行っていますか。あるいは今後行いたいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

### ①「婚活」としてどのようなことを行っているか

「婚活」としてどのようなことを行っているかをみると、男女とも「友人、職場の同僚や先輩に紹介してもらえるように頼む」が最も多く、男性で 22.8%、女性で 20.7%となっている。次いで「民間の婚活サイト（マッチングアプリを含む）・SNSを活用する」が男性で 20.0%、女性で 20.5%となっている。また「特に行っていない・行う予定はない」も男女とも半数以上を占める。

図表 「婚活」としてどのようなことを行っているか



※新規質問項目

問9で「12.」（特に行っていない・行う予定はない）を選択した方にうかがいます。

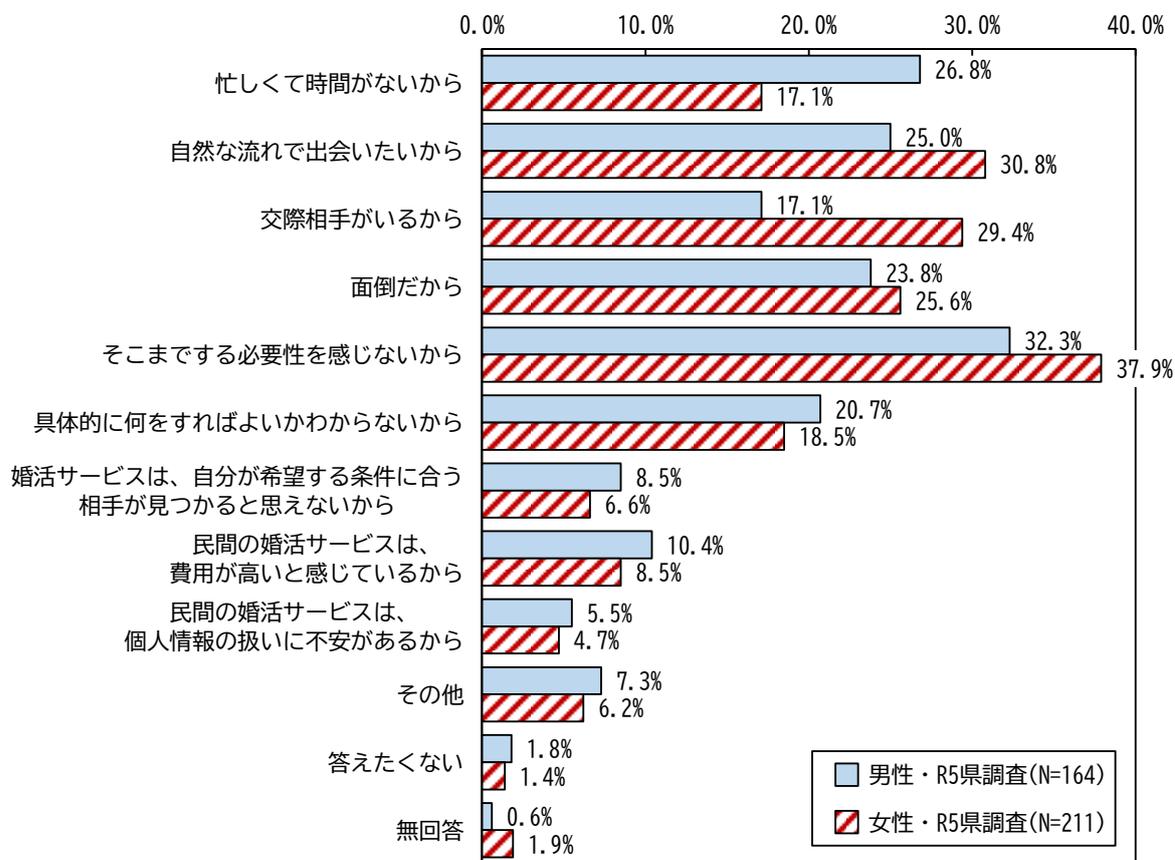
問10 婚活を「特に行っていない・行う予定はない」とされた理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

②「婚活」を行っていない理由

「婚活」を行っていない理由をみると、男女とも「そこまでする必要性を感じないから」が最も多く、男性で32.3%、女性で37.9%となっている。次いで男性では「忙しくて時間がないから」が26.8%、女性では「自然な流れで出会いたいから」が30.8%となっている。

男性と女性を比べると、男性は「忙しくて時間がないから」が9.7ポイント女性より高く、女性は「交際相手がいるから」が12.3ポイント、「自然な流れで出会いたいから」が5.8ポイント、「そこまでする必要性を感じないから」が5.6ポイント男性より高くなっている。

図表 「婚活」を行っていない理由



※新規質問項目

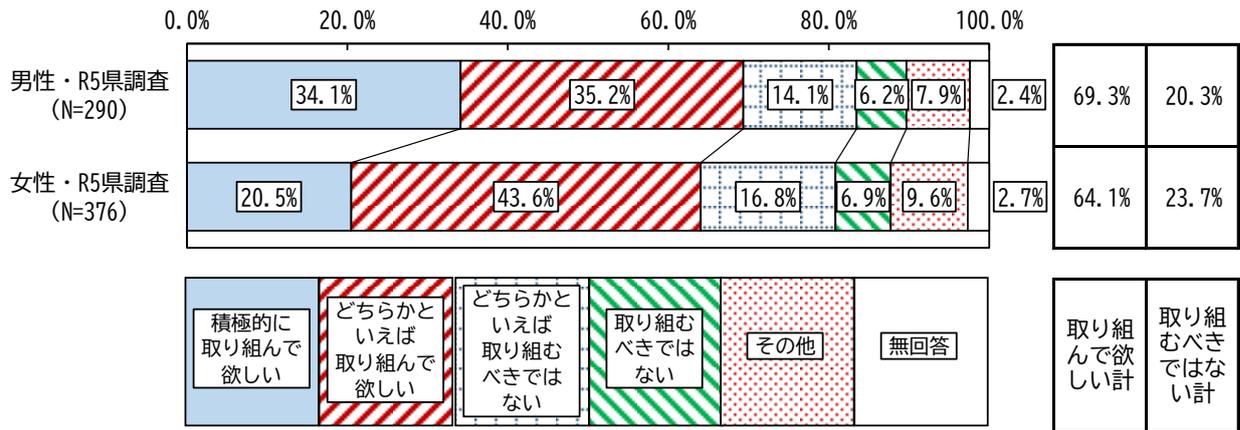
(9) 行政支援

問11 あなたは、県や市町村に結婚支援に関する施策（事業）に取り組んで欲しいと思いますか。

①結婚支援施策に取り組んで欲しいか

結婚支援策に取り組んで欲しいかについて、「積極的に取り組んで欲しい」と「どちらかといえば取り組んで欲しい」の割合の合計（＝取り組んで欲しい計）をみると、男性の方が5.2ポイント高くなっている。「積極的に取り組んで欲しい」も男性の方が13.6ポイント高くなっている。

図表 結婚支援施策に取り組んで欲しいか



※新規質問項目

問11で「1.」(積極的に取り組んで欲しい)「2.」(どちらかといえば取り組んで欲しい)を選択した方にうかがいます。

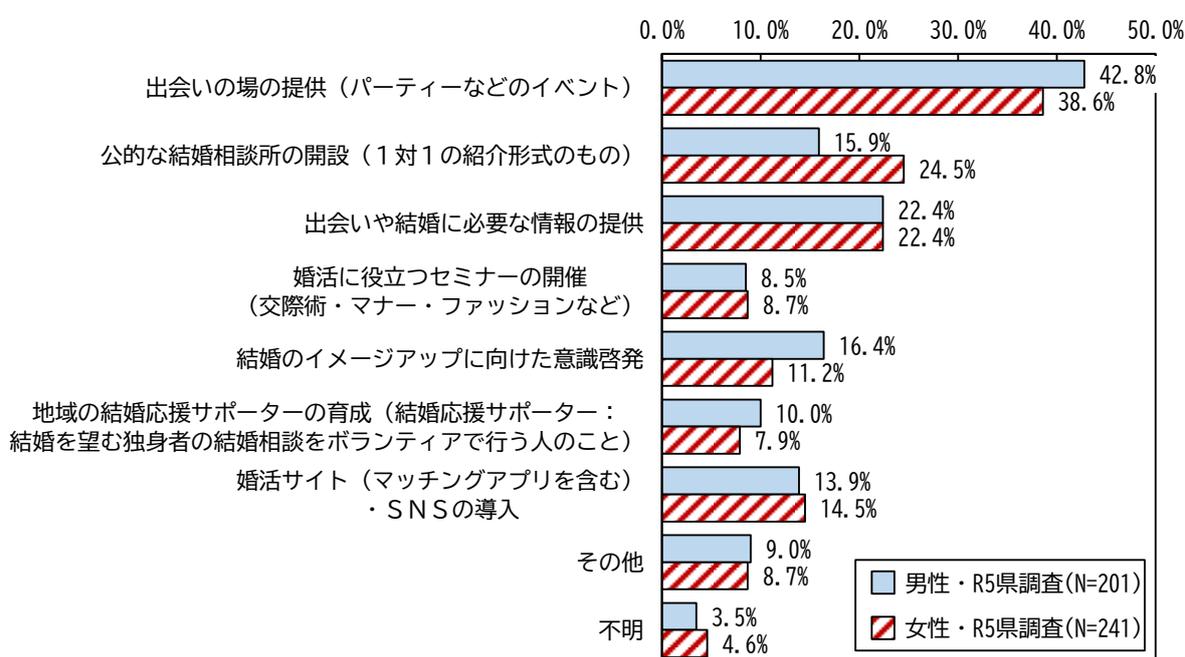
問11-1 出会い・結婚にかかわる支援として、どのようなことを行政に期待しますか。

②行政に期待すること

行政に期待することをみると、男女とも「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が最も多く、男性で42.8%、女性で38.6%となっている。次いで男性では「出会いや結婚に必要な情報の提供」が22.4%、女性では「公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）」が24.5%となっている。

男性と女性を比べると、男性は「結婚のイメージアップに向けた意識啓発」が5.2ポイント、「出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）」が4.2ポイント女性より高く、女性は「公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）」が8.6ポイント男性より高くなっている。

図表 行政に期待すること



※新規質問項目

(10) 結婚相手を決める際に重視すること

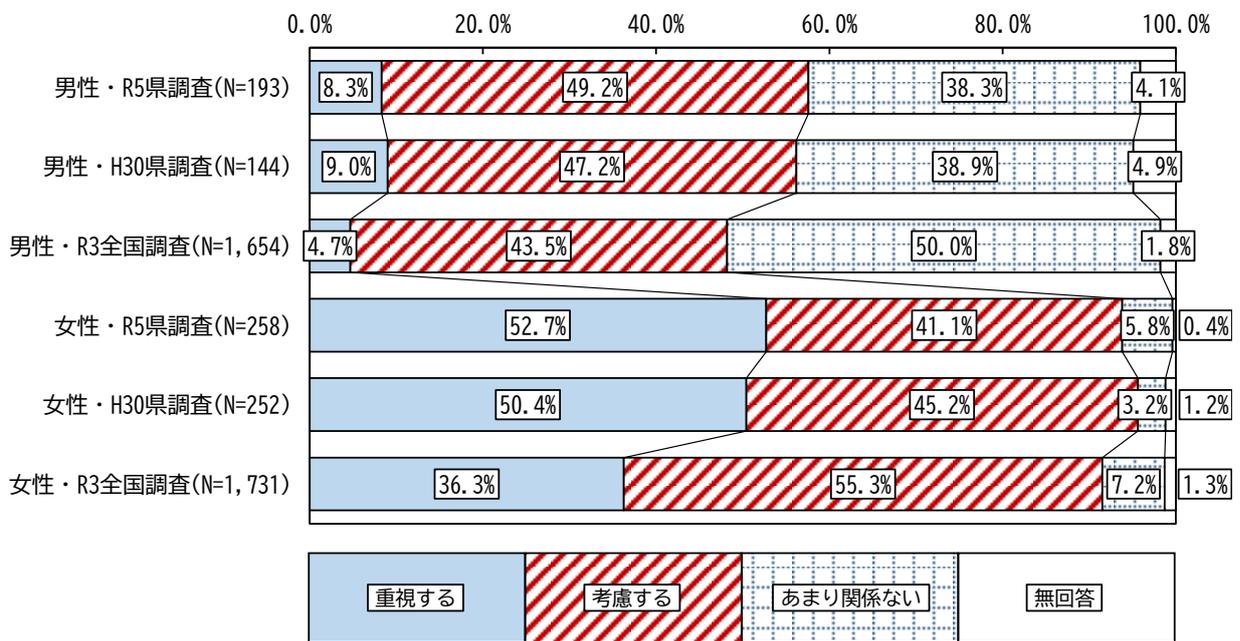
問12 あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑤の項目について、どの程度重視しますか。それぞれ1～3のうち、あてはまる番号に○をつけてください。また、その他に重視することがある場合は、⑥に具体的に記入してください。

全体として、すべての項目において女性の重視する割合が男性を上回る。特に相手の経済力については、重視する程度の性差が他の項目に比べて大きい。

①相手の経済力

「重視する」の割合は、男性では8.3%、女性では52.7%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では38.3%、女性では5.8%となっている。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ①相手の経済力

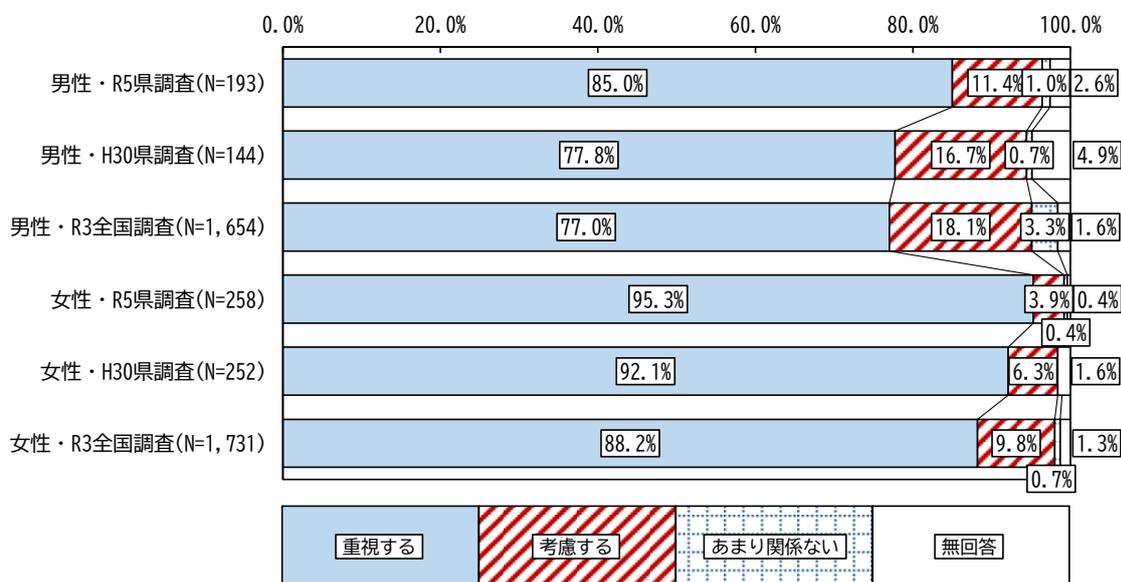


※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

## ②相手の性格

「重視する」の割合は、男性では 85.0%、女性では 95.3%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 1.0%、女性では 0.4%となっている。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ②相手の性格



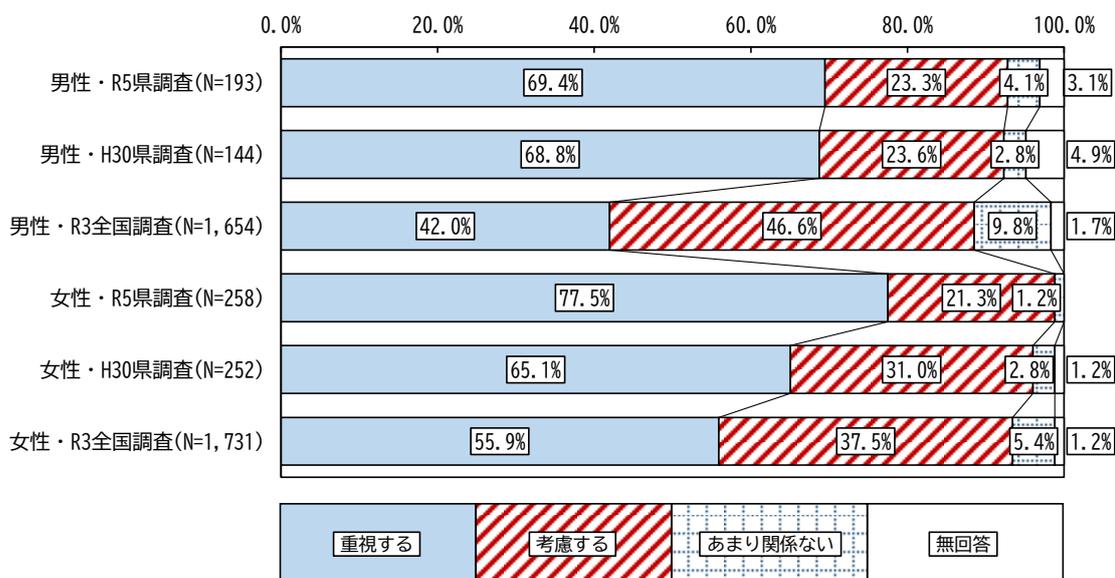
※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

※R3 全国調査の質問内容は「相手の人から」

## ③自分の仕事や生き方に対する理解と協力

「重視する」の割合は、男性では 69.4%、女性では 77.5%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 4.1%、女性では 1.2%となっている。前回調査に比べて、女性では「重視する」が12.4ポイント上昇している。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ③自分の仕事や生き方に対する理解と協力



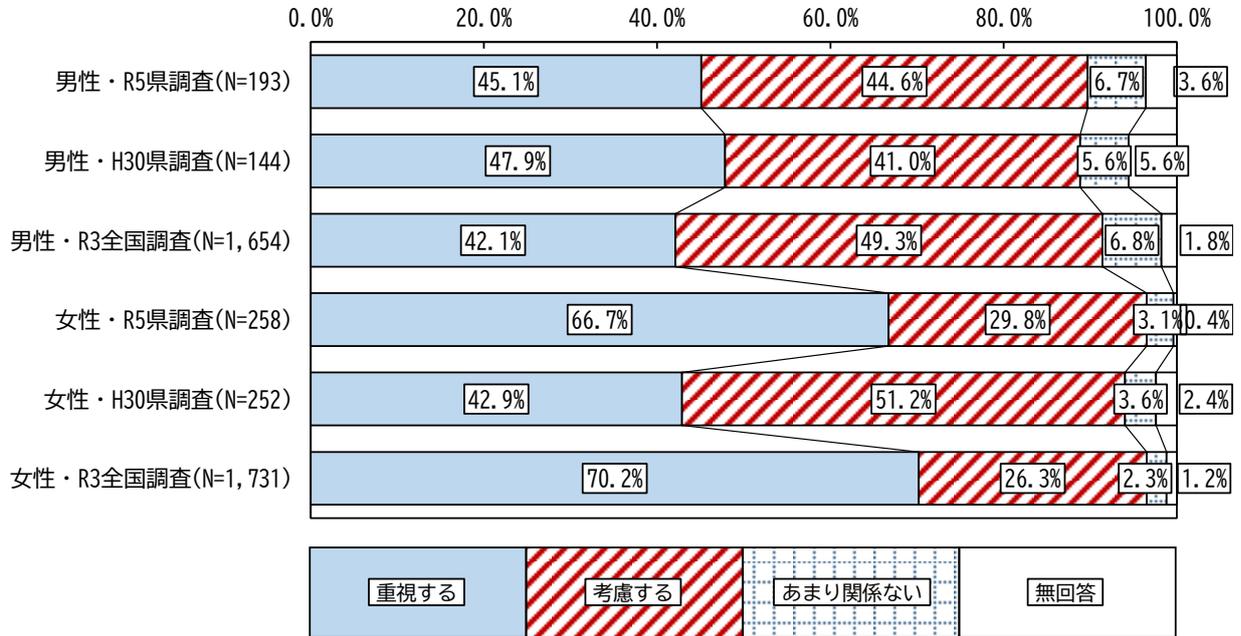
※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

※R3 全国調査の質問内容は「自分の仕事に対する理解と協力」

#### ④家事・育児に対する能力や姿勢

「重視する」の割合は、男性では45.1%、女性では66.7%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では6.7%、女性では3.1%となっている。前回調査に比べて、女性では「重視する」が23.8ポイント上昇している。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ④家事・育児に対する能力や姿勢

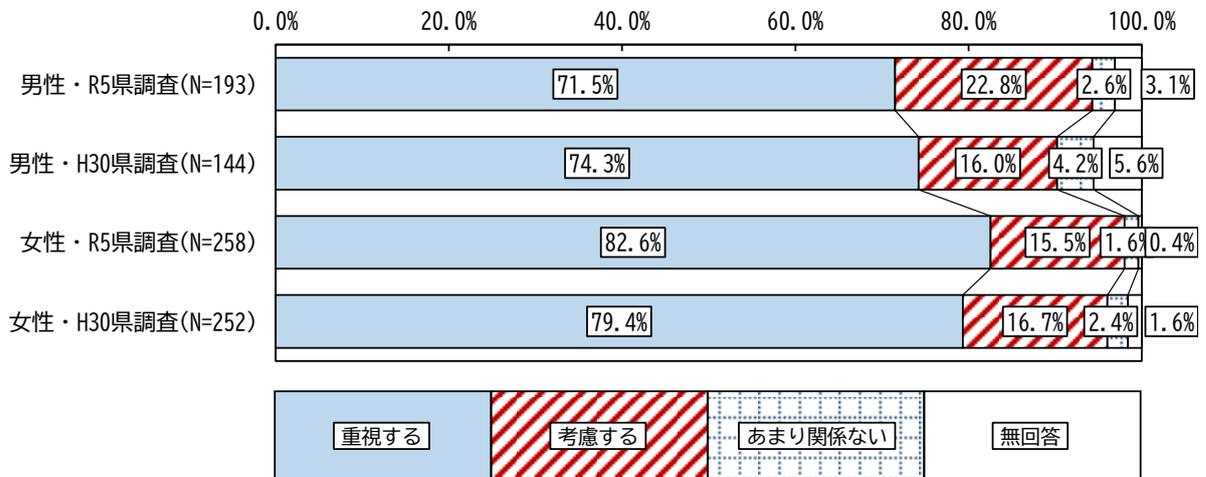


※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

#### ⑤価値観が合うこと

「重視する」の割合は、男性では71.5%、女性では82.6%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では2.6%、女性では1.6%となっている。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ⑤価値観が合うこと



※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

## (11) 結婚するつもりがない理由

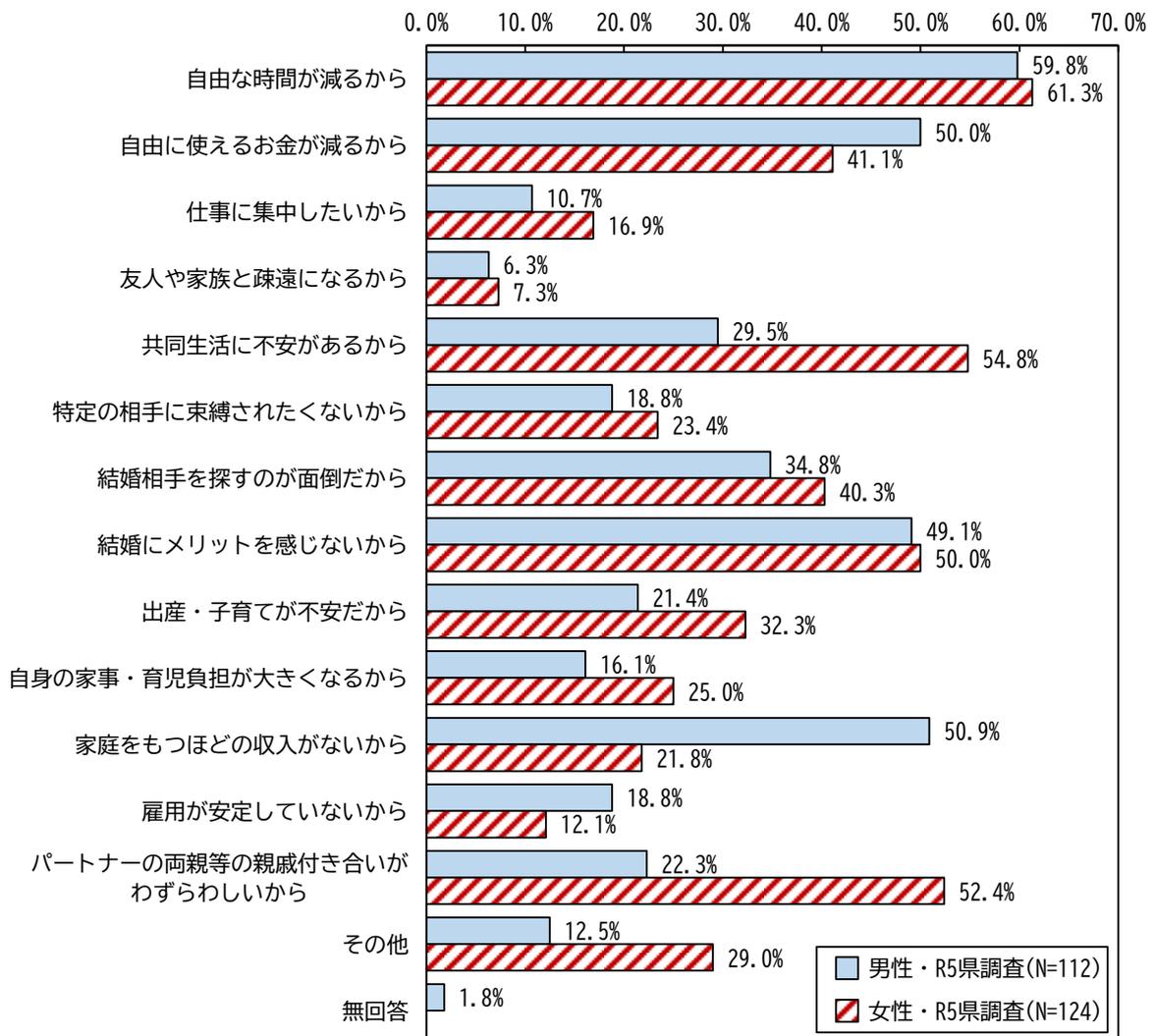
問4で「2.」（一生結婚するつもりはない）を選択した方にうかがいます。

問13 あなたは、なぜ「一生結婚するつもりはない」のですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

結婚するつもりがない理由をみると男女とも「自由な時間が減るから」が最も多く、男性で59.8%、女性で61.3%となっている。次いで、男性では「家庭をもつほどの収入がないから」が50.9%、「自由に使えるお金が減るから」が50.0%、女性では「共同生活に不安があるから」が54.8%、「パートナーの両親等の親戚付き合いがわずらわしいから」が52.4%となっている。

男性と女性を比べると、男性で「家庭をもつほどの収入がないから」が29.1ポイント、「自由に使えるお金が減るから」が8.9ポイント女性より高く、女性で「パートナーの両親等の親戚付き合いがわずらわしいから」が30.1ポイント、「共同生活に不安があるから」が25.3ポイント、「出産・子育てが不安だから」が10.9ポイント男性より高くなっている。

図表 結婚するつもりがない理由



※新規質問項目

(12) 結婚することの障害

現在交際している方にうかがいます。それ以外の方は問 15 へお進みください。

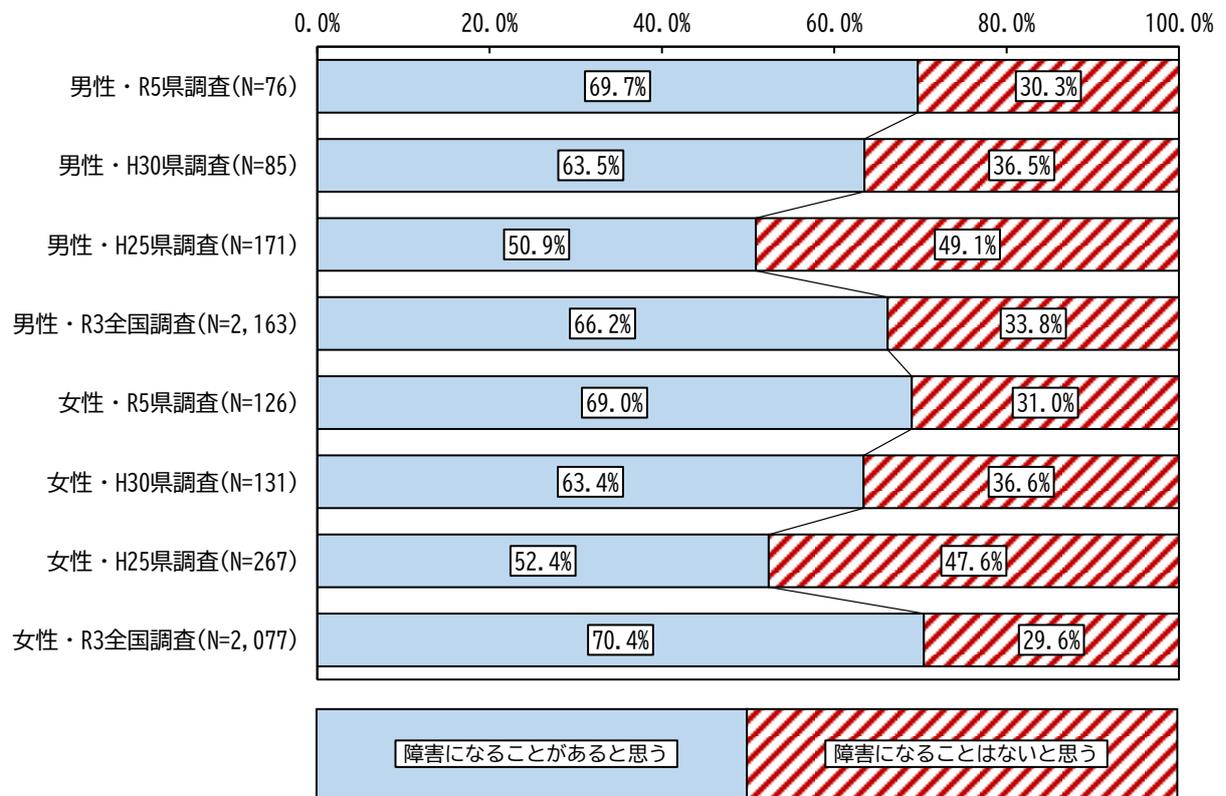
問 1 4 現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の 1. に○をつけた方は、右側②の障害になると思うことの中から、最大の障害と第二の障害をそれぞれ 1 つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

①交際相手と結婚することを考えた場合の障害になることの有無

男女とも「障害になることがあると思う」の割合が 69%程となっている。

過去調査と比べると、男女ともに「障害になることがあると思う」の割合が上昇している。

図表 交際相手と結婚することを考えた場合の障害になることの有無



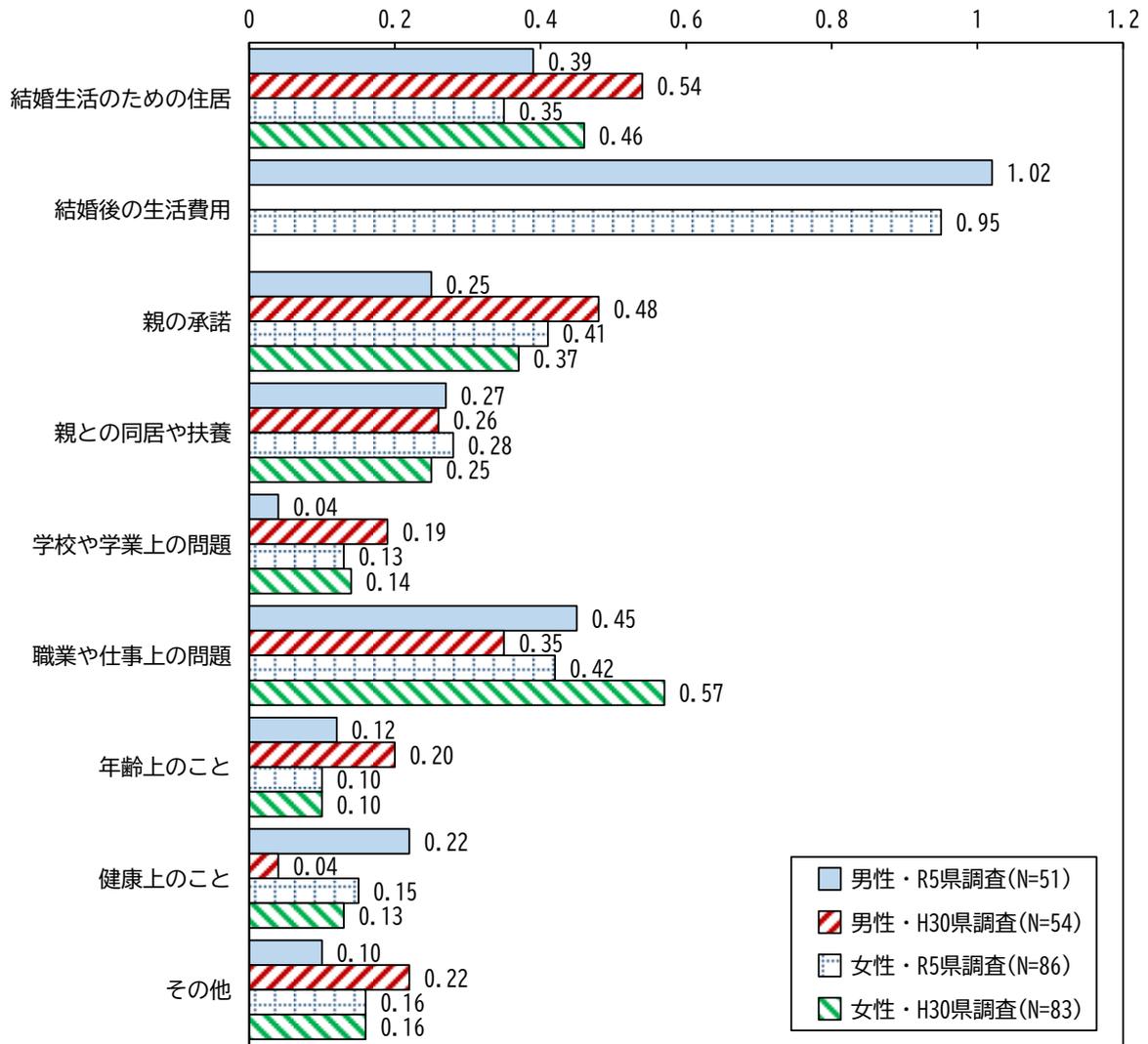
※集計対象：結婚経験のない方（無回答を除く）

## ②結婚の障害になる具体的な内容

結婚の障害になる具体的な内容を見ると、男性では「結婚後の生活費用」が1.02点で最も多く、次いで、「職業や仕事上の問題」が0.45点、「結婚生活のための住居」が0.39点となっている。

女性では「結婚後の生活費用」が0.95点で最も多く、次いで、「職業や仕事上の問題」が0.42点、「親の承諾」が0.41点となっている。

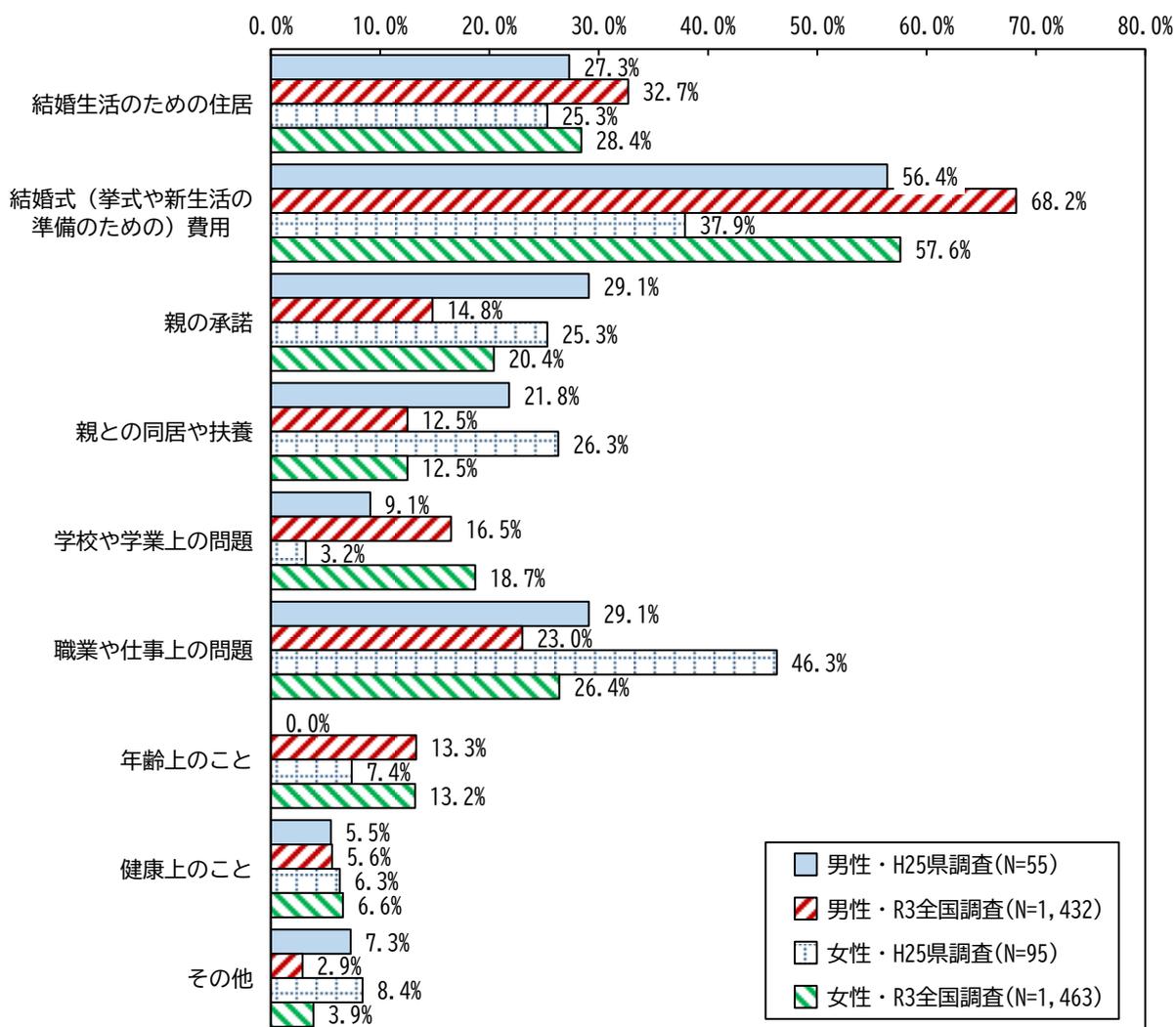
図表 結婚の障害になる具体的な内容（2つ選択）



※結婚経験のない方について、最大の障害=2点、第二の障害=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

※「結婚後の生活費用」は今回調査からの新規項目

(参考) 図表 結婚の障害になる具体的な内容 (過去調査)



## 4 子どもに関すること

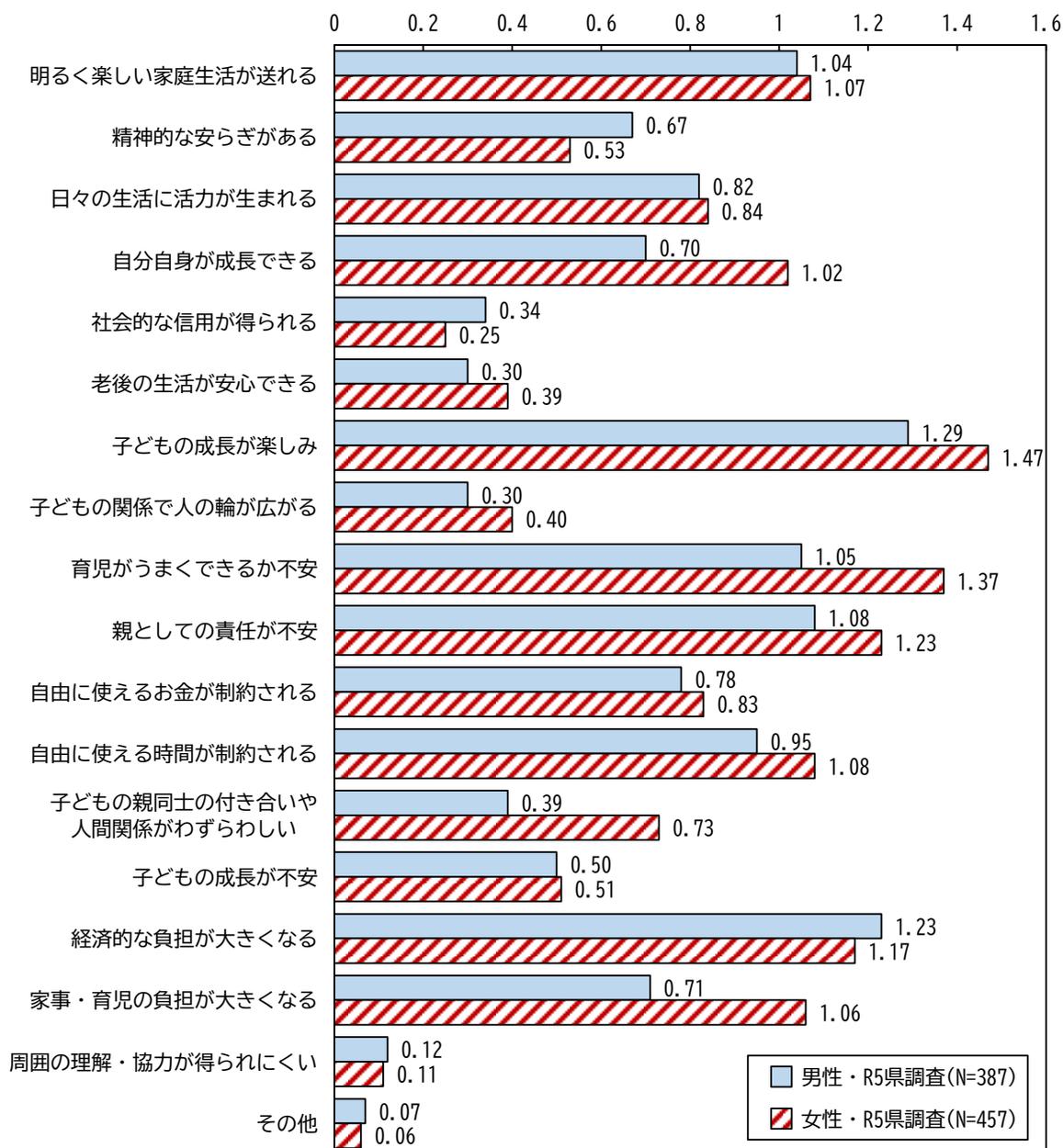
### (1) 子育てに対する考え

問15 あなたが子育てする場合について、子育てをどのようにお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものに◎をつけてください。

子どものいない人の、子育てに対する考えをみると、男性では「子どもの成長が楽しみ」が1.29点で最も多く、次いで、「経済的な負担が大きくなる」が1.23点、「親としての責任が不安」が1.08点となっている。

女性では「子どもの成長が楽しみ」が1.47点で最も多く、次いで、「育児がうまくできるか不安」が1.37点、「親としての責任が不安」が1.23点となっている。

図表 子育てに対する考え



※集計対象：子どもがいない方

※新規質問項目

## (2) 希望する子どもの数

問16 子どもは何人ほしいですか。あてはまる番号に○をつけ、「5. 5人以上」を選択された場合は、( )内に人数を記入してください。また、子どもを1人以上希望される方は、最初のお子さんを持ちたい(持った)年齢を右側②の( )内に記入してください。

### 【年齢別】

各年代の独身者が希望する子ども数の平均をみると、女性の18～19歳のみで、2人以上の子どもを欲しいと回答している。男女ともに概ね年齢の上昇とともに、希望の子ども数は少なくなっており、男性に比べて女性の希望人数の減少の幅が大きい。

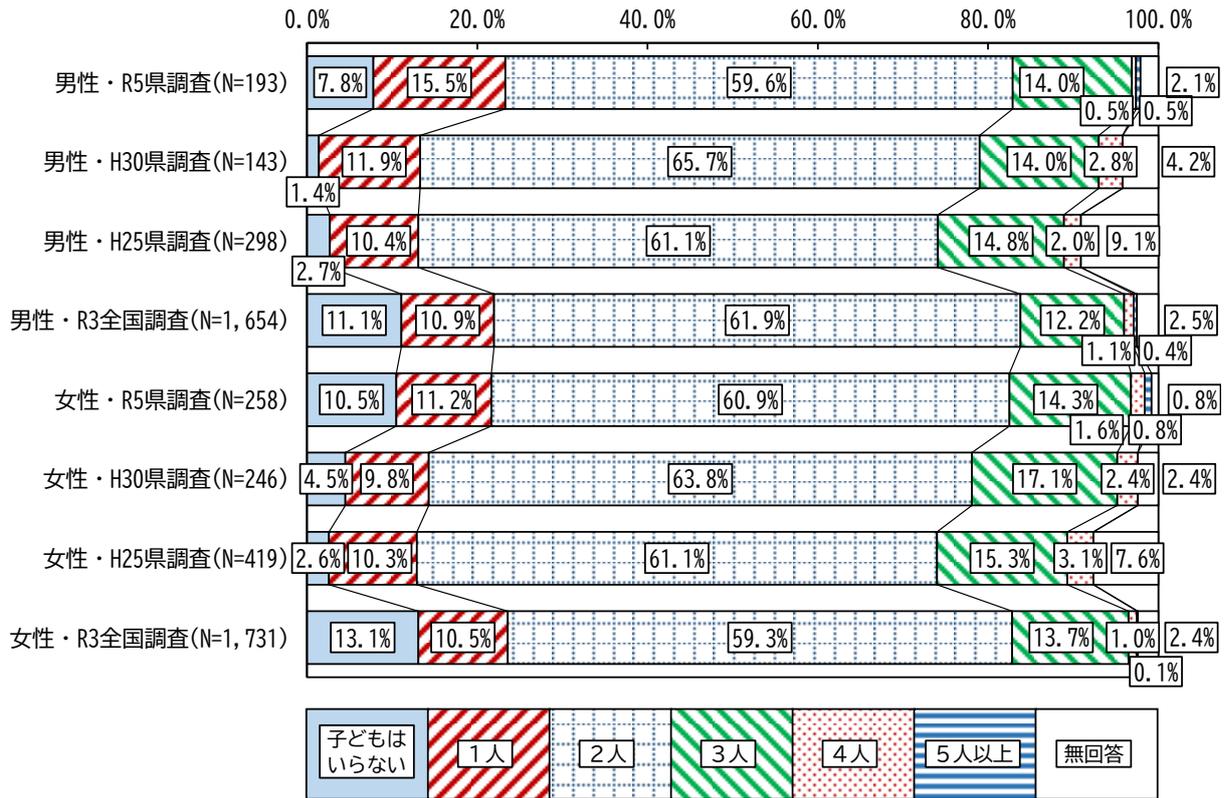
前回調査の結果に比べて、男性ではすべての年代で、女性では20～24歳、25～29歳、30～34歳、45～49歳で、希望の子ども数の平均が低下している。

希望の子ども数が2人以上の割合は、男性では74.6%、女性では77.6%となっている。

図表 年齢別 平均希望子ども数

	男性・ R5県調査	男性・ H30県調査	男性・ H25県調査	男性・ R3全国調査	女性・ R5県調査	女性・ H30県調査	女性・ H25県調査	女性・ R3全国調査
18～19歳	1.70	1.89	2.27	1.97	2.00	1.77	2.15	1.90
20～24歳	1.77	2.12	2.19	1.85	1.66	2.14	2.19	1.89
25～29歳	1.47	2.15	1.90	1.86	1.64	1.98	2.04	1.75
30～34歳	1.11	2.14	1.90	1.58	1.40	1.94	1.82	1.50
35～39歳	1.36	1.73	1.74		1.30	1.30	1.58	
40～44歳	0.96	1.74	1.70		1.14	0.89	1.33	
45～49歳	1.22	1.42	1.50		0.97	1.06	0.67	

図表 希望する子どもの数



※集計対象：いずれ結婚するつもりの方の18～34歳

※H25県調査・H30県調査は「4人以上」が1項目にまとめられている

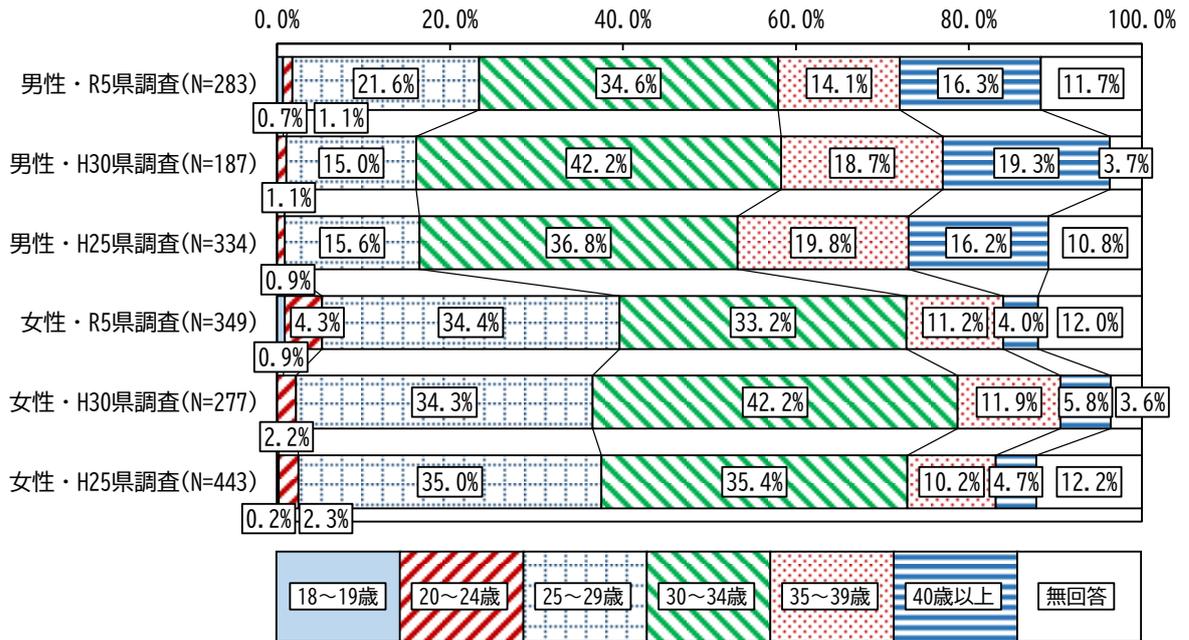
### (3) 最初の子どもを持ちたい年齢

最初の子どもを持ちたい年齢をみると、男性では「30～34歳」が34.6%で最も多く、次いで、「25～29歳」が21.6%、「40歳以上」が16.3%となっている。前回調査に比べて、「25～29歳」の割合が6.6ポイント上昇している。

女性では「25～29歳」が34.4%で最も多く、次いで、「30～34歳」が33.2%、「35～39歳」が11.2%となっている。前回調査に比べて、「30～34歳」の割合が9.0ポイント低下している。

男性と女性を比べると、男性で「40歳以上」が12.3ポイント女性に比べて高く、女性で「25～29歳」が12.8ポイント男性に比べて高くなっている。

図表 最初の子どもを持ちたい年齢



#### (4) 子どもはいらないと考える要因

問16で「0.」（子どもはいない）を選択した方にうかがいます。

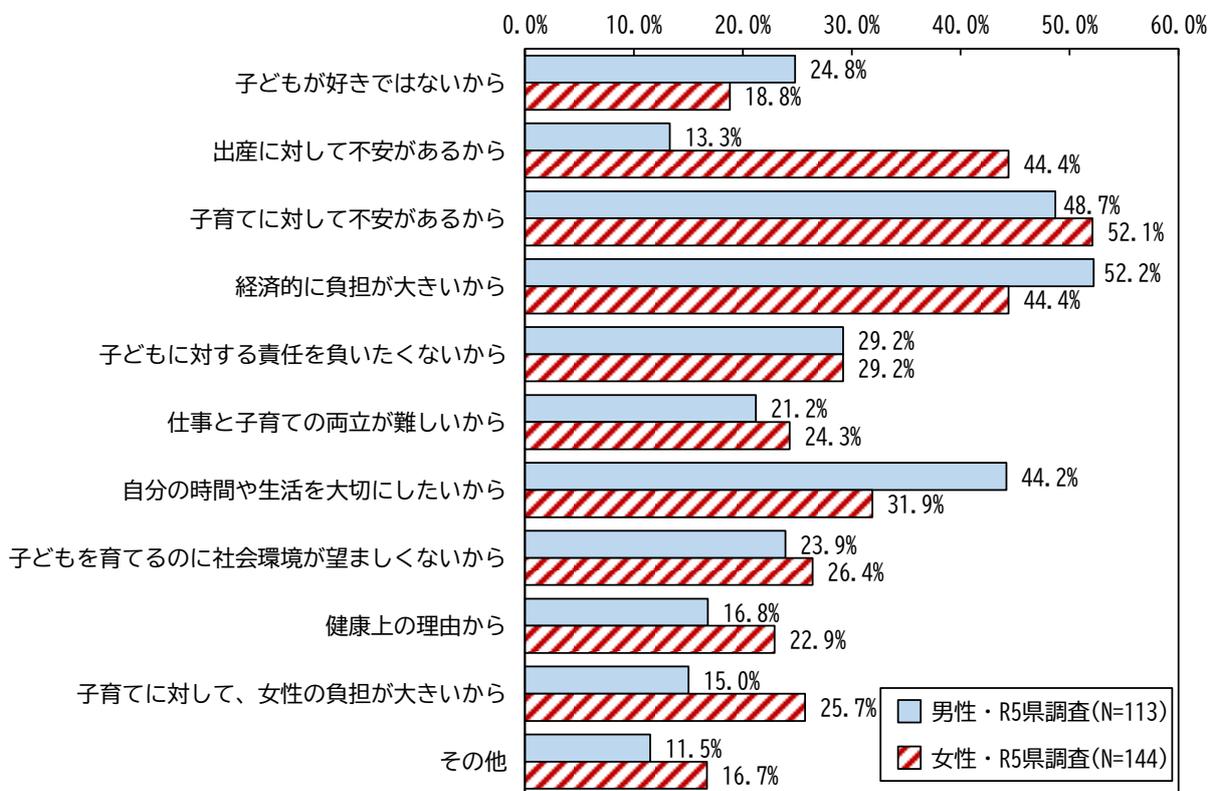
問17 子どもはいらないと考える要因について、下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

子どもはいらないと考える要因についてみると、男性では「経済的に負担が大きいから」が52.2%で最も多く、次いで、「子育てに対して不安があるから」が48.7%、「自分の時間や生活を大切にしたいから」44.2%となっている。

女性では「子育てに対して不安があるから」が52.1%で最も多く、次いで、「出産に対して不安があるから」と「経済的に負担が大きいから」が44.4%となっている。

男性と女性を比べると、男性で「自分の時間や生活を大切にしたいから」が12.3ポイント、「経済的に負担が大きいから」が7.8ポイント女性に比べて高く、女性で「出産に対して不安があるから」が31.1ポイント、「子育てに対して、女性の負担が大きいから」が10.7ポイント男性より高くなっている。

図表 子どもはいらないと考える要因



※新規質問項目

(5) 希望する子どもの数が1人以上の理由

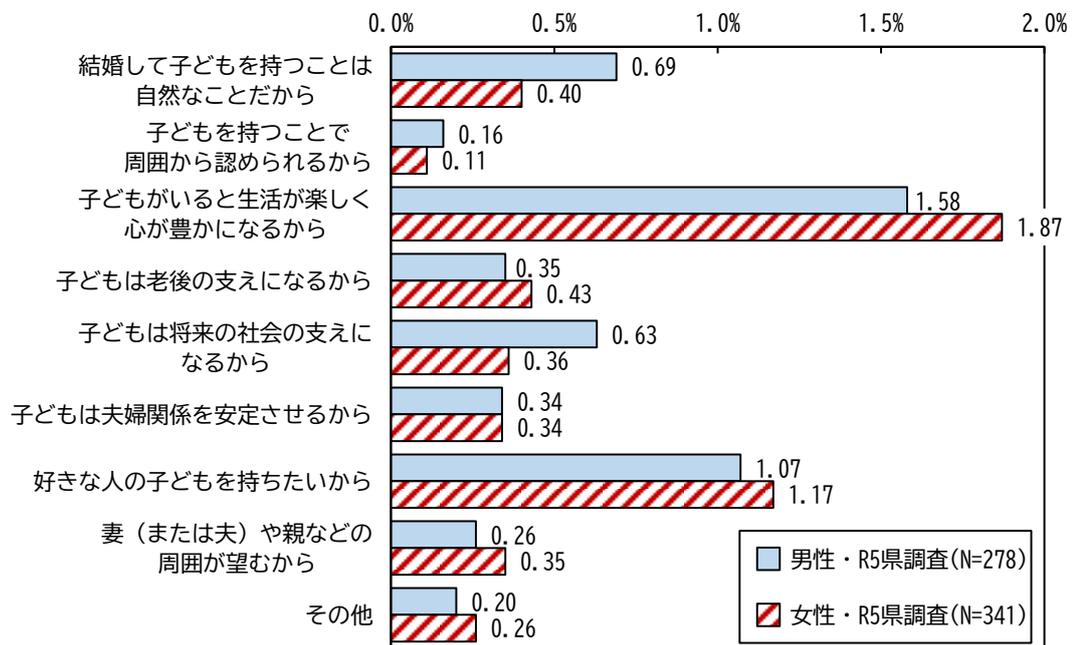
問16で希望する子どもの数を1人以上と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問19へお進みください。

問18 希望する子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

希望する子どもの数を1人以上と考える理由をみると、男性では「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が1.58点で最も多く、次いで、「好きな人の子どもを持ちたいから」が1.07点、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」が0.69点となっている。

女性では「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が1.87点で最も多く、次いで「好きな人の子どもを持ちたいから」が1.17点、「子どもは老後の支えになるから」が0.43点となっている。

図表 希望する子どもの数が1人以上の理由



※新規質問項目

(6) 身近な状況について

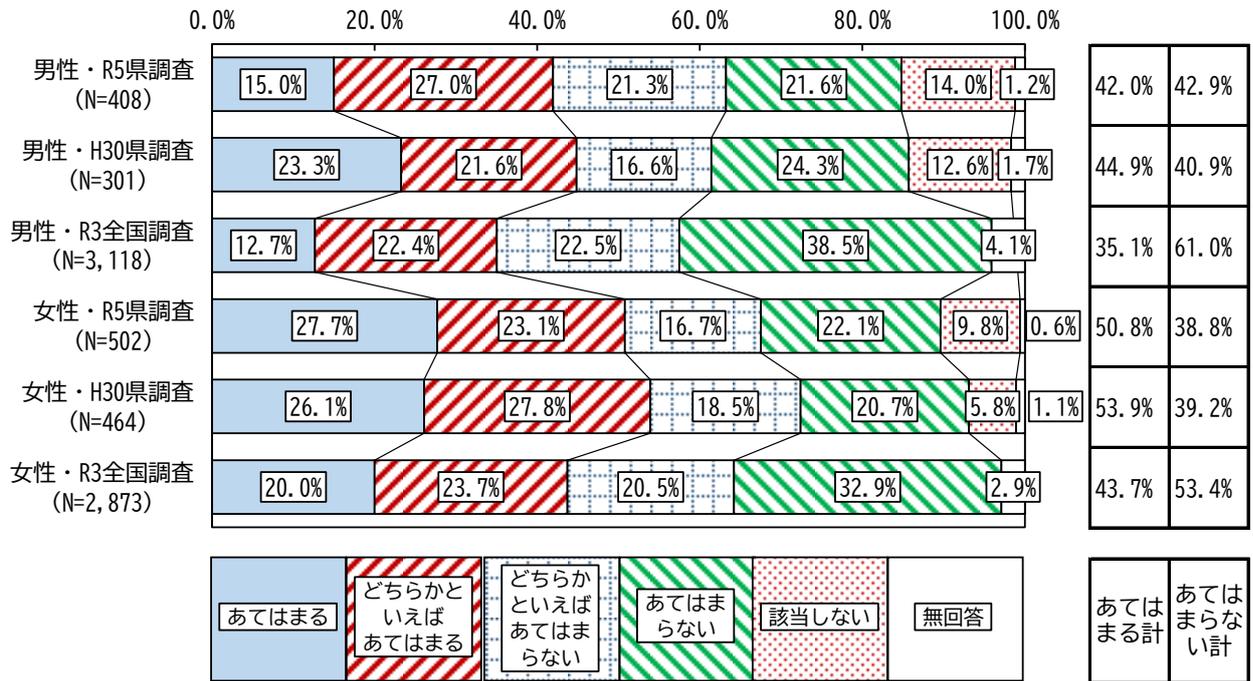
問19 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない(いなかった)場合は、5に○をつけてください。

①赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった(よくある)

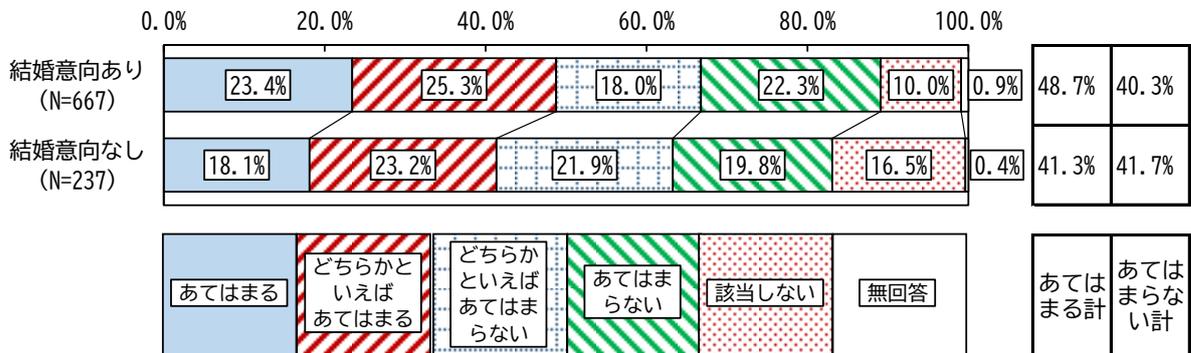
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では42.0%、女性では50.8%となっている。

結婚意向別にみると、結婚意向ありでは48.7%で、結婚意向なしより高くなっている。

図表 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった(よくある)



※R3 全国調査では「該当しない」は無し

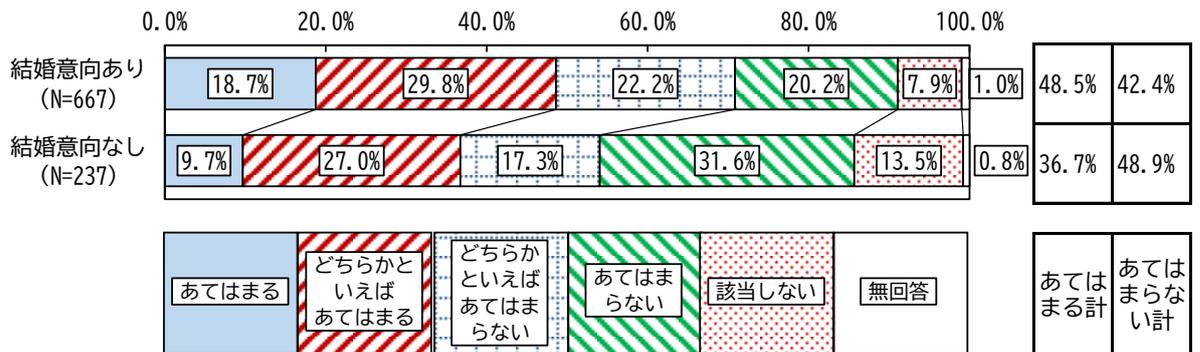
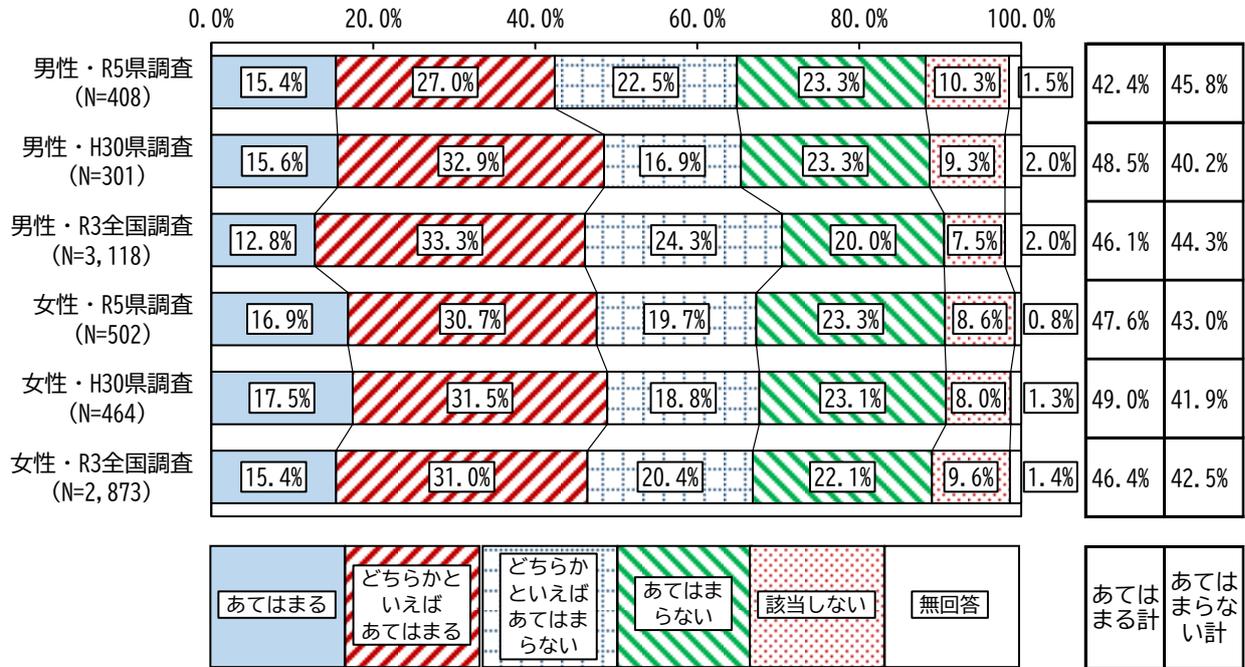


②両親のような夫婦関係をうらやましく思う

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では42.4%、女性では47.6%となっている。

結婚意向別にみると、結婚意向ありでは48.5%で、結婚意向なしより高くなっている。

図表 両親のような夫婦関係をうらやましく思う

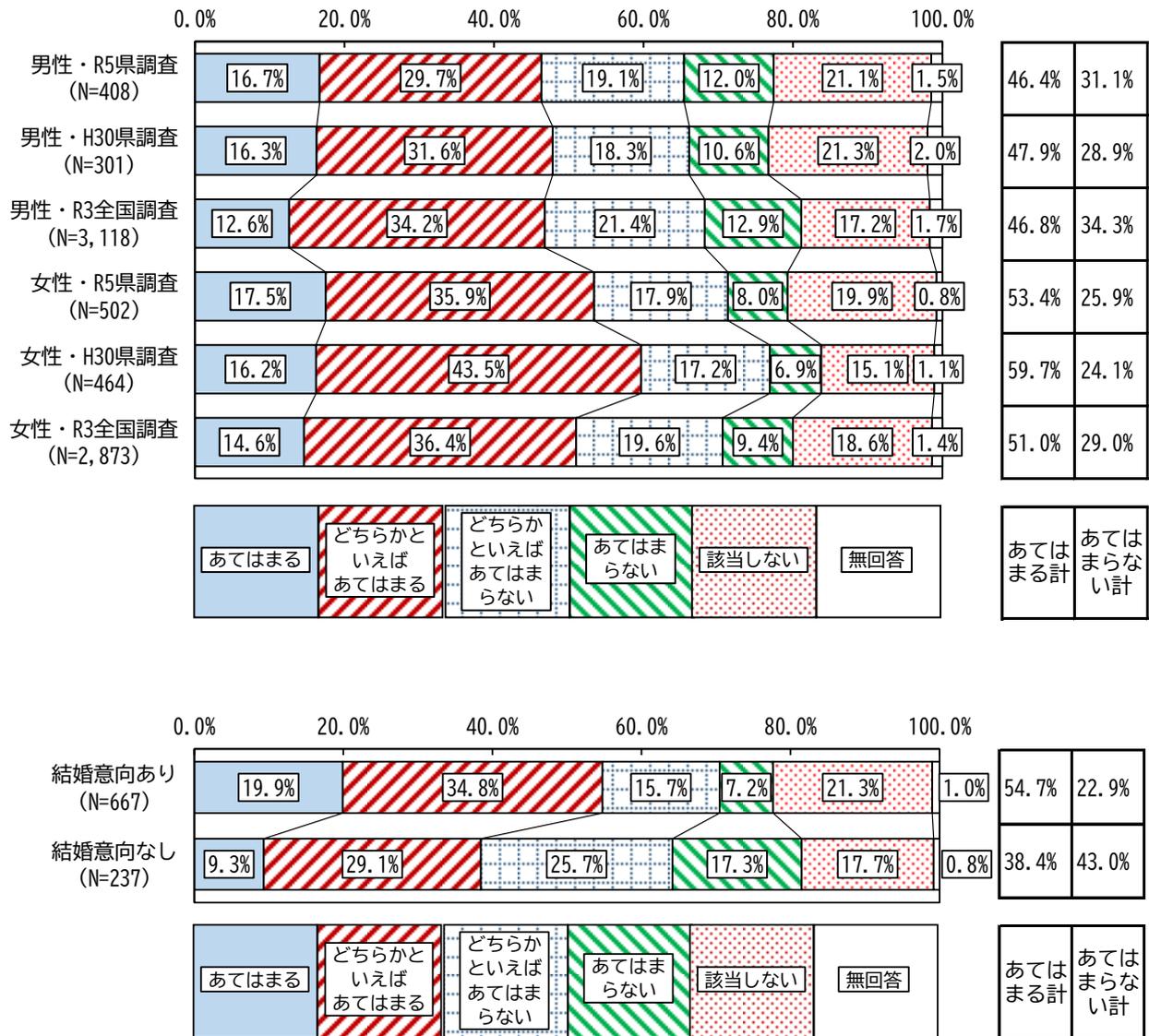


③結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では46.4%、女性では53.4%となっている。

結婚意向別にみると、結婚意向ありでは54.7%で、結婚意向なしより高くなっている。

図表 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う

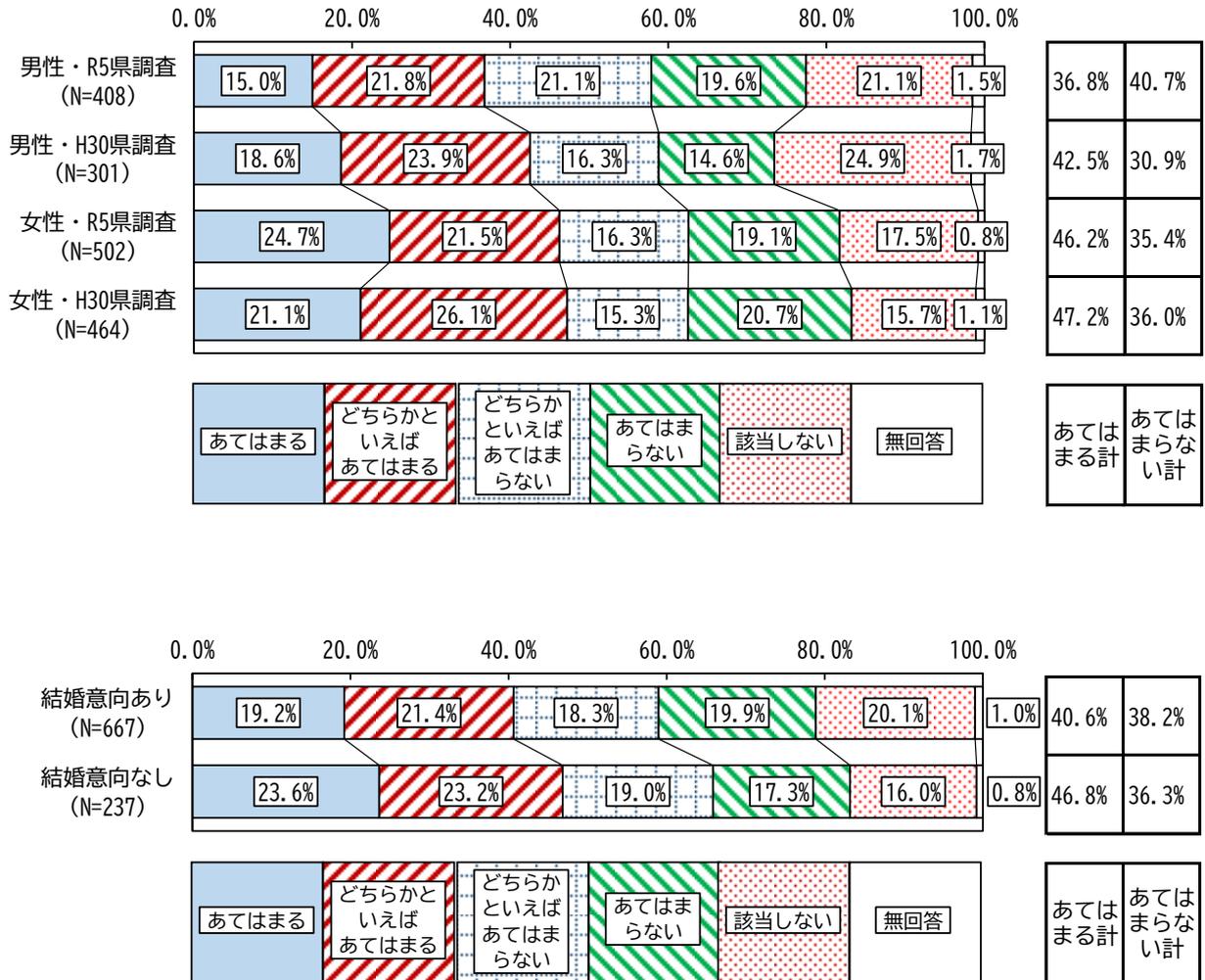


④同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では36.8%、女性では46.2%となっている。

結婚意向別にみると、結婚意向なしでは46.8%で、結婚意向ありより高くなっている。

図表 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い



## 5 結婚・子育てに対する考え方

### (1) 結婚、家庭、子育てに関する意識

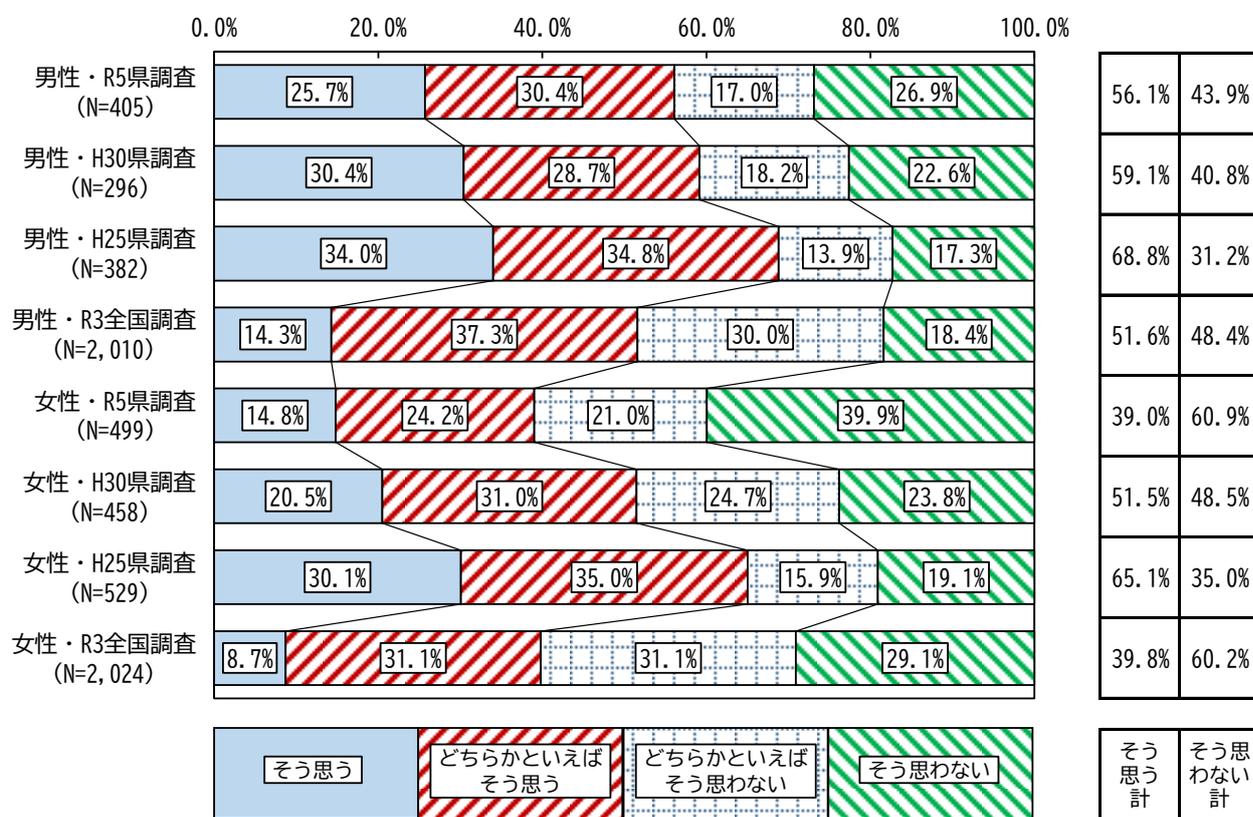
問20 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～③のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

#### ①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

そう思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下問20内で同じ）をみると、男性では56.1%となっている。過去調査から低下傾向である。

女性では39.0%となっている。男性と同じく過去調査から低下傾向であり、前回調査に比べて12.5ポイントと大きく低下している。

図表 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

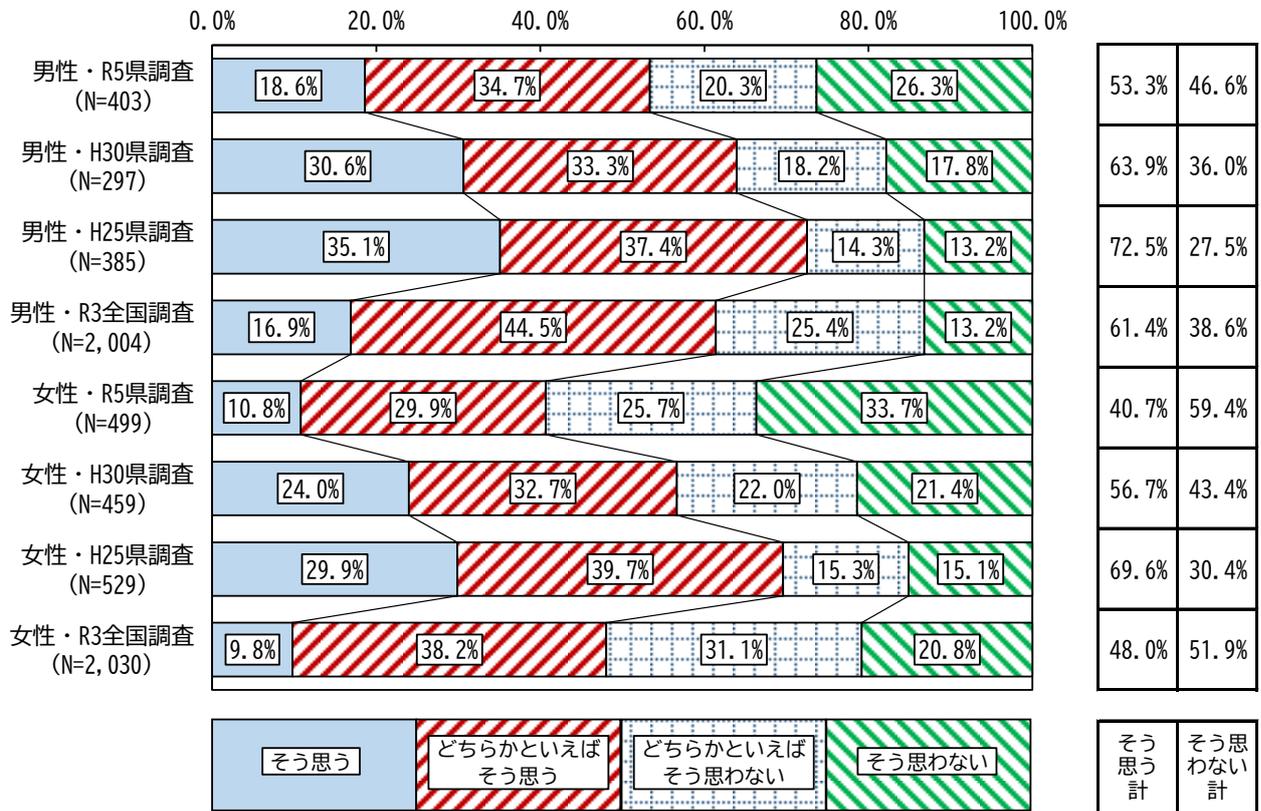
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

そう思う割合をみると、男性では 53.3%となっている。前回調査に比べて、10.6 ポイント低下している。

女性では 40.7%となっている。前回調査に比べて、16.0 ポイント低下している。

図表 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

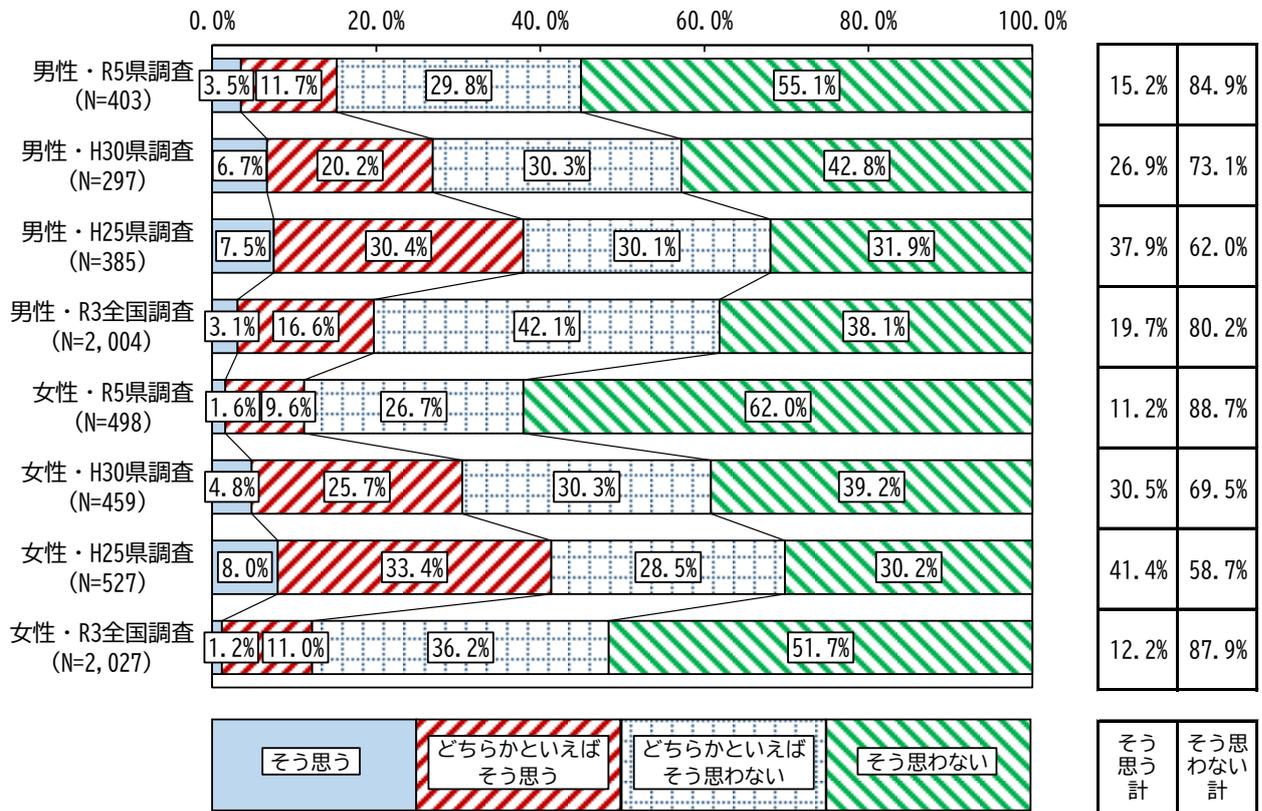
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

そう思う割合をみると、男性では 15.2%となっている。前回調査に比べて、11.7 ポイント低下している。

女性では 11.2%となっている。前回調査に比べて、19.3 ポイント低下している。

図表 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は 18～34 歳

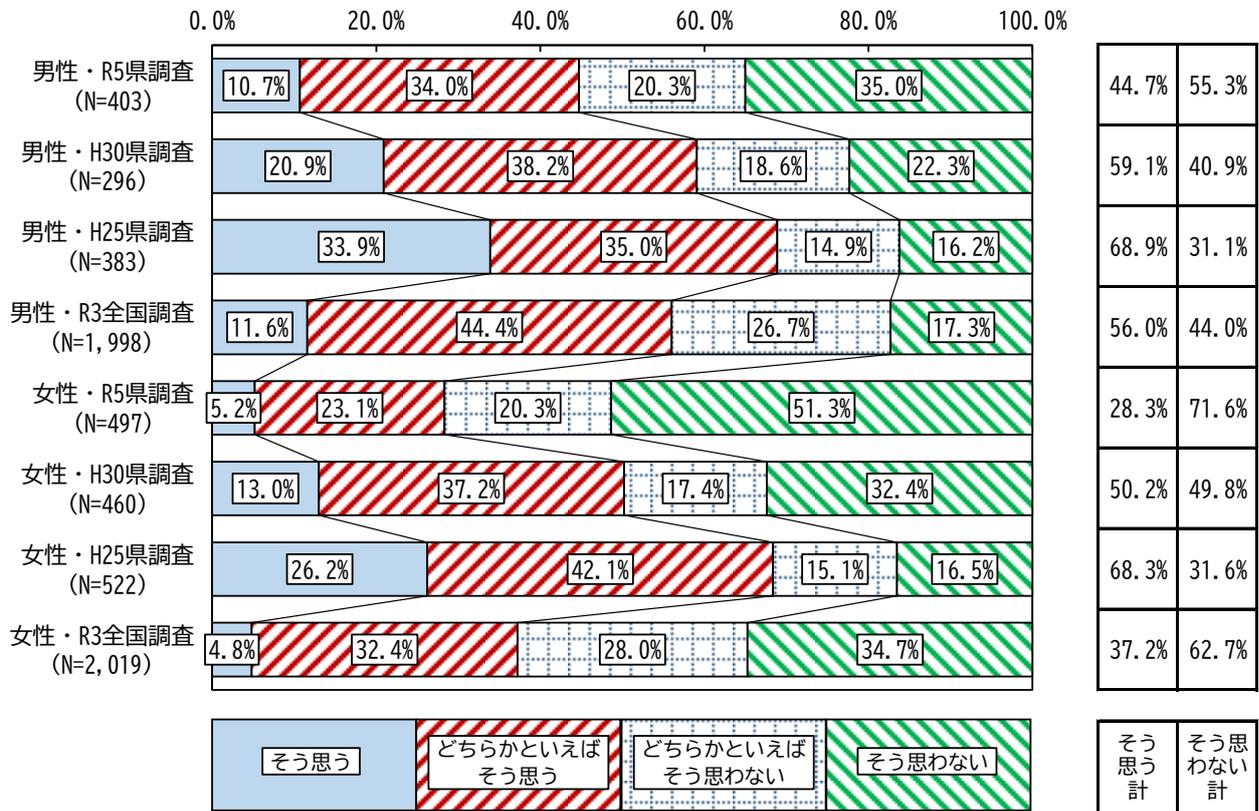
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

④結婚したら、子どもは持つべきだ

そう思う割合をみると、男性では 44.7%となっている。前回調査に比べて、14.4 ポイント低下している。

女性では 28.3%となっている。前回調査に比べて、21.9 ポイント低下している。

図表 結婚したら、子どもは持つべきだ



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は 18～34 歳

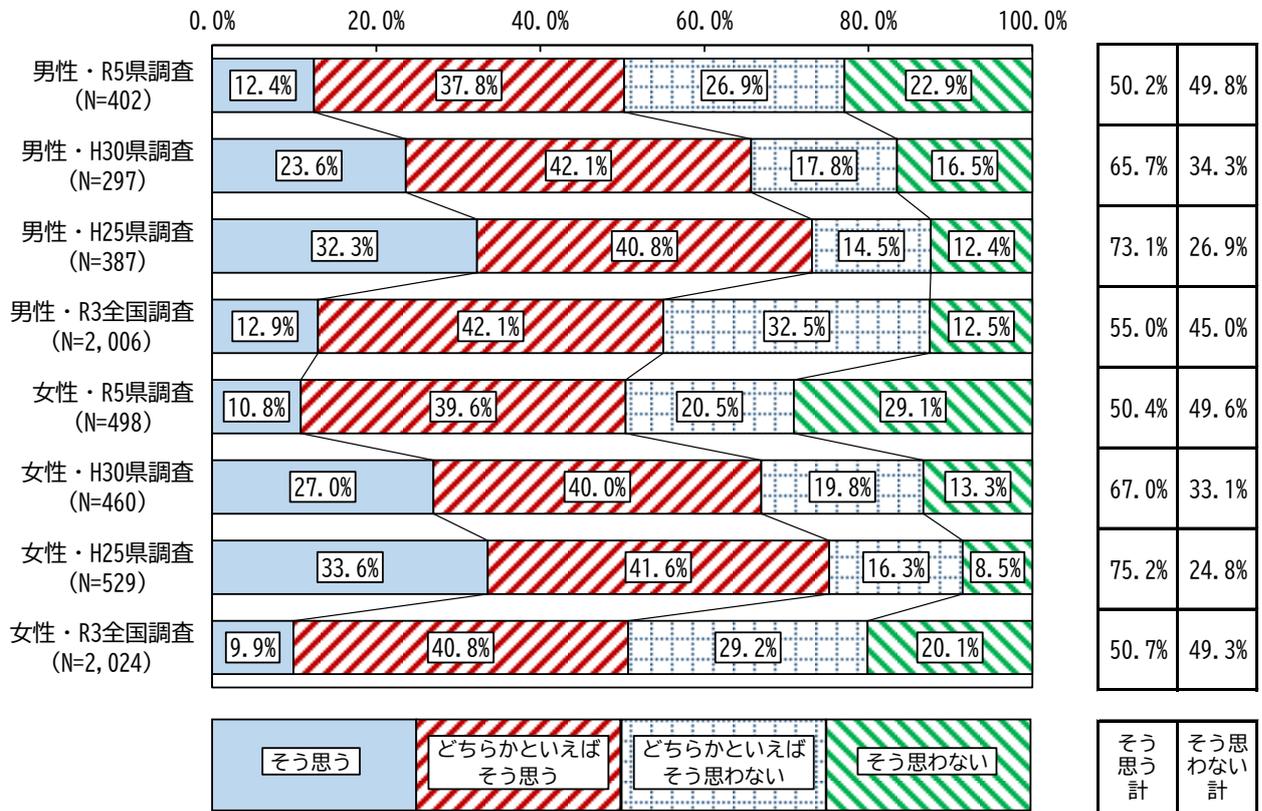
※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい

そう思う割合をみると、男性では 50.2%となっている。前回調査に比べて、15.5 ポイント低下している。

女性では 50.4%となっている。前回調査に比べて、16.6 ポイント低下している。

図表 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい



※無回答を除く

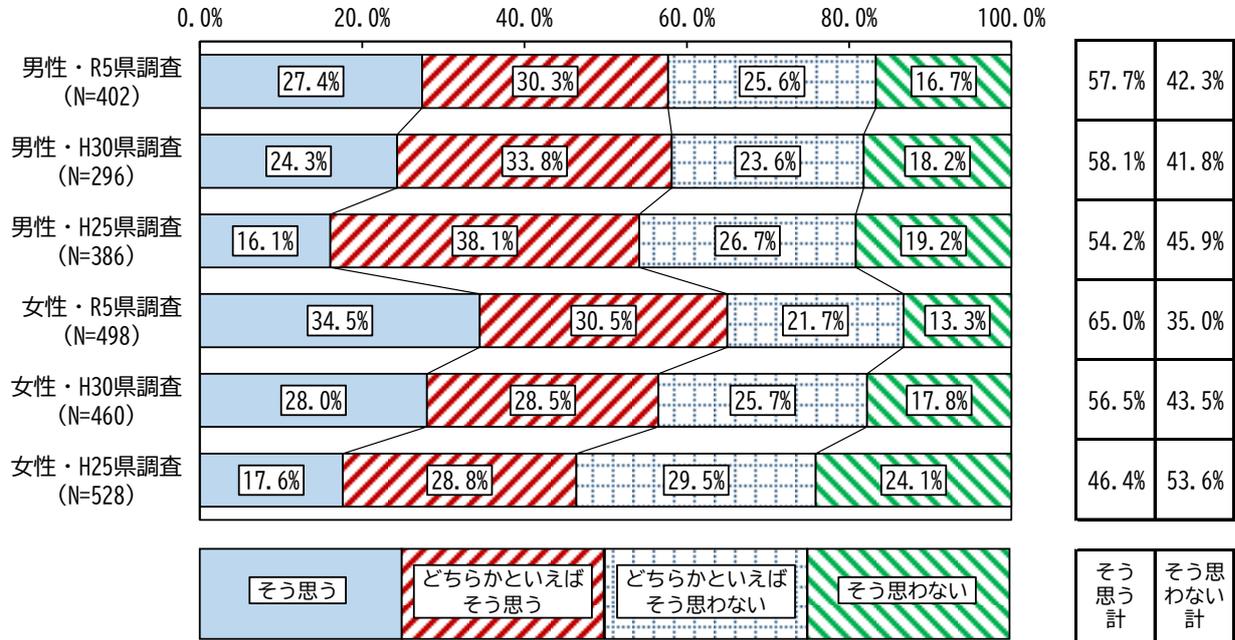
※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は 18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

⑥妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない

そう思う割合をみると、男性では57.7%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。女性では65.0%となっている。前回調査に比べて、8.5ポイント上昇している。

図表 妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない



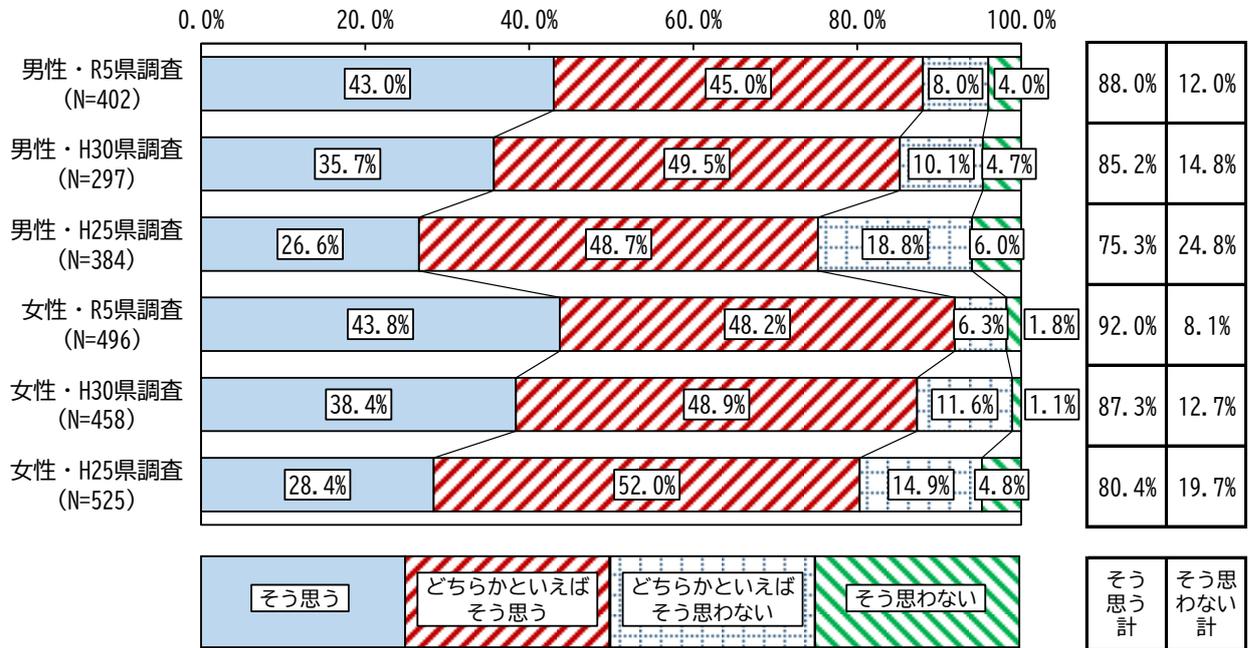
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は18～34歳

⑦子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う

そう思う割合をみると、男性では88.0%となっている。前回調査に比べて、2.8ポイント上昇している。女性では92.0%となっている。前回調査に比べて、4.7ポイント上昇している。

図表 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う



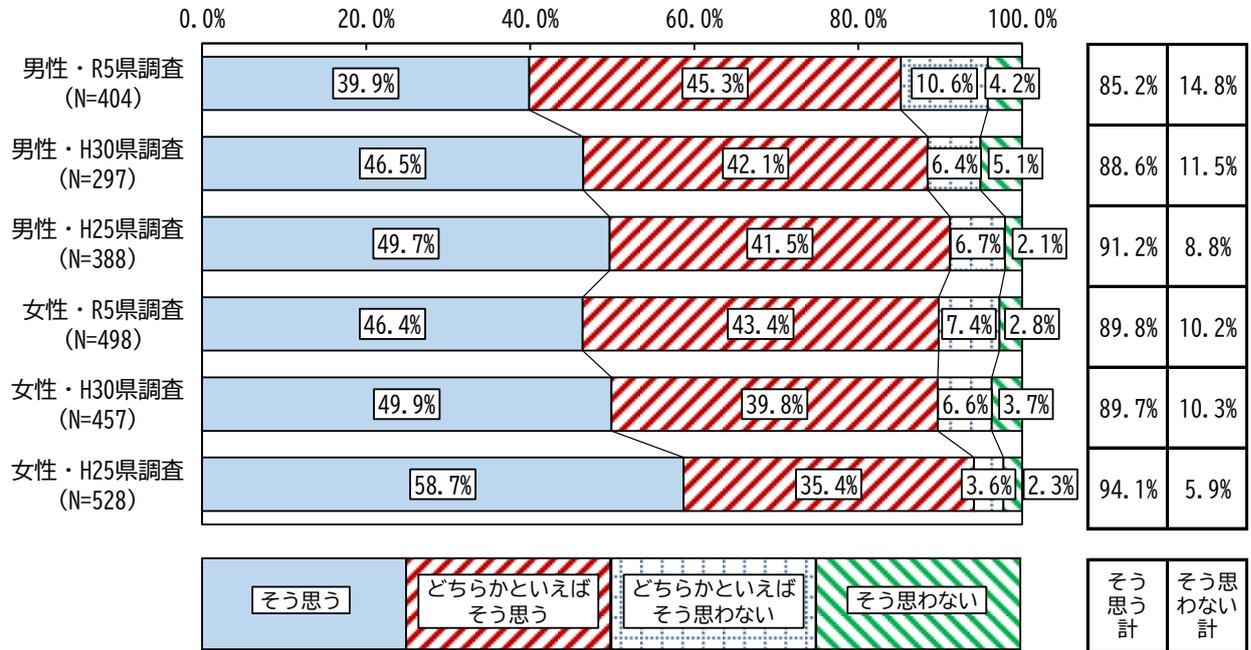
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査 18～34 歳

⑧子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）

そう思う割合をみると、男性では85.2%となっている。前回調査に比べて、3.4ポイント低下している。女性では89.8%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）



※無回答を除く

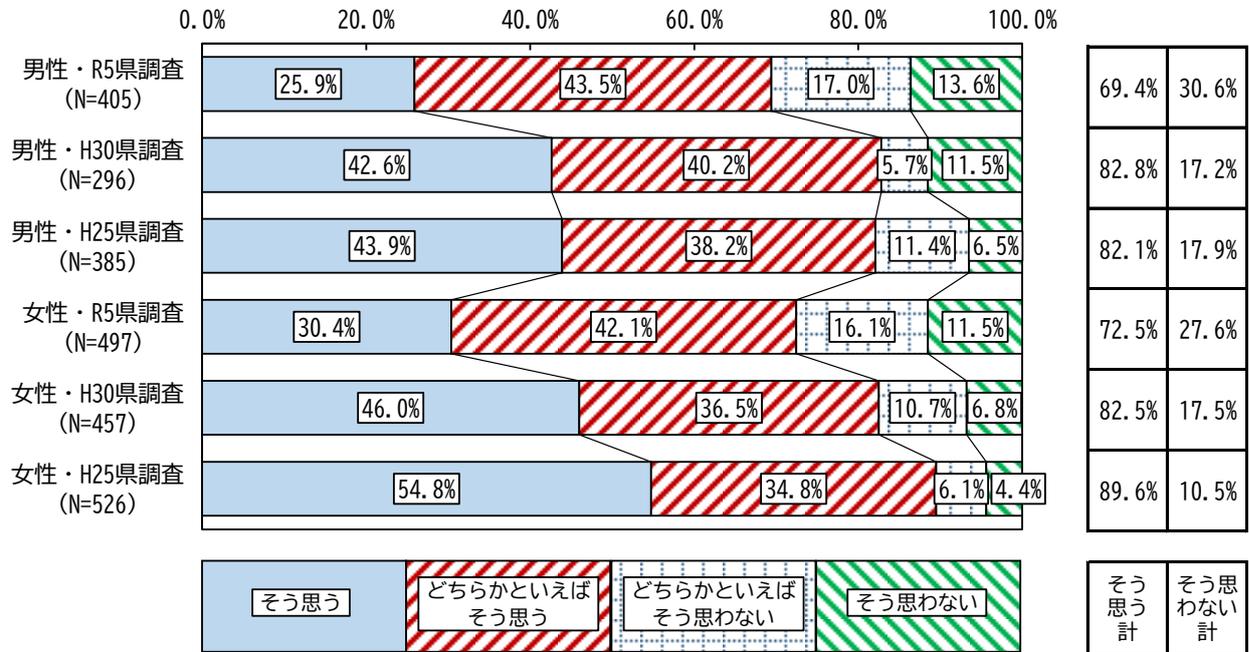
※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は18～34歳

⑨老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う

そう思う割合をみると、男性では 69.4%となっている。前回調査に比べて、13.4 ポイント低下している。

女性では 72.5%となっている。前回調査に比べて、10.0 ポイント低下している。

図表 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う



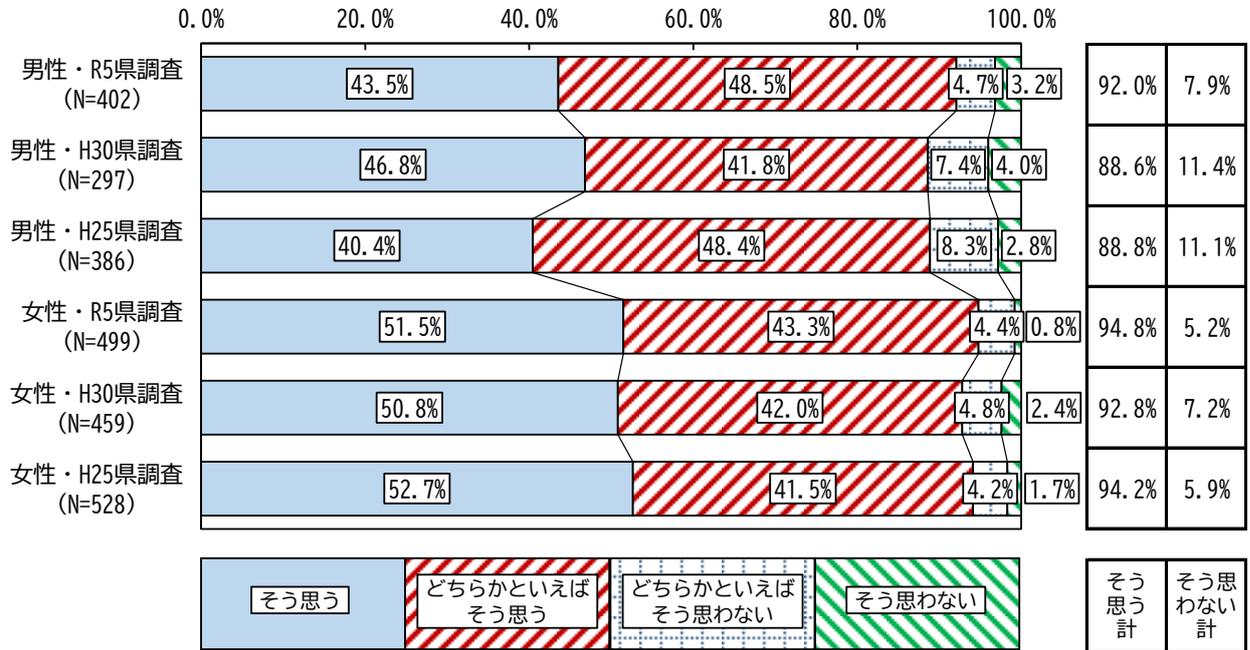
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は 18～34 歳

⑩子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う

そう思う割合をみると、男性では92.0%となっている。前回調査に比べて、3.4ポイント上昇している。女性では94.8%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う



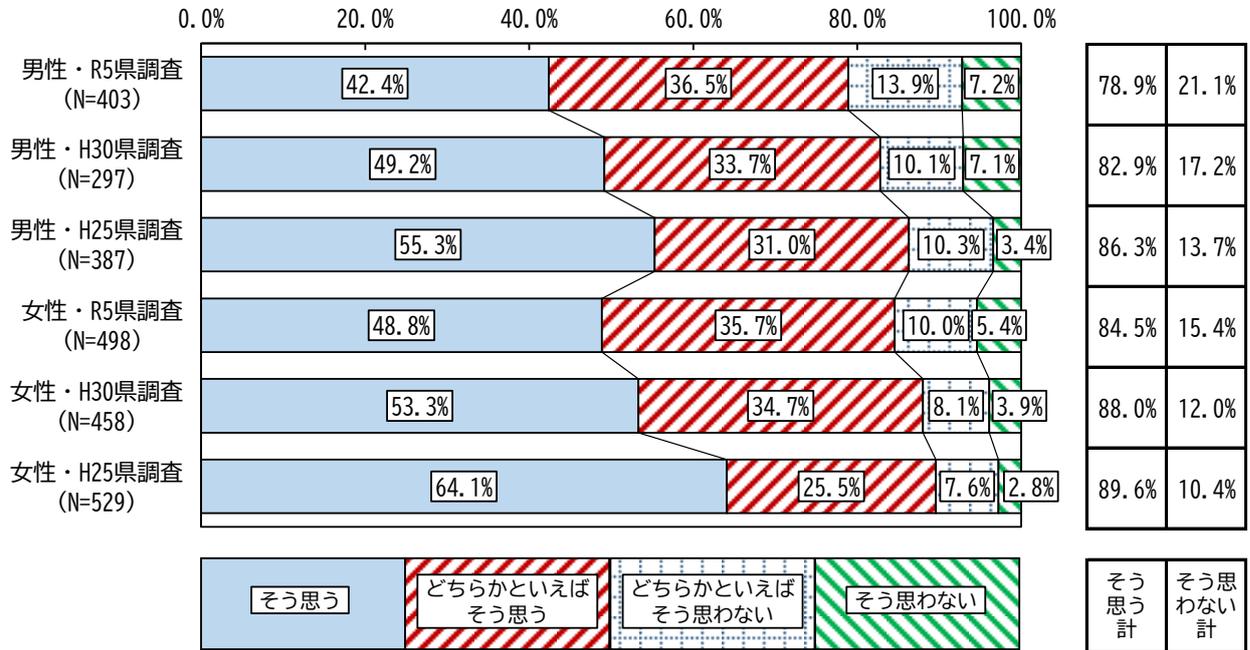
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は18～34歳

①子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う

そう思う割合をみると、男性では78.9%となっている。前回調査に比べて、4.0ポイント低下している。女性では84.5%となっている。前回調査に比べて、3.5ポイント低下している。

図表 子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う



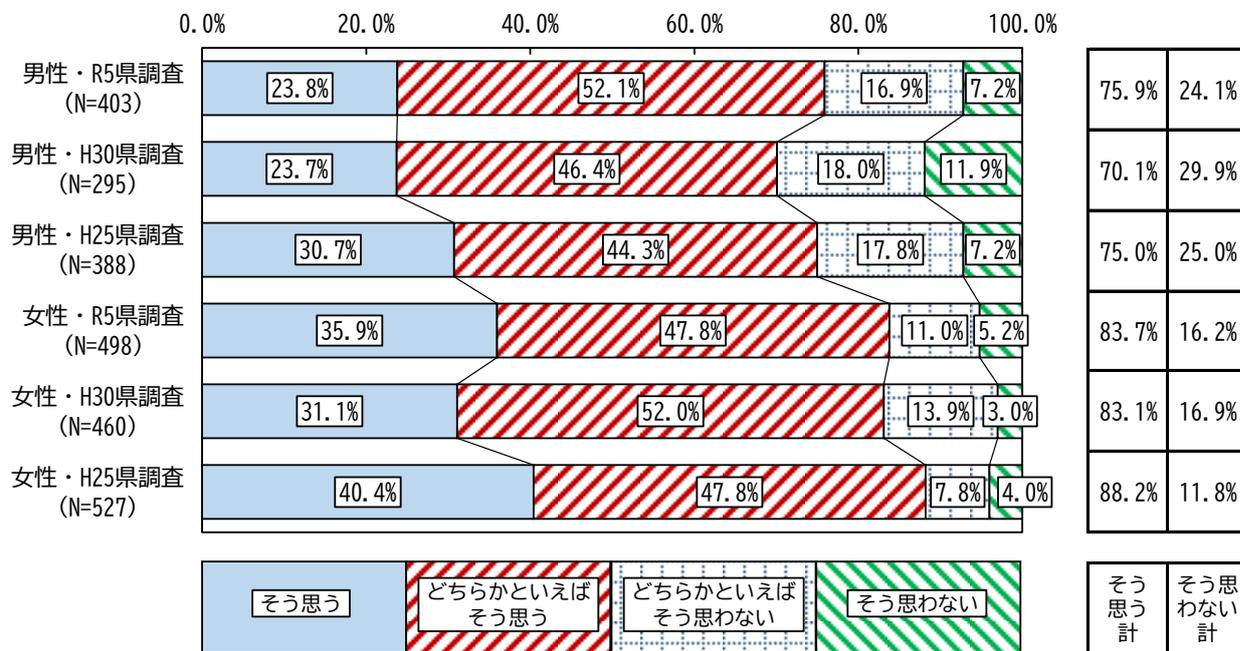
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は18～34歳

⑫親にも子育てに協力してもらいたいと思う

そう思う割合をみると、男性では75.9%となっている。前回調査に比べて、5.8ポイント上昇している。女性では83.7%となっている。前回調査に比べて大きな変化はみられない。

図表 「親にも子育てに協力してもらいたいと思う」に対する考え



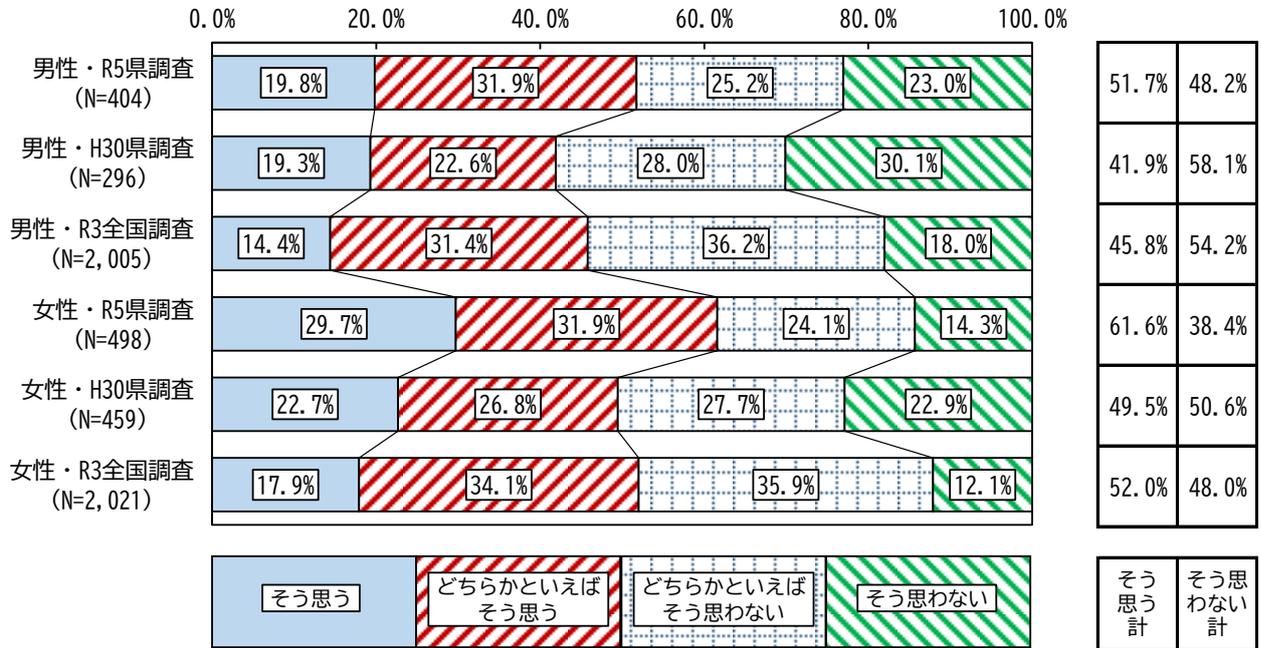
※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査は18～34歳

⑬結婚してなくても、子どもを持って構わない

そう思う割合をみると、男性では51.7%となっている。前回調査に比べて、9.8ポイント上昇している。女性では61.6%となっている。前回調査に比べて、12.1ポイント上昇している。

図表 「結婚してなくても、子どもを持って構わない」に対する考え



※無回答を除く

※集計対象：R5 県調査・H30 県調査は回答者全数、H25 県調査・R3 全国調査は18～34 歳

※R3 全国調査は「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「まったく反対」となっている

## 6 結婚・子育て支援策

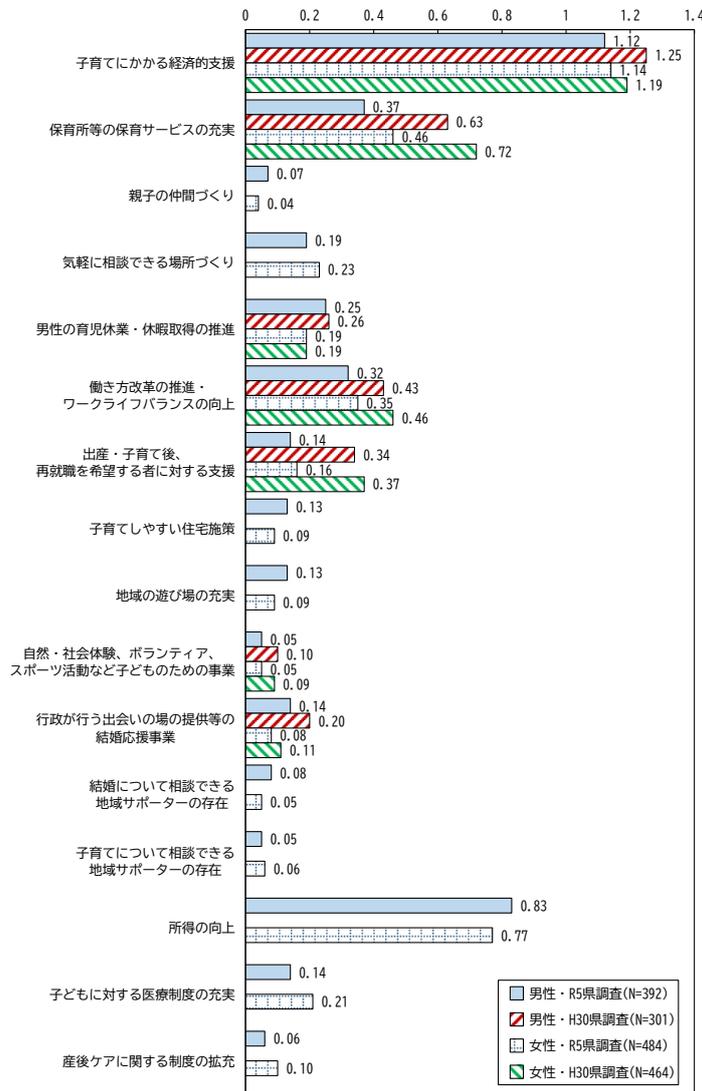
### (1) 重要と考える子育て支援策

問21 あなたが今、あるいは、これから奈良県で結婚・子育てをするにあたり、次の①～⑯の各項目について、最重要だと思うもの1つに◎をつけ、次に重要だと思うもの2つに○をつけて下さい。

重要と考える子育て支援策をみると、男性では「子育てにかかる経済的支援」が1.12点で最も多く、次いで「所得の向上」が0.83点、「保育所等の保育サービスの充実」が0.37点となっている。

女性では「子育てにかかる経済的支援」が1.14点で最も多く、次いで「所得の向上」が0.77点、「保育所等の保育サービスの充実」が0.46点となっている。

図表 重要と考える子育て支援策（3つ選択）

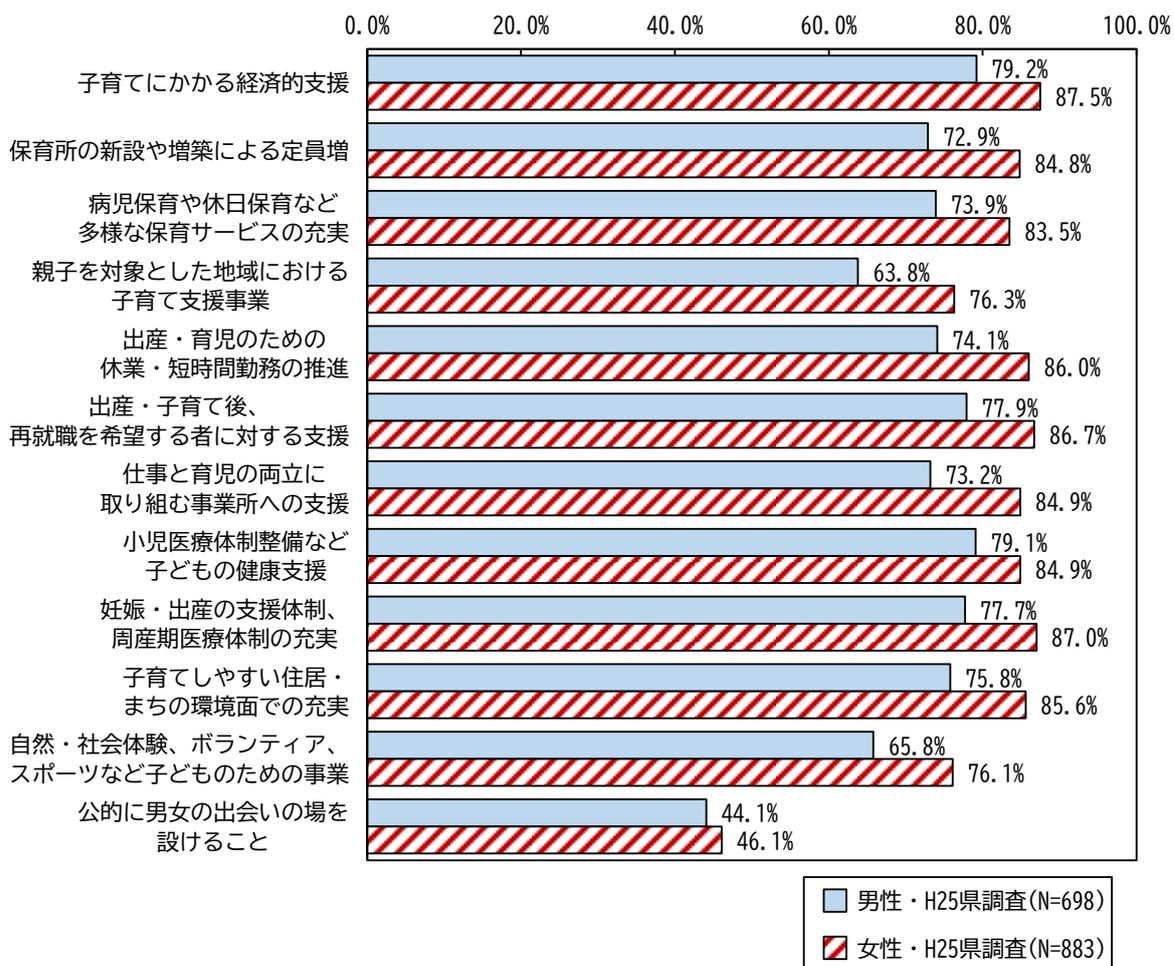


※最重要=2点、次いで重要=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした

※「③親子の仲間づくり」「④気軽に相談ができる場所づくり」「⑫結婚について相談できる地域サポーターの存在」「⑬子育てについて相談できる地域サポーターの存在」「⑭所得の向上」「⑮子どもに対する医療制度の充実」「⑯産後ケアに関する制度の拡充」は今回調査からの新規項目

※「⑧子育てしやすい住宅施策」「⑨地域の遊び場の充実」はH30県調査では「子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実」となっていた

(参考) 図表 重要と考える子育て支援策 (H25 県調査)



(2) 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うか

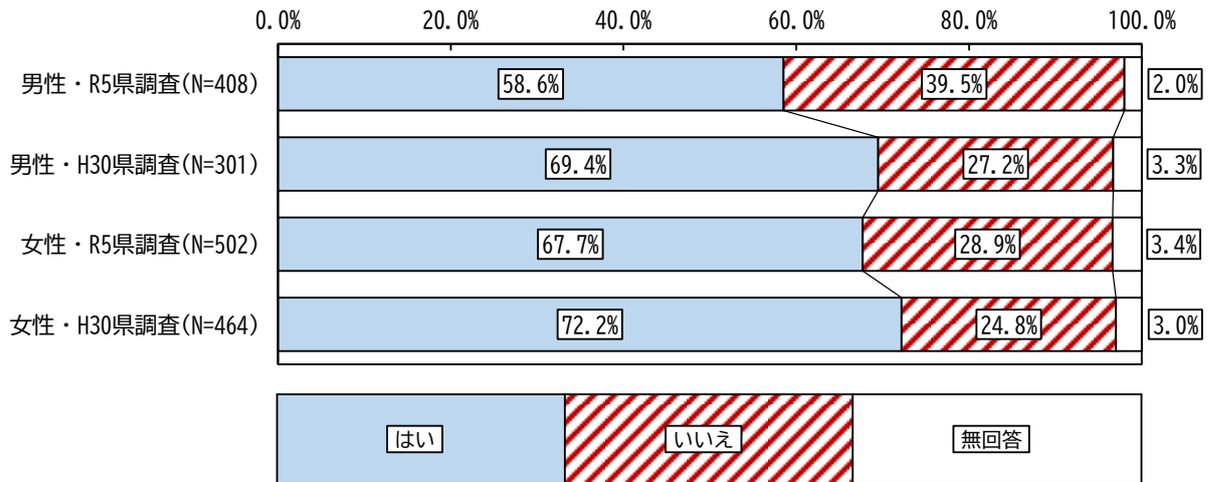
問22 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

①奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うか

奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思う人は、男性では 58.6%、女性では 67.7%となっている。

前回調査に比べて、「はい」の割合が男性で 10.8 ポイント、女性で 4.5 ポイント低下している。

図表 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うか



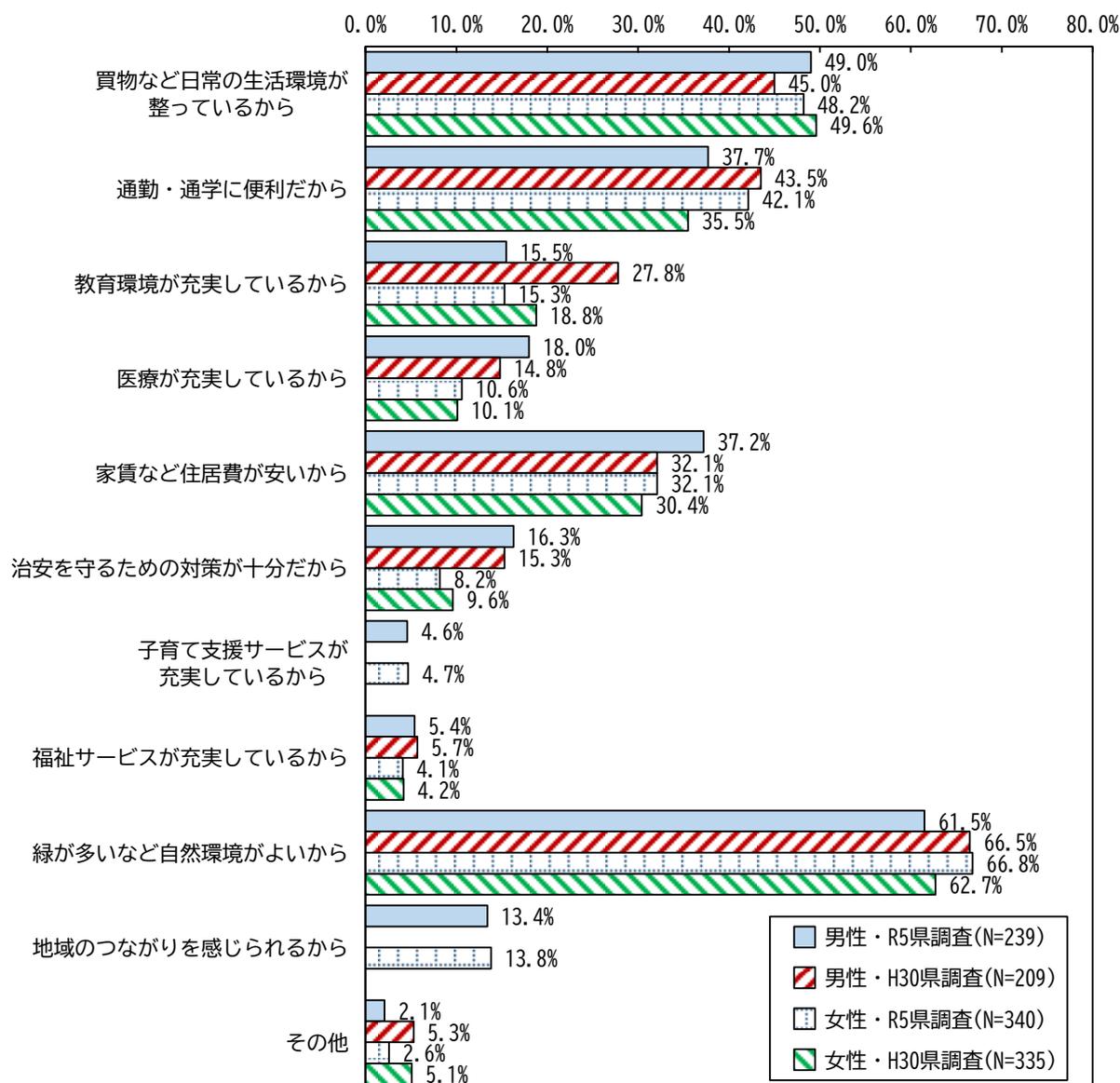
## ②子どもを生き育てやすいところだと思う理由

子どもを生き育てやすいところだと思う理由をみると、男性では「緑が多いなど自然環境がよいから」が61.5%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」が49.0%、「通勤・通学に便利だから」が37.7%となっている。

女性では「緑が多いなど自然環境がよいから」が66.8%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」が48.2%、「通勤・通学に便利だから」が42.1%となっている。

男性と女性を比べると、男性で「治安を守るための対策が十分だから」が8.1ポイント、「医療が充実しているから」が7.4ポイント、「家賃など住居費が安いから」が5.1ポイント女性より高く、女性では「緑が多いなど自然環境がよいから」が5.3ポイント、「通勤・通学に便利だから」が4.4ポイント男性より高くなっている。

図表 子どもを生き育てやすいところだと思う理由（複数回答）



※「子育て支援サービスが充実しているから」「地域のつながりを感じられるから」は今回調査からの新規項目

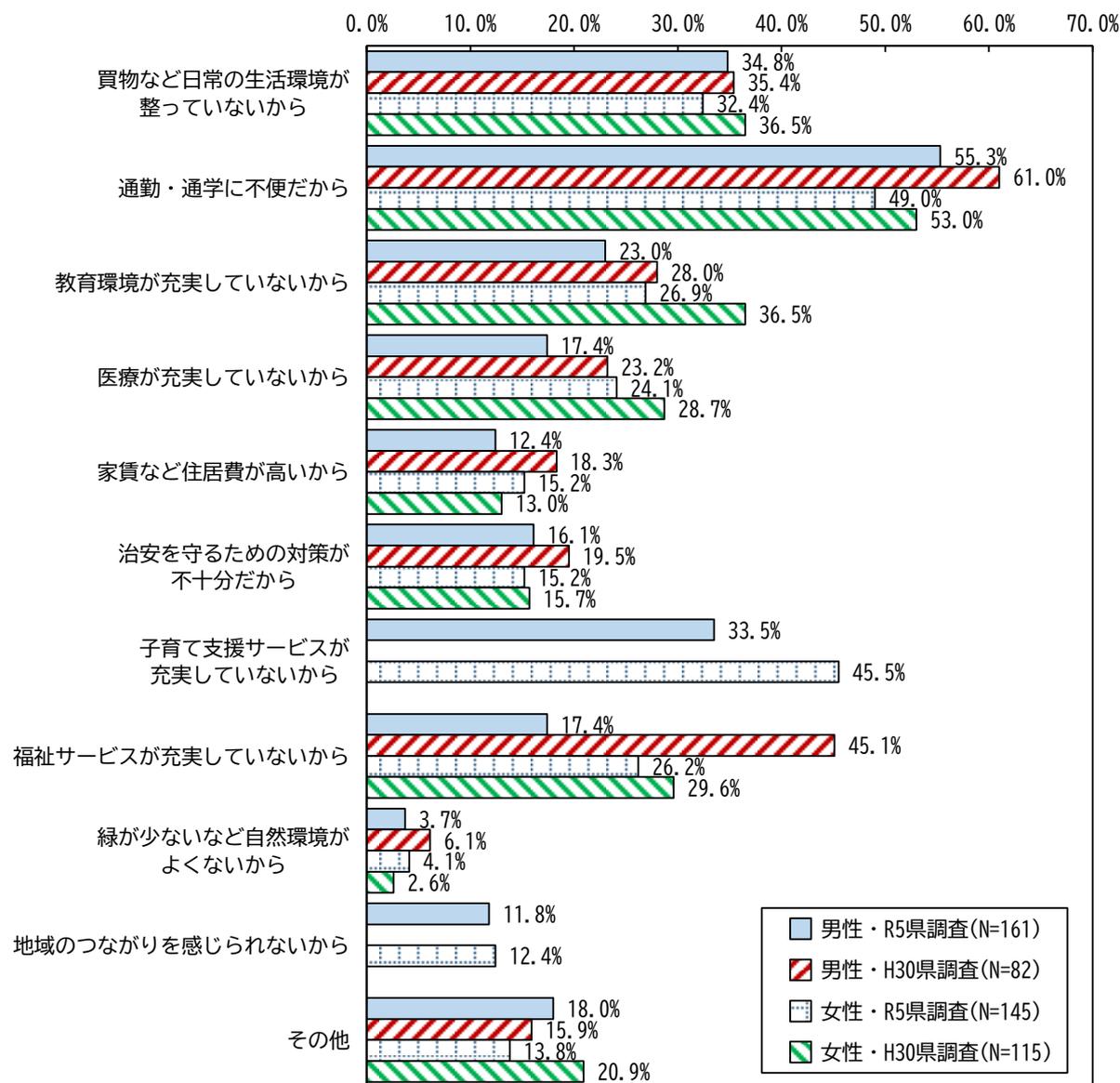
### ③子どもを生き育てやすいところだと思わない理由

子どもを生き育てやすいところだと思わない理由をみると、男性では「通勤・通学に不便だから」が55.3%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っていないから」が34.8%、「子育て支援サービスが充実していないから」が33.5%となっている。

女性では「通勤・通学に不便だから」が49.0%で最も多く、次いで「子育て支援サービスが充実していないから」が45.5%、「買物など日常の生活環境が整っていないから」が36.5%となっている。

男性と女性を比べると、男性で「通勤・通学に不便だから」が6.3ポイント女性より高く、女性で「子育て支援サービスが充実していないから」が12.0ポイント、「福祉サービスが充実していないから」が8.8ポイント、「医療が充実していないから」が6.7ポイント男性より高くなっている。

図表 子どもを生き育てやすいところだと思わない理由（複数回答）



※「子育て支援サービスが充実していないから」「地域のつながりを感じられないから」は今回調査からの新規項目

## 7 自由記述意見

番号	項目	件数	主な意見	夫	妻	不明	計
1	就労に関する こと	17	賃金が低い	4	2	0	6
2			働き方を変えてほしい	0	3	0	3
3			仕事が忙しい為他のことを考える余裕がない	2	0	0	2
4			障害者にも雇用等手厚いサポートがほしい	0	2	0	2
5			その他	3	1	0	4
6	結婚に関する こと	55	気軽に参加できる出会いの場があると良い	2	8	0	10
7			結婚したいと思えるような経済施策が必要である	4	6	0	10
8			経済的な問題から結婚できない	6	2	0	8
9			結婚しなくても良い	2	4	0	6
10			結婚に関する意識改善が必要である	1	3	0	4
11			結婚に向けた支援をしてほしい	1	2	0	3
12			異性との出会いがない	1	1	0	2
13			夫婦別姓を認めるべきである	1	1	0	2
14			その他	6	4	0	10
15	妊娠・出産に 関すること	8	出産をサポートしてほしい	2	1	0	3
16			その他	2	3	0	5
17	子育てに関する こと	60	子育て支援を充実させてほしい	8	9	0	17
18			ひとり親の支援を充実させてほしい	1	6	0	7
19			子どもを持ちたいと思えるような経済施策が必要	3	3	0	6
20			教育支援を充実させてほしい	0	5	0	5
21			子どもが遊べる環境を整備してほしい	1	2	0	3
22			子育てに関する意識改善が必要である	0	3	0	3
23			それぞれの状況に合わせた支援が必要だと思う	0	2	0	2
24			収入・地域による教育格差を是正してほしい	1	1	0	2
25			その他	5	10	0	15
26			経済的・金銭面 に関する こと	29	経済的に余裕がない	4	5
27	経済的支援が欲しい	2			7	0	9
28	所得向上に取り組んでほしい	4			3	0	7
29	その他	1			3	0	4
30	本調査に関する こと	36	Webアンケートがあればより良い	1	6	0	7
31			アンケートが多すぎる・難しい	4	1	0	5
32			アンケートに自身の状況を説明できる設問・選択肢がない	1	4	0	5
33			調査の意義がわからない	2	2	0	4
34			LGBTQの観点から疑問がある	0	3	0	3
35			調査結果を開示すべきである	1	2	0	3
36			アンケートの表記に疑問を持った	0	2	0	2
37			意識調査として5000人は少ないと感じる	1	1	0	2
38			その他	2	3	0	5
39	その他の意見・ 要望	38	行政・政策に対して意見・要望がある	7	6	0	13
40			サポートが必要な人に平等に支援があるとよい	0	4	0	4
41			時代に合った新しい多様な制度の導入を希望する	0	3	0	3
42			世代間で考え方や価値観の違いをお互いに尊重できれば良いと思う	0	2	0	2
43			その他	11	5	0	16



# 資 料



このアンケート票は結婚されている方がご記入ください

## 奈良県結婚・子育て実態調査

〔結婚されている方へのご質問票〕

ご協力をお願いします

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、県民の皆さまの結婚や子どもを持つこと、子育てに対する意識や実態等を把握し、奈良県において子どもを生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施いたします。この調査は無作為抽出により実施しておりますが、このたび、あなた様を調査対象者として選ばせていただきました。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本県の今後の施策を考えるうえで大変重要な調査となりますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた内容につきましては、上記目的以外に使用することは一切なく、内容が他にもれることは絶対にありません。

どうぞ、安心してありのままをお答えいただきますよう、重ねてお願いいたします。

令和5年9月

奈良県文化・教育・暮らし創造部 こども・女性局

### 【記入上のお願い】

- 1 この調査票は、結婚している（届出の有無にかかわらずパートナーがいる）50歳未満の方にご夫婦のことについて答えていただくためのものです。おそれいりますが、対象となられる方が自身をご記入ください。
- 2 令和5年（2023年）9月1日現在の事実について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。
- 4 回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、10月8日（日）までにご投函下さい。（調査票や封筒には氏名は書かず無記名でご提出ください。）
- 5 なお、この調査の設問には、全国との調査比較や本県での経年比較を可能とするため、これらの調査と設問の文言を合わせているものがあります。そのため、一部なじみにくい表現もありますが、ご理解ください。

お問合せ先 奈良県文化・教育・くらし創造部こども・女性局女性活躍推進課  
TEL:0742-27-8603

☆婚姻届の提出有無は問いませんが、便宜上女性を「妻」、男性を「夫」と記載しています。夫妻双方のことを聞く質問がありますが、夫妻のどちらか一方がご回答ください。



**子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手についてうかがいます。**

**お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。それ以外の方は問12へお進みください。**

問4 子育ての不安感や負担感などに関する以下の①～⑤の項目について、あなた自身はどのように感じていますか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 まったく そう感じる	2 どちらかと いえばそう 感じる	3 どちらかと いえばそう 感じない	4 まったく そう感じない
① 子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
② 子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
③ 子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
④ パートナー（夫または妻）と一緒に子育てをしていると感じている	1	2	3	4
⑤ 子育てをしていて周囲から孤立していると感じている	1	2	3	4

**お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。**

問5 以下の①～⑥の各時期において、子育てに対する不安感・負担感がどれくらいありましたか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。回答者が夫の場合、ご自身が感じたことに基づいて回答してください。また、お子さんが複数いる場合は最初のお子さんについて回答してください。

	1 とても不安	2 少し不安	3 不安はなかった
① 妊娠期	1	2	3
② 出産直前・直後	1	2	3
③ 新生児期～生後11ヶ月	1	2	3
④ 1歳	1	2	3
⑤ 2歳	1	2	3
⑥ 3歳～5歳	1	2	3

問5で①～④の各時期のいずれかに1「とても不安」または2「少し不安」と回答した方  
 にかがいます。

問6 不安だった時期に、①実際に助けてくれた(くれている)人、②助けてほし  
 かった(ほしい)人は誰ですか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてくださ  
 い。

①実際に助けてくれた(くれている)人

1. 夫(妻)	7. 友人
2. 妻の母親	8. 近所の人
3. 妻の父親	9. 助産師・保健師
4. 夫の母親	10. 保育士
5. 夫の父親	11. その他( )
6. きょうだい等の親族	

②助けてほしかった(ほしい)人

1. 夫(妻)	7. 友人
2. 妻の母親	8. 近所の人
3. 妻の父親	9. 助産師・保健師
4. 夫の母親	10. 保育士
5. 夫の父親	11. その他( )
6. きょうだい等の親族	

お子さんをお持ちの方全員にかがいます。

問7 あなたは、子育てについて、気軽に相談できる人がいますか。(○は1つ)

1. 3名以上いる	2. 1～2名いる	3. いない → 問8へ
-----------	-----------	--------------

↓

問7-1 問7で「1.」または「2.」と回答した方にかがいます。  
 気軽に相談できる人は誰ですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 親や家族 2. 友人 3. 近所の人 4. 子育ての支援者 5. 認定こども園・保育所・幼稚園・児童館・学校などの先生や職員 6. 行政の相談窓口 7. 助産師・保健師 8. その他(具体的に: )
---

**お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。**

問8 あなたは、子育てについての支援情報や制度を誰から、どこから知り得ていますか（知り得ましたか）。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 親族（親・きょうだいなど）
2. 知人、友人
3. 子育てサロンや子育てに関するサークルなどの仲間
4. 市役所・町村役場など
5. 保育所・幼稚園・認定こども園
6. 小・中学校
7. 病院・診療所などの医療機関
8. 紙、市町村の広報やパンフレット
9. テレビ、ラジオ、新聞
10. その他情報誌
11. インターネット（県・市町村のホームページ、SNSなど）
12. インターネット（県・市町村以外のホームページ、SNSなど）
13. どこで知ったかわからない
14. 支援情報や制度を知らない
15. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

**お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。**

問9 以下のような不安や悩みがありましたか（現在ありますか）。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. しつけの仕方がわからない
2. 子どもの成長や健康への悩みや不安
3. 子育てに十分な時間がとれない
4. 子育てに関して家族の方針が合わない
5. 自分の自由な時間がない
6. 子ども連れの親子が利用しにくい場所が多い（飲食店・交通機関など）
7. 安全な遊び場がない
8. 出産や育児に費用がかかりすぎる
9. パートナー（夫または妻）が家事や育児に協力的でない
10. 安心して子どもを預けられるところがない
11. 保育所・幼稚園の行事や健康診断、予防接種などの時、仕事を休みにくい
12. 早朝や深夜などに仕事をする場合、子どもを預けるところがない
13. 悩み事の相談先がわからない
14. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
15. 不安や悩みは特にない

男性の育児や家事への関わりについてうかがいます。

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問10 あなた（あなたの夫は）は育児や家事を積極的にする男性だと思いますか。

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| 1. 思う           | 3. 思わない |
| 2. どちらかと言えばそう思う |         |

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問10-1 妻のみに伺います。回答者が夫の場合は回答不要です。あなたの夫の育児や家事の関わり方のイメージに近いのはどれですか。（○は1つ）

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 十分関わっている   | 3. あまり関わっていない |
| 2. しばしば関わっている | 4. 全く関わっていない  |

問10-2 問10-1で「3. あまり関わっていない」「4. 全く関わっていない」を選んだ方にうかがいます。育児や家事に関わっていないと思う理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |   |
|---|
| 1. 仕事が忙しいから                               |
| 2. 関心がないから                                |
| 3. 育児や家事のやり方が分からないから                      |
| 4. あなたからやらなくてよいと言っているから                   |
| 5. 夫が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから          |
| 6. あなたが、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから        |
| 7. 夫またはあなたの親族が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから |
| 8. 職場での理解を得られないから                         |
| 9. その他 ( )                                |

**お子さんをお持ちの夫にうかがいます。**

問10-3 夫のみにうかがいます。回答者が妻の場合は、回答不要です。あなたの育児や家事の関わり方のイメージに近いのはどれですか。(○は1つ)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 十分関わっている   | 3. あまり関わっていない |
| 2. しばしば関わっている | 4. 全く関わっていない  |

問10-4 問10-3で「3. あまり関わっていない」「4. 全く関わっていない」を選んだ方にうかがいます。育児や家事に関わらない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- |   |
|---|
| 1. 仕事が忙しいから                               |
| 2. 関心がないから                                |
| 3. 育児や家事のやり方が分からないから                      |
| 4. 妻からやらなくてよいと言われているから                    |
| 5. あなたが、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから        |
| 6. 妻が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから          |
| 7. あなたまたは妻の親族が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから |
| 8. 職場での理解を得られないから                         |
| 9. その他 ( )                                |

**お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。**

問11 あなたは、ご自身の子育てについてどのようにお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものに◎をつけてください。

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 明るく楽しい家庭生活が送れる            |
| 2. 精神的な安らぎがある                |
| 3. 日々の生活に活力が生まれる             |
| 4. 自分自身が成長できる                |
| 5. 社会的な信用が得られる               |
| 6. 老後の生活が安心できる               |
| 7. 子どもの成長が楽しみ                |
| 8. 子どもの関係で人の輪が広がる            |
| 9. 育児がうまくできるか不安              |
| 10. 親としての責任が不安               |
| 11. 自由に使えるお金が制約される           |
| 12. 自由に使える時間が制約される           |
| 13. 子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい |
| 14. 子どもの成長が不安                |
| 15. 経済的な負担が大きくなる             |
| 16. 家事・育児の負担が大きくなる           |
| 17. 周囲の理解・協力が得られにくい          |
| 18. その他(具体的に: )              |

子どもを持つことについてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問12 あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(〇は1つ)

理想とする子どもの数 (a)				
0. 子どもはいらない → 問16へ				
1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人以上 ( ) 人

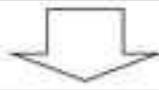
問12-1 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに〇をつけ、その中で最大の理由に◎をつけてください。

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから</li> <li>2. 子どもを持つことで周囲から認められるから</li> <li>3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから</li> <li>4. 子どもは老後の支えになるから</li> <li>5. 子どもは将来の社会の支えになるから</li> <li>6. 子どもは夫婦関係を安定させるから</li> <li>7. 好きな人の子どもを持ちたいから</li> <li>8. 妻(または夫)や親などの周囲が望むから</li> <li>9. その他(具体的に: )</li> </ol>
--

問12で理想的な子どもの数を1人以上と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問16へお進みください。

問13 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。①今後のお子さんの予定数と②希望の時期について、また、③今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つおつもりかを、あてはまる番号に〇をつけてください。

① 今後のお子さんの予定 (現在妊娠中のお子さんも含めて)						
0. (もう) 生むつもりはない → ③へ						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; padding: 5px;">② (次の) お子さんを希望する時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">1. できるだけ早く</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2. しばらく間をおいてから</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">3. 特に考えていない</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">4. 現在妊娠中</td> </tr> </tbody> </table>	② (次の) お子さんを希望する時期	1. できるだけ早く	2. しばらく間をおいてから	3. 特に考えていない	4. 現在妊娠中	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (あと) 1人生むつもり</li> <li>2. (あと) 2人生むつもり</li> <li>3. (あと) 3人生むつもり</li> <li>4. (あと) 4人以上生むつもり</li> </ol>
② (次の) お子さんを希望する時期						
1. できるだけ早く						
2. しばらく間をおいてから						
3. 特に考えていない						
4. 現在妊娠中						



③ 今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。(b)			
0. 子どもは持たない	1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人以上 ( ) 人		

問12と問13で「持つつもりの子どもの数（b）」が「理想とする子どもの数（a）」より少ない方の方がいます。それ以外の方は、問17へお進みください。

問14 持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない理由について、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由に◎をつけてください。

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
2. 家が狭いから
3. 自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから
4. 子どもがのびのび育つ環境ではないから
5. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
6. 高齢で生むのはいやだから
7. これ以上、育児の心理的、肉体的不安に耐えられないから
8. 健康上の理由から
9. 欲しいけれどもできないから
10. パートナーの家事・育児への協力が得られないから
11. パートナーが望まないから
12. 末子がパートナーの定年退職までに成人してほしいから
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問14で「1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を選択した方の方がいます。それ以外の方は、問17へお進みください。

問15 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因について、下の理由のうちあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 出席にかかる費用
2. 衣食住にかかる費用
3. 医療にかかる費用
4. 子育てサービス（一時預かり・ベビーシッターなど）にかかる費用
5. 塾や習い事にかかる費用
6. 保育所・認定こども園・幼稚園などにかかる費用
7. 小学校・中学校教育にかかる費用
8. 高等学校教育にかかる費用
9. 大学教育にかかる費用
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問12で「子どもはいる」と○を付けた方の方がいます。

問16 子どもはいると考える要因について、下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 子どもが好きではないから           | 9. 健康上の理由から            |
| 2. 出席に対して不安があるから          | 10. 子育ては女性への負担が大きいためから |
| 3. 子育てに対して不安があるから         | 11. 家が狭いから             |
| 4. 経済的に負担が大きいためから         | 12. その他                |
| 5. 子どもに対する責任を負いたくないから     | （具体的に： _____）          |
| 6. 仕事と子育ての両立が難しいから        |                        |
| 7. 自分の時間や生活を大切にしたいから      |                        |
| 8. 子どもを育てるのに社会環境が望ましくないから |                        |

子育て支援策についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問17 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

<p>① 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思いますか</p> <p>1. はい</p> <p>2. いいえ</p>		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center; background-color: #e0e0e0;">② 「1. はい」の理由</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">                     1. 買物など日常の生活環境が整っているから                      2. 通勤・通学に便利だから                      3. 教育環境が充実しているから                      4. 医療が充実しているから                      5. 家賃など住居費が安いから                      6. 治安を守るための対策が十分だから                      7. 子育て支援サービスが充実しているから                      8. 福祉サービスが充実しているから                      9. 緑が多いなど自然環境がよいから                      10. 地域のつながりを感じるから                      11. その他（具体的に）                 </td> </tr> <tr> <th style="text-align: center; background-color: #e0e0e0;">③ 「2. いいえ」の理由</th> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">                     1. 買物など日常の生活環境が整っていないから                      2. 通勤・通学に不便だから                      3. 教育環境が充実していないから                      4. 医療が充実していないから                      5. 家賃など住居費が高いから                      6. 治安を守るための対策が不十分だから                      7. 子育て支援サービスが充実していないから                      8. 福祉サービスが充実していないから                      9. 緑が少ないなど自然環境がよくないから                      10. 地域のつながりを感じられないから                      11. その他（具体的に）                 </td> </tr> </table>	② 「1. はい」の理由	1. 買物など日常の生活環境が整っているから 2. 通勤・通学に便利だから 3. 教育環境が充実しているから 4. 医療が充実しているから 5. 家賃など住居費が安いから 6. 治安を守るための対策が十分だから 7. 子育て支援サービスが充実しているから 8. 福祉サービスが充実しているから 9. 緑が多いなど自然環境がよいから 10. 地域のつながりを感じるから 11. その他（具体的に）	③ 「2. いいえ」の理由	1. 買物など日常の生活環境が整っていないから 2. 通勤・通学に不便だから 3. 教育環境が充実していないから 4. 医療が充実していないから 5. 家賃など住居費が高いから 6. 治安を守るための対策が不十分だから 7. 子育て支援サービスが充実していないから 8. 福祉サービスが充実していないから 9. 緑が少ないなど自然環境がよくないから 10. 地域のつながりを感じられないから 11. その他（具体的に）
② 「1. はい」の理由						
1. 買物など日常の生活環境が整っているから 2. 通勤・通学に便利だから 3. 教育環境が充実しているから 4. 医療が充実しているから 5. 家賃など住居費が安いから 6. 治安を守るための対策が十分だから 7. 子育て支援サービスが充実しているから 8. 福祉サービスが充実しているから 9. 緑が多いなど自然環境がよいから 10. 地域のつながりを感じるから 11. その他（具体的に）						
③ 「2. いいえ」の理由						
1. 買物など日常の生活環境が整っていないから 2. 通勤・通学に不便だから 3. 教育環境が充実していないから 4. 医療が充実していないから 5. 家賃など住居費が高いから 6. 治安を守るための対策が不十分だから 7. 子育て支援サービスが充実していないから 8. 福祉サービスが充実していないから 9. 緑が少ないなど自然環境がよくないから 10. 地域のつながりを感じられないから 11. その他（具体的に）						

すべての方にうかがいます。

問18 父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思いますか。（○は1つ）

1. 思う 2. 思わない	3. どちらとも言えない
------------------	--------------

問18-1 問18で「1. 思う」を選んだ方にうかがいます。父親の育児休暇・休業の取得期間はどれくらい必要だと思いますか。（○は1つ）

1. 1週間以内 2. 2週間程度 3. 1ヶ月程度	4. 3ヶ月程度 5. 半年程度 6. 1年以上
----------------------------------	--------------------------------

問18で「2. 思わない」「3. どちらとも言えない」を選んだ方にうかがいます。

問18-2 問18で「2. 思わない」「3. どちらとも言えない」を選んだ方にうかがいます。その理由は何ですか。(○は1つ)

1. 育児の負担軽減につながらない
2. 収入が減り、経済的負担が大きくなる
3. 男性が育児休業をとることに対する職場の理解が乏しいから
4. 女性が育児をするものだと考えているから
5. その他( )

現在働いている方にうかがいます。

問19 あなたの職場は、男性が結婚、出産、子育て（育休等）と仕事との両立ができる職場ですか。

1. はい
  2. いいえ
  3. どちらとも言えない
- (理由: )

すべての方にうかがいます。

問20 男性が育児休業を取得しやすくするためには何が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 職場の理解を増進し、取得できる雰囲気醸成すること
2. 職場における育休取得率の目標設定に関する制度
3. 育休取得者以外の職場メンバーのモチベーションを向上させる制度（例えば、周囲の職員への手当支給や業績評価への反映など）
4. 男性の育児参画促進に関する啓発（行政や民間組織などから熱心へ発信）
5. 育児休暇・休業中の給与を維持する制度
6. 女性の給与等処遇の改善
7. 代替職員に関する支援制度の創設・拡充
8. 同僚職員への負担軽減
9. その他( )

すべての方にうかがいます。

問21 奈良県で子育てをするにあたり、下記問22の①～⑭の各項目について、最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入して下さい。

最重要と 思う番号		次に重要と 思う番号		
--------------	--	---------------	--	--

お子さんをお持ちの方にうかがいます。

問22 奈良県で子育てをするにあたり、次の①～⑭の各項目について、どれくらいの「満足度」を感じていますか。各項目それぞれの「満足度」について、あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	満足度			
	4 十分満 たさ れ て い る	3 だ か ら 満 た さ れ て い る	2 だ か ら 満 た さ れ て い な い	1 ほ と ん ど 満 た さ れ て い な い
① 子育てにかかる経済的支援	4	3	2	1
② 保育所等の保育サービスの充実	4	3	2	1
③ 親子の仲間づくり	4	3	2	1
④ 気軽に相談ができる場所づくり	4	3	2	1
⑤ 男性の育児休業・休暇取得の推進	4	3	2	1
⑥ 働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上	4	3	2	1
⑦ 出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援	4	3	2	1
⑧ 子育てしやすい住宅施策	4	3	2	1
⑨ 地域の遊び場の充実	4	3	2	1
⑩ 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業	4	3	2	1
⑪ 子育てについて相談できる地域サポーターの存在	4	3	2	1
⑫ 所得の向上	4	3	2	1
⑬ 子どもに対する医療制度の充実	4	3	2	1
⑭ 産後ケアに関する制度の拡充	4	3	2	1

少子化対策についてうかがいます。

**すべての方**にうかがいます。

問23 希望する人数の子どもを生み育てられるようにするために、以下の1～12のうち、何が重要だと思いますか。最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入してください。

1. 学生の結婚観・家庭観などライフプランの早期醸成
2. 結婚を希望する方に対するマッチング支援
3. 結婚や子育てに関する悩みを相談できる身近なサポーターの養成
4. 新婚世帯への住居や生活費の支援
5. 不妊治療に関する制度（休暇制度、職場の理解増進、治療費）への支援
6. 妊娠から出産までの費用の軽減・無償化
7. 授乳室やおそびの場の整備など子育てしやすいまちづくり
8. 子育てに関する悩みを相談できる場（SNS含む）の充実
9. 産後ケアの強化・拡充
10. 男性育児やワークライフバランスの促進
11. 保育士の確保などによる保育サービスの充実
12. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

最重要と 思う番号	
--------------	--

次に重要と 思う番号		
---------------	--	--

お子さんをお持ちの方にかがいます。

問24 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、子育てに関する各制度や施設を利用しましたか。(〇はあてはまるものすべて)

	利用した制度や施設															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
おたずねのお子さん	産前・産後休暇制度	育児休業制度(妻)	育児休業制度(夫)	育児時間制度・短時間勤務制度(妻)	育児時間制度・短時間勤務制度(夫)	認可保育所(特例保育事業を含む)	認定こども園(保育所と幼稚園が一体化した施設)	小規模保育事業	家庭的保育事業	保育所・幼稚園等の一時預かり	事業所内保育事業・企業主導型保育事業	認可外保育施設(託児所・ベビーホテル)など	民間のベビーシッター	ファミリーサポートセンター(会員の育児の相互援助活動)	地域の子育て支援拠点(親子の交流や育児相談をする場)	どれも利用しなかった
	〇はあてはまるものすべて															
第1子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
第2子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
第3子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

問 24-1 実際に利用してみたい(利用したかった)各制度や施設はどれですか。上記問 24 の 1~15 からあてはまるものすべての番号を選んでください。

すべての方にかがいます。

問25 あなたの住まいの地域を記入してください。(市町村名)

市・町・村

すべての方にかがいます。(夫婦双方のことを回答してください)

問 26 あなた方ご夫婦のうち、①回答される方に○をつけていただき、ご夫婦双方の②出生年月、③結婚生活を始めた年月および④初再婚の別について、下線に数字を記入、またはあてはまる番号に○をつけてください。

夫婦	① 回答者	② 出生年月	③ 結婚生活を始めた年月	④ 初再婚の別
夫	<input type="radio"/>	(西暦) _____ 年 _____ 月	(西暦) _____ 年 _____ 月	1. 初婚 2. 再婚
妻	<input type="radio"/>	(西暦) _____ 年 _____ 月		1. 初婚 2. 再婚

すべての方にかがいます。

問 27 あなたが現在一緒に住んでいる人すべてについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、( ) 内に人数を記入してください。

1. 夫または妻	5. 妻の母
2. 夫の父	6. 子ども ( _____ ) 人
3. 夫の母	7. その他 ( _____ ) 人
4. 妻の父	(具体的に: _____ )

お子さんをお持ちの方にかがいます。それ以外の方は、問29へお進みください。

問28 あなた方ご夫婦のお子さん(成人を含む)は現在何人ですか。下記に人数をご記入ください。

全部で ( \_\_\_\_\_ ) 人

問28-1 あなた方ご夫婦のお子さんの誕生の時期を記入してください。里帰り出産をした場合は(県内外は問いません)中央欄に○をつけ、里帰り期間(産後)についてあてはまるものに○をつけてください。(第5子までの記入で結構です)

		里帰り出産	里帰り期間(産後)
第1子	(西暦) _____ 年 _____ 月	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第2子	(西暦) _____ 年 _____ 月	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第3子	(西暦) _____ 年 _____ 月	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第4子	(西暦) _____ 年 _____ 月	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第5子	(西暦) _____ 年 _____ 月	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超

ご夫婦のお仕事についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。(夫婦双方のことを回答ください)

問 29 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のお仕事についておたずねします。下の a～h の各時期におけるご夫婦双方の①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

対象者	対象の時期	① おつとめの状況 番1	② 職 種							
		1 正規職員 2 パート・アルバイト 3 派遣・嘱託・契約社員 4 自営業主 5 家族世帯者・内職 6 無職・家事 7 学生	1 主として農林漁業 2 農林漁業以外の自営業 3 専門職 4 管理職 5 事務職 6 販売・サービス職 7 工場などの現場労働							
		a～hのすべてについて、1～7のあてはまる番号に○をつける。1～3に○をつけたときは右の欄に記入。		②で1～5に○を付けたときは右欄のあてはまる番号に○をつける。						
夫	a. 最後に学校を卒業した直後※2	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	b. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	c. 結婚直後	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	d. 現在	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
妻	e. 最後に学校を卒業した直後※2	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	f. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	g. 結婚直後	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							
	h. 現在	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7							

※1 産休・育児休業中の場合は、休業前の状況に○をつけてください。

※2 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

対象者	対象の時期	③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)				④ 通勤時間(片道)			
		1 1 3 00 人	2 5 99 人	3 300 人 以上	4 官 公 庁	1 20 分 以 内	2 1 時 間 以 内	3 1 時 間 半 以 内	4 1 時 間 半 超
		③で1～3に○を付けたときは右欄のあてはまる番号に○をつける。				④で1～3に○を付けたときは右欄のあてはまる番号に○をつける。			
夫	a. 最後に学校を卒業した直後※3	1 2 3 4	1 2 3 4						
	b. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4	1 2 3 4						
	c. 結婚直後	1 2 3 4	1 2 3 4						
	d. 現在	1 2 3 4	1 2 3 4						
妻	e. 最後に学校を卒業した直後※3	1 2 3 4	1 2 3 4						
	f. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4	1 2 3 4						
	g. 結婚直後	1 2 3 4	1 2 3 4						
	h. 現在	1 2 3 4	1 2 3 4						

※3 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

**お子さんをお持ちの方いらっしゃいます。**

問29-1 あなたご夫婦がお子さんをお持ちになったときの妻（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）のお仕事についておたずねします。下の a~f の各時期における①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

対象者	対象の時期	① おつとめの状況 ※1							② 職 種						
		1 正社員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主	5 家族従業員・内職	6 無職・家事	7 学生	1 主として農林漁業	2 農林漁業以外の自営業	3 専門職	4 管理職	5 事務職	6 販売・サービス職	7 工場などの現場労働
		a~fの該当するすべてについて、1~7のあてはまる番号に○をつける。1つに○をつけるときは右の順に読む。							①と同様に○をつける。あてはまる番号に○をつける。						
第1子を生んだ方	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
第2子を生んだ方	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
第3子を生んだ方	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

※1 商休・育児休業中の場合は、就業と見なします。休業前の状況に○をつけてください。

\*お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までの記入で結構です。

対象者	対象の時期	③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)				④ 通勤時間(片道)			
		1 1 99 人	2 100 ~ 299 人	3 300 人 以上	4 官公庁	1 30 分 以内	2 1 時 間 以内	3 1 時 間 半 以内	4 1 時 間 半 超
		a~fの該当するすべてについて、1~4のあてはまる番号に○をつける。				③と同様に○をつける。あてはまる番号に○をつける。			
第1子を生んだ方	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
第2子を生んだ方	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
第3子を生んだ方	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4

\*お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までの記入で結構です。

現在夫婦どちらか、または両方がお仕事をもちの方になります（夫婦双方のことを回答ください）。それ以外の方は問31へお進みください。

問30 あなた方ご夫婦の現在のお仕事について、次の①～④までの項目に、該当する数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

	夫のお仕事について (現在仕事に就いている場合のみ記入)	妻のお仕事について (現在仕事に就いている場合のみ記入)
①1週間の平均的な労働時間 (残業時間も含む)	週あたり平均 _____ 時間	週あたり平均 _____ 時間
②年間の収入 (税込み)	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上
③平均的な帰宅時刻	_____ 時 _____ 分頃	_____ 時 _____ 分頃
④通勤時間(片道)	_____ 時間 _____ 分程度	_____ 時間 _____ 分程度

妻が現在お仕事をもちでないご夫婦についてうかがいます。(妻は自分の状況、夫は妻の状況をわかる範囲で回答)

問31 あなた(あなたの妻)は、今後就労を希望されていますか。(○は1つ)

1. 希望している(すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい)
  2. 希望している(1年より先で、就労したい)
  3. 希望していない → 問31-3へ

問31-1～問31-2は問31で「1」または「2」と回答した方になります。「3」を回答された方は問31-3へお進みください。妻は自分の考えを、夫は妻がどのように考えているかわかる範囲でお答えください。

→ 問31-1 どのような雇用形態なら就労しようと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 正規職員	5. 内職
2. パート・アルバイト	6. その他( )
3. 派遣・嘱託・契約社員	
4. 自営業主・家族従業者	

問31-2 希望される勤務地はどちらですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 自宅	3. 奈良県内(居住していない市町村)
2. 居住市町村(自宅外)	4. 奈良県外

問31-3～問31-4は問31で回答したすべての方にかがいます。

問31-3 あなた（あなたの妻）について、現在就労していない理由または今後就労を希望しない理由は何ですか。次の中から最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

就労をしていない理由または希望しない理由		回答欄		
		最大の理由	第二の理由	第三の理由
1. 自宅に近い勤め先が見つからない				
2. 希望する仕事内容が見つからない				
3. 希望の給料に合う勤め先が見つからない				
4. 希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない				
5. 希望の雇用形態に合う勤め先が見つからない				
6. 趣味など仕事以外にやりたいことがある				
7. 健康上の理由				
8. 周囲に子育てに専念するよう求められるから				
9. 経済的に働く必要がない				
10. 子育ての負担が大きい				
11. 安心して子どもを預けられるところがない				
12. 家事の負担が大きい				
13. 親や家族の介護・看護				
14. 働きたくない				
15. 子育てに専念したい				
16. その他（具体的に： _____）				
17. 特に理由はない				

問31-4 今後どのような条件が整えば就労しようと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 保育所などの保育サービスが利用できること	
2. 放課後児童クラブが利用できること	
3. 短時間勤務ができる仕事があること	
4. テレワークなどで柔軟に勤務することができる仕事があること	
5. 子どもの看護・授業参観・急病などの際に休暇を取りやすい職場であること	
6. 自分の知識・能力に合う仕事があること	
7. 自分の知識・能力を高めることができること	
8. パートナーの理解・協力を得られること	
9. 親の理解・協力を得られること	
10. どのような条件が整っても、就労しようと思わない	
11. その他（具体的に： _____）	



本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化などにつきまして、ご意見などがございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、

10月8日（日）までにご投函下さい。

（調査票や封筒には氏名は書かず無記名でご提出ください。）

お問合せ先 奈良県文化・教育・くらし創造部こども・女性局女性活躍推進課  
TEL-0742-27-8603

## 2. 独身者調査用

このアンケート票は独身の方がご記入下さい

# 奈良県結婚・子育て実態調査

〔独身の方へのご質問票〕

ご協力 の お 願 い

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、県民の皆さまの結婚や子どもを持つこと、子育てに対する意識や実態等を把握し、奈良県において子どもを生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施いたします。この調査は無作為抽出により実施しておりますが、このたび、あなた様を調査対象者として選ばせていただきました。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本県の今後の施策を考えるうえで大変重要な調査となりますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた内容につきましては、上記目的以外に使用することは一切なく、内容が他にもれることは絶対にありません。

どうぞ、安心してありのままをお答えいただきますよう、重ねてお願いいたします。

令和5年9月

奈良県文化・教育・くらし創造部 子ども・女性局

### 〔記入上のおお願い〕

- 1 この調査票は18歳以上50歳未満の独身の方に答えていただくためのものです。おそれいりませんが、対象とされる方ご自身がご記入ください。
- 2 令和5年（2023年）9月1日現在の世帯について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。
- 4 返却後の調査票は、密封の返信用封筒に入れ、10月8日（日）までにご投函下さい。（調査票や封筒には氏名は書かず無記名でご提出ください。）
- 5 なお、この調査の設問には、全国との調査比較や本県での経年比較を可能とするため、これらの調査と設問の文言を合わせているものがあります。そのため、一部なじみにくい表現もありますが、ご理解ください。

お問合せ先 奈良県文化・教育・くらし創造部 子ども・女性局女性活躍推進課  
TEL:0742-27-8603

結婚についてうかがいます。

すべての方へうかがいます。

問1 今のあなたにとって、結婚することには何か利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1.に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

<p>① 今のあなたにとって、結婚することは</p> <p>1. 利点があると思う</p> <p>2. 利点はないと思う</p>	<p>② 具体的な利点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済的に余裕がもてる</li> <li>2. 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる</li> <li>3. 精神的な安らぎの場が得られる</li> <li>4. 現在愛情を感じている人と暮らせる</li> <li>5. 自分子どもや家族をもてる</li> <li>6. 性的な充足が得られる</li> <li>7. 生活上便利になる</li> <li>8. 親から独立できる</li> <li>9. 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる</li> <li>10. その他（具体的に：）</li> </ol>	<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">回答欄</th> </tr> <tr> <th>最大の利点</th> <th>第二の利点</th> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </table>	回答欄		最大の利点	第二の利点		
回答欄								
最大の利点	第二の利点							

すべての方へうかがいます。

問2 逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1.に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

<p>① 今のあなたにとって、独身生活は</p> <p>1. 利点があると思う</p> <p>2. 利点はないと思う</p>	<p>② 具体的な利点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動や生き方が自由</li> <li>2. 異性との交際が自由</li> <li>3. 金銭的に裕福</li> <li>4. 住宅や環境の選択の幅が広い</li> <li>5. 家族を養う責任がなく気楽</li> <li>6. 友人などとの広い人間関係が保ちやすい</li> <li>7. 職業を持ち、社会とのつながりが保てる</li> <li>8. 現在の家族とのつながりが保てる</li> <li>9. その他（具体的に：）</li> </ol>	<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">回答欄</th> </tr> <tr> <th>最大の利点</th> <th>第二の利点</th> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </table>	回答欄		最大の利点	第二の利点		
回答欄								
最大の利点	第二の利点							

すべての方にうかがいます。

問3 下記に女性・男性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ最も近いと思われるタイプの番号を選択肢から選び、回答欄に記入してください。

(1) 女性の生き方のタイプ

女性の方へ

- ① あなたの理想とする人生はどのタイプですか。  
② 理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

女性回答欄 (回答はそれぞれ1つずつ)	
① 理想とする人生	② 実際になりそうな人生



男性の方へ

- ③ パートナー（あるいは妻）となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

男性回答欄 (回答は1つだけ)
③ パートナー（あるいは妻）となる女性に望む人生



選 択 肢	1. 結婚せず、仕事を続ける 2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 3. 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける 4. 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ 5. 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない 6. その他（ ）
-------------	--

(2) 男性の生き方のタイプ

男性の方へ

- ① あなたの理想とする人生はどのタイプですか。  
② 理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

男性回答欄 (回答はそれぞれ1つずつ)	
① 理想とする人生	② 実際になりそうな人生



女性の方へ

- ③ パートナー（あるいは夫）となる男性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

女性回答欄 (回答は1つだけ)
③ パートナー（あるいは夫）となる男性に望む人生



選 択 肢	1. 結婚せず、仕事を続ける 2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 3. 結婚し、子どもを持つが、子育てはパートナー（妻）にまかせて、仕事を中心とした生活を送る 4. 結婚し、子どもをもち仕事を続けるが、できる範囲内で子育てにも参加する 5. 結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、積極的に子育てにも参加する 6. 結婚し、子どもを持つが、仕事はパートナー（妻）にまかせて、夫が仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る 7. その他（ ）
-------------	---

すべての方にうかがいます。

問4 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。(○は1つ)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 1. いずれ結婚するつもり   | → 問5へ  |
| 2. 一生結婚するつもりはない | → 問13へ |

問4で「1.」(いずれ結婚するつもり)を選択した方にうかがいます。

問5 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。(○は1つ)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. ある程度の年齢までには結婚するつもり         |
| 2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない |

問4で「1.」(いずれ結婚するつもり)を選択した方にうかがいます。

問6 理想的な初婚年齢はいつ頃だとお考えですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |            |           |             |
|------------|-----------|-------------|
| 1. 10代～20歳 | 4. 31～35歳 | 7. 年齢は気にしない |
| 2. 21～25歳  | 5. 36～40歳 | 8. その他( )   |
| 3. 26～30歳  | 6. 41歳以上  |             |

問4で「1.」(いずれ結婚するつもり)を選択した方にうかがいます。

問7 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。自分にあてはまると思われる最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで、右の回答欄に番号を記入してください。(すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に14と記入してください)

- |                          |
|--------------------------|
| 1. 結婚するにはまだ若すぎるから        |
| 2. 結婚する必要性をまだ感じないから      |
| 3. 今は、仕事(または学業)に打ち込みたいから |
| 4. 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから      |
| 5. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから   |
| 6. 適当な相手にまだめぐり合わないから     |
| 7. 異性とうまくつき合えないから        |
| 8. 結婚や結婚後に経済的な不安があるから    |
| 9. 家賃をもつほどの収入がないから       |
| 10. 雇用が安定していないから         |
| 11. 結婚生活のための住居のめどがたたないから |
| 12. 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から |
| 13. その他<br>(具体的に )       |
| 14. すでに結婚が決まっている         |

回答欄		
最大の理由	第二の理由	第三の理由

問7で「6.」（適切な相手にまだめぐり会わないから）を選択した方にうかがいます。

問8 「適切な相手にまだめぐり会わないから」の具体的な内容のうち、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない（いない）ため、出会いの機会がほとんどない
2. 同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がない
3. 結婚に結びつかないような相手ばかり好きになってしまう
4. 好きな人はいるが、交際には発展しない
5. そもそも人を好きになったり、結婚相手として意識することが〈ほとんど〉ない
6. 交際に至っても、仕事の都合等で、結婚することが考えられない
7. その他〈具体的に： 〉
8. 答えたくない

問4で「1.」（いずれ結婚するつもり）を選択した方にうかがいます。

問9 あなたは「婚活」としてどのようなことを行っていますか。あるいは今後行いたいですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 友人、職場の同僚や先輩に紹介してもらえるように頼む
2. 合コンに参加する
3. 趣味のサークルに入る
4. お見合いをする
5. 民間の婚活サイト（マッチングアプリを含む）・SNSを活用する
6. 民間の婚活パーティーに参加する
7. 民間の結婚相談所に登録する
8. 行政の婚活サイト（マッチングアプリを含む）・SNSを活用する
9. 行政の婚活パーティーに参加する
10. 行政の結婚相談所に登録する
11. その他〈具体的に： 〉
12. 特に行っていない・行う予定はない

問9で「12.」（特に行っていない・行う予定はない）を選択した方にうかがいます。

問10 婚活を「特に行っていない・行う予定はない」とされた理由は何ですか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 忙しくて時間がないから
2. 自然な流れで出会いたいから
3. 交際相手がいるから
4. 面倒だから
5. そこまでする必要を感じないから
6. 具体的に何をすればよいかわからないから
7. 婚活サービス(※)は、自分が希望する条件に合う相手が見つかると思えないから
8. 民間の婚活サービス(※)は、費用が高いと感じているから
9. 民間の婚活サービス(※)は、個人情報の扱いに不安があるから
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
11. 答えたくない

(※)婚活サービスとは、婚活サイトや婚活パーティー、結婚相談所などを指します

問4で「1.」（いずれ結婚するつもり）を選択した方にうかがいます。

問11 あなたは、県や市町村に結婚支援に関する施策（事業）に取り組んで欲しい  
と思いますか。

1. 積極的に取り組んで欲しい
2. どちらかといえば取り組んで欲しい
3. どちらかといえば取り組むべきではない
4. 取り組むべきではない
5. その他（ \_\_\_\_\_ ）

問11で「1.」（積極的に取り組んで欲しい）「2.」（どちらかといえば取り組んで欲しい）  
を選択した方にうかがいます。

問11-1 出会い・結婚にかかわる支援として、どのようなことを行政に期待しま  
すか。

1. 出会いの場の提供（パーティーなどのイベント）
2. 公的な結婚相談所の開設（1対1の紹介形式のもの）
3. 出会いや結婚に必要な情報の提供
4. 婚活に役立つセミナーの開催（交際術・マナー・アクションなど）
5. 結婚のイメージアップに向けた意識啓発
6. 地域の結婚応援サポーターの育成  
（結婚応援サポーター：結婚を望む独身者の結婚相談をボランティアで行う人のこと）
7. 婚活サイト（マッチングアプリを含む）・SNSの導入
8. その他（ \_\_\_\_\_ ）

問4で「1.」（いずれ結婚するつもり）を選択した方にうかがいます。

問12 あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑤の項目について、どの程度重視しますか。それぞれ1～3のうち、あてはまる番号に○をつけてください。また、その他に重視することがある場合は、⑥に具体的に記入してください。

	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
① 相手の経済力	1	2	3
② 相手の性格	1	2	3
③ 自分の仕事や生き方に対する理解と協力	1	2	3
④ 家事・育児に対する能力や姿勢	1	2	3
⑤ 価値観が合うこと	1	2	3
⑥ その他（具体的に： _____）			

問4で「2.」（一生結婚するつもりはない）を選択した方にうかがいます。

問13 あなたは、なぜ「一生結婚するつもりはない」のですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 自由な時間が減るから	10. 自身の家事・育児負担が大きくなるから
2. 自由に使えるお金が減るから	11. 家賃をもつほどの収入がないから
3. 仕事に集中したいから	12. 雇用が安定していないから
4. 友人や家族と疎遠になるから	13. パートナーの両親等の親戚付き合いがわずらわしいから
5. 共同生活に不安があるから	14. その他 （具体的に： _____）
6. 特定の相手に束縛されたくないから	
7. 結婚相手を探すのが面倒だから	
8. 結婚にメリットを感じないから	
9. 出産・子育てが不安だから	

現在交際している方にうかがいます。それ以外の方は問15へお進みください。

問14 現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の障害になると思うことの中から、最大の障害と第二の障害をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

① 結婚するとしたら	② 障害になると思うこと	回答欄
1. 障害になること があると思う	1. 結婚生活のための住居	最大の 障害
2. 障害になること はないと思う	2. 結婚後の生活費用	
	3. 親の承諾	
	4. 親との同居や扶養	
	5. 学校や学業上の問題	
	6. 職業や仕事上の問題	
	7. 年齢上のこと	
	8. 健康上のこと	
	9. その他（具体的に： _____）	

**子ども・子育てに関することについてうかがいます。**

**すべての方にうかがいます。**

問15 あなたが子育てする場合について、子育てをどのようにお考えですか。あてはまるものすべてに○をつけ、最もあてはまるものに◎をつけてください。

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 明るく楽しい家庭生活が送れる</li> <li>2. 精神的な安らぎがある</li> <li>3. 日々の生活に活力が生まれる</li> <li>4. 自分自身が成長できる</li> <li>5. 社会的な信用が得られる</li> <li>6. 老後の生活が安心できる</li> <li>7. 子どもの成長が楽しみ</li> <li>8. 子どもの関係で人の輪が広がる</li> <li>9. 育児がうまくできるが不安</li> <li>10. 親としての責任が不安</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>11. 自由に使えるお金が制約される</li> <li>12. 自由に使える時間が制約される</li> <li>13. 子どもの親同士の付き合いや人間関係がわずらわしい</li> <li>14. 子どもの成長が不安</li> <li>15. 経済的な負担が大きくなる</li> <li>16. 家事・育児の負担が大きくなる</li> <li>17. 周囲の理解・協力が得られにくい</li> <li>18. その他<br/>(具体的に： )</li> </ul> |
|--|--|

**すべての方にうかがいます。**

問16 子どもは何人ほしいですか。あてはまる番号に○をつけ、「5. 5人以上」を選択された場合は、( )内に人数を記入してください。また、子どもを1人以上希望される方は、最初のお子さんをもちたい(持った)年齢を右側②の( )内に記入してください。

① 希望する子どもの数	② 最初のお子さんをもちたい(持った)年齢
<p>0. 子どもはいらない→問17へ</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 1人</li> <li>2. 2人</li> <li>3. 3人</li> <li>4. 4人</li> <li>5. 5人以上( )人</li> </ul> </div>	<p>あなたが ( )歳くらいのとき →問18へ</p>

問16で「0.」(子どもはいらない)を選択した方にうかがいます。

問17 子どもはいらないと考える要因について、下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが好きではないから</li> <li>2. 出産に対して不安があるから</li> <li>3. 子育てに対して不安があるから</li> <li>4. 経済的に負担が大きいため</li> <li>5. 子どもに対する責任を負いたくないから</li> <li>6. 仕事と子育ての両立が難しいから</li> <li>7. 自分の時間や生活を大切にしたいから</li> <li>8. 子どもを育てるのに社会環境が望ましくないから</li> <li>9. 健康上の理由から</li> <li>10. 子育てに対して、女性の負担が大きいため</li> <li>11. その他(具体的に： )</li> </ul> |
|--|

問16で希望する子どもの数を1人以上と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問19へお進みください。

問18 希望する子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
2. 子どもを持つことで周囲から認められるから
3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから
4. 子どもは老後の支えになるから
5. 子どもは将来の社会の支えになるから
6. 子どもは夫婦関係を安定させるから
7. 好きな人の子どもを持ちたいから
8. 妻（または夫）や親などの周囲が望むから
9. その他（具体的に）

すべての方にうかがいます。

問19 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。

	1. あてはまる	2. どちらかといえばあてはまる	3. どちらかといえばあてはまらない	4. あてはまらない	5. 該当しない
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）	1	2	3	4	5
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	1	2	3	4	5
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う	1	2	3	4	5
④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い	1	2	3	4	5

結婚、家庭、子どもを持つことの方考え方についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問20 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑬のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 そう思う	2 どちらかといえば そう思う	3 どちらかといえば そう思わない	4 そう思わない
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
④ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑤ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑥ 妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない	1	2	3	4
⑦ 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う	1	2	3	4
⑧ 子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）	1	2	3	4
⑨ 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う	1	2	3	4
⑩ 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う	1	2	3	4
⑪ 子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う	1	2	3	4
⑫ 親にも子育てに協力してもらいたいと思う	1	2	3	4
⑬ 結婚していなくても、子どもを持って構わない	1	2	3	4

結婚・子育て支援策についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問21 あなたが今、あるいは、これから奈良県で結婚・子育てをするにあたり、次の①～⑮の各項目について、最重要だと思うもの1つに◎をつけ、次に重要だと思うもの2つに○をつけて下さい。

	最重要：◎（1つ） 重要：○（2つ）
① 子育てにかかる経済的支援	
② 保育所等の保育サービスの充実	
③ 親子の仲間づくり	
④ 気軽に相談できる場所づくり	
⑤ 男性の育児休業・休暇取得の推進	
⑥ 働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上	
⑦ 出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援	
⑧ 子育てしやすい住宅施策	
⑨ 地域の遊び場の充実	
⑩ 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業	
⑪ 行政が行う出会いの場の提供等の結婚応援事業	
⑫ 結婚について相談できる地域サポーターの存在	
⑬ 子育てについて相談できる地域サポーターの存在	
⑭ 所得の向上	
⑮ 子どもに対する医療制度の充実	
⑯ 産後ケアに関する制度の拡充	

すべての方にうかがいます。

問22 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

① 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思いますか
1. はい
2. いいえ



②「1. はい」の理由
1. 買物など日常生活環境が整っているから
2. 通勤・通学に便利だから
3. 教育環境が充実しているから
4. 医療が充実しているから
5. 家賃など住居費が安いから
6. 治安を守るための対策が十分だから
7. 子育て支援サービスが充実しているから
8. 福祉サービスが充実しているから
9. 緑が多いなど自然環境がよいから
10. 地域のつながりを感じられるから
11. その他（具体的に：_____）

③「2. いいえ」の理由
1. 買物など日常生活環境が整っていないから
2. 通勤・通学に不便だから
3. 教育環境が充実していないから
4. 医療が充実していないから
5. 家賃など住居費が高いから
6. 治安を守るための対策が不十分だから
7. 子育て支援サービスが充実していないから
8. 福祉サービスが充実していないから
9. 緑が少ないなど自然環境がよくないから
10. 地域のつながりを感じられないから
11. その他（具体的に：_____）

すべての方にうかがいます。

問23 ①にあなたの出生年月を、②にあなたの性別を記入してください。また、③親との同居/別居について、あてはまる番号に○をつけてください。

① 出生年月	② 性別	③ 親との同居/別居
(西暦) _____年____月		1. 親と同居している 2. 親と離れて（別居して）生活している 3. すでに亡くなった

すべての方にうかがいます。

問24 あなたのお住まいの地域を記入してください。（市町村名）

_____市・町・村
------------

すべての方にうかがいます。

問25 あなたはこれまでに結婚（届出をしたもの）をしたことがありますか。

1. ない	2. ある
-------	-------

すべての方にうかがいます。

問 25-1 あなたに現在お子さんはいますか（成人を含む）。①の1. に○をつけた方は、右側②にお子さんの数を記入してください。

① お子さんが	② お子さんの数
<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">1. いる</div> 2. いない	(    ) 人

あなたのお仕事についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問 26 あなたのお仕事についておたずねします。a、bの2つの時期について、それぞれ①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

対象の時期	① おつとめの状況							② 職 種							③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)			
	1 正社員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 日営業主	5 家族従業者・内職	6 無職・家事	7 学生	1 主として農林漁業	2 農林漁業以外の自営業	3 専門職	4 管理職	5 事務職	6 販売・サービス職	7 工場などの現場労働	1 1～99人	2 100～299人	3 300人以上	4 官公庁
	1～7のあてはまる番号に○をつける。1～6に○つけたときは右の欄に記入。							②で1～6に○をつけたときは右の欄に記入。あてはまる番号に○をつける。							③で1～3に○をつけたときは右の欄に記入。あてはまる番号に○をつける。			
a. 最後に学校を卒業した直後※	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
b. 現在	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4

※在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

**現在お仕事をもちの方にかがいます。お仕事をもちでない方は回答不要です。**

問 27 あなたの現在のお仕事について、次の①～⑤までの項目について数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

あなたの仕事について (現在お仕事をもちの方)	
① 1週間の平均的な労働時間(残業時間も含む)	週あたり平均 _____ 時間
② 半期の収入(税込み)	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上
③ 現在の仕事の継続年数	およそ _____ 年 1年未満は1年としてください
④ 平均的な帰宅時刻	_____ 時 _____ 分頃
⑤ 通勤時間(片道)	_____ 時間 _____ 分程度

本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化などにつきまして、ご意見などがございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、10月8日(日)までにご投函ください。  
(調査票や封筒には氏名は書かず無記名でご提出ください。)  
お問合せ先 奈良県文化・教育・くらし創造部こども・女性局女性活躍推進課  
TEL:0742-27-8603



奈良県結婚・子育て実態調査報告書

令和6年3月

編集・発行 奈良県文化・教育・くらし創造部  
こども・女性局 女性活躍推進課  
〒630-8501 奈良市登大路町30  
電話 0742-27-8603